

シ ラ バ ス

令和5年度入学生対象 動物看護学科カリキュラム表

注1：表内の数字は単位数であり、○数字は選択科目を示す

注2：△印は、当該期間中のいずれか1回のみ履修可能

区分	授業科目	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養教育科目	生命倫理学・動物福祉学			2						教養教育科目全体から選択16単位以上取得のこと
	哲学		②							
	生活と法律	②								
	生活と経済	②								
	美術史			②						
	心理学			②						
	動物とジャーナリズム		②							
	キャリアマネジメント			②						
	基礎生物学		2							
	基礎化学	2								
	基礎生化学		2							
	環境科学			②						
	英語Ⅰ	1								
	英語Ⅱ		1							
	英語Ⅲ			1						
	英語Ⅳ				1					
専門教育科目	フランス語入門		②							専門教育科目より94単位以上取得のこと
	情報リテラシー(基礎)	1								
	情報リテラシー(応用)		1							
	健康とスポーツ(実技含む)			②						
	生命科学概論			2						
	バイオテクノロジー					②				
	動物看護学概論	2								
	動物人間関係学概論		2							
	動物形態機能学	2								
	動物生理学		2							
	動物形態機能学実習			2						
	動物生活環境学		2							
	動物行動学			2						
	動物遺伝学	2								
	動物繁殖学					2				
	動物薬理学			2						
	動物病理学			2						
専門教育科目	動物臨床看護学総論	2								専門教育科目より94単位以上取得のこと
	動物内科看護学実習Ⅰ		2							
	動物内科看護学			2						
	動物内科看護学実習Ⅱ			2						
	動物外科看護学				2					
	動物外科看護学実習				2					
	動物臨床看護学各論Ⅰ				2					
	動物臨床看護学各論Ⅱ					②				
	動物臨床看護学実習					②				
	動物臨床検査学			2						
	動物臨床検査学実習			2						
	動物臨床看護学各論Ⅲ						②			
	動物医療機器				1					
	動物口腔ケア論					②				
	動物口腔ケア実習					②				
	ヒトと動物の共通感染症					2				
専門教育科目	公衆衛生学			2						専門教育科目より94単位以上取得のこと
	動物生化学				②					
	動物感染症学Ⅰ			2						
	動物感染症学Ⅱ					2				

区分	授業科目	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	小動物栄養学			2						専門教育科目より94単位以上取得のこと
	小動物臨床栄養学			2						
	エキゾチックアニマル看護学							2		
	動物医療コミュニケーション							1		
	ペットロス論							②		
	リハビリテーション論				②					
	動物リハビリテーション							②		
	動物看護総合実習					2				
	適正飼養指導論	2								
	動物愛護・適正飼養実習			2						
	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論	2								
	コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習	2								
	コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習			②						
	愛玩動物学					2				
	産業動物学					1				
	実験動物学						1			
総合科目	野生動物学			2						専門教育科目より94単位以上取得のこと
	動物看護関連法規	1								
	動物愛護・適正飼養関連法規	1								
	医療安全								②	
	高齢動物看護学							②		
	在宅・訪問動物看護論							②		
	ペット関連産業論							2		
	サイエンスイングリッシュ					②				
	統計学			②						
	動物看護学総合演習								①	
	卒業論文								4	
	インターンシップ					②△		②△		
	研修・ボランティア活動	①△		①△		①△		①△		
	動物実習短期留学	④△		④△		④△		④△		
	アッセンブリーアワーⅠ	0.5								
	アッセンブリーアワーⅡ			0.5						
	アッセンブリーアワーⅢ					0.5				
	アッセンブリーアワーⅣ							0.5		

【卒業要件】

区分		必修	選択	合計
教養教育	人文と社会	2	16	30
	自然と環境	6		
	言語・情報・スポーツ	6		
小計		14		
専門教育	専門基礎	24	10	94
	専門科目	54		
	総合科目	6		
小計		84		
合計		98	26	124

【備考】

- 卒業要件の詳細については、履修ガイド22ページを参照すること。
- 動物人間関係学科で開講される専門教育選択科目を履修し、単位を修得した場合は、専門教育選択科目としてみなし、卒業要件に参入する。

授業科目 目次（動物看護学科）

区分	授業科目	担当教員	国試	頁
人文と社会	生命倫理学・動物福祉学	牛根 奈々・高橋 克樹	○	35 36
	哲学	高橋 克樹		37
	生活と法律	渋谷 寛		38
	美術史	長能 美香		39
	心理学	加藤 理絵		40
	動物とジャーナリズム	仁科 邦男		41
	キャリアマネジメント	中村 晶		42
自然と環境	基礎生物学	長島 孝行		43
	基礎化学	石川 牧子		44
	基礎生化学	◎小黒 美枝子・石川 牧子	○	45
	環境科学	石川 牧子		46
言語・情報・スポーツ	英語Ⅰ	島森 尚子・大橋 由紀子 石川 亮太		47 52
	英語Ⅱ	島森 尚子・大橋 由紀子		53 58
	英語Ⅲ	大橋 由紀子・阿部 敬子 植月 恵一郎		59 64
	英語Ⅳ	大橋 由紀子・阿部 敬子 植月 恵一郎		65 70
	フランス語入門	白川 理恵		71
	情報リテラシー（基礎）	若林 義啓		72
	情報リテラシー（応用）	若林 義啓		73
	健康とスポーツ（実技含む）	中山 多美		74
専門基礎科目	生命科学概論	◎小黒 美枝子・長島 孝行		77
	バイオテクノロジー	◎小黒 美枝子・長島 孝行		78
	動物看護学概論	◎内田 明彦・今村 伸一郎 岡崎 登志夫・梅村 隆志 富田 幸子	○	79 80
	動物人間関係学概論	◎植田 富貴子・新島 典子 石川 牧子・秋山 順子 堀井 隆行	○	81 82
	動物形態機能学	今村 伸一郎	○	83 84
	動物生理学	今村 伸一郎	○	85 86
	動物形態機能学実習	◎今村 伸一郎・牛根 奈々	○	87 88
	動物生活環境学	◎三井 香奈・秋山 順子	○	89 90
	動物行動学	フリッツ 吉川 綾	○	91 92
	動物遺伝学	村上 隆広		93
	動物繁殖学	村上 隆広	○	94 95
	動物薬理学	◎牛根 奈々・近藤 晶弘	○	96 97
	動物病理学	梅村 隆志	○	98 99

区分	授業科目	担当教員	国試	頁
専門科目	動物臨床看護学総論	◎富田 幸子・鈴木 友子 フリッツ 吉川 綾	○	100 101
	動物内科看護学実習Ⅰ	◎富田 幸子・三井 香奈 荒川 真希・秋山 蘭 友野 悠	○	102
	動物内科看護学	フリッツ 吉川 綾	○	103 104
	動物内科看護学実習Ⅱ	◎フリッツ 吉川 綾 三井 香奈・荒川 真希 友野 悠	○	105 106
	動物外科看護学	木村 祐哉※	○	107 108
	動物外科看護学実習	◎木村 祐哉※・秋山 蘭	○	109 110
	動物臨床看護学各論Ⅰ	◎富田 幸子・谷口 明子 木村 祐哉※	○	111 112
	動物臨床看護学各論Ⅱ	◎富田 幸子・谷口 明子 木村 祐哉※	○	113 114
	動物臨床看護学各論Ⅲ	◎岡崎 登志夫※ 宮井 紗弥香	○	115
	動物臨床看護学実習	◎富田 幸子・谷口 明子 木村 祐哉※	○	116
	動物臨床検査学	◎岡崎 登志夫※ 宮井 紗弥香	○	117 118
	動物臨床検査学実習	◎岡崎 登志夫※ 宮井 紗弥香	○	119
	動物医療機器	鈴木 友子		120
	動物口腔ケア論	鈴木 友子		121
	動物口腔ケア実習	鈴木 友子		122
	ヒトと動物の共通感染症	内田 明彦		123
	公衆衛生学	植田 富貴子	○	124 125
	動物生化学	小黒 美枝子・長島 孝行		126
	動物感染症学Ⅰ	内田 明彦	○	127
	動物感染症学Ⅱ	梅村 隆志	○	128 129
	小動物栄養学	◎荒川 真希・秋山 蘭	○	130 131
	小動物臨床栄養学	◎荒川 真希・秋山 蘭		132
	エキゾチックアニマル看護学	霍野 晋吉		133
	動物医療コミュニケーション	友野 悠	○	134
	ペットロス論	新島 典子		135
	リハビリテーション論	手塚 潤一		136
	動物リハビリテーション	井上 留美※		137
	動物看護総合実習	◎今村 伸一郎・フリッツ 吉川 綾 荒川 真希・友野 悠	○	138 139
	適正飼養指導論	◎堀井 隆行・牛根 奈々	○	140 141
	動物愛護・適正飼養実習	◎堀井 隆行・牛根 奈々 青山 正志・細野 茂之※	○	142 143

授業科目 目次（動物看護学科）

区分	授業科目	担当教員	国試	頁
専門教育科目	コンパニオンアニマルケア（グルーミング）論	◎福山 貴昭・荒川 真希		144
	コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習	◎福山 貴昭・荒川 真希 土屋 恵美・早川 裕子		145
	コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習	◎福山 貴昭・土屋 恵美 早川 裕子		146
	愛玩動物学	◎福山 貴昭・早田 由貴子 小嶋 篤史	○	147 148
	産業動物学	村上 隆広	○	149
	実験動物学	牛根 奈々	○	150
	野生動物学	村上 隆広	○	151
	動物看護関連法規	植田 富貴子	○	152
	動物愛護・適正飼養関連法規	小島 香代子	○	153
	医療安全	本田 三緒子		154
	高齢動物看護学	富田 幸子		155
	在宅・訪問動物看護論	◎富田 幸子・三井 香奈 友野 悠		156
	ペット関連産業論	越村 義雄	○	157 158
	サイエンスイングリッシュ	小黒 美枝子		159
	統計学	木村 祐哉		160
	動物看護学総合演習	◎宮井 紗弥香・友野 悠		161
	卒業論文	内田 明彦・梅村 隆志 今村 伸一郎・岡崎 登志夫 植田 富貴子・富田 幸子 谷口 明子・大橋 由紀子 木村 祐哉・鈴木 友子 フリッツ 吉川 綾・宮井 紗弥香 牛根 奈々・三井 香奈 小黒 美枝子・長島 孝行 島森 尚子・石川 牧子 村上 隆広・新島 典子 若林 義啓・福山 貴昭 加藤 理絵・秋山 順子 堀井 隆行		162
	インターンシップ	◎堀井 隆行・三井 香奈 秋山 蘭・青山 正志		163
	研修・ボランティア活動	◎加藤 理絵・宮井 紗弥香		164
	動物実習短期留学	島森 尚子		165
	アッセンブリーアワーⅠ	◎三井 香奈・宮井 紗弥香		166
	アッセンブリーアワーⅡ	◎牛根 奈々・土屋 恵美 青山 正志		167
	アッセンブリーアワーⅢ	◎秋山 蘭・友野 悠		168
	アッセンブリーアワーⅣ	◎加藤 理絵・秋山 順子		169

各項目のマークについて

◎：複数教員が担当する科目の授業科目目次及び、シラバスの科目担当教員欄において、名前の前に◎がついた教員は「科目担当責任者」となります。

※：名前の後ろに「※」がついた教員は、「実務家教員」となります。

なお、シラバスの実務家教員欄に「○」がついている科目の詳細は、履修ガイド&シラバス170ページをご覧ください。

○：国試欄に「○」がついている科目は、愛玩動物看護師国家試験受験に必要な科目です。

令和5年度入学生対象 動物人間関係学科カリキュラム表

注1：表内の数字は単位数であり、○数字は選択科目を示す
注2：△印は、当該期間中のいずれか1回のみ履修可能

区分	授業科目	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養教育科目	人文と社会	生命倫理学・動物福祉学			2					教養教育科目全体から選択18単位以上取得のこと
		哲学	②							
		生活と法律	②							
		生活と経済	②							
		美術史		②						
		心理学			②					
		動物とジャーナリズム	②							
		キャリアマネジメント			②					
	自然と環境	基礎生物学		2						
		基礎化学	2							
		基礎生化学		②						
		環境科学			②					
	言語・情報・スポーツ	英語Ⅰ	1							
		英語Ⅱ		1						
		英語Ⅲ			1					
		英語Ⅳ				1				
		フランス語入門		②						
		情報リテラシー(基礎)	1							
		情報リテラシー(応用)		1						
		健康とスポーツ(実技含む)			②					
専門教育科目	専門基礎科目	生命科学概論			2					専門教育科目より94単位以上取得のこと
		バイオテクノロジー					②			
		動物看護学概論	2							
		動物人間関係学概論		2						
		動物形態機能学	2							
		動物生理学		2						
		動物形態機能学実習			②					
		動物生活環境学			②					
		動物行動学				2				
		動物遺伝学		2						
		動物繁殖学					2			
		動物薬理学			②					
		動物病理学			②					
	専門科目	動物臨床看護学総論	2							
		動物内科看護学実習Ⅰ		2						
		動物内科看護学			②					
		動物内科看護学実習Ⅱ			②					
		動物外科看護学				②				
		動物外科看護学実習				②				
		動物臨床検査学			②					
		動物臨床検査学実習			②					
		ヒトと動物の共通感染症					2			
		公衆衛生学				2				
		動物感染症学Ⅰ			2					
		小動物栄養学			2					
	専門科目	ヒトと動物の関係学				2				
		社会福祉					②			
		臨床心理学					②			
		コミュニケーション論						1		
		ペットロス論							2	
		アニマルアシステッドセラピー論				2				
		アニマルアシステッドセラピー実習					②			
		アシスタントドッグ論				2				
		伴侶動物資源・育種学				②				
		適正飼養指導論	2							
		動物愛護・適正飼養実習			2					

区分	授業科目	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論	2								専門教育科目より94単位以上取得のこと
	コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習	2								
	コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習			②						
	伴侶動物行動演習					①				
	コンパニオンドッグトレーニング論					②				
	コンパニオンドッグトレーニング実習							②		
	イヌ・ネコの特性論					2				
	エキゾチックアニマル特性論				②					
	コンパニオンパード特性論				②					
	ジェロントロジーとドッグウォーキング					②				
	産業動物学					1				
	実験動物学						1			
	野生動物学			2						
	動物看護関連法規	1								
	動物愛護・適正飼養関連法規	1								
	医療安全								2	
	動物災害・危機管理								2	
	ペット関連産業論							②		
	ペットビジネス起業論								②	
	消費者行動分析学								②	
	情報危機管理論							②		
	動物とアート	①								
	動物文化人類学					②				
	水族動物学					②				
	動物園・水族館論				②					
	有害動物学					②				
	サイエンスイングリッシュ					②				
総合科目	アカデミックスキルズ					2				
	統計学			②						
	動物看護学総合演習								①	
	卒業論文								④	
	インターンシップ					②△		②△		
	研修・ボランティア活動	①△		①△		①△		①△		
	動物実習短期留学	④△		④△		④△		④△		
	アッセンブリーアワーⅠ	0.5								
	アッセンブリーアワーⅡ			0.5						
	アッセンブリーアワーⅢ					0.5				
	アッセンブリーアワーⅣ							0.5		

【卒業要件】

区分		必修	選択	合計
教養教育	人文と社会	2	18	30
	自然と環境	4		
	言語・情報・スポーツ	6		
小計		12		
専門教育	専門基礎	16	33	94
	専門科目	41		
	総合科目	4		
	小計	61		
合計		73	51	124

【備考】

- ① 卒業要件の詳細については、履修ガイド22ページを参照すること。
② 動物看護学科で開講される専門教育選択科目を履修し、単位を修得した場合は、専門教育選択科目としてみなし、卒業要件に参入する。

授業科目 目次（動物人間関係学科）

区分	授業科目	担当教員	国試	頁	区分	授業科目	担当教員	国試	頁
人文と社会	生命倫理学・動物福祉学	牛根 奈々・高橋 克樹	○	35 36	専門教育科目	動物臨床看護学総論	◎富田 幸子・鈴木 友子 フリッツ 吉川 綾	○	196 197
	哲学	高橋 克樹		37		動物内科看護学実習Ⅰ	◎富田 幸子・三井 香奈 荒川 真希・秋山 蘭 友野 悠	○	198
	生活と法律	渋谷 寛		38		動物内科看護学	フリッツ 吉川 綾	○	199 200
	美術史	長能 美香		39		動物内科看護学実習Ⅱ	◎フリッツ 吉川 綾 三井 香奈・荒川 真希 友野 悠	○	201 202
	心理学	加藤 理絵		40		動物外科看護学	木村 祐哉※	○	203 204
	動物とジャーナリズム	仁科 邦男		41		動物外科看護学実習	◎木村 祐哉※・秋山 蘭	○	205 206
	キャリアマネジメント	中村 晶		42		動物臨床検査学	◎岡崎 登志夫※・宮井 紗弥香	○	207 208
自然と環境	基礎生物学	長島 孝行		43		動物臨床検査学実習	◎岡崎 登志夫※・宮井 紗弥香	○	209
	基礎化学	石川 牧子		44		ヒトと動物の共通感染症	内田 明彦		210
	基礎生化学	◎小黑 美枝子・石川 牧子	○	45		公衆衛生学	植田 富貴子	○	211 212
	環境科学	石川 牧子		46		動物感染症学Ⅰ	内田 明彦	○	213
	英語Ⅰ	島森 尚子・大橋 由紀子 石川 亮太		47 52		小動物栄養学	◎荒川 真希・秋山 蘭	○	214 215
	英語Ⅱ	島森 尚子・大橋 由紀子		53 58		ヒトと動物の関係学	安藤 孝敏		216
	英語Ⅲ	大橋 由紀子・阿部 敬子 植月 恵一郎		59 64		社会福祉	山川 伊津子		217
	英語Ⅳ	大橋 由紀子・阿部 敬子 植月 恵一郎		65 70		臨床心理学	加藤 理絵※		218
	フランス語入門	白川 理恵		71		コミュニケーション論	加藤 理絵※		219
	情報リテラシー（基礎）	若林 義啓		72		ペットロス論	新島 典子		220
	情報リテラシー（応用）	若林 義啓		73		アニマルアシステッドセラピー論	山崎 薫・◎秋山 順子 山崎 恵子		221
	健康とスポーツ（実技含む）	中山 多美		74		アニマルアシステッドセラピー実習	秋山 順子		222
専門基礎科目	生命科学概論	◎小黑 美枝子・長島 孝行		173		アシスタンスドッグ論	秋山 順子		223
	バイオテクノロジー	◎小黑 美枝子・長島 孝行		174		伴侶動物資源・育種学	村上 隆広		224
	動物看護学概論	◎内田 明彦・今村 伸一郎 岡崎 登志夫・梅村 隆志 富田 幸子	○	175 176		適正飼養指導論	◎堀井 隆行・牛根 奈々	○	225 226
	動物人間関係学概論	◎植田 富貴子・新島 典子 石川 牧子・秋山 順子 堀井 隆行	○	177 178		動物愛護・適正飼養実習	◎堀井 隆行・牛根 奈々 青山 正志・細野 茂之※	○	227 228
	動物形態機能学	今村 伸一郎	○	179 180		コンパニオンアニマルケア（グルーミング）論	◎福山 貴昭・荒川 真希		229
	動物生理学	今村 伸一郎	○	181 182		コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習	◎福山 貴昭・荒川 真希 土屋 恵美・早川 裕子		230
	動物形態機能学実習	◎今村 伸一郎・牛根 奈々	○	183 184		コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習	◎福山 貴昭・土屋 恵美 早川 裕子		231
	動物生活環境学	◎三井 香奈・秋山 順子	○	185 186		伴侶動物行動演習	堀井 隆行		232
	動物行動学	フリッツ 吉川 綾	○	187 188		コンパニオンドッグトレーニング論	堀井 隆行		233
	動物遺伝学	村上 隆広		189		コンパニオンドッグトレーニング実習	堀井 隆行		234
	動物繁殖学	村上 隆広	○	190 191		イヌ・ネコの特性論	山崎 薫・長島 孝行 ◎福山 貴昭・早田 由貴子		235
	動物薬理学	◎牛根 奈々・近藤 晶弘	○	192 193		エキゾチックアニマル特性論	霍野 晋吉		236
	動物病理学	梅村 隆志	○	194 195					

授業科目 目次（動物人間関係学科）

区分	授業科目	担当教員	国試	頁
専門科目	コンパニオンバード特性論	◎島森 尚子・小嶋 篤史		237
	ジェロントロジーとドッグウォーキング	秋山 順子		238
	産業動物学	村上 隆広	○	239
	実験動物学	牛根 奈々	○	240
	野生動物学	村上 隆広	○	241
	動物看護関連法規	植田 富貴子	○	242
	動物愛護・適正飼養関連法規	小島 香代子	○	243
	医療安全	本田 三緒子		244
	動物災害・危機管理	◎福山 貴昭・小島 香代子		245
	ペット関連産業論	越村 義雄	○	246 247
	ペットビジネス起業論	宮下 めぐみ※		248
	情報危機管理論	若林 義啓		249
	動物とアート	斎藤 康介		250
	動物文化人類学	◎内田 明彦・植田 富貴子 島森 尚子・石川 牧子 村上 隆広・新島 典子 秋山 順子・堀井 隆行		251
	水族動物学	石川 牧子		252
	動物園・水族館論	小宮 輝之※		253
	有害動物学	谷川 力		254
	サイエンスイングリッシュ	小黒 美枝子		255
専門教育科目	アカデミックスキルズ	新島 典子		256
	統計学	木村 祐哉		257
	動物看護学総合演習	◎宮井 紗弥香・友野 悠		258
	卒業論文	内田 明彦・梅村 隆志 今村 伸一郎・岡崎 登志夫 植田 富貴子・富田 幸子 谷口 明子・大橋 由紀子 木村 祐哉・鈴木 友子 フリッツ 吉川 綾・宮井 紗弥香 牛根 奈々・三井 香奈 小黒 美枝子・長島 孝行 島森 尚子・石川 牧子 村上 隆広・新島 典子 若林 義啓・福山 貴昭 加藤 理絵・秋山 順子 堀井 隆行		259
	インターンシップ	◎堀井 隆行・三井 香奈 秋山 蘭・青山 正志		260
	研修・ボランティア活動	◎加藤 理絵・宮井 紗弥香		261
	動物実習短期留学	島森 尚子		262
	アッセンブリーアワーⅠ	◎三井 香奈・宮井 紗弥香		263
	アッセンブリーアワーⅡ	◎牛根 奈々・土屋 恵美 青山 正志		264
	アッセンブリーアワーⅢ	◎秋山 蘭・友野 悠		265
	アッセンブリーアワーⅣ	◎加藤 理絵・秋山 順子		266
総合科目				

各項目のマークについて

◎：複数教員が担当する科目の授業科目目次及び、シラバスの科目担当教員欄において、名前の前に◎がついた教員は「科目担当責任者」となります。

※：名前の後ろに「※」がついた教員は、「実務家教員」となります。

なお、シラバスの実務家教員欄に「○」がついている科目の詳細は、履修ガイド&シラバス267ページをご覧ください。

○：国試欄に「○」がついている科目は、愛玩動物看護師国家試験受験に必要な科目です。動物人間関係学科で開講していない科目については、他学科履修で履修し単位修得を目指すことができます。

2 学 科 共 通

教 養 教 育 科 目

授業科目	生命倫理学・動物福祉学				実務家教員	—	担当教員	◎牛根 奈々・高橋 克樹
科目英名	Bioethics and Animal Welfare							
開講期間	2 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]		
到達目標								
1. 生命倫理の概念 1) 生命倫理の考え方について理解する 2) 生命倫理と獣医療の関わりについて理解する 2. 動物福祉の概念 1) 動物福祉の考え方について理解する 2) 「5つの自由」(飢え・渇きからの自由、痛み・負傷・病気からの自由、不快からの自由、本来の行動がとれる自由、恐怖・抑圧からの自由)について理解する 3) 世界と日本における近代及び現代の動物愛護運動について理解する 4) 「動物の権利」、「動物福祉」思想や課題について理解する 5) 動物福祉の生理学的指標及び行動的指標による評価法について理解する 6) 安楽死の考え方について理解する 3. 愛玩動物の福祉 1) 愛玩動物の適正飼養と福祉上の問題について理解する 2) 国内外の動物保護活動の現状と課題について理解する 3) 飼養放棄や殺処分問題、対策について理解する 4) 動物のみだりな殺傷・虐待(積極的な虐待とネグレクト)の現状、対策について理解する 5) 飼養動物の災害時の対応について理解する 4. 産業動物の福祉 1) 産業動物における福祉上の問題について理解する 2) 国際的な福祉基準について理解する 3) 産業動物の福祉を向上させるための具体的方法について理解する 5. 実験動物の福祉 1) 実験動物における福祉上の問題について理解する 2) 3 R (Replacement (代替)、Reduction (削減)、Refinement (改善)) の概念と具体的方法について理解する 6. 展示動物の福祉 1) 展示動物における福祉上の問題について理解する 2) 展示動物に対する環境エンリッチメントの種類と内容について理解する								
講義概要								
生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。								
授業計画								担当教員
1 生命倫理とは何か～「いのち」の根源を問う								高橋 克樹
2 生命倫理とは何か～関係の中にある「いのち」								高橋 克樹
3 生命倫理が要請されてきた背景～「いのち」とは誰のものか								高橋 克樹
4 「いのち」の尊厳と優生思想～ヒロシマ、ナガサキ、アウシュビッツから考える								高橋 克樹
5 生きる権利と死ぬ権利～安楽死と自死の視点から								高橋 克樹
6 出生前診断～自己決定権をめぐる問題点								高橋 克樹
7 臓器移植～他社に臓器を提供することは愛の行為か？								高橋 克樹
8 愛玩動物の福祉～動物保護活動の現状と災害時の飼養動物の対応								高橋 克樹
9 愛玩動物の福祉～動物虐待								牛根 奈々
10 産業動物の福祉～福祉上の問題・福祉を向上させるための具体的方法								牛根 奈々
11 実験動物の福祉～福祉上の問題・3 R の概念								牛根 奈々
12 展示動物の福祉～福祉上の問題								牛根 奈々
13 展示動物の福祉～環境エンリッチメントの種類と内容								牛根 奈々
14 動物福祉の概念①								牛根 奈々
15 動物福祉の概念②								牛根 奈々

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
リアクションペーパーでの質問、意見、要望について、次週の講義で回答する。
履修上の注意
動物をはじめ、すべてのいのちへの幅広い関心と、人間としての責任を自覚する姿勢をもとめたい
事前・事後学修（予習・復習）の内容
講義のレジメをよく読んで内容を習得する。
評価方法（評価基準を含む）
リアクションペーパー（３０％）、授業への参加度（３０％）、定期試験（４０％）から総合的に評価する。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠 教科書第４巻 動物看護学概論／人と動物の関係学／生命倫理学・動物福祉 EduwardPress
参考書、教材等
授業の中で適宜紹介する。

授業科目	哲学				実務家 教員	—	担当 教員	高橋 克樹
科目英名	Philosophy							
開講期間	1 年次 後期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]		
到達目標								
「生きた哲学は現実を理解しうるものでなくてはならない」とは九鬼周造のことばである。本講義では、なぜ人は愛する人を喪うと生き方が変わるのか。2018年と2019年にもっとも読まれた本のひとつ「君たちはどう生きるか」を手掛かりに日常生活での哲学的思考の修得を目指す。								
講義概要								
「哲学とはなにか」を出発点として学んでいく。哲学の学修にとって哲学史は欠かすことができない領域である。したがって、ギリシャ哲学から現代へと繋がる視点から、プラトン、ソクラテス、アリストテレスを取り上げ、中世のスコラ哲学を経て、近・現代哲学、特にキェルケゴール、そしてM. ブーバー等の思想を学ぶ。								
授業計画								
1 「豊かさ」について①—貧しい友人と油揚げ事件・いじめ— 2 「豊かさ」について②—生産する人、消費する人— 3 「友だち」について①—本当の友だちとは？— 4 「友だち」について②—消えることの無い過ちへの対処— 5 「歴史」について①—なぜ紛争はなくなるのか— 6 「歴史」について②—歴史に学ぶ生き方— 7 「どう生きるか」について①—ナポレオンは偉大か— 8 「どう生きるか」について②—本を読むという営み— 9 「哲学する」について①—心が折れそうになるときでも— 10 「哲学する」について②—裏切りからの回復— 11 パトスの知①—われ思う、ゆえにわれ在りから— 12 パトスの知②—われ悲しむ、ゆえにわれあり— 13 「私たちはどう生きるか」①—どう生きてきたかを検証する— 14 「私たちはどう生きるか」②—これからをどう生きていくのか— 15 まとめと振り返り								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
リアクションペーパーでの質問、意見、要望について、次週の授業で回答する。								
履修上の注意								
教科書をしっかり読み、各自の問題意識を持って授業に出席すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前にテキストを読んでおくこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度と貢献度（50%）、リアクションペーパー（20%）、定期試験（30%）から総合的に評価する。								
教科書								
『君たちはどう生きるか』（吉野源三郎 岩波文庫）								
参考書、教材等								
『君たちはどう生きるかの哲学』（上原隆 幻冬舎新書） その他授業のなかで適宜取りあげて 必要な参考文献を紹介する。								

授業科目	生活と法律				実務家教員	—	担当教員	渋谷 寛
科目英名	Law in Everyday Life							
開講期間	1 年次 前期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]		
到達目標								
日常生活において必要な法的知識、法的紛争解決手続きを修得することを到達目標とする。								
講義概要								
日常生活における必要な法的知識、法的紛争解決手続きを修得することを目的とする。 憲法、民法そして刑法等の基本的な法律の知識を得る。売買契約、消費貸借契約、賃貸借契約、請負契約そして寄託契約等の契約類型についても学ぶ。裁判制度、特に新設された「裁判員制度」について学ぶ。 さらに、ペットに関する業界特有の法知識の修得も志す。動物愛護管理法等の関係法令の規定を知る。獣医療過誤訴訟の実態、その他のペットを取り巻く日常的な法律問題を解説する。								
授業計画								
1 法学入門、法の歴史、江戸時代の生類憐れみの令 2 日本国憲法、人権問題、戦争放棄、天皇制、政治の仕組み、憲法改正など 3 売買契約に関すること、消費者保護制度、クーリングオフなど 4 ① 賃貸借契約に関すること、契約締結に関する注意事項、大家さんとのトラブル解決法 ② その他の民法上の契約、消費貸借、委任契約、寄託契約など 5 ① 家庭的な法律問題、結婚、離婚、相続など ② 保険制度、労働法に関する問題、就業規則、不当解雇など 6 ① 犯罪と刑罰に関する問題、覚せい剤犯罪、動物愛護法の罰則規定など ② 裁判に関する法、民事訴訟と刑事訴訟の手続の流れ 7 裁判員制度について 1（制度の概説） 8 裁判員制度について 2（放火の事例） 9 裁判員制度について 3（殺人未遂・傷害の事例） 10 未成年者の飲酒の禁止と交通法規 11 獣医療過誤事件 1 12 獣医療過誤事件 2 13 動物愛護法など動物に関する法律 1 14 動物愛護法など動物に関する法律 2 15 動物愛護法など動物に関する法律 3								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業中の質問については、適切に答える。授業に対する要望があれば、できる限り対応する。								
履修上の注意								
試験問題のほとんどは、授業で扱ったところから出題されるので、授業中にメモを取ることが望ましい。予習よりも復習が大切。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
配布した資料を読み返す。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業内容をよく理解したか否か、および日常生活に関する基本的な法的知識を備えたか否か、更に動物に関する法律問題に対する知識を備えたか否かを評価基準とし、授業への参加度（3%）と定期試験（97%）により総合的に評価する。								
教科書								
『ペットのトラブル相談Q＆A（第2版）』 渋谷寛他 2 名共著 発行所 株式会社民事法研究会								
参考書、教材等								
「ペットの判例ガイドブック」 渋谷寛他共著 発行所 株式会社民事法研究会 「動物看護コアテキスト第3版1基礎動物学Ⅰ」 発行所 株式会社ファームプレス 「ねこの法律とお金」 発行所 廣済堂出版								

授業科目	美術史				実務家教員	—	担当教員	長能 美香
科目英名	History of Art							
開講期間	2 年次 前期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育〔人文と社会〕		
到達目標								
作品を鑑賞し楽しむために基礎となる、西洋美術の流れや各時代の造形の本質を理解する。 また、馴染みのない美術作品はしばしば近寄り難いものとして敬遠されることがあるが、こうした先入観を払拭して、自由に作品を見る目を養うことを到達目標とする。								
講義概要								
人間は、生活に彩を与える美意識と超自然的な力を崇拝する精神を持ち合わせている。この装飾本能と信仰こそが美術を誕生させる二つの源泉である。このことを意識しながら、本講義は古代から近代までの西洋美術の流れを概観する。各時代の代表的な作品を取り上げ、作品をよく見ることを大切にして各時代の造形の本質を明らかにしていきたい。 あわせて動物を主題とした作品も数多く紹介する。動物は、時に神格化され、時に「象徴」や「寓意」を与えられて、人間の創造の源泉として重要な役割を果たしてきた。このことを踏まえ、人間と動物との関係や、人間が動物に対して持っていた価値観や意味を美術を、通して理解できるようにする。								
授業計画								
1 美術と美術史 2 美術の不思議な始まり 3 古代エジプトとオリエントの美術 4 地中海美術とギリシア美術 5 ヘレニズム美術とローマ美術：ヨーロッパ文化の源泉 I 6 初期キリスト教美術と初期キリスト教美術：ヨーロッパ文化の源泉 II 7 西欧中世美術の造形原理とロマネスク美術 8 ロマネスクの怪物とイメージの源泉 9 ゴシック美術とルネサンスのあけぼの 10 初期ルネサンス I —ネーデルラント絵画 11 初期ルネサンス II—イタリア美術編 12 盛期ルネサンス 13 近代素描の確立とルネサンス以降の動物表現 14 バロック美術 15 17 世紀オランダ美術								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業最終日に全体に対し、フィードバックを行う。								
履修上の注意								
1.作品を鮮明に映写するため通常より教室が暗くなる。ノートをとるために手元を照らすペンライト、または携帯のライトニング機能などを用意すること。 2.美術展に足を運び本物に触れて感性を豊かにすることが望ましい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：講義の理解を助けるために、簡単な美術史概説書または歴史教科書や図説の文化史の部分を読むこと。事後学修：講義で出た専門用語を調べてよく理解すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（50％）、講義レポート（50％）の割合で総合的に評価する。								
教科書								
使用しない。								
参考書、教材等								
使用しないが、重要な書物や展覧会などを講義中に適宜紹介する。								

授業科目	心理学				実務家教員	-	担当教員	加藤 理絵
科目英名	Psychology							
開講期間	2 年次 後期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]		
到達目標								
心理学は、独自で多様な視点と科学的方法を用いて人間を理解し、その発達や問題解決に有用な知見を蓄積してきた。本講義は、従来心理学の基礎的な項目として挙げられてきた知覚、記憶、学習、感情、脳と神経、発達等に、ポジティブ心理学という新しい視点を加えることで、より幸せに生きるために必要な知識を修得し、他者や自分への関心、理解を深め、現代社会で生きる力を養うことを到達目標とする。								
講義概要								
本講義では、心理学の基礎的な項目として知覚や記憶、学習、知能、感情、脳と神経、社会と個人の関係、心理的・社会的発達に関する事柄に加え、心理臨床領域として性格、心の問題と解決、予防と援助を学び、次に学修する臨床心理学、コミュニケーション論などの基礎を理解する。心理学系の科目としては最初の講義であるため、学生が心理学をより身近な学問として感じる事が可能となるよう日常的な例を取り上げ、視聴覚教材を用いる。								
授業計画								
1 心理学の歴史 2 心理学の研究 3 心と脳Ⅰ：心と脳 4 心と脳Ⅱ：心と神経 5 知覚 6 記憶Ⅰ：記憶のあらまし 7 記憶Ⅱ：生きることと記憶 8 学習 9 情動 10 自己と人間関係 11 人間の発達Ⅰ：乳児期から児童期 12 人間の発達Ⅱ：青年期以降 13 心の問題と援助Ⅰ：ストレス 14 心の問題と援助Ⅱ：メンタルヘルス・正常と異常 15 試験と解説								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
フィードバックとして課題を回収後、解答の解説を行う								
履修上の注意								
講義内容について実感をもって理解するためには、学生が自分自身の心理的体験を振り返ることが必要である。また、復習や感想レポートの提出を着実にすること。授業に積極的に参加し、欠席、遅刻、私語はしないこと。尚、本講義では、出欠の確認、ワーク、リアクションペーパーの回収の効率化を行う目的から、座席を学籍番号順に指定する場合もある。また、毎年、新しい心理学的知見、情報をリニューアルしていく上で、授業計画の順番や日時、内容の変更がありうる。初回授業にて配布する授業計画表を確認すること。Moodle を利用し参考資料の配布や課題の提出、授業案内を行うため、連絡掲示等を必ず確認すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「各授業回の内容に関連するテーマについて調べておくこと」 事後学修「毎授業後、授業における重要キーワードについての理解、整理をしておくこと」								
評価方法（評価基準を含む）								
授業におけるディスカッション等への参加態度(30%)・毎回のリアクションペーパー課題の内容（40%）・試験（30%）から総合的に評価する。								
教科書								
基本は Moodle に PDF データを用意する。必要に際し、各自資料をダウンロード、プリントアウト可能。書籍購入が必要な場合は初回講義にて指示する。								
参考書、教材等								
参考書は講義中に紹介する。ビデオなど視聴覚機材も用いる。								

授業科目	動物とジャーナリズム				実務 家教員	—	担当 教員	仁科 邦男
科目英名	Animal and Journalism							
開講期間	1 年次 後期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]		
到達目標								
動物に関する人の価値観、考え方は時代、民族、地域などで異なり、しかも変化し続けている。新聞・雑誌・テレビなどで報じられる、動物についてのさまざまな出来事—外来種と生態系の問題、絶滅の恐れのある希少動物の問題、現代社会における野生動物と人の生活の関係などをテーマに取り上げ、人と動物（野生動物、家畜、ペット）との関わり方、意識の変化について学び、理解することを目標とする。								
講義概要								
本科目では、ジャーナリズムを通じて動物と人との関わり合いはどのように報じられてきたのか、新聞、雑誌記事、テレビ・ニュース等を素材にして講義する。動物関係ニュースの変貌ぶり、ニュースの背景にも触れる。各回のテーマに応じて動物愛護法、自然環境保全法、種の保存法等の動物関連法に言及する。犬、猫を中心に授業を進めるが、犬猫だけでなく、その他の動物の生態、歴史も理解できるように、さまざまな資料・データを示しながら、動物と人とのあり方について考える。								
授業計画								
1 最近のニュース ペリー来航、初めて海を渡った日本の犬と猫。 2 最近のニュース 犬と猫の帰宅（帰巢）能力を考える。自力帰宅の世界記録と日本記録。 3 最近のニュース 野生化した外来動物の波紋。アライグマ、ハクビシン、マングースその他。 4 最近のニュース 絶滅した動物たち。ニホンオオカミ、リョコウバト、フクロオオカミほか。 5 最近のニュース 飼いうサギの歴史。オーストラリアではウサギは大害獣。日本では？ 6 最近のニュース 人類に最も大きな影響を与えた学説、ダーウィン進化論の伝わり方、考え方。 7 最近のニュース アホウドリ復活。アマミノクロウサギ復活。 8 最近のニュース 狂犬病ワクチンで人の命を救ったパスツール、明治時代の医師・栗本東明。 9 最近のニュース 世界の侵略的動物ワースト100になぜネコ（野猫）が選ばれたのか。 10 最近のニュース 絶滅危惧種ウナギのこれから。 11 最近のニュース 犬はなぜ「イヌ」というのか。猫はなぜ「ネコ」というのか。語源を考える。 12 最近のニュース 越冬するツバメたちの不思議。 13 最近のニュース 動物園の歴史と変貌。動物園の意義について考える。 14 最近のニュース 忠犬ハチ公はどうして「忠犬」になったのか。動物報道のあり方を考える。 15 最近のニュース ゴリラ、チンパンジー、ボノボ…ヒトとサルの分かれ目について。								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
必要に応じて、前週受講者が提出したミニレポートの質問への回答、前週講義の補足説明をする。								
履修上の注意								
A4で2ページ程度のプリント資料を授業当日に配る。資料は moodle にも掲載する。 受講者にはその日の授業のミニレポート「感想・質問」の提出を求める。 テーマは時々のニュースにより変わることがある。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
必要に応じて次週講義のテーマ、概要を説明する。復習できるよう過去の授業資料を moodle に掲載する。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業後に提出するミニレポート「感想・質問」（出席票を兼ねる）60%、学期末に提出するレポート 40%。								
教科書								
特になし								
参考書、教材等								
特になし								

授業科目	キャリアマネジメント				実務家教員	-	担当教員	中村 晶
科目英名	Introduction to Career Management							
開講期間	2 年次 後期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]		
到達目標								
社会・経済構造の変化により、人々の就業形態も多様化し、個人の職業観と勤労意識も変化している。労働市場の流動化により、現代は個人主導のキャリア形成が求められているが、学生が適職を探し、将来のキャリアを思い描くことは容易ではない。そこで働くことの意味を考え、自己理解を深めると共に、自己啓発を促していく。2 年次の段階で職業について知識を持ち、必要な能力の育成を行うことが大切である。本学での履修を活かしたキャリア形成を自覚し、実践できる事を到達目標とする。								
講義概要								
キャリアとは、生涯を通じての人間の生き方とその表現である。学校、職場、地域貢献、ボランティア活動等の広義での仕事を含め、人生の経験を複合的に積むことで得る。本講義では、講義と実践によりキャリアデザインの基礎を理解する。ワークシートを作成し自己分析を行い、自己の理解を深めると共に自己啓発を促す。そして社会が求める人材について検討し、「社会人になるということは」「社会のメカニズムは」「人間は何故働くの」を出発点として、キャリアで必要とされる基礎知識や社会人としてのマナーを学ぶ。同時にどのようなキャリアの選択肢があるのか、自分のプランを考え希望する選択肢を実現させるために、どのように考え行動していくのかについて講義する。								
授業計画								
1 オリエンテーション：授業の目的、内容、進め方、成績評価の基準の説明、挨拶の励行について 2 現代社会とキャリアデザイン：キャリアデザインの基礎理解:自己分析・自己発見⇒職務適性試験 3 キャリアと人生設計（1）：ライフサイクルと職業 4 キャリアと人生設計（2）：生涯収支と職業 5 キャリアと人生設計（3）：キャリアと生涯発達 6 キャリアのための自己理解（1）：働く意味と自分の職業感 7 キャリアのための自己理解（2）：自分の強みと弱みを知る⇒就活三大質問の処方箋 8 キャリアと仕事理解（1）：学生生活とキャリア意識の明確化 9 キャリアと仕事理解（2）：経済・雇用環境の変化と働き方を考える 10 キャリアと職場理解（1）：キャリア形成と多様な職種と業種の中で自分の適職を検討する 11 キャリアと職場理解（2）：警察犬、警備犬に携わる仕事を理解する 12 履歴書の作成（1）：履歴書の書き方 13 履歴書の作成（2）：履歴書の作成 14 キャリアのケーススタディ：いろいろなキャリア形成から学ぶ 15 キャリアマネジメント：キャリアデザインの方向性をつかむ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
フィードバックとしてレポート回収後、解説・アドバイス等を行う。								
履修上の注意								
一部内容・回の順番を替える場合は、講義内で連絡をする。 社会人に必要な事は何であるか。学生と社会人の違いを考えておこう。自己分析、自己 PR、自分の長所・短所も考えておこう。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」 事後学修「毎授業後、関連する内容をインターネット・図書館等で調べ、まとめておくこと」								
評価方法（評価基準を含む）								
講義への出席状況と受講態度を 30%、発表および課題提出（ワークシート、レポート）を 70%とし、総合的に評価する。								
教科書								
『キャリアデザイン講座 第3版－理論と実践で自己決定力を伸ばす』 日経 BP ソフトプレス （適宜、資料を配布する）								
参考書、教材等								
講義中に紹介する。また、講義のレジュメ等を配布する。								

授業科目	基礎生物学				実務家教員	—	担当教員	長島 孝行
科目英名	Basic Biology							
開講期間	1 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [自然と環境]		
到達目標								
細菌や植物を含め、広範囲の生物学的基礎知識を習得する。この授業で学ぶ内容は、2 年次以降の必修科目である専門基礎科目群で取り扱われる内容の概説である。本講義の履修終了時の目標は、生体を構成する物質、構造、代謝、遺伝方式、動物の正常な生命活動全般の専門用語について具体的なイメージが浮かび、説明できるようになることである。								
講義概要								
生物学は、生物の成り立ち及び生命現象を研究する自然科学の 1 分野である。本講義では生命の最小単位である細胞の構造と機能、生体を構成する物質、生命維持のしくみ、個体発生のしくみ、生物の恒常性のしくみ、及び生物の環境適応のしくみ等生物学の各分野について階層的に知識を積み上げ包括的に理解を深めることを目的とする。さらに、比較生物学の観点から生物の多様性の意義についての理解を深め、専門科目を理解し学ぶために必要な基礎知識を身につける。								
授業計画								
1 生物の系統と分類 2 細胞の構造 3 生体を構成する物質 4 栄養素と代謝 5 遺伝の仕組み（遺伝の法則） 6 遺伝の仕組み（遺伝子突然変異） 7 生殖（細胞周期） 8 生殖（減数分裂） 9 発生（有性生殖と無性生殖） 10 動物の組織（上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織、血液） 11 動物の器官（消化器系、血液循環系、呼吸器系、感覚器系） 12 恒常性（生体の調節とホルモン） 13 外部刺激と反応（神経系の機能と調節） 14 免疫機構（免疫細胞と免疫応答） 15 まとめ（14 回までの授業内容から特に重要な部分を再解説する）								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
毎講義終了時に授業内容の小テストを実施する。講義内容に関する質問も毎回講義終了後に受け付け、次回以降の講義時に解説する。課題レポートにコメント・評価を付して（修正フィードバック）返却する。								
履修上の注意								
授業は配布資料、パワーポイントおよび板書をもとに進めていく。重要事項を積極的にノートに書きとるようにし、自筆ノートの作成と記憶の定着を心がけること。配布資料は忘れず持参すること。 ＊欠席した場合は、次の授業までに、理由を明記した欠席届を提出あるいはメールを送ること。 Moodle を利用した掲示、授業参考資料の配布などをするので、各講義前には確認を怠らないこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：次回の授業範囲の資料を Moodle 上で精読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：各授業回の重要内容に該当する部分をノートにまとめること。配布資料を再度読んでおくこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
学期末試験（60%）、授業への参加度（30%）、およびレポート課題（10%）から総合的に評価する。 レポート課題は第 7 回講義終了時に提示する。第 8 回講義終了時に提出のこと。 なお、授業への参加度は毎講義終了時に提出する出席回答と授業内容小テストを併せて評価する。								
教科書								
講義内容の資料を Moodle の各講義回に事前に掲示し、講義時に配布する。								
参考書、教材等								
参考書は講義の中で紹介する。								

授業科目	基礎化学				実務家教員	—	担当教員	石川 牧子
科目英名	Basic Chemistry							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育〔自然と環境〕		
到達目標								
化学とは、地球上の全ての物質の理解に欠かせない広大な学問分野である。本講義では、生命や環境と密着する化学の基本を中心に、専門教育科目への基盤構築を到達目標とする。 1. 化学の原理の基本知識を身に着ける。 2. 生命現象を司る様々な物質の機能を説明できる。 3. 動物看護において、生体や医薬品を扱うために不可欠な化学知識を身に着ける。								
講義概要								
前半は無機化学を中心に学び、原子の構造や化学結合などの基礎知識を身に着ける。後半は有機化学を中心に、生命現象を司る様々な物質の特性の理解に不可欠な化学知識を身に着ける。最終講義では、まとめおよび理解度の確認、解説を行う。								
授業計画								
1 化学のなりたち 2 原子とその構造 3 電子配置 4 周期表と元素 5 原子とイオン 6 化学結合と分子 7 物質の量と状態 8 溶液の化学 9 酸と塩基，酸化と還元 10 有機化学Ⅰ；有機化合物の構造 11 有機化学Ⅱ；異性体と立体化学 12 有機化学Ⅲ；有機化学反応 13 有機化合物Ⅰ；高分子化合物，糖質と脂質 14 有機化合物Ⅱ；アミノ酸，タンパク質，核酸 15 まとめ（動物看護，生活と化学の関わり），理解度の確認，解説								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小課題や質問は、課題返却時および講義内でフィードバックする。								
履修上の注意								
講義内で適宜小課題を行い、学修内容の定着を確認する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：授業計画に沿って教科書を読んでおく。 事後学修：講義内で配布された資料の復習、小課題の解き直しを行う。								
評価方法（評価基準を含む）								
試験（65%），授業への参加度・受講態度・提出課題(35%)の総合評価。								
教科書								
齋藤勝裕，荒井貞夫，久保勘二著；コ・メディカル化学，裳華房，2022.								
参考書、教材等								
梅本宏信編；基礎から学ぶ大学の化学，培風館，2012. 桜井弘編；薬学のための分析化学，化学同人，2012. H. ハートラ著，秋葉欣哉・奥彬共訳；基礎有機化学 改訂版，2002. 他、必要に応じ適宜参考資料を配布する。								

授業科目	基礎生化学					実務 家教員	—	担当 教員	◎小黒 美枝子・石川 牧子
科目英名	Basic Biochemistry								
開講期間	1 年次 後期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [自然と環境]		
到達目標									
1. 生命のすがた 細胞の構造について理解する DNAの働きについて理解する 2. 栄養代謝 各種栄養素（糖質、タンパク質、脂質）の代謝について理解する 3. 内分泌とホルモン 内分泌の定義について理解する ホルモンの性質、機能、生成、分泌、フィードバック調節について理解する									
講義概要									
動物の生命維持の仕組みを生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。また、生命現象について学ぶ。									
授業計画									担当教員
1 はじめに 生化学的な視点から捉えた生物～細胞の構造 2 タンパク質の構造と機能 3 核酸の構造と機能 4 単糖と多糖、脂質と膜 5 栄養代謝～糖代謝 1 6 栄養代謝～糖代謝 2 7 光合成 8 まとめと課題 9 栄養代謝～脂質代謝 10 栄養代謝～タンパク質・アミノ酸とヌクレオチドの代謝 11 DNA の働き～DNA の複製、修復、組換え 12 転写と RNA プロセッシング 13 翻訳と翻訳後修飾 14 内分泌とホルモン～シグナル伝達 15 まとめと課題									小黒 石川 石川 石川 石川 石川 石川 石川 小黒 小黒 小黒 小黒 小黒 小黒
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
レポート課題や質問は、8 回目、および1 5 回目の授業においてフィードバックする。Moodle を利用して掲示、授業参考資料などを配布するので、注意を怠らないこと。									
履修上の注意									
本学図書館等を利用して、参考図書などに積極的に触れてほしい。									
事前・事後学修（予習・復習）の内容									
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」 事後学修 「8 回目、1 5 回目の授業後、指定された期限内に課題レポートを提出すること」									
評価方法（評価基準を含む）									
授業内テスト（6 0 %）および授業への参加度（4 0 %）から総合的に評価する。									
教科書									
基礎からしっかり学ぶ生化学 羊土社									
参考書、教材等									
講義中に適宜紹介する。									

授業科目	環境科学				実務家教員	—	担当教員	石川 牧子
科目英名	Environmental Science							
開講期間	2 年次 後期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育〔自然と環境〕		
到達目標								
環境科学は、自然環境の特性や、現代社会における環境問題を理解する上で非常に重要である。現代の地球環境の特性や物質循環への理解をもとに、環境保全、環境修復について積極的に考えていく素養を身に付け、環境問題について統合的に理解できるようになる。また、重要な環境問題の生成要因について基本的理解を得、抑制策について考え、自らの言葉で表現できるようになる。								
講義概要								
前半は地球環境（特に大気圏、水圏、地圏）の特性、物質循環と環境汚染について理解する。後半はヒトが環境に与える影響、環境変動史、環境保全への取り組みを学修する。また、講義の中で環境問題に関する新聞記事等を教材とした小論文を書くことにより、身につけた知識を整理し自分の言葉で表現する方法を学修する。								
授業計画								
1 太陽系の中の地球、固体地球 2 大気圏Ⅰ；大気圏の構造 3 大気圏Ⅱ；大気圏の運動 4 物質循環 5 水圏Ⅰ；水の循環 6 水圏Ⅱ；陸水 7 水圏Ⅲ；海洋 8 大気汚染、水質汚染、土壌汚染 9 生物多様性 10 地球環境変化、現在の環境の形成 11 人類と環境Ⅰ；人類の出現と影響 12 人類と環境Ⅱ；気候変動 13 人類と環境Ⅲ；エネルギーと環境 14 人類と環境Ⅳ；生物多様性の危機、環境保全への取り組み 15 これからの環境科学、講義内テストと小論文								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
返却課題内のコメントや講義内でフィードバックする。								
履修上の注意								
講義では新聞記事等を教材とするため、報道などを通じ、意識的に時事問題に関心を持つことを心掛けること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：積極的に新聞報道に目を通し、時事問題に関する知識を吸収する。 事後学修：返却課題をコメントに沿って修正するなど、講義内配布資料の復習をする。								
評価方法（評価基準を含む）								
小論文と講義内テスト(60%)、授業への参加度と講義内での提出課題(40%)の総合評価。								
教科書								
特に指定しない。必要に応じ適宜参考資料を配布する。								
参考書、教材等								
九里徳泰他編著、新訂 地球環境の教科書 10 講、東京書籍、2014 ほか、講義内で紹介する。								

授業科目	英語 I				実務家 教員	—	担当 教員	島森 尚子
科目英名	English I							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
英語 I では、英語を聞き、読み、さらに書き、話すための基礎的な統語の知識と実用的な語彙を身につけることによって英語の 4 技能をレベルアップし、グローバル化社会を見据えて、大学教養英語の基礎を確立する。 英語 IA では、英文で書かれた動物に関する簡単な文章を理解し、英語で意思表示ができるようにすることを目標とする。								
講義概要「英語 IA」								
オンライン教材を用いて、実際に用いられている英語を学ぶ。教材は、愛玩動物・野生動物と環境問題等、本学で学ぶ上で役立つ内容で、かつ基礎的な語彙と文法を学べるものを厳選する。授業では、文法項目ごとの解説を聞いた上で、テキストでその内容を復習し、さらに単語の意味と用法を学び、グループワークで確認する。								
授業計画								
1 ガイダンス・英語の品詞と統語の基礎・音声学基礎、グループワーク 2 状態動詞と動作動詞 1 解説、動物に関する教材の読解・リスニング、グループワーク 3 状態動詞と動作動詞 2 解説、動物に関する教材の読解・リスニング、グループワーク 4 品詞と文型 1 解説、動物に関する教材の読解・リスニング、グループワーク 5 品詞と文型 2 解説、動物に関する教材の読解・リスニング、グループワーク 6 品詞と文型 3 解説、動物に関する教材の読解・リスニング、グループワーク 7 動詞の時制 単純時制 1 解説、動物に関する教材の読解・リスニング、グループワーク 8 動詞の時制 単純時制 2 解説、動物に関する教材の読解・リスニング、グループワーク 9 法助動詞の種類と用法 1 解説、動物に関する教材の読解・リスニング、グループワーク 10 法助動詞の種類と用法 2 解説、動物に関する教材の読解・リスニング、グループワーク 11 名詞と代名詞 1 解説、動物に関する教材の読解・リスニング、グループワーク 12 名詞と代名詞 2 解説、動物に関する教材の読解・リスニング、グループワーク 13 前置詞と前置詞句 リスニングとディクテーション、グループワーク 14 ライティングとグループワーク 15 レビュー								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
毎回 Moodle で Quiz を終えた後解説を読み、間違えたところを復習して再受験する。質問は Moodle または教室でいつでも受け付ける。								
履修上の注意								
履修クラスは入学後に実施した英語学習傾向試験の結果に基づいて決定されている。 IA の受講者は Moodle 上に設置された英語のリメディアル教材を並行して受講すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
次回の授業内容は教場または Moodle で指示するので、必ず予習すること。毎回、その日に学んだ内容を復習し、Moodle に設定した Quiz を受けること。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（発アクティビティアクティビティ）20%、Quiz 80%として総合的に評価する。								
教科書								
オンライン教材（BBC Learning English, Britannica Kids 等）から適宜抜粋して Moodle にて指示・配布する。その他、教場・Moodle にて都度指示・配付する。								
参考書、教材等								
教場・Moodle にて指示、あるいは配付する。								

授業科目	英語 I				実務家教員	—	担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English I							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
この授業では、大学教養レベルの文法を身につけるために、英文を読みながら文法事項を解説する。大学レベルの英文法基礎を修得し、基本的な英文記事や論文要旨、および文献を読むための土台づくりを目標とする。 1. 動物関連の英文記事を読むための基本的な英文法を学び、理解できるようになる。 2. 自ら英文を作成するために必要な語彙・構文を学び、それらを使用した英文作成ができるようになる。								
講義概要「英語 I B」								
大学で必要とされる英語の運用能力を身につけるための基礎知識の修得を図るため第 1 回から第 7 回までは文法項目を中心に学び、英語独特の発想や表現を身につけることを目標とする。第 8 回から第 14 回までは動物に関連する記事を読み、複雑な構文や語彙を解説後、実際に学んだ語彙を使用した英文作成の練習を行う。15 回目は授業のまとめを行う。								
授業計画								
1 ガイダンス・品詞の解説 2 動詞の種類 動詞の形の解説と問題演習 3 動詞の種類について、小テストと復習を含んだ解説動) 4 未来形（文法解説と問題演習、グループ活動) 5 未来形について、小テストと復習を含んだ解説 6 法助動詞（文法解説と問題演習、ペアワーク) 7 法助動詞（文法解説と問題演習、グループ活動) 8 Pet Keeping 1 (リスニング、リーディング、語彙と文法) 9 Pet Keeping 2 (ペアワーク、問題演習) 10 Animal Behavior 1 (リスニング、リーディング、語彙と文法) 11 Animal Behavior 2 (グループワーク、問題演習) 12 Literature and Culture on Animals 1 (リスニング、リーディング、語彙と文法) 13 Literature and Culture on Animals 2 (ペアワーク、問題演習) 14 全内容までの総復習、構文、表現に関する小テストおよび解説 15 総復習（テストと解説)								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題は次の回に解説を行う。								
履修上の注意								
授業での活動には積極的に取り組むこと。初回に授業に対する姿勢、確認テスト等の成績評価について説明する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学修として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。								
評価方法（評価基準を含む)								
試験（50%）、課題（30%）、発言など授業への参加度（20%）から総合的に評価する。								
教科書								
『シンプルセンテンスで学ぶ基本英文法』 Simply Grammar 南雲堂								
参考書、教材等								
教場で指導する。								

授業科目	英語 I				実務 家 教 員	—	担 当 教 員	石川 亮太
科目英名	English I							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
基礎的な文法や語彙を復習しつつ英語特有の表現や発想を学び、大学初級レベルの読解力を身につけることを目標とする。								
講義概要「英語 I C」								
高等学校までに学んできた英語の知識をベースに、より発展的な英語の読解力の習得を目的とし、古くはナサニエル・ホーソーン（1804-1864）からポール・オースター（1947-）のような現代の作家を含む幅広い年代のアメリカ文学の作品に触れながら英語の語彙、文法、内容理解を学ぶ。また、Moodle に設定された小テストを受けることで、学んだことを復習する。								
授業計画								
1 ガイダンス 2 CHAPTER 1. Paul Auster <i>Moon Palace</i> (I) 3 CHAPTER 2. Paul Auster <i>Moon Palace</i> (II) 4 CHAPTER 3. Paul Auster <i>Moon Palace</i> (III) 5 CHAPTER 4. Paul Auster <i>Moon Palace</i> (IV) 6 CHAPTER 5. Raymond Carver “Cathedral” 7 CHAPTER 6. Nathaniel Hawthorne “Wakefield” (1) 8 CHAPTER 6. Nathaniel Hawthorne “Wakefield” (2) 9 CHAPTER 7. John Cheever “The Country Husband” (1) 10 CHAPTER 7. John Cheever “The Country Husband” (2) 11 CHAPTER 8. Philip Roth <i>The Human Stain</i> 12 CHAPTER 9. Toni Morrison <i>Beloved</i> 13 CHAPTER 10. Kate Chopin “The Story of an Hour” (1) 14 CHAPTER 10. Kate Chopin “The Story of an Hour” (2) 15 Review								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
Moodle 上で受けた小テストは、正解・不正解、および解説が即座に受け取れるので、間違えた場合は各自復習して受け直すことができる。その他、必要に応じて教場にて解説する。								
履修上の注意								
履修クラスはオリエンテーション時に実施した英語学習傾向試験の結果に基づき決定している。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修 毎回、指定されたチャプターを読んでおく。 事後学修 語彙など新たに学んだことを整理し、Moodle 上での小テストにて理解の度合いを確認し、間違えた箇所は復習して再受験する。								
評価方法（評価基準を含む）								
テスト 40%、平常点（授業参加） 60%として総合的に評価する。								
教科書								
『アメリカ文学から英語を学ぼうⅢ』（英宝社）								
参考書、教材等								
授業内で紹介する。								

授業科目	英語 I				実務 家教員	—	担当 教員	石川 亮太
科目英名	English I							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
基礎的な文法や語彙を復習しつつ英語特有の表現や発想を学び、大学初級レベルの読解力を身につけることを目標とする。								
講義概要「英語 I D」								
高等学校までに学んできた英語の知識をベースに、より発展的な英語の読解力の習得を目的とし、古くはナサニエル・ホーソーン（1804-1864）からポール・オースター（1947-）のような現代の作家を含む幅広い年代のアメリカ文学の作品に触れながら英語の語彙、文法、内容理解を学ぶ。また、Moodle に設定された小テストを受けることで、学んだことを復習する。								
授業計画								
1 ガイダンス 2 CHAPTER 1. Paul Auster <i>Moon Palace</i> (I) 3 CHAPTER 2. Paul Auster <i>Moon Palace</i> (II) 4 CHAPTER 3. Paul Auster <i>Moon Palace</i> (III) 5 CHAPTER 4. Paul Auster <i>Moon Palace</i> (IV) 6 CHAPTER 5. Raymond Carver “Cathedral” 7 CHAPTER 6. Nathaniel Hawthorne “Wakefield” (1) 8 CHAPTER 6. Nathaniel Hawthorne “Wakefield” (2) 9 CHAPTER 7. John Cheever “The Country Husband” (1) 10 CHAPTER 7. John Cheever “The Country Husband” (2) 11 CHAPTER 8. Philip Roth <i>The Human Stain</i> 12 CHAPTER 9. Toni Morrison <i>Beloved</i> 13 CHAPTER 10. Kate Chopin “The Story of an Hour” (1) 14 CHAPTER 10. Kate Chopin “The Story of an Hour” (2) 15 Review								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
Moodle 上で受けた小テストは、正解・不正解、および解説が即座に受け取れるので、間違えた場合は各自復習して受け直すことができる。その他、必要に応じて教場にて解説する。								
履修上の注意								
履修クラスはオリエンテーション時に実施した英語学習傾向試験の結果に基づき決定している。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修 毎回、指定されたチャプターを読んでおく。 事後学修 語彙など新たに学んだことを整理し、Moodle 上での小テストにて理解の度合いを確認し、間違えた箇所は復習して再受験する。								
評価方法（評価基準を含む）								
テスト 40%、平常点（授業参加） 60%として総合的に評価する。								
教科書								
『アメリカ文学から英語を学ぼうⅢ』（英宝社）								
参考書、教材等								
授業内で紹介する。								

授業科目	英語 I				実務 家 教 員	—	担 当 教 員	大橋 由紀子
科目英名	English I							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
この授業では、基本的な文法、構文、語彙等の知識を応用し、それらを用いた英文を正確に読み、使えるようになることを目標とし、自ら英文で内容を説明できるようになることを目的とする。 1. 英文の中で頻出する英文法や語彙・表現を解説し、英文が理解できるようになる。 2. 英文の効果的な読み方を修得し、速読が可能となる。								
講義概要「英語 I E」								
英文を効果的に読み、読解力を養うため、第 1 回、2 回目で文章の構成を学ぶ。第 3 回目から 14 回目までリスニング、リーディングにて毎回練習をおこなう。第 4 回目、第 10 回目で学んだ構文を使用したディスカッションを行う。第 8 回目、第 12 回目のグループワークにて、学んだ知識を応用した活動を行い、発表する。第 14 回目、15 回目は授業のまとめを行う。								
授業計画								
1 ガイダンス（後期授業について、および前期の復習） 2 文章の構成 1（英文構成の種類を紹介し、読み方を理解する。） 3 Literature and Culture on Animals 1（リスニング、リーディング、語彙と文法） 4 Literature and Culture on Animals 2（ディスカッション、問題演習） 5 Pet Keeping 1（リスニング、リーディング、語彙と文法） 6 Pet Keeping 2（ペアワーク、問題演習） 7 Animal Behavior 1（リスニング、リーディング、語彙と文法） 8 Animal Behavior 2（グループワーク、発表） 9 Animal Nursing 1（リスニング、リーディング、語彙と文法） 10 Animal Nursing 2（ディスカッション、問題演習） 11 News on Animals（ペアワーク、問題演習） 12 News on Animals（グループワーク、発表） 13 Animal Science and Studies（リスニング、リーディング、語彙と文法） 14 全内容までの総復習、構文、表現に関する小テストおよび解説 15 復習試験								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題は次の回に解説を行う。								
履修上の注意								
授業での活動には積極的に取り組むこと。初回に授業に対する姿勢、確認テスト等の成績評価について説明する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学修として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
試験（50%）、課題（30%）、発言など授業への参加度（20%）から総合的に評価する。								
教科書								
指定なし。								
参考書、教材等								
教場で指導する。								

授業科目	英語 I				実務 家教員	—	担当 教員	島森 尚子
科目英名	English I							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
英語 I では、英語を聞き、読み、さらに書き、話すための基礎的な統語の知識と実用的な語彙を身につけることによって英語の 4 技能をレベルアップし、グローバル化社会を見据えて、大学教養英語の基礎を確立する。								
英語 IF では、大学で必要とされる英語の運用能力を身につけるために基礎知識の修得を図り、さらに、英語独特の発想や表現を身につけ、アクティブな語学力を得ることを目標とする。								
講義概要「英語 IF」								
文法や構文を復習しながら読解と作文の力を身につけられるよう、主として動物や環境に関する BBC のオンライン教材等を用いて、シャドーイングでリスニング力をつけ、語彙力を増強して読解力をつけ、さらにグループワークで発信力を高める。授業終了後、Moodle で Quiz を受け、知識を定着させる。								
授業計画								
1 ガイダンス、演習問題と解説								
2 Article on animals 1 内容理解、問題演習、シャドーイング								
3 Article on animals 2 内容理解、問題演習、シャドーイング								
4 Article on animals 3 内容理解、問題演習、シャドーイング								
5 Article on animals 4 内容理解、問題演習、シャドーイング								
6 Article on animal conservation 1 内容理解、問題演習、シャドーイング								
7 Article on animal conservation 2 内容理解、問題演習、シャドーイング								
8 Article on animal conservation 3 内容理解、問題演習、シャドーイング								
9 Article on animal conservation 4 内容理解、問題演習、シャドーイング								
10 Article on globalisation 1 内容理解、問題演習、シャドーイング								
11 Article on globalisation 2 内容理解、問題演習、シャドーイング								
12 Article on globalisation 3 内容理解、問題演習、シャドーイング								
13 Article on Animal Welfare 1 内容理解、問題演習、シャドーイング								
14 Article on Animal Welfare 2 内容理解、問題演習、シャドーイング								
15 復習、問題演習								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業内容を復習した後、Moodle 上に設定した Quiz を受ける。受け終えた後解説を読み、不明点は Moodle または教室で質問する。								
履修上の注意								
履修クラスは入学後に実施した英語学習傾向試験の結果に基づいて決定されている。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
次の授業内容は Moodle に提示するので、予習する。毎回、その日に学んだ内容を復習し Quiz を受ける。								
評価方法（評価基準を含む）								
平常点（授業参加等）30%、Quiz70%として総合的に評価する。								
教科書								
BBC Learning English, Britannica Kids 等のオンライン教材を用いる。毎回 Moodle にて配布する。								
参考書、教材等								
教場・Moodle 上にて指示する。								

授業科目	英語Ⅱ				実務 家教員	—	担当 教員	島森 尚子
科目英名	EnglishⅡ							
開講期間	1 年次 後期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育〔言語・情報・スポーツ〕		
到達目標								
英語Ⅰで学んだ知識を発展させてより複雑な英文を理解する力を養い、さらに実用的な英作文や会話ができるようになる。 IIAでは、とくに発信型の学修に重点を置き、クラス内での英語での意見交換や、日常的なメールのやりとりができることを目標とする。								
講義概要「英語ⅡA」								
英語ⅠAで学んだ知識や技能を基に、読解で語彙を増やしつつ、発話や作文の演習をすることで発信型の語彙力と表現力を身につける。さらに、オンラインのビデオや音声教材を聞いた上でグループワークを行ない、英語で意見交換をする。授業を受けた後、MoodleでQuizを受け、知識を定着させる。								
授業計画								
1 ガイダンス、前期の復習と問題演習 2 動詞の相：進行相と完了相 解説と問題演習、リスニング 3 態：受動態と能動態 解説と問題演習、リスニング 4 接続詞1 等位接続詞 解説と問題演習、リスニング 5 接続詞2 従属接続詞 解説と問題演習、リスニング 6 語彙と表現の修得、ライティングとグループワーク 7 関係詞1 解説と問題演習、リスニング 8 関係詞2 解説と問題演習、リスニング 9 比較の表現 解説と問題演習、リスニング 10 法：直説法と仮定法 解説と問題演習、リスニング 11 ライティングとグループワーク 12 準動詞1 動名詞 解説と問題演習、リスニング 13 準動詞2 不定詞 解説と問題演習、リスニング 14 準動詞3 分詞 解説と問題演習、リスニング 15 復習試験と解説								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
MoodleでQuizを終えた後、解説を読む。必要に応じてMoodleまたは教室で質問する。								
履修上の注意								
前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
授業内容はMoodleにて提示するので教材に目を通し、リスニングを中心に予習しておく。リスニングと発音の復習としてシャドウイングを自宅で行う。毎回の授業内容は復習し、Quizを受ける。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度 20%、Quiz 80%として総合的に評価する。								
教科書								
BBC Learning English, Britannica Kidsなどのオンライン教材を用いる。URL等は毎回Moodleにて指示する。								
参考書、教材等								
教場・Moodleにて指示、あるいは配布する。								

授業科目	英語Ⅱ				実務家教員	—	担当教員	大橋 由紀子
科目英名	EnglishⅡ							
開講期間	1 年次 後期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育〔言語・情報・スポーツ〕		
到達目標								
この授業では、大学教養レベルの英文法の総復習を行い、英語Ⅰで身につけた文法・語彙・読解力の知識や実力を基に、実践的な語学力を養うことを目的とする。文法力を応用した発信型の語彙力と表現力を身につけることを目指す。 1. コミュニカティブな英語を運用するための基礎知識を学び、簡単な会話ができるようになる。 2. 英文読解に必要な基本的な構文の解説を行い、身近な内容について英語で書くことができる。								
講義概要「英語ⅡB」								
第1回目で英語Ⅰで学んだ内容を復習し、2回目以降は文法を学び、学んだ文法を使用した英文記事を読み、理解する。具体的には2回目、6回目、10回目で文法を解説し、3回目、4回目、7回目、8回目、11回目、12回目で学習した文法を含む記事をリスニング、リーディング形式で学ぶ。14回目のグループワークにて、学んだ項目を応用した活動に取り組み、15回目で授業のまとめをおこなう。								
授業計画								
1 ガイダンス（後期授業について、および前期の復習） 2 時制（文法解説と問題演習、ペアワーク） 3 Animal Nursing 1（リスニング、リーディング、語彙と文法） 4 Animal Nursing 2（ディスカッション、問題演習） 5 時制について小テストと解説 6 前置詞（文法解説と問題演習、ペアワーク） 7 News on Animals 1（リスニング、リーディング、語彙と文法） 8 News on Animals 2（グループワーク、問題演習） 9 前置詞について小テストと解説 10 不定詞（文法解説と問題演習、ペアワーク） 11 Animal Science and Studies 1（リスニング、リーディング、語彙と文法） 12 Animal Science and Studies 2（グループワーク、問題演習） 13 不定詞について小テストと解説 14 英文記事について、グループワークと発表 15 総復習（テストと解説）								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題は次の回に解説を行う。								
履修上の注意								
授業での活動には積極的に取り組むこと。初回に授業に対する姿勢、確認テスト等の成績評価について説明する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学修として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
試験（50%）、課題（30%）、発言など授業への参加度（20%）から総合的に評価する。								
教科書								
『シンプルセンテンスで学ぶ基本英文法』 Simply Grammar 南雲堂								
参考書、教材等								
教場で指導する。								

授業科目	英語Ⅱ				実務 家 教 員	—	担 当 教 員	島森 尚子
科目英名	EnglishⅡ							
開講期間	1 年次 後期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育〔言語・情報・スポーツ〕		
到達目標								
英語Ⅰで学んだ知識を発展させてより複雑な英文を理解する力を養い、さらに実用的な英作文や会話ができるようになる。 英語ⅡCでは、動物に関するトピックを扱った時事的な英文を読み、変化する人間と動物の関係を大きな視野で捉え、グローバル化する社会で活躍するための英語運用能力、および自らの意見を述べるための基礎知識や教養を身につけることを到達目標とする。								
講義概要「英語ⅡC」								
実践的な語学力を養うために、リスニング、ディクテーション、ライティングおよびグループワークを適宜行い、アクティブな英語力を高める。授業ではオンライン教材を用い、常に最新の情報と語彙を学ぶが、できるだけ動物に関係のある記事を選んでゆく。								
授業計画								
1 ガイダンス Article on Nature 2 Article on Animal: 読解とリスニング、グループワーク 3 Article on Science: 読解とリスニング、グループワーク 4 Article on Nature: 読解とリスニング、グループワーク 5 Article on Animals: 読解とリスニング、グループワーク 6 Article on Science: 読解とリスニング、グループワーク 7 Article on Nature: 読解とリスニング、グループワーク 8 Article on Animals: 読解とリスニング、グループワーク 9 Article on Science: 読解とライティング、グループワーク 10 Article on Nature: 読解とライティング、グループワーク 11 Article on Animals: 読解とライティング、グループワーク 12 Article on Science: 読解とライティング、グループワーク 13 Article on Nature: 読解とライティング、グループワーク 14 Article on Animals: 読解とライティング、グループワーク 15 Review								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
毎回の復習用に Moodle 上にてオンラインで小テストを受験する。受講後すぐにオンラインで正解と解説がフィードバックされるようになっている。								
履修上の注意								
前期の成績に応じてクラスを変更する場合がある。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修 Moodle 上に設定した毎回の課題を下読みしておく。 事後学修 授業の復習を各自行った後で小テストを受験し、間違った箇所はさらに復習して再受験する。								
評価方法（評価基準を含む）								
小テスト 60%、Review20%、平常点 20%とし、総合的に評価する。								
教科書								
BBC Learning English, Britannica Kids 等のオンライン教材を用いる。URLは Moodle にて毎回提示する。								
参考書、教材等								
授業内で紹介する。また、毎回必ず辞書（紙のものでも電子辞書でも可）を持参すること。								

授業科目	英語Ⅱ				実務家教員	—	担当教員	大橋 由紀子
科目英名	EnglishⅡ							
開講期間	1 年次 後期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
この授業では前期に学んだ文法事項に基づき、実践的な語学力を養うことを目的とする。動物看護や野生動物等、あらゆる動物関連の記事の多読と速読を通して動物関連の英語表現を学ぶ。 1. 多読にて動物関連の英文記事に慣れ、速読が可能になる。 2. 精読にて、英語表現を学び、読解力・応用力を養成して自ら文章化できるようになる。								
講義概要「英語ⅡD」								
第 1 回目から第 4 回目までに、精読、速読、多読にて英文を読む方法を学び、第 5 回目から実践する。具体的には 6 回目から 8 回目に精読にて英文を読み、語彙や表現を含めて内容を深く理解するための英語構文を解説にて学ぶ。第 9 回目に精読のまとめを行い、第 10 回目から 14 回目までで速読を実践する。第 15 回目は授業のまとめを行う。								
授業計画								
1 ガイダンス 2 精読と速読 1 (wild animals 1) 3 精読と速読 2 (wild animals 2) 4 多読と速読 (wild animals 3) 5 Review1 (Review quiz 1) 6 英文記事の理解 1 (精読、mini quiz) 7 英文記事の理解 2 (精読、mini quiz) 8 英文記事の理解 3 (精読、mini quiz) 9 Review2 (Review quiz 2) 10 Reading Scientific Journal 1 (速読、グループワーク) 11 Reading Scientific Journal 2 (速読、ディスカッション、発表) 12 Reading Scientific Journal 3 (速読、グループワーク) 13 Reading Scientific Journal 4 (速読、ディスカッション、発表) 14 Reading Scientific Journal 5 (速読総合) 15 Review3 (Review quiz 3)								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題は次の回に解説を行う。								
履修上の注意								
授業での活動には積極的に取り組むこと。初回に授業に対する姿勢、確認テスト等の成績評価について説明する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学修として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
試験（50%）、課題（30%）、発言など授業への参加度（20%）から総合的に評価する。								
教科書								
指定なし。								
参考書、教材等								
教場で指導する。								

授業科目	英語Ⅱ				実務 家 教 員	—	担 当 教 員	大橋 由紀子
科目英名	EnglishⅡ							
開講期間	1 年次 後期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育〔言語・情報・スポーツ〕		
到達目標								
この授業では前期に学んだ文法事項に基づき、実践的な語学力を養うことを目的とする。動物看護や野生動物等、あらゆる動物関連の記事の多読と速読を通して動物関連の英語表現を学ぶ。 1. 多読にて動物関連の英文記事に慣れ、速読が可能になる。 2. 精読にて、英語表現を学び、読解力・応用力を養成して自ら文章化できるようになる。								
講義概要「英語ⅡE」								
第1回目から第4回目までに、精読、速読、多読にて英文を読む方法を学び、第5回目から実践する。具体的には6回目から8回目に精読にて英文を読み、語彙や表現を含めて内容を深く理解するための英語構文を解説にて学ぶ。第9回目に精読のまとめを行い、第10回目から14回目までで速読を実践する。第15回目は授業のまとめを行う。								
授業計画								
1 ガイダンス 2 精読と速読 1 (wild animals 1) 3 精読と速読 2 (wild animals 2) 4 多読と速読 (wild animals 3) 5 Review1 (Review quiz 1) 6 英文記事の理解 1 (精読、mini quiz) 7 英文記事の理解 2 (精読、mini quiz) 8 英文記事の理解 3 (精読、mini quiz) 9 Review2 (Review quiz 2) 10 Reading Scientific Journal 1 (速読、グループワーク) 11 Reading Scientific Journal 2 (速読、ディスカッション、発表) 12 Reading Scientific Journal 3 (速読、グループワーク) 13 Reading Scientific Journal 4 (速読、ディスカッション、発表) 14 Reading Scientific Journal 5 (速読総合) 15 Review3 (Review quiz 3)								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題は次の回に解説を行う。								
履修上の注意								
授業での活動には積極的に取り組むこと。初回に授業に対する姿勢、確認テスト等の成績評価について説明する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学修として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
試験（50%）、課題（30%）、発言など授業への参加度（20%）から総合的に評価する。								
教科書								
指定なし。								
参考書、教材等								
教場で指導する。								

授業科目	英語Ⅱ				実務家教員	—	担当教員	島森 尚子
科目英名	English II							
開講期間	1 年次 後期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
英語Ⅰで学んだ知識を発展させてより複雑な英文を理解する力を養い、さらに実用的な英作文や会話ができるようになる。								
英語ⅡFでは、動物に関するトピカルな語彙や表現を修得し、実用に足る読解力と発信力とを身につけることを目標とする。								
講義概要「英語ⅡF」								
オンラインの語学教材の他に、動物や動物看護に関する様々なオンライン記事など、実際に使われている英文を読む。その後、読解で得た知識に基づいてディスカッションし、英文を書くといったアクティビティを行う。授業を受けた後、MoodleでQuizを受け、知識を定着させる。								
授業計画								
1 ガイダンス、問題演習								
2 Literature on animals 1 リスニング、リーディング、ペアワーク								
3 Literature on animals 2 リスニング、リーディング、ペアワーク								
4 Literature on animals 3 リスニング、リーディング、ペアワーク								
5 Article on Pet Animals 1 リスニング、リーディング、ペアワーク								
6 Article on Pet Animals 2 リスニング、リーディング、ペアワーク								
7 Article on Zoology 1 リスニング、リーディング、ペアワーク								
8 Article on Zoology 2 リスニング、リーディング、ペアワーク								
9 Article on Animal Behaviour 1 リスニング、リーディング、ペアワーク								
10 Article on Animal Behaviour 2 リスニング、リーディング、ペアワーク								
11 Article on Animal Health 1 リスニング、リーディング、ペアワーク								
12 Article on Animal Health 2 リスニング、リーディング、ペアワーク								
13 Article on Animal Welfare リスニング、リーディング、ペアワーク								
14 ライティングとディスカッション								
15 ライティングとディスカッション								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
毎回の復習用に Moodle 上にてオンラインで小テストを受験する。受講後すぐにオンラインで正解と解説がフィードバックされるようになっている。また、Moodle 上で、あるいは教室で、質問は常に歓迎される。								
履修上の注意								
前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
予習として、配信された教材の下調べを、辞書や図鑑等の資料を用いておこない、不明な点は授業中に解決できるようにする。授業で得た知識はその日のうちに復習して身につけ、Moodle 上に設定した Quiz を受ける。リスニング・シャドーイングの練習は自宅で欠かさず行う。								
評価方法（評価基準を含む）								
平常点（授業中のアクティビティ参加）40%、試験 60%として総合的に評価する。								
教科書								
BBC Learning English, Britannica Kids などのオンライン教材を用いる。URL は Moodle にて毎回提示する。								
参考書、教材等								
必要に応じ、教室または Moodle にて配布する。								

授業科目	英語Ⅲ				実務家教員	—	担当教員	植月 恵一郎
科目英名	English Ⅲ							
開講期間	2 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育〔言語・情報・スポーツ〕		
到達目標								
「文法が骨、語彙が血肉」であることを理解し、語彙力を増強し精確な文法を把握する。parsing（文の分析・解剖）を徹底する。語学の4技能「読み、書き、聞く、話す」全般の基本を復習する。語学辞書のみならず、英語辞書の参照力を磨く。将来専門的な英文を読んだり、書いたりする際の基礎・基盤を形成する。TOEIC 換算で 400 点近傍を目標とする。								
講義概要「英語ⅢA」								
統語や語法に関する演習、およびペアワークを取り入れた言語活動を中心に授業を行う。言語活動を行うために必要な大学レベルの文法事項を復習し、実践的な語学力を修得することを目指す。A・B では主に動物に関する教材を使用し、アクティビティーを通してリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能を強化するための訓練を行う。C・D では実用的な英語の運用能力向上を目指して、専門的な語彙の習得とそれに基づく多読のアクティビティーを主として行う。E・F ではより高度な語彙の修得を図り、正確かつ早い読解の技法を学ぶ。								
授業計画								
1 前期ガイダンス：英語学修心得と作者 Roald Dahl の紹介 2 “The Butler”の主人公の出自、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 3 “The Butler”のワイン文化、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 4 “The Butler”の irony、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 5 “The Hitch-hiker”の hitch-hiking の慣習、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 6 “The Hitch-hiker”の車文化、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 7 “The Hitch-hiker”の初対面の人との会話、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 8 “The Hitch-hiker”の競馬文化、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 9 “The Hitch-hiker”の警察と主人公の会話、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 10 “The Hitch-hiker”の irony、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 11 “The Hitch-hiker”の犯罪とその対応、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 12 “The Sound Machine”の発明、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 13 “The Sound Machine”の「聴覚」、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 14 応用： <i>Peter Rabbit</i> , <i>Doctor Dolittle</i> , <i>Winnie-the-Pooh</i> 等〈動物文学〉の作品を読む 15 総復習と期末試験								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験・小テストなど正解が一つに決まるものの場合は、終了後その正解に至る過程を懇切丁寧に解説する。レポート等に関しては、正解例を示し、上位のレポートを紹介し、総評を述べ、そのテーマに対して理解を深める。								
履修上の注意								
前年度の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件を満たした者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。事前・事後の学修は必須である。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「次回の授業範囲を予習し、未見の語彙の意味等を調べておくこと。」 事後学修「毎授業後、文法事項を確認し、語彙については綴り、意味、発音の三位一体で正確に記憶する。」								
評価方法（評価基準を含む）								
試験（小テストを含む）50%、平常点（発表、提出物、授業参加度等）50%として総合的に評価する。								
教科書								
Roald Dahl. <i>The Hitch-hiker and Other Tales</i> . Yumi Press, 1988. (ISBN: 9784803411218)、および当該週の <i>The Japan Times Alpha</i> .（前者は各自で購入する、本体 1,200 円、後者の新聞記事はこちらで用意する）								
参考書、教材等								
初回授業時、および必要な場合随時指示する。								

授業科目	英語Ⅲ				実務家教員	—	担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English Ⅲ							
開講期間	2 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
この授業では英文を読み、読解に必要な英文法、および単語を解説しながら、文構造を理解することを目標とする。最終的には文献を一人で読み進めることができるよう、自ら考え、修得した知識から応用力をつけることを目指す。 1. 統語や語法に関する演習、およびリスニング・リーディングのインプットを通して英文内容を理解できる。 2. 主に動物に関する教材を使用したアクティビティーを通して、ライティング・スピーキングによるアウトプットが可能になる。								
講義概要「英語ⅢB」								
第 1 回目は英語Ⅰ，Ⅱで学んだ内容を復習する。第 2 回目から 14 回目までは、リスニング、リーディング（インプット）の後スピーキング、ライティングにて学んだ内容をアウトプットする。具体的には 2 回目、3 回目、6 回目、7 回目、11 回目、13 回目ではリスニング後、英文読解、構文解説のインプットとなり、4 回目、5 回目、8 回目、9 回目、12 回目、13 回目は学んだ内容を基にスピーキング、ライティングを行うアウトプットとする。10 回目、15 回目で小テストを行い、内容理解を確認する。								
授業計画								
1 ガイダンス（後期授業について、および前期の復習） 2 ‘Professional appearance of AHT’ を読み内容を理解する 3 ‘Common procedures of AHT’ に関する内容を読む 4 ‘Common procedures of AHT’ に関する内容を読み、ペアワークを行う 5 ‘Common procedures of AHT’ に関する内容を読み、ディスカッション 6 Review 1（前回までの内容の復習、小テスト、および解説） 7 ‘Occupational Safety and Health’ に関する内容を読む 8 ‘Occupational Safety and Health’ に関する内容を読み、ペアワークを行う 9 ‘Occupational Safety and Health’ に関する内容を読み、ディスカッション 10 Review 2（前回までの内容の復習、小テスト、および解説） 11 英文解釈 1 一般的な内容の記事を読み、英文の構造を解説する 12 英文解釈 2 記事を読み、内容を解説する（ディスカッションを含む） 13 最新の英文記事 1 最新の動物に関する記事を英文で読み、内容を理解する 14 最新の英文記事 2 最新の動物に関する記事を英文で読み、グループワークを行う 15 総復習（小テスト、解説）								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題は次の回に解説を行う。								
履修上の注意								
授業での活動には積極的に取り組むこと。初回に授業に対する姿勢、確認テスト等の成績評価について説明する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学修として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
試験（50%）、課題（30%）、発言など授業への参加度（20%）から総合的に評価する。								
教科書								
指定なし。								
参考書、教材等								
教場で指導する。								

授業科目	英語Ⅲ				実務 家教員	—	担当 教員	阿部 敬子
科目英名	EnglishⅢ							
開講期間	2 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育〔言語・情報・スポーツ〕		
到達目標								
1 年次に学んだ知識を基にして、より実用的な英語運用能力を習得する。 1. 動物に関する新聞記事を読んで理解出来るようになる。 2. 英文理解に必要な文法について学ぶ。 3. 動物に関する新聞記事読解に必要な語彙を学ぶ。 4. 動物に関する映像を理解出来るリスニング力を身に付ける。								
講義概要「英語ⅢC」								
本授業では毎回、動物に関する新聞記事を読む。また、英文を読むのに必要な文法事項についても学ぶ。授業の最後には、動物に関する映像を見てリスニングも行う。毎回、前の週に学習した新聞記事と文法に関する小テストを行う。また、第8回と第15回に復習試験を実施する。								
授業計画								
1 Introduction ガイダンス・リスニング 2 Animals in the City 1 精読・リスニング 3 Animals in the City 2 小テスト・精読・リスニング 4 Animals in the City 3 小テスト・精読・リスニング 5 Dogs' Noses 1 小テスト・精読・リスニング 6 Dogs' Noses 2 小テスト・精読・リスニング 7 現在完了 小テスト・文法問題・リスニング 8 Review 1 復習試験・解説 9 Bird Roaming 1 精読・リスニング 10 Bird Roaming 2 小テスト・精読・リスニング 11 Bird Roaming 3 小テスト・精読・リスニング 12 Marine Creatures 1 小テスト・精読・リスニング 13 Marine Creatures 2 小テスト・精読・リスニング 14 接続詞 小テスト・文法問題・リスニング 15 Review 2 復習試験・解説								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小テスト及び復習試験実施後、教場で解説を行う。								
履修上の注意								
1 年次の成績に応じてクラス変更が生じる場合があるため、ガイダンスには必ず出席する事。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：次回の授業内容は教場で指示するので、予習する事。 事後学修：小テスト及び復習試験に向けて、授業で学習した内容を復習する事。								
評価方法（評価基準を含む）								
平常点（小テスト、授業への参加度等）：60% 復習試験：40%								
教科書								
使用しない。								
参考書、教材等								
適宜、印刷教材や視聴覚教材を使用する。英和辞典を持参する事。								

授業科目	英語Ⅲ				実務 家教員	—	担当 教員	阿部 敬子
科目英名	EnglishⅢ							
開講期間	2 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
1 年次に学んだ知識を基にして、より実用的な英語運用能力を習得する。 1. 動物に関する新聞記事を読んで理解出来るようになる。 2. 英文理解に必要な文法について学ぶ。 3. 動物に関する新聞記事読解に必要な語彙を学ぶ。 4. 動物に関する映像を理解出来るリスニング力を身に付ける。								
講義概要「英語ⅢD」								
本授業では毎回、動物に関する新聞記事を読む。また、英文を読むのに必要な文法事項についても学ぶ。授業の最後には、動物に関する映像を見てリスニングも行う。毎回、前の週に学習した新聞記事と文法に関する小テストを行う。また、第8回と第15回に復習試験を実施する。								
授業計画								
1 Introduction ガイダンス・リスニング 2 Animals in the City 1 精読・リスニング 3 Animals in the City 2 小テスト・精読・リスニング 4 Animals in the City 3 小テスト・精読・リスニング 5 Dogs' Noses 1 小テスト・精読・リスニング 6 Dogs' Noses 2 小テスト・精読・リスニング 7 現在完了 小テスト・文法問題・リスニング 8 Review 1 復習試験・解説 9 Bird Roaming 1 精読・リスニング 10 Bird Roaming 2 小テスト・精読・リスニング 11 Bird Roaming 3 小テスト・精読・リスニング 12 Marine Creatures 1 小テスト・精読・リスニング 13 Marine Creatures 2 小テスト・精読・リスニング 14 接続詞 小テスト・文法問題・リスニング 15 Review 2 復習試験・解説								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小テスト及び復習試験実施後、教場で解説を行う。								
履修上の注意								
1 年次の成績に応じてクラス変更が生じる場合があるため、ガイダンスには必ず出席する事。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：次回の授業内容は教場で指示するので、予習する事。 事後学修：小テスト及び復習試験に向けて、授業で学習した内容を復習する事。								
評価方法（評価基準を含む）								
平常点（小テスト、授業への参加度等）：60% 復習試験：40%								
教科書								
使用しない。								
参考書、教材等								
適宜、印刷教材や視聴覚教材を使用する。英和辞典を持参する事。								

授業科目	英語Ⅲ				実務家教員	—	担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English III							
開講期間	2 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育〔言語・情報・スポーツ〕		
到達目標								
この授業では、英文読解を中心に構文や文法の解説を行い、動物に関する記事を英語で理解し、コミュニケーションな英語を運用するための基礎知識を身につける。さらに、動物に関するトピックを学び、関連語彙および表現を修得することを目標とする。 1. 専門的な語彙の習得と多読のアクティビティーをとおして英文を理解できるようになる。 2. リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの 4 技能を強化するための訓練を行い、英語で実用的な意思疎通ができる。								
講義概要「英語ⅢE」								
第 1 回目では英語 I II の復習を行い、テキストの使用方法を、予習復習の方法を伝え、実践する。第 2 回目から 7 回目、および 9 回目から 14 回目までにテキスト付属の DVD にて視覚的な理解とともにリスニング、リーディングによるインプットから、ライティング・スピーキングのアウトプットを行うことを一連の流れとし、学んだ内容をコミュニケーションに繋げるべく、訓練していく。第 8 回目、第 15 回目で内容理解度確認テストを行った後、解説する。								
授業計画								
1 ガイダンス後、テキストの introduction を読む 2 ‘A real winner’ part 1（読解後、内容確認等解説） 3 ‘A real winner’ part 2（読解後、内容確認等解説後、グループワーク） 4 Dog sled races に関する関連記事を読み、内容確認後、基本構文、表現を学ぶ 5 ‘Zoo dentists’ part 1（読解後、内容確認等解説） 6 ‘Zoo dentists’ part 2（読解後、内容確認等解説後、グループワーク） 7 Zoo keeper, zoo dentist に関する記事を読み、ディスカッション、発表を行う 8 全内容までの総復習、構文、表現に関する小テストおよび解説 9 ‘Solar Cooking’ part 1（読解後、内容確認等解説） 10 Solar Cooking’ part 2（読解後、内容確認等解説後、グループワーク） 11 Solar power に関する記事を読み、ディスカッション、発表を行う 12 ‘Bird Girl’ part 1（読解、解説後、） 13 ‘Bird Girl’ part 2（読解、内容確認等解説後、グループワーク） 14 Bird Girl に関連する記事を読み、ディスカッション、発表を行う 15 復習試験								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題は次の回に解説を行う。								
履修上の注意								
授業での活動には積極的に取り組むこと。初回に授業に対する姿勢、確認テスト等の成績評価について説明する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学修として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
試験（50%）、課題（30%）、発言など授業への参加度（20%）から総合的に評価する。								
教科書								
Snapshots from the Globe (CENGAGE Learning)								
参考書、教材等								
教場で指導する。								

授業科目	英語Ⅲ				実務家 教員	—	担当 教員	植月 恵一郎
科目英名	English Ⅲ							
開講期間	2 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
より高度な英語運用力を身に着ける。とくに英文読解力向上を目指す。「文法が骨、語彙が血肉」であることを理解し、語彙力を増強し精確な文法を把握する。parsing（文の分析・解剖）を徹底する。語学辞書のみならず、英語辞典の参照力を磨く。将来専門的な英文を読んだり、書いたりする際の基礎・基盤を形成する。TOEIC 換算で 600 点近傍を目標とする。								
講義概要「英語ⅢF」								
統語や語法に関する演習、およびペアワークを取り入れた言語活動を中心に授業を行う。言語活動を行うために必要な大学レベルの文法事項を復習し、実践的な語学力を修得することを目指す。A・B では主に動物に関する教材を使用し、アクティビティーを通してリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの 4 技能を強化するための訓練を行う。C・D では実用的な英語の運用能力向上を目指して、専門的な語彙の習得とそれに基づく多読のアクティビティーを主として行う。E・F ではより高度な語彙の修得を図り、正確かつ早い読解の技法を学ぶ。								
授業計画								
1 前期ガイダンス：英語の読み方を理解する 2 <i>Children on Their Birthdays</i> の誕生日の祝い方についてと <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 3 <i>Children on Their Birthdays</i> の人物描写の伝達の仕方と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 4 <i>Children on Their Birthdays</i> の初対面の人との会話と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 5 <i>Children on Their Birthdays</i> の親戚縁者の紹介の仕方と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 6 <i>Children on Their Birthdays</i> の少年たちの描写と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 7 <i>Children on Their Birthdays</i> の supper と dinner の違いと <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 8 <i>Children on Their Birthdays</i> の親子喧嘩の描写と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 9 <i>Children on Their Birthdays</i> の嗅覚や味覚に関する表現と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 10 <i>Children on Their Birthdays</i> の薔薇の栽培と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 11 <i>Children on Their Birthdays</i> の“reading a Webster’s dictionary”と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 12 <i>Children on Their Birthdays</i> の Black Lives Matter と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 13 <i>Children on Their Birthdays</i> の白人と黒人の関係と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 14 応用練習：動物ファンタジー『ドリトル先生』（ <i>Doctor Dolittle</i> ）を読む 15 総復習および期末試験と解説								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験・小テスト等は、正解に至る過程を懇切丁寧に解説する。レポート等については、解答例を示し、上位のレポートを紹介するなどして総評を行う。								
履修上の注意								
前年度の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件を満たした者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。事前・事後の学修は必須である。授業へは積極的に参加しなければならない。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「次回の授業範囲を予習し、未知の語彙の意味等を理解しておくこと。」 事後学修「新出語彙に関しては、綴り・意味・発音の三位一体を正確に記憶すること。練習問題では誤答箇所について再度解答を試みること。」								
評価方法（評価基準を含む）								
平常点（毎回授業時の発表等）5 0 %、試験（小テスト等含む）5 0 %として総合的に評価する。								
教科書								
Truman Capote. “ <i>Children on Their Birthdays</i> ”: <i>Reading a Truman Capote Short Story</i> . Karen McGee 他編注（Tsurumi Shoten, 2023）, ISBN978-4-7553-0057-8、本体 2,000 円（税別）および当該週の <i>The Japan Times Alpha</i> . 前者は各自購入し、後者の新聞記事はこちらで準備する。								
参考書、教材等								
授業初回時、および随時指示する。								

授業科目	英語Ⅳ				実務家教員	—	担当教員	植月 恵一郎
科目英名	English IV							
開講期間	2 年次 後期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育〔言語・情報・スポーツ〕		
到達目標								
「文法が骨、語彙が血肉」であることを理解し、語彙力を増強し精確な文法を把握する。parsing（文の分析・解剖）を徹底する。語学の4技能「読み、書き、聞く、話す」全般の基本を復習する。語学辞書のみならず、英語事典の参照力を磨く。将来専門的な英文を読んだり、書いたりする際の基礎・基盤を形成する。TOEIC 換算で 400 点近傍を目標とする。								
講義概要「英語ⅣA」								
大学の教養教育における英語学修の総仕上げとして、語彙、統語論、英語表現等のインプットを行い、アウトプットに繋がる演習を通じて発展的な技能の修得を目指す。A・B では自分の意見を英語で発表するための実用的な英語運用能力を身につける。C・D では英語運用能力の向上を目指して4技能のレベルアップを図る。E・F ではインプットとして専門的な動物関連の文献を用いて文章構成や構文を学修し、英語での表現能力を向上させるためのアウトプットに応用する。								
授業計画								
1 後期ガイダンス：英語学修心得の確認 2 “The Sound Machine”の「音」の理論説明、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 3 “The Sound Machine”の植物と音、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 4 “The Sound Machine”の ecology、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 5 “The Sound Machine”の医者役割、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 6 “Mr. Botibol”の restaurant での会話、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 7 “Mr. Botibol”の主人公の外面の描写、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 8 “Mr. Botibol”の主人公の内面の描写、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 9 “Mr. Botibol”における「音楽」、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 10 “Mr. Botibol”の楽器店での会話、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 11 “Mr. Botibol”の音楽趣味、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 12 “Mr. Botibol”の true / false、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 13 “Mr. Botibol”の irony、および <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 14 応用： <i>Peter Rabbit</i> , <i>Doctor Dolittle</i> , <i>Winnie-the-Pooh</i> 等〈動物文学〉の作品を読む 15 総復習と期末試験								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験・小テストなど正解が一つに決まるものの場合は、終了後その正解に至る過程を懇切丁寧に解説する。レポート等に関しては、正解例を示し、上位のレポートを紹介し、総評を述べ、そのテーマに対して理解を深める。								
履修上の注意								
前年度の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件を満たした者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。事前・事後の学修は必須である。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「次回の授業範囲を予習し、未見の語彙の意味等を調べておくこと。」 事後学修「毎授業後、文法事項を確認し、語彙については綴り、意味、発音の三位一体で正確に記憶する。」								
評価方法（評価基準を含む）								
試験（小テストを含む） 50％、平常点（発表、提出物、授業参加度等） 50％として総合的に評価する。								
教科書								
Roald Dahl. <i>The Hitch-hiker and Other Tales</i> . Yumi Press, 1988. (ISBN: 9784803411218)、および当該週の <i>The Japan Times Alpha</i> .（前者は各自で購入する、本体 1,200 円、後者の新聞記事はこちらで用意する）								
参考書、教材等								
初回授業時、および必要な場合随時指示する。								

授業科目	英語Ⅳ				実務 家 教 員	—	担 当 教 員	大橋 由紀子
科目英名	English IV							
開講期間	2 年次 後期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育〔言語・情報・スポーツ〕		
到達目標								
この授業では、英語Ⅲで学んだ基本的な文法、語彙を応用し、それらを用いた英文を正確に読み、内容説明ができるようになることを目標とする。英文の中で頻出する英文法や単語の復習を行いながら、最終的には一人で英文内容のアウトプットができることが目標である。 1. アウトプットに繋がる語彙、英語表現を学び、コミュニケーションにて応用できる。 2. 専門的な動物関連の文献を用いて文章構成や構文を学修し、基本的な内容を英語で表現できる。								
講義概要「英語ⅣB」								
第 1 回目では英語Ⅲの復習を行い、現在までに学んだ統語論、文法、英語表現を確認する。第 2 回目から 7 回目、および 9 回目から 14 回目までにリスニング、リーディングによるインプットの訓練後、ライティング・スピーキングのアウトプットの流れで練習し、学んだ内容をコミュニケーションにて実践していく。第 9 回目、第 15 回目で内容理解度確認テストを行った後、解説する。								
授業計画								
1 ガイダンス（後期授業について、および前期の復習） 2 ‘Client communication’ に関する内容を読む 3 ‘Client communication’ に関する内容を読み、ペアワーク 4 ‘Client communication’ に関する内容を読み、ディスカッション 5 Review 1（前回までの内容の復習、小テスト、および解説） 6 ‘Veterinary Staff: Roles and Responsibility’ に関する内容を読む 7 ‘Veterinary Staff: Roles and Responsibility’ に関する内容を読み、ペアワーク 8 ‘Veterinary Staff: Roles and Responsibility’ に関する内容を読み、ディスカッション 9 Review 2（前回までの内容の復習、小テスト、および解説） 10 英文読解 1 英語で書かれた論文要旨を読み、解説する 11 英文読解 2 英語で書かれた論文要旨を読み、解説する（グループ活動を含む） 12 動物看護英語 1（語彙と表現の修得、ペアワーク、quiz 1） 13 動物看護英語 2（語彙と表現の修得、ペアワーク、quiz 2） 14 動物看護英語 3（ディスカッションおよびプレゼンテーション、quiz 3） 15 総復習とテスト								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題は次の回に解説を行う。								
履修上の注意								
授業での活動には積極的に取り組むこと。初回に授業に対する姿勢、確認テスト等の成績評価について説明する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学修として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
試験（50%）、課題（30%）、発言など授業への参加度（20%）から総合的に評価する。								
教科書								
指定なし。								
参考書、教材等								
教場で指導する。								

授業科目	英語Ⅳ				実務 家教員	—	担当 教員	阿部 敬子
科目英名	EnglishⅣ							
開講期間	2 年次 後期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
前期に学んだ知識を基にして、より実用的な英語運用能力を習得する。 1. 動物に関する新聞記事を読んで理解出来るようになる。 2. 英文理解に必要な文法について学ぶ。 3. 動物に関する新聞記事読解に必要な語彙を学ぶ。 4. 動物に関する映像を理解出来るリスニング力を身に付ける。								
講義概要「英語ⅣC」								
本授業では毎回、動物に関する新聞記事を読む。また、英文を読むのに必要な文法事項についても学ぶ。 授業の最後には、動物に関する映像を見てリスニングも行う。 毎回、前の週に学習した新聞記事と文法に関する小テストを行う。また、第8回と第15回に復習試験を実施する。								
授業計画								
1 Introduction ガイダンス・リスニング 2 Chimpanzees 1 精読・リスニング 3 Chimpanzees 2 小テスト・精読・リスニング 4 Chimpanzees 3 小テスト・精読・リスニング 5 Beetle Camera 1 小テスト・精読・リスニング 6 Beetle Camera 2 小テスト・精読・リスニング 7 関係詞 小テスト・文法問題・リスニング 8 Review 1 復習試験・解説 9 Dog Years 1 精読・リスニング 10 Dog Years 2 小テスト・精読・リスニング 11 Dog Years 3 小テスト・精読・リスニング 12 Conservation 1 小テスト・精読・リスニング 13 Conservation 2 小テスト・精読・リスニング 14 分詞構文 小テスト・文法問題・リスニング 15 Review 2 復習試験・解説								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小テスト及び復習試験実施後、教場で解説を行う。								
履修上の注意								
前期の成績に応じてクラス変更が生じる場合があるため、ガイダンスには必ず出席する事。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：次回の授業内容は教場で指示するので、予習する事。 事後学修：小テスト及び復習試験に向けて、授業で学習した内容を復習する事。								
評価方法（評価基準を含む）								
平常点（小テスト、授業への参加度等）：60% 復習試験：40%								
教科書								
使用しない。								
参考書、教材等								
適宜、印刷教材や視聴覚教材を使用する。英和辞典を持参する事。								

授業科目	英語Ⅳ				実務 家教員	—	担当 教員	阿部 敬子
科目英名	EnglishⅣ							
開講期間	2 年次 後期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
前期に学んだ知識を基にして、より実用的な英語運用能力を習得する。 1. 動物に関する新聞記事を読んで理解出来るようになる。 2. 英文理解に必要な文法について学ぶ。 3. 動物に関する新聞記事読解に必要な語彙を学ぶ。 4. 動物に関する映像を理解出来るリスニング力を身に付ける。								
講義概要「英語ⅣD」								
本授業では毎回、動物に関する新聞記事を読む。また、英文を読むのに必要な文法事項についても学ぶ。 授業の最後には、動物に関する映像を見てリスニングも行う。 毎回、前の週に学習した新聞記事と文法に関する小テストを行う。また、第 8 回と第 15 回に復習試験を実施する。								
授業計画								
1 Introduction ガイダンス・リスニング 2 Chimpanzees 1 精読・リスニング 3 Chimpanzees 2 小テスト・精読・リスニング 4 Chimpanzees 3 小テスト・精読・リスニング 5 Beetle Camera 1 小テスト・精読・リスニング 6 Beetle Camera 2 小テスト・精読・リスニング 7 関係詞 小テスト・文法問題・リスニング 8 Review 1 復習試験・解説 9 Dog Years 1 精読・リスニング 10 Dog Years 2 小テスト・精読・リスニング 11 Dog Years 3 小テスト・精読・リスニング 12 Conservation 1 小テスト・精読・リスニング 13 Conservation 2 小テスト・精読・リスニング 14 分詞構文 小テスト・文法問題・リスニング 15 Review 2 復習試験・解説								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小テスト及び復習試験実施後、教場で解説を行う。								
履修上の注意								
前期の成績に応じてクラス変更が生じる場合があるため、ガイダンスには必ず出席する事。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：次回の授業内容は教場で指示するので、予習する事。 事後学修：小テスト及び復習試験に向けて、授業で学習した内容を復習する事。								
評価方法（評価基準を含む）								
平常点（小テスト、授業への参加度等）：60% 復習試験：40%								
教科書								
使用しない。								
参考書、教材等								
適宜、印刷教材や視聴覚教材を使用する。英和辞典を持参する事。								

授業科目	英語Ⅳ				実務家教員	—	担当教員	大橋 由紀子
科目英名	EnglishⅣ							
開講期間	2 年次 後期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
この授業では、インプットとして与えられた英語知識を応用し、自ら文章化できることを目的とする。テーマに基づいた映像を使用し、語彙、表現、構文を解説後、状況に応じて自ら適切な表現や語彙を選択しながら話し、書けるようになることを目指す。最終的には、学んだ知識から、自ら適切な語彙や表現を選び、自由にアウトプットできるようになることが目的である。 1. 英語運用能力の向上を目指し、更なる実践的な英語表現を学び、コミュニケーションで応用できる。 2. 文章構成や構文を理解し、自分の意見を英語で正確に表現できる。								
講義概要「英語ⅣE」								
第 1 回目では英語Ⅲの復習を行い、現在までに学んだ英語表現を確認する。第 2 回目から 10 回目までにリスニング、リーディングによるインプットの訓練後、ライティング・スピーキングのアウトプットの流れで練習し、学んだ内容をコミュニケーションにて実践していく。第 11 回目から 14 回目までは正確に書くためのライティング訓練を行う。第 15 回目で内容理解度確認テストを行った後、解説する。								
授業計画								
1 ‘Beagle Patrol’ part 1（読解後、内容確認等解説） 2 ‘Beagle Patrol’ part 2 （読解後、内容確認等解説後、グループワーク） 3 Beagle に関する映像から、内容確認後、基本構文、表現を学ぶ 4 ‘Polar Bears in Trouble’ part 1（読解後、内容確認等解説） 5 ‘Polar Bears in Trouble’ part 2（読解後、内容確認等解説後、グループワーク） 6 Polar bear に関する映像から、内容理解後、発表を行う 7 ‘Aquarium on Wheels’ part 1（読解後、内容確認等解説） 8 ‘Aquarium on Wheels’ part 2 （読解後、内容確認等解説後、グループワーク） 9 Aquarium に関する映像をみて、ディスカッション、発表を行う 10 英文構成 1（英文作成基礎。表現、構成を学ぶ） 11 英文構成 2（英文作成応用。表現力を磨く） 12 英文構成 3（英文記事を読み、その内容について要約し、感想を英語で書く） 13 英文構成 4（動物看護に関する簡単な論文要旨を読む） 14 英文構成 5（動物看護に関する記事を読み、要約を書く） 15 総復習（小テスト、および解説）								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題は次の回に解説する。								
履修上の注意								
授業での活動には積極的に取り組むこと。初回に授業に対する姿勢、確認テスト等の成績評価について説明する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学修として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
試験（50%）、課題（30%）、発言など授業への参加度（20%）から総合的に評価する。								
教科書								
Snapshots from the Globe (CENGAGE Learning)								
参考書、教材等								
教場で指導する。								

授業科目	英語Ⅳ				実務家教員	—	担当教員	植月 恵一郎
科目英名	English IV							
開講期間	2 年次 後期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
より高度な英語運用力を身に着ける。とくに英文読解力向上を目指す。「文法が骨、語彙が血肉」であることを理解し、語彙力を増強し精確な文法を把握する。parsing（文の分析・解剖）を徹底する。語学辞書のみならず、英語事典の参照力を磨く。将来専門的な英文を読んだり、書いたりする際の基礎・基盤を形成する。TOEIC 換算で 600 点近傍を目標とする。								
講義概要「英語ⅣF」								
大学の教養教育における英語学修の総仕上げとして、語彙、統語論、英語表現等のインプットを行い、アウトプットに繋がる演習を通じて発展的な技能の修得を目指す。A・B では自分の意見を英語で発表するための実用的な英語運用能力を身につける。C・D では英語運用能力の向上を目指して 4 技能のレベルアップを図る。E・F ではインプットとして専門的な動物関連の文献を用いて文章構成や構文を学修し、英語での表現能力を向上させるためのアウトプットに応用する。								
授業計画								
1 後期ガイダンス：英語の読み方を理解する 2 <i>Children on Their Birthdays</i> の飲酒文化と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 3 <i>Children on Their Birthdays</i> の宗教と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 4 <i>Children on Their Birthdays</i> の病と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 5 <i>Children on Their Birthdays</i> の学生バイトと <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 6 <i>Children on Their Birthdays</i> のいたずらと <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 7 <i>Children on Their Birthdays</i> の諺と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 8 <i>Children on Their Birthdays</i> の合衆国憲法と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 9 <i>Children on Their Birthdays</i> の劇場と演目と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 10 <i>Children on Their Birthdays</i> の町民学芸会と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 11 <i>Children on Their Birthdays</i> の"An Apple for the Teacher"と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 12 <i>Children on Their Birthdays</i> のハリウッド・オーディションと <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 13 <i>Children on Their Birthdays</i> の詐欺師と警察と <i>The Japan Times Alpha</i> の関連記事 14 応用練習：映画《幸せのキセキ》(<i>We Bought a Zoo</i>) の台詞を確認後、映画を楽しむ 15 総復習と期末試験と解説								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験・小テスト等は、正解に至る過程を懇切丁寧に解説する。レポート等については、解答例を示し、上位のレポートを紹介するなどして総評を行う。								
履修上の注意								
前年度の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件を満たした者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。事前・事後の学修は必須である。授業へは積極的に参加しなければならない。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「次回の授業範囲を予習し、未見の語彙の意味等を理解しておくこと。」 事後学修「新出語彙の復習と練習問題では誤答箇所を再度解答を試みること。」								
評価方法（評価基準を含む）								
平常点（毎回授業時の発表等） 5 0 %、試験（小テスト等含む） 5 0 %として総合的に評価する。								
教科書								
Truman Capote. “ <i>Children on Their Birthdays</i> ”: <i>Reading a Truman Capote Short Story</i> . Karen McGee 他編注 (Tsurumi Shoten, 2023), ISBN978-4-7553-0057-8、本体 2,000 円（税別）および当該週の <i>The Japan Times Alpha</i> . 前者は各自購入し、後者の新聞記事はこちらで準備する。								
参考書、教材等								
授業初回時、および随時指示する。								

授業科目	フランス語入門				実務家教員	—	担当教員	白川 理恵
科目英名	French Basic Course							
開講期間	1 年次 後期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育〔言語・情報・スポーツ〕		
到達目標								
初歩的な日常表現のフランス語を理解し、読み、書き、聞くことができることを目標とする。具体的には、挨拶の言葉や初歩的な会話表現のための文法が理解でき、ごく簡単な応答ができる力を身につける。 また、フランスの文化や習慣に親しみ、異文化コミュニケーションについて学ぶきっかけとする。								
講義概要								
基礎的なフランス語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の修得を目指す。発音練習を繰り返し、「フランス語特有の音」に慣れ親しむ。また、「語彙」や「フランス文法」の基本的知識を学び、文の構造を理解する。さらに、「フランス語の表現・成句」を通して、様々なシチュエーションを想定した実践的なフランス語運用能力を身につけ、フランス語を学ぶ楽しさを実感してもらう。 時間の許すかぎりフランス文化や生活を紹介し、つねに西洋文化の中心であり続けるフランスの本質（エッセンス essence）とは何かについても考えてみたい。								
授業計画								
1 はじめに（授業ガイダンス、フランス語のあいさつ・アルファベ） 2 「名前を言う」（主語人称代名詞・第1群規則動詞（-er 動詞）） 3 「国籍を言う」（名詞の性と数・動詞 être） 4 発音に親しむ（フランス語の読み方、綴り字記号・リエゾン・アンシェヌマン・エリズィオン） 5 「職業を言う」（形容詞の性と数の一致・形容詞の位置） 6 「持ち物を尋ねる」（提示の表現 c'est ～・冠詞・動詞 avoir） 7 「趣味を語る」（疑問文・疑問文に対する答え・疑問形容詞） 8 「誰か尋ねる」（否定文・否定疑問文・否定疑問文に対する答え） 9 「したいことを尋ねる」（前置詞と定冠詞の縮約・指示形容詞） 10 中間のまとめ（ここまでの復習およびフィードバック、フランス文化について） 11 「場所を示す」（提示の表現 il y a ～・場所を表す前置詞） 12 「住んでいるところを言う」（人称代名詞の強勢形・所有形容詞・動詞 connaître） 13 「何をしているか尋ねる」（疑問代名詞・動詞 faire） 14 「年齢を言う」（疑問副詞・数詞） 15 授業内試験（試験後に総復習およびフィードバック）								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
期末に授業内試験を実施し、達成度の点検とフィードバックを行う。								
履修上の注意								
遅刻や欠席は評価の対象とするので十分注意すること。 予習と復習を怠らないこと。 予習と復習に必要となるため「仏和辞典」を用意すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：授業で示された教科書の練習問題を解き、授業に臨むこと。 事後学修：授業で学んだことを復習し、単語や動詞の活用を覚えること。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（30%）・各授業後の小テスト（20%）・期末の授業内試験（50%） 上記を総合的に勘案し評価を行う。								
教科書								
『パスカル・オ・ジャポン』白水社、藤田裕二著								
参考書、教材等								
仏和辞典については、初回授業のガイダンスで説明を行う。 例えば、Casio EX-word（電子辞書）、ワイルド仏和中辞典（旺文社）、クワン仏和辞典（三省堂）、など。								

授業科目	情報リテラシー（基礎）				実務家教員	—	担当教員	若林 義啓
科目英名	Information Literacy (Basic)							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
現代の情報社会では、コンピューターは社会人に必須のツールであり、あらゆる職業でコンピューターを活用する能力が求められているため、大学の学修と卒業後に必要となるコンピューターの基礎的な知識と使い方を身につける。 1. コンピューターの基本操作やメールの書き方を学び、学修に必要な基本操作ができるようになる。 2. タッチタイピングができるようになる。 3. レポートや卒業論文作成に必要な文書編集技術を学び、適切に作成できるようになる。 4. 表計算ソフトの基礎を学び、適切なデータ処理ができるようになる。								
講義概要								
第 1 回から第 6 回まではコンピューターの基礎操作を学び、大学でのコンピューター活用の基本を身につける。タッチタイピングは第 2 回以降、毎回練習を行う。第 7 回から第 11 回は Microsoft Word によるレポート作成技術を学ぶ。第 12 回から第 14 回は Microsoft Excel による表計算の基礎を学ぶ。第 15 回は授業のまとめを行う。								
授業計画								
1 情報リテラシーとは、大学でのコンピューター利用 2 タッチタイピング、メールの設定 3 インターネットとは、メールのマナー 4 情報機器、ネットモラル 5 ファイルとフォルダ、フリーソフト 6 メールのエラー、日本語変換ソフト 7 Microsoft Word 基本操作 8 レポートの書き方① 図表の挿入とキャプション 9 レポートの書き方② 書式、段組み、印刷 10 レポートの書き方③ PDF ファイル、見出しスタイル、数式 11 レポートの書き方④ レポートの構成 12 Microsoft Excel の特長、オートフィル 13 相対参照と絶対参照、基本的な関数 14 応用的な関数 15 まとめ（Word、Excel の理解度・活用力の確認）								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題は次の回に解説を行う。								
履修上の注意								
演習時や課題など主体的に授業に取り組むこと。初回に授業に対する姿勢、確認テスト等の成績評価について説明する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
教科書を予習し、授業後は配布資料と共に復習し理解を深めておくこと。課題はその回に学んだことの復習であることからすべて完成させておくこと。タッチタイピングは授業内の練習だけでなく、授業時間外にも練習をしておくこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
課題（30%）、授業内のテスト（50%）、主体的に学修に取り組む態度（20%）の総合評価とする。								
教科書								
情報リテラシー Windows 11・Office 2021 対応、富士通ラーニングメディア、FOM 出版								
参考書、教材等								
特になし								

授業科目	情報リテラシー（応用）				実務 家教員	—	担当 教員	若林 義啓
科目英名	Information Literacy (Applied)							
開講期間	1 年次 後期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育〔言語・情報・スポーツ〕		
到達目標								
本科目では情報処理と情報デザインの技術を学び、コンピューターの応用的な活用法を身につけ、様々な場面でコンピューターを積極的に活用できるようになることを目的とする。								
1. Excel の高度な書式設定ができるようになる。								
2. レポート・論文用のグラフが作成できるようになる。								
3. デザインの原則を理解し、プレゼンテーションに適したスライドを作成できるようになる。								
4. デジタル画像の仕組みを理解し、レイヤーを用いた高度な画像加工ができるようになる。								
講義概要								
第 1 回から第 3 回までは Microsoft Excel のデータベース機能とレポート・論文用のグラフの作成方法を学ぶ。第 4 回から第 9 回まではスライド作成におけるデザインの原則と情報の伝え方について学び、Microsoft PowerPoint によるスライド作成とプレゼンテーション技術を身につける。第 10 回から第 15 回まではデジタル画像の知識と加工技術を学び、画像編集ソフトを使用して缶バッジ制作を行う。								
授業計画								
1 Microsoft Excel 関数のネスト								
2 条件付き書式、フィルター								
3 グラフの特長と学術研究用のグラフ								
4 プレゼンテーション① プレゼンテーションとは、Microsoft PowerPoint の特長								
5 プレゼンテーション② PowerPoint の基本操作								
6 プレゼンテーション③ デザインの原則、効果的なスライド								
7 プレゼンテーション④ スライド作成演習 1 情報をまとめる								
8 プレゼンテーション⑤ スライド作成演習 2 情報の表現								
9 まとめ（Excel、PowerPoint の理解度・応用力の確認）								
10 デジタル画像の加工① デジタル画像の基礎								
11 デジタル画像の加工② 画像修正								
12 デジタル画像の加工③ 合成画像の制作								
13 コンピューターの活用① 缶バッジのデザイン								
14 コンピューターの活用② 缶バッジの制作								
15 コンピューターの活用③ 缶バッジの品評会								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
制作課題について品評会で評価を行う。								
履修上の注意								
前期「情報リテラシー（基礎）」の内容を理解し、身に付けていること。制作課題、グループ活動などすべてにおいて主体的な取り組みが必要である。この科目では、授業内での説明に基づく授業時間外での活動が必須となるため、授業を欠席すると何もできなくなるので注意すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
各コンテンツで学んだ知識・技術を復習し、次回授業の準備をしておくこと。制作課題は授業前までに準備・制作作業を行い、到達目標まで進めておくこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
課題（40%）、授業内のテスト（30%）、主体的に学修に取り組む態度（30%）の総合評価とする。								
教科書								
情報リテラシー Windows 11・Office 2021 対応、富士通ラーニングメディア、FOM 出版								
参考書、教材等								
特になし								

授業科目	健康とスポーツ（実技含む）				実務家教員	—	担当教員	中山 多美
科目英名	Wellness & Physical activity							
開講期間	2 年次 前期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]		
到達目標								
スポーツを続け、健康な体と心を育てていく事の大切さを学び、健康で一生を送るために有用な知識や情報を学び、自身の健康を見直せるようになることを目標とする。								
講義概要								
ウェルネス（WHO の保健憲章前文を発展的に解釈した）の概念を基礎とした生活の質（QOL）の追求のために、運動の方法、健康な身体を手に入れるための方法、疾病予防法について学び、各自の健康管理に対する認識を深める。 また、健康とすべての運動の基礎となる正しい姿勢や歩き方やグループエクササイズ等の実践を通して、各自の体力に合わせて運動し、安全かつ効果的なエクササイズの仕方を体得し、自分自身の健康管理に対する認識を深める。								
授業計画								
1 オリエンテーション 2 人体、骨、筋肉の仕組み 3 免疫力を高める食事と運動 4 紫外線対策 5 熱中症対策 6 ねんざ処置、対策 7 体幹トレーニング 8 救命救急処置 9 試験 10 アルティメット 1 11 アルティメット 2 12 卓球 1 13 卓球 2 14 卓球 3（ダブルス） 15 卓球 4（ダブルス）								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
フィードバックとして、授業後、解答の解説を行う。								
履修上の注意								
履修方法についてはオリエンテーション時の説明をよく聞くこと。 基本的に、他人に迷惑のかかる行為や大学生としてふさわしくない行為は慎むこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事後学修「毎授業のレビューを聞き、ノートを整理・作成すること。」								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度及び授業態度（70%）と授業内テスト（30%）の総合評価								
教科書								
適宜プリントを配布								
参考書、教材等								
なし								

動物看護学科
専門教育科目

授業科目	生命科学概論				実務家教員	—	担当教員	◎小黒 美枝子・長島 孝行
科目英名	Introduction to Life Science							
開講期間	2 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕		
到達目標								
現代は日常生活のさまざまな面に生命科学に関する知識や情報が影響を与える時代であるため、生命科学の現状やそれに関わる諸問題を理解するための基礎的知識と、科学的考え方を身につけることを到達目標とする。								
講義概要								
本概論では、生命のしくみを理解することにより、生命の神秘と尊厳について学修する。また、生命科学の発展と生命倫理について解説する。 生命科学と、現代社会のかかわり、生命はどのように設計されているか、ゲノム情報はどのように発現するか。複雑な体はどのようにしてつくられるかを解説する。脳はどこまでわかったか、がんとはどのような現象かについて解説する。 私たちの食と健康の関係、ヒトは病原体にどのようにそなえるかについて解説する。 環境と生物はどのようにかわるか、生命科学技術はここまで進んだ、生命倫理はどこに向かいつつあるか、生命や生物の不思議をどのように理解するかについて解説する。								
授業計画								
1 生命科学とは何か 2 生命はどのように設計されているか 3 ゲノム情報はどのように発現するか 4 複雑な体はどのようにしてつくられるか 5 脳はどこまでわかったか 6 がんとはどのような現象か 7 現代生命科学の基礎に関するまとめ、課題 8 私たちの食と健康の関係 9 ヒトは病原体にどのように備えるか 10 生命科学研究で明らかになった生命のしくみ 11 環境と生物はどのようにかわるか 12 生命科学技術はここまで進んだ 13 生命科学に関する倫理的・法的規制はどのようになっているか 14 生命科学の新たな展開 15 生命科学技術の進歩と社会との関係に関するまとめ、課題								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
レポート課題や質問は、教員が実施する 7 回目と 15 回目の授業において、フィードバックする。Moodle を利用して掲示、授業参考資料などを配布するので、注意を怠らないこと。								
履修上の注意								
本学図書館等を利用して、日々進展する生命科学に関するトピックスなどに積極的に触れて欲しい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修 「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」 事後学修 「7 回目、15 回目の授業後、指定された期限内に課題レポートを提出すること」								
評価方法（評価基準を含む）								
授業内課題（75 %）および授業への参加度（25 %）から総合的に評価する。								
教科書								
現代生命科学 第 3 版 東京大学生命科学教科書編集委員会編 羊土社								
参考書、教材等								
講義中に適宜紹介する。								

授業科目	バイオテクノロジー				実務家教員	—	担当教員	◎小黒 美枝子・長島 孝行
科目英名	Biotechnology							
開講期間	3 年次 後期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕		
到達目標								
バイオテクノロジー（遺伝子工学）は、その技術であり、生物を分子の集合体として理解し、化学の知識、技術を応用したバイオサイエンスと深い関係があることを理解する。将来、動物看護学や動物人間関係学の専門分野や、実生活において、膨大なバイオテクノロジーが利用され、バイオの問題に直面あるいは、判断を迫られる場面に的確に対応できるように、ゲノム、遺伝子、PCR 法、遺伝子組み換え技術など基礎的バイオテクノロジー知識を修得する。またその応用としてカイコが生産するシルクや、カブトエビの機能と利用について修得することを到達目標とする。								
講義概要								
生物がどのようなシステムで動くのかを調べることは、バイオサイエンスと呼ばれている。そのシステムが解明されれば、そのシステムの修理、補助、作成ができる。バイオテクノロジーは、その技術であり、生物を分子の集合体として理解し、化学の知識、技術を応用したバイオサイエンスと深い関係がある。将来、動物看護の専門分野や動物と人間の相互関係の対応において、莫大なバイオテクノロジー技術が生まれ、バイオの問題に直面、あるいは、判断を迫られる状況が増えるだろう。本科目では、このような場面に的確に対応できる能力を養うことを目的とする。本講義では、このような時代に生きるに不可欠なバイオの基礎知識を、生物に関する基礎知識を踏まえながら講義する。								
授業計画								
1 バイオテクノロジー科目の紹介、遺伝子の不思議 2 ゲノム・遺伝子とは何か。 3 ヒトのゲノム、さまざまな動物のゲノム 4 遺伝子情報からタンパク質をつくる仕組み 5 遺伝子組み換え技術の基礎、ゲノム編集 6 PCR 法 7 遺伝子診断 バイオ基礎技術のまとめと課題 8 シルクの過去 9 シルクの現在 10 シルクの未来 11 カブトエビの機能 12 カブトエビの利用 13 体の大きさを決める遺伝子 14 バイオセラピー 15 まとめと課題								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験や課題の解説を授業中に行い、フィードバックする。								
履修上の注意								
バイオテクノロジー技術、その応用利用が新聞、テレビ等にニュースとして取り上げられる。日常生活にどのように密接に関わっているのかについて、興味をもってほしい。Moodle を利用して掲示、授業参考資料などを配布するので、注意を怠らないこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修： 第 2～第 14 回目の授業については、事前に Moodle 等を利用してレジュメを配布するので、事前に目を通し、参考書やインターネットで理解を深めておくこと。 事後学修：講義内容を講義ノートとしてまとめる。疑問点については、授業に提出する小テストや Moodle を利用して質問する。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業中に実施する Moodle 利用の小テスト（授業への参加度含む）および 7 回目、15 回目の課題により、総合的に評価する。 評価基準は、それぞれ、40%、30%、30%の割合とする。								
教科書								
配布資料								
参考書、教材等								
講義中に適宜紹介する。								

授業科目	動物看護学概論				実務家教員	—	担当教員	◎内田 明彦・今村 伸一郎 岡崎 登志夫・梅村 隆志 富田 幸子
科目英名	Introduction to Veterinary Nursing							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]		
到達目標								
1. 動物看護の基本となる概念 1) 動物看護の目的、概念について理解する 2) 獣医療と動物看護の歴史について理解する 3) 獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領について理解する 4) 動物にとっての健康、福祉、QOL について理解する 5) 動物病院における愛玩動物看護師の役割について理解する 2. 動物看護の提供体制 1) 社会における動物病院の役割について理解する 2) 一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する 3) インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務について理解する 4) 診療録（カルテ）と動物看護記録の作成、保存義務について理解する 5) 職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法について理解する 3. 愛玩動物看護師の社会的立場 1) 愛玩動物看護師の職能団体について理解する 2) 愛玩動物看護師の資格制度と業務範囲、資格認定機関について理解する 3) 愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織・団体について理解する 4) 国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて理解する								
講義概要								
獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。								
授業計画						担当教員		
1 獣医療の歴史と概念						内田 明彦		
2 動物看護の歴史と動物看護師の必要性和社会的認知（山川伊津子）						内田 明彦		
3 動物看護の基本となる概念（1）						内田 明彦		
4 動物看護の基本となる概念（2）						内田 明彦		
5 動物看護学の成立と特徴						今村 伸一郎		
6 動物看護学の教育と愛玩動物看護師国家試験						今村 伸一郎		
7 動物看護における飼主支援・ペットロスを中心として（山川伊津子）						内田 明彦		
8 専門職団体の活動						岡崎 登志夫		
9 動物看護師の役割						岡崎 登志夫		
10 動物看護の提供体制						富田 幸子		
11 さまざまな動物観と環境要因						富田 幸子		
12 動物福祉の概念						梅村 隆志		
13 動物福祉と社会						梅村 隆志		
14 伴侶動物の福祉						梅村 隆志		
15 展示動物および使役動物の福祉とまとめ						内田 明彦		
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
フィードバックとして、提出されたレポートの内容について解説をします。								
履修上の注意								
これから学修する動物看護の原点を司る授業であることから、内容は多岐にわたる。従って、毎回の授業をまとめて、整理しておく必要がある。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」								
事後学修「毎授業後、講義資料の内容を復習し、興味ある点を自習により補足すること」								

評価方法（評価基準を含む）	
授業への参加度とレポート提出（50%）および試験（50%）によって評価を行う。	
教科書	
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 4 巻、エデュワードプレス	
参考書、教材等	
1. 獣医看護学	上下巻、山村穂積訳、チクサン出版
2. 動物看護学	各論・総論、日本動物看護学会教科書編集委員会編、インターズー

授業科目	動物人間関係学概論				実務家教員	—	担当教員	◎植田 富貴子 石川 牧子・新島 典子 秋山 順子・堀井 隆行
科目英名	Introduction to Animal・ Human Relations							
開講期間	1 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕		
到達目標								
1. 人間と動物の関わり 1) 動物の飼養・利用の歴史について理解する 2) 欧米と日本の動物観、動物との関わり方の相違について理解する 3) 動物の飼養と利用の現状について理解する 2. 人間の福祉と愛玩動物の関わり 1) 動物虐待と対人暴力の連動性に関する基礎知識について理解する 2) 多頭飼育崩壊（アニマル・ホーディング）について理解する 3) 愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵及び人間の加齢に伴って飼養困難になる 様々な事情について理解する 3. 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育 1) 動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響について理解する 2) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容について理解する 3) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に使用される動物の公衆衛生学的適性、行動学的適性について理解する 4) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に対する動物病院や愛玩動物看護師の関わりについて理解する 5) 学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて理解する（文部科学省が道德教育の一環として認めていることを含む）								
講義概要								
動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。								
授業計画								担当教員
1 ガイダンス、動物人間関係学とはなにか								植田
2 人間と動物の関わり（動物の飼養・利用の歴史と現状）								新島
3 日本の文学・芸術における動物								新島
4 欧米と日本の動物観、動物との関わり方の相違について								新島
5 動物の飼育と利用の現状、人の生活に貢献する動物の役割								石川
6 使役動物（歴史、福祉、身体障害者補助犬：盲導犬・介助犬・聴導犬）								石川
7 人間の福祉（愛玩動物が人に与える恩恵：身体的・心理的影響）と人の加齢化による飼育の問題								新島
8 ペットの飼育（飼育理由、歴史・現状、愛着・依存、ペットロス）								新島
9 学校飼育動物の目的と実態および愛玩動物看護師の関わり								新島
10 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容								秋山
11 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に使用される動物の行動的適性								堀井
12 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育と公衆衛生								植田
13 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育における動物病院、動物看護師の役割								秋山
14 動物虐待と対人暴力の連動性および多頭飼育崩壊（アニマルホーディング）								堀井
15 ペット産業の現状								堀井
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
レポートや質問について各担当教員が講義中にフィードバックする。								
履修上の注意								
本学図書館は当該分野の書籍だけでなく視聴覚教材も多数所蔵している。これらを利用して積極的に多くの知識を吸収し、講義と並行しながら自己の将来への明確な勉学方針を把握すること。参考資料などはMoodle を利用して配布する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学習：予め教科書を読んでおくこと。								
事後学習：講義内容のポイントを自らまとめること。								

評価方法（評価基準を含む）
授業参加度 50%、レポート 50%として総合的に評価する。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 4 巻 動物看護学概論／人と動物の関係学／生命倫理・動物福祉 EDUWARD Press
参考書、教材等
教材としてプリント、スライド等を随時使用する。

授業科目	動物形態機能学				実務家教員	—	担当教員	今村 伸一郎
科目英名	Animal Functional Anatomy							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕		
到達目標								
1. 生命のすがた 1) 細胞の構造について理解する 2) 上皮組織、腺組織、支持組織、筋組織、神経組織について理解する 3) 器官の成り立ちと維持、調整システムについて理解する 2. 循環器とその調節 1) 心臓の構造について理解する 2) 興奮伝導系の構造について理解する 3) 心臓機能の調節機構について理解する 4) 血管の種類と構造について理解する 3. 呼吸器とその調節 1) 呼吸器（気道）の構造について理解する 4. 消化器と栄養代謝 1) 消化管（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸）の構造について理解する 2) 唾液腺、膵臓、肝臓の構造について理解する 5. 内分泌とホルモン 1) 主な内分泌臓器の構造について理解する 6. 泌尿器と体液調節 1) 腎臓及びネフロンの構造について理解する 7. 脳と神経 1) ニューロンの構成、シナプスの構造について理解する 2) 脳の構造について理解する 3) 脊髄の構造について理解する 4) 体性神経の構成について理解する 5) 自律神経の構成について理解する 8. 運動器 1) 骨格の構成について理解する 2) 骨の形状と構造について理解する 3) 関節の構造と働きについて理解する 4) 骨格筋の構造について理解する 5) 主な骨格筋の名称について理解する 9. 皮膚と感覚器 1) 皮膚の構造と機能について理解する 2) 皮膚の付属器官について理解する								
講義概要								
動物の生命維持の仕組みを形態学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。								
授業計画								
1 形態学とは 細胞、組織、器官とは 2 骨格系（骨の基本構造、骨組織、造血組織、体幹骨） 3 骨格系（体肢骨、関節） 4 骨格系（骨格筋：筋組織、頭部、頸部、胸部、腰部、腹部） 5 骨格系（骨格筋：前肢、後肢） 6 呼吸器系 7 循環器系 8 消化器系（口腔、咽頭、食道、胃） 9 消化器系（小腸、大腸、肝臓、膵臓） 10 泌尿器系								

11 生殖器系 12 脳神経系 13 特殊感覚器系 14 外皮系、皮膚感覚器系 15 内分泌系
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 授業内で行なう小テストについて、解答は一般開示しないが（自分で調べるのが重要）、質問には丁寧に指導を入れる。
履修上の注意 毎回出席をとる。覚える内容が膨大なので日頃から少しずつ整理しておくように。また解剖学用語は正確に覚えるよう心がけてほしい。できるだけ漢字で表記できるようにする。 カラーリングアトラスは自己学修で色付けをし、予習、復習に役立てる。2年次の実習時に役立つ。
事前・事後学修（予習・復習）の内容 授業は基本的にシラバス通りの順で行なうので、指定された教科書のその単元部分について目を通してくること。授業後は配付された資料を基に、授業中とったノートとの付け合わせを行なってほしい。
評価方法（評価基準を含む） 授業への参加度（15%）、小テスト（45%）、定期試験（40%）の総合判定で評価する。
教科書 1. 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻 動物形態機能学／動物繁殖学. 一般社団法人日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編. EDUWARD Press 2. 犬の解剖カラーリングアトラス、日本獣医解剖学会監修、学窓社 必要に応じて資料を配布する。
参考書、教材等 1. Color Atlas of Veterinary Anatomy、浅利昌男監訳、EDUWARD Press 2. 獣医看護学 上下巻、山村穂積訳、チクサン出版 3. カラーアトラス 獣医解剖学 上下巻、カラーアトラス獣医解剖学編集委員会監訳、EDUWARD Press 4. 家畜比較解剖図説 上下巻、加藤嘉太郎著、養賢堂

授業科目	動物生理学				実務家教員	—	担当教員	今村 伸一郎
科目英名	Animal Physiology							
開講期間	1 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]		
到達目標								
1. 生命のすがた 1) 細胞内小器官の働きについて理解する 2) 器官の成り立ちと維持、調整システムについて理解する 2. 循環器とその調節 1) 心筋細胞の電気現象と心筋の興奮伝導系について理解する 2) ポンプとしての心臓機能と心電図、心音について理解する 3) 心臓機能の調節機構について理解する 4) 血管の機能について理解する 5) 血圧調節機構について理解する 3. 呼吸器とその調節 1) 換気の仕組みについて理解する 2) 肺胞におけるガス交換について理解する 3) 血液による酸素と二酸化炭素の運搬について理解する 4) 呼吸運動の調節機構について理解する 4. 消化器と栄養代謝 1) 消化管（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸）の機能について理解する 2) 唾液腺、膵臓、肝臓の機能について理解する 3) 消化と吸収の仕組みについて理解する 5. 内分泌とホルモン 1) 内分泌の定義について理解する 2) ホルモンの性質、機能、生成、分泌、フィードバック調節について理解する 3) 主な内分泌臓器の機能について理解する 4) 主なホルモンの作用と標的器官について理解する 6. 泌尿器と体液調節 1) 腎臓及びネフロンの機能について理解する 2) クリアランスの意味を知り、腎血漿流量と糸球体濾過量の調節機構について理解する 3) 尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮について理解する 4) 体液の分布と区分、調節機構について理解する 5) 電解質バランスについて理解する 6) 酸・塩基平衡について理解する 7. 脳と神経 1) 活動電位、シナプス伝達について理解する 2) 脳の機能について理解する 3) 脊髄の機能について理解する 4) 体性神経の機能について理解する 5) 自律神経の機能について理解する 8. 運動器 1) 骨格筋の収縮機構について理解する 2) 主な骨格筋の機能について理解する 9. 血液と造血器 1) 血球成分と血漿成分について理解する 2) 赤血球の構造と機能について理解する 3) 白血球の構造と機能について理解する 4) 血小板機能と血液凝固機構及び線維素溶解について理解する 10. 皮膚と感覚器 1) 体性感覚（皮膚感覚）について理解する 2) 特殊感覚（視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚）について理解する								

講義概要
動物の生命維持の仕組みを機能学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。
授業計画
1 生理学とは 細胞の構造と機能、細胞内小器官 2 尿の生成と体液調節、クリアランス 3 体液と電解質バランス、酸・塩基平衡 4 血液（血球成分、血漿成分） 5 呼吸とその調節 6 血液循環とその調節（心筋の性質、刺激伝道系、心周期、心音） 7 血液循環とその調節（心電図、心機能調節、血管、血液循環の調節、リンパ系、脾臓） 8 消化吸収（嚥下、胃の仕組みと働き、腸の仕組みと働き、消化管ホルモン） 9 消化吸収（唾液腺、膵臓機能、肝臓機能、栄養素の消化吸収） 10 性と生殖（特に性ホルモンの機能） 11 内分泌とホルモン 12 脳と神経（静止電位と活動電位、興奮の伝導と伝達、シナプス） 13 脳と神経（中枢神経機能、末梢神経機能（自律神経機能含む）） 14 感覚と情報伝達（感覚受容器、体性感覚、特殊感覚） 15 骨格筋の構造と収縮特性、反射運動
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
授業内で行なう小テストについて、解答は一般開示しないが（自分で調べることが重要）、質問には丁寧に指導を入れる。
履修上の注意
毎回出席をとる。授業をよく聞き、ノートを積極的にとるよう取り組むこと。 講義内容を自分の身体に当てはめ、“実感する”ことを行ってほしい。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
授業は基本的にシラバス通りの順で行なうので、指定された教科書のその単元部分について目を通してくること。授業後は、授業中にとったノート整理を行なうこと。
評価方法（評価基準を含む）
授業への参加度（15%）、小テスト（45%）、定期試験（40%）からの総合判定で評価する。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1 巻 動物形態機能学／動物繁殖学. 一般社団法人日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編. EDUWARD Press 必要に応じて資料を配布する。
参考書、教材等
基礎動物生理学、東條英昭著、アドスリー 生理学、真島英信、文光堂 医科生理学展望、星猛ら、丸善 わかりやすい獣医解剖生理学 浅利昌男 監訳 文永堂

授業科目	動物形態機能学実習					実務家教員	—	担当教員	◎今村 伸一郎 牛根 奈々
科目英名	Practice of Animal Anatomy and Physiology								
開講期間	2 年次 後期	動物看護学科	動物人間関係学科	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門基礎]		
		必修科目 2 単位	選択科目 2 単位						
到達目標									
1. 運動器 1) 骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する 2) 代表的な関節の名称と構造、機能について理解する 3) 代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する 2. 内臓器官 1) 模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する 2) 生殖器の雌雄差について理解する 3. 顕微鏡の取扱い 1) 顕微鏡各部位の名称、鏡検条件（倍率など）について理解する 2) 顕微鏡の適切な操作法について修得する 3) 顕微鏡の適切な管理法について修得する 4. 組織像の観察 1) 主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する 2) 組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する									
講義概要									
動物の身体の状態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。									
授業計画									
1 実習全体のオリエンテーション、骨格に関する実習（イヌ）（頭骨、椎骨、胸郭の観察スケッチ） 2 骨格に関する実習（イヌ）（前肢骨、後肢骨の観察スケッチ） 3 筋肉に関する実習（イヌ）（頭部、体幹の筋肉の観察、粘土で骨格筋再現） 4 筋肉に関する実習（イヌ）（頸部、前肢の筋肉の観察、粘土で骨格筋再現） 5 筋肉に関する実習（イヌ）（後肢、全身の筋肉の観察、粘土で骨格筋再現） 6 循環器系・呼吸器系・体温の調節に関する実習（イヌを用いて安静時、運動後の TPR の測定） 7 循環器系に関する実習（自分自身の心電図の計測および波形の解釈、血圧の測定および値の解釈） 8 感覚器系に関する実習（視野の測定、2 点弁別閾の測定、温冷覚の測定）1 9 感覚器系に関する実習（視野の測定、2 点弁別閾の測定、温冷覚の測定）2 10 腎機能に関する実習（ブタ腎臓を用いた腎小体の観察および定量、ブタ腎臓の外・内観スケッチ） 11 内臓に関する実習（イヌ）（腹腔臓器、骨盤臓器の観察スケッチ） 12 内臓に関する実習（イヌ）（胸腔臓器、脳の観察スケッチ、ブタ心臓の内観スケッチ） 13 組織に関する実習（舌、小腸、脾臓、肝臓、腎臓の観察スケッチ） 14 組織に関する実習（肺、心筋、骨格筋、動・静脈の観察スケッチ） 15 組織に関する実習（内分泌系組織、皮膚、骨の観察スケッチ）									
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
スケッチ等はすべて返却するので、廃棄することをしないで、今後開講される応用科目等に役立てるようにしてほしい。									
履修上の注意									
解剖実習では実際の標本や解剖模型をスケッチしたり解剖図を模写したりするので、カラーリングアトラス、スケッチブック、色鉛筆を必ず持参すること。また講義で配布したプリントなども毎回持参すること。 生理実習では、実習前に掲示指示されたものを忘れずに持参すること。									
事前・事後学修（予習・復習）の内容									
実習の詳細は毎回資料を渡してそれに基づいて展開するが、事前に、1 年次に勉強した形態学、生理学について復習してくることを心がけてほしい。これは予習であり、復習にもなる。									
評価方法（評価基準を含む）									
授業への参加度・作業（50％）と課題・レポート（50％）を総合的に判断する。									
教科書									
解剖学実習：犬の解剖カラーリングアトラス 日本獣医解剖学会 監修 学窓社（1 年次購入のもの） 解剖学実習および生理学実習：毎回資料を配付する。									

参考書、教材等

家畜比較解剖図説、加藤嘉太郎著、養賢堂

基礎動物生理学、東條英昭著、アドスリー

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1 巻 動物形態機能学／動物繁殖学. 一般社団法人日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編. EDUWARD Press

生理学、真島英信、文光堂

医科生理学展望、星猛ら、丸善

わかりやすい獣医解剖生理学 浅利昌男 監訳 文永堂

授業科目	動物生活環境学					実務家 教員	—	担当 教員	◎三井 香奈・秋山 順子
科目英名	Animal Life Emvironment								
開講期間	2 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]		
到達目標									
1. 飼養環境整備 1) 動物行動学を踏まえた人とペットのための飼養環境整備の必要性や方法（問題行動予防を含む）について理解する 2) ペット共生住宅の現状、環境整備・管理の方法について理解する 2. ペットツーリズム関連施設、ドッグラン 1) ペットツーリズムの現状と実施方法について理解する 2) ペット同伴宿泊ホテルの環境整備・管理の方法について理解する 3) ドッグランの環境整備・管理の方法について理解する 4) ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興について理解する 3. 保護収容施設 1) 動物シェルターや災害時の避難施設の環境整備・管理の方法、シェルターメディスンについて理解する 2) 動物愛護管理センターの役割、施設の概要、普及啓発活動について理解する 4. ペットへの教育・訓練施設 1) 動物の社会化トレーニングの意義、必要性、方法、施設等について理解する 5. 動物介在教育施設 1) 学校飼育動物等の施設の環境整備・管理の方法について理解する 6. ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応 1) 飼育マナーの必要性や目的について理解する 2) 飼育マナーの歴史、地域における飼育マナーの違いについて理解する 3) 地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種の条例について理解する 4) 愛玩動物の種類別に必要とされている飼育マナーについて理解する 5) ペット保険の仕組みと実態について理解する									
講義概要									
動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。									
授業計画								担当教員	
1 犬と猫の関わる法律・基準、犬の飼養環境整備								三井	
2 猫の飼養環境整備								三井	
3 犬の管理方法、問題行動予防、猫の管理方法、問題行動予防								三井	
4 ペットツーリズム、ペット同伴宿泊施設								秋山	
5 ドッグランの環境整備								秋山	
6 ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興								秋山	
7 動物愛護管理センターの役割								三井	
8 動物収容保護施設や災害時避難施設の環境整備、シェルターメディスン								三井	
9 飼い主教育と動物の社会化トレーニング施設								三井	
10 動物介在教育、学校飼育動物等の施設の環境整備								秋山	
11 ペット飼育マナーと関連条例								秋山	
12 愛玩動物の種類別飼育マナー、ペット保険								秋山	
13 ペットツーリズム（ゲストスピーカー）								秋山	
14 ペット保険（ゲストスピーカー）								秋山	
15 民間シェルターの運営（ゲストスピーカー）								三井	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
Moodle トピック内に授業内テストの詳説を掲示。									

履修上の注意
授業は配布資料、パワーポイントおよび板書をもとに進めていく。重要事項を積極的にノートに書きとるようにし、自筆ノートの作成と記憶の定着を心がけること。配布資料は忘れず持参すること。＊欠席した場合は、次の授業までに理由を明記してメールを送ること。Moodle を利用した掲示、授業参考資料の配布などをするので、各講義前には確認を怠らないこと。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：各授業回の内容に関する教科書のページを読んでおくこと 事後学修：授業内テストの復習と関連項目の発展学習
評価方法（評価基準を含む）
授業内テスト（75 %）および授業への参加度（25 %）から総合的に評価する。 授業への参加度は授業内の学修態度に加え、予習や授業の不明点について質問する等の積極的な学修姿勢も評価の対象となる。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠 10 巻「適正飼養指導論／動物生活環境学／ペット関連産業概論」エデュワードプレス
参考書、教材等
適宜講義内に紹介する。

授業科目	動物行動学				実務家教員	—	担当教員	フリッツ 吉川 綾
科目英名	Animal Behavior							
開講期間	2 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]		
到達目標								
1. 動物行動学の基礎 1) 動物行動学の4つの問い（適応・進化・機構・発達）について理解する 2) 行動の進化と適応、家畜化について理解する 3) 生得的行動と学習行動について理解する 4) 脳による行動制御について理解する 2. 個体維持行動 1) 摂食及び飲水行動について理解する 2) 排泄行動について理解する 3) 身づくろい行動について理解する 4) 護身行動について理解する 3. 発達過程と社会行動 1) 発達ステージ（新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期）と各時期の行動学的特徴について理解する 2) 生殖行動（性行動・母性行動）について理解する 3) コミュニケーション行動について理解する 4) 敵対行動と親和的行動について理解する 4. 学習理論 1) 行動形成について理解する 2) 馴化と感作について理解する 3) 古典的条件づけとオペラント条件づけについて理解する 4) 学習に影響を与える因子について理解する 5) 基本的なトレーニング法（トイレトレーニング、クレートトレーニング、甘噛み対策など）について理解する 5. 問題行動 1) 問題行動の定義と要因（遺伝的要因、生得的要因、環境要因）について理解する 2) 攻撃行動の種類、原因（動機づけ）と治療法について理解する 3) 恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法について理解する 4) 不適切な排泄行動の原因（動機づけ）と治療法について理解する 5) 高齢性認知機能不全の原因と臨床徴候、対応について理解する 6. 行動治療 1) 行動診療の進め方について理解する 2) 行動修正法と環境修正法の種類と適応について理解する 3) 行動治療における薬物療法について理解する								
講義概要								
犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。								
授業計画								
1 動物行動学の基本概念（至近要因と究極要因）、行動の進化（自然選択説） 2 維持行動の意味と効果 3 社会行動（群れることの意義、個体間コミュニケーション、敵対行動と親和行動） 4 行動発現のしくみ（行動の動機づけ、生得的行動の探索行動と完了行動） 5 行動発現の時期（周期性、生殖行動、犬と猫の発達科学） 6 行動の学習理論（古典的条件付けとオペラント条件付け） 7 問題行動の定義と要因（正常行動と異常行動、先天的要因と後天的要因） 8 行動診療の手順（カウンセリングとコンサルテーション） 9 行動の修正方法（系統的脱感作、拮抗条件付け、高次条件付けなど） 10 犬における攻撃性に関する問題行動と対処法（自己主張性攻撃行動など） 11 犬における恐怖・不安に起因する問題行動と対処法（恐怖性／防御性攻撃行動など） 12 猫における排せつに関する問題行動と対処法（尿マーキングなど）								

13 猫における攻撃性に関する問題行動と対処法（葛藤性攻撃行動など）
14 犬と猫における高齢性認知機能不全と対処法
15 問題行動の予防（飼育前コンサルテーション、子犬教室、適切なハンドリング法）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
授業内に小テストを行い、要点の確認を行う。講義に関する質問には随時応じる。
履修上の注意
授業は配布資料、パワーポイントをもとに進めていく。重要事項を積極的に配布資料に記入し、自筆資料の作成と記憶の定着を心がけること。配布資料は忘れず持参すること。＊欠席した場合は、次の授業までに、理由を明記してメールを送ること。Moodle を利用した掲示、授業参考資料の配布などをするので、各講義前には確認を怠らないこと。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：各授業回の内容に関する教科書のページを読んでおくこと 事後学修：授業内テストの復習と関連項目の発展学習
評価方法（評価基準を含む）
定期試験（70 %）および授業への参加度（30 %）から総合的に評価する。 授業への参加度は授業内の学修態度に加え、予習や授業の不明点について質問する等の積極的な学修姿勢も評価の対象となる。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠 6 巻「動物行動学／愛玩動物学／比較動物学」エデュワードプレス
参考書、教材等
獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠「臨床行動学」（森裕司、他著）インターズー

授業科目	動物遺伝学				実務家教員	—	担当教員	村上 隆広
科目英名	Animal Genetics							
開講期間	1 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕		
到達目標								
ヒトを始め、ヒトとの関連が深い動物等を例にとり、メンデル遺伝学を中心とする従来の遺伝学、分子遺伝学を中心とする新たな遺伝学、さらに実際に活用されている応用遺伝学に至るまでを体系的に学修し、動物看護学並びに動物人間関係学の両専攻において必要となる動物遺伝学の基礎知識の修得を到達目標とする。								
講義概要								
遺伝学は、現在、生命科学全体の中で中心的な法則を構成する存在となっている。遺伝学の概念は、それまでの古典的な経験法則の累積から、近年の分子遺伝学や集団遺伝学の著しい進歩により理論的構成をもつ学問へと確立されてきた。本講義ではメンデル遺伝学を中心とする遺伝学の基本的概念を解説する。また、従来のメンデル遺伝学と分子遺伝学との関連、さらに、これらが実験動物、産業動物や伴侶動物においてどのように利用されているかを紹介し、遺伝学が生殖学や発生工学とどのように関連しているかを解説する。								
授業計画								
1 遺伝学でわかること 2 遺伝の基本法則（1）メンデルの法則 3 遺伝の基本法則（2）メンデルの法則の拡張 4 遺伝子の構造と機能（1）DNA の構造 5 遺伝子の構造と機能（2）遺伝子の複製と情報伝達 6 染色体、連鎖 7 突然変異、遺伝地図の作成 8 性の遺伝 9 量的形質の遺伝 10 集団の遺伝 11 自然淘汰 12 性淘汰 13 種間関係と進化 14 行動の進化 15 遺伝学のまとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業ごとに小テストを行い、その解説と質問・意見への対応を示す。								
履修上の注意								
基礎生物学を受講しておくことが望ましい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：各授業に関連する基礎的事項やキーワードを確認しておくことよい。 事後学修：配布資料や小テストでポイントを伝えるので、その箇所を重点的に見直すこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業ごとの小テストや課題（40%）、節目ごとの試験（レポートを含む、60%）により総合的に評価する。								
教科書								
教科書は指定しない。講義時にプリントを配布する。								
参考書、教材等								
カラー図解 進化の教科書 第 2 巻進化の理論，2017 年，カール・ジンマー，ダグラス・J・エムレン著，講談社ブルーバックス								

授業科目	動物繁殖学				実務家 教員	—	担当 教員	村上 隆広
科目英名	Theriogenology							
開講期間	3 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]		
到達目標								
1. 生殖器の形態と機能 1) 生殖器（雌・雄）の基本構造について理解する 2) 主要な性ホルモンの名称、産生部位及び標的器官について理解する 3) 雄の繁殖生理について理解する 4) 雌の繁殖生理について理解する 2. 性周期と交配 1) 性成熟と発情徴候について理解する 2) 排卵（自然排卵・交尾排卵）の仕組みについて理解する 3) 性周期と腔細胞スメアの関係について理解する 4) 交配適期の決定法について理解する 3. 妊娠と分娩 1) 着床・発生・妊娠・胎子の発育について理解する 2) 妊娠期間、偽妊娠について理解する 3) 分娩と助産、帝王切開について理解する 4) 去勢・不妊手術について理解する 5) 人工授精について理解する 4. 新生子管理 1) 新生子のための飼養環境について理解する 2) 初乳の意義と哺乳について理解する 3) 新生子の発育過程について理解する 5. 遺伝学概論 1) 遺伝のメカニズムについて理解する 2) さまざまな遺伝様式（顕性・潜性、伴性遺伝など）について理解する 3) 遺伝子疾患、発生異常について理解する								
講義概要								
繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。動物にとって繁殖は行動や進化の基盤となるきわめて重要なプロセスである。繁殖が動物の進化に大きな影響を及ぼしてきたプロセスや、繁殖にともなう行動学的、生理学的、形態学的な特徴を総合的に理解する。								
授業計画								
1 繁殖とは何か？繁殖と進化のつながり 2 遺伝のメカニズム、DNA の構造 3 遺伝様式と近年の遺伝学的知見・技術 4 生殖器の形態と機能 5 性ホルモンによる生殖機能の調節 6 性成熟と発情徴候、性周期、交配適期 7 卵子・精子と受精の仕組み 8 着床、発生、妊娠、胎仔の発育 9 分娩、去勢、不妊手術 10 新生子の飼養環境と哺乳、発育 11 産業動物の繁殖生理（1） 12 産業動物の繁殖生理（2） 13 遺伝子疾患と発生異常 14 野生動物の繁殖生理 15 繁殖学のまとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小テストについては次の回の講義で解説と講評を行う。								
履修上の注意								
遺伝学、発生学の基礎を学んでいることが望ましい。								

事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：各授業に関連する基礎的事項やキーワードを確認しておくとい。
事後学修：配布資料や小テストでポイントを伝えるので、その箇所を重点的に見直すこと。
評価方法（評価基準を含む）
授業への参加度と小テスト（50%）、定期試験（50%）の結果をふまえて総合的に評価する。
教科書
教科書は指定しない。講義時にプリントを配布する。
参考書、教材等
動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠・基礎動物看護学 1，動物形態機能学・動物繁殖学，エデュワードプレス

授業科目	動物薬理学					実務 家教員	—	担当 教員	◎牛根 奈々・近藤 晶弘
科目英名	Veterinary Pharmacology								
開講期間	2 年次 前期	動物看護学科	動物人間関係学科	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
		必修科目 2 単位	選択科目 2 単位						
到達目標									
1. 動物薬理学の基礎 1) 獣医臨床における薬物治療の概念と目的について理解する 2) 薬理作用とその発現機構について理解する 3) 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）と半減期、耐性について理解する 4) 薬物間相互作用について理解する 5) 副作用と中毒について理解する 2. 愛玩動物看護師による薬物の取扱い 1) 獣医師による投薬量計算について理解する 2) 各種投薬法（投与経路）を理解し、自宅での投薬を飼い主に指導できる 3) 薬物の適切な管理方法について理解する 3. 神経系に作用する薬物 1) 全身麻酔薬と局所麻酔薬について理解する 2) 鎮痛薬について理解する 3) 運動神経系に作用する薬について理解する 4) 鎮静薬と抗けいれん薬について理解する 5) 問題行動の治療に用いられる薬について理解する 4. 呼吸器系に作用する薬物 1) 呼吸興奮薬について理解する 2) 鎮咳薬について理解する 3) 気管支拡張薬について理解する 5. 循環器・泌尿器に作用する薬物 1) 血管拡張薬（降圧薬）について理解する 2) 心不全治療薬（強心薬）について理解する 3) 抗不整脈薬について理解する 4) 利尿薬について理解する 6. 消化器に作用する薬物 1) 制吐薬について理解する 2) 制酸薬と胃粘膜保護薬について理解する 3) 消化管運動調節薬について理解する 4) 止瀉薬について理解する 5) 瀉下薬について理解する 6) 肝疾患の治療に用いられる薬物について理解する 7) 膵酵素製剤について理解する 7. オータコイド、代謝・内分泌系の薬物 1) 代表的なオータコイドについて理解する 2) 糖尿病治療薬について理解する 3) 甲状腺ホルモン製剤について理解する 4) ステロイドホルモン製剤について理解する 8. 血液・免疫系に作用する薬物 1) 抗貧血薬について理解する 2) 血液凝固抑制薬について理解する 3) 血液凝固促進薬（止血薬）について理解する 4) 非ステロイド系抗炎症薬（NSAIDs）について理解する 5) 免疫抑制薬について理解する 9. 感染症の治療、予防に用いられる薬物 1) 抗菌薬について理解する（作用機序による分類、抗菌スペクトルなど） 2) 抗真菌薬について理解する									

3) 駆虫薬について理解する 4) 殺虫薬について理解する 5) 消毒薬について理解する 10. 悪性腫瘍の治療に用いられる薬物 1) 抗悪性腫瘍薬について理解する（作用機序による分類）	
講義概要	
代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	
授業計画	担当教員
1 動物薬理学の基礎 1（薬物治療の概念と目的、薬理作用と発現機構）	牛根
2 動物薬理学の基礎 2（薬物動態、半減期、耐性）	牛根
3 動物薬理学の基礎 3（薬物間相互作用、副作用と中毒、添付文書）	牛根
4 愛玩動物看護師による薬物の取扱（投薬量計算、投薬法、飼主指導、管理方法）	牛根
5 神経系に作用する薬物（全身・局所麻酔、鎮痛薬、運動神経系作用薬、鎮静薬と抗けいれん薬、問題行動への治療薬）	牛根
6 呼吸器系に作用する薬物（呼吸興奮薬、鎮咳薬、気管支拡張薬）	牛根
7 循環器・泌尿器に作用する薬物（血管拡張薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、利尿薬）	近藤
8 代謝・内分泌系の薬物（糖尿病治療薬、甲状腺ホルモン製剤）	牛根
9 消化器に作用する薬物（制吐薬、制酸薬と胃粘膜保護薬、消化管運動調節薬、止瀉薬、瀉下薬、肝疾患治療薬、膵酵素製剤）	近藤
10 オータコイド関連薬、ステロイドホルモン製剤	近藤
11 感染症の治療薬、予防薬 1（抗菌薬、抗真菌薬）	近藤
12 感染症の治療薬、予防薬 2（駆虫薬、殺虫薬、消毒薬）	近藤
13 悪性腫瘍治療薬（抗悪性腫瘍薬）	近藤
14 血液・免疫系に作用する薬物 1（非ステロイド系炎症薬、免疫抑制薬）	近藤
15 血液・免疫系に作用する薬物 2（抗貧血薬、血液凝固抑制薬、血液凝固促進薬）	近藤
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	
確認小テストは授業の中で解答と解説を行う。	
履修上の注意	
小テストを毎回講義後に実施する。結果は成績評価の対象とする。	
事前・事後学修（予習・復習）の内容	
事前学修：講義前に各回の授業計画テーマについて教科書等を使用して可能な限り予習をする。 事後学修：授業で示されたポイント事項及び実施された確認テストについて、配付資料、教科書等をもとに復習を行い、知識を確実なものにする。	
評価方法（評価基準を含む）	
授業への参加度 20%（レポート提出を含む）と筆記試験 80%（定期試験 50%、小テスト 30%）の結果等を踏まえ総合的に評価する。	
教科書	
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 2 巻 動物病理学 / 動物薬理学（日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編）エデュワードプレス	
参考書、教材等	
講義内容に沿った資料を配布する。 参考書については講義の中で紹介する。	

授業科目	動物病理学					実務家教員	—	担当教員	梅村 隆志
科目英名	Veterinary Pathology								
開講期間	2 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]		
到達目標									
1．動物病理学の基礎 1) 病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義について理解する 2) 病理組織標本の作製法について理解する 3) 病理組織学的検査の実施手順について理解する 2．細胞や組織に生じる変化 1) 変性と物質沈着について理解する 2) 壊死とアポトーシスについて理解する 3) 細胞増殖のメカニズム、再生と化生について理解する 4) 過形成と肥大について理解する 5) 低形成と萎縮について理解する 3．循環障害 1) 充血とうっ血について理解する 2) 出血の原因と病態について理解する 3) 血栓の成因について理解する 4) 虚血と梗塞について理解する 5) 浮腫と水腫について理解する 6) ショックの原因と分類、病態について理解する 7) 播種性血管内凝固（DIC）の病態について理解する 4．炎症 1) 炎症の定義と 5 大主徴について理解する 2) 炎症の分類と原因と特徴について理解する 3) 炎症に関与する細胞と化学伝達物質について理解する 4) 炎症の経過と治癒について理解する 5．腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類について理解する 2) 腫瘍の原因と発生機序について理解する 3) 腫瘍と宿主の関係について理解する 4) 腫瘍の転移と進行について理解する 6．先天異常 1) 遺伝子・染色体異常について理解する 2) 発生異常と奇形について理解する									
講義概要									
様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。									
授業計画									
1 病理学分野に関する概論と病理組織標本の作製 2 恒常性の維持（ホメオスタシス・フィードバック機構） 3 退行性病変（変性・壊死・アポトーシス） 4 退行性病変（肥大・萎縮・代謝異常による沈着） 5 進行性病変（再生・過形成・化生） 6 進行性病変（細胞増殖シグナル・創傷治癒） 7 循環障害（充血とうっ血・浮腫と水腫） 8 循環障害（出血・血液凝固と線溶系・塞栓症・虚血と梗塞・DIC） 9 炎症（炎症の定義・原因・転帰） 10 急性炎症と慢性炎症（5 大主徴・化学伝達物質・サイトカイン・肉芽組織・瘢痕化と硬化症）									

11 免疫（免疫の基礎・液性免疫・細胞性免疫）
12 免疫異常（自己免疫疾患・アレルギー・免疫不全）
13 腫瘍（定義と分類・悪性腫瘍の特徴（異形性・浸潤・転移））
14 腫瘍（発生機序（遺伝子異常・がん遺伝子・がん抑制遺伝子）・腫瘍マーカー）
15 先天異常（遺伝子異常・染色体異常・奇形（低形成・異常癒合・位置異常））
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
提出された課題に対する評価基準の説明を行う予定である
履修上の注意
動物解剖学、生化学、生理学等の基礎科目をきちんと理解しておく必要がある。また、病理学用語について十分に理解すること。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
シラバスを参考に事前に基礎知識の収集に努めること。授業中に示された資料に基づきノートをまとめ、教科書を用いて復習し、図書館等を利用して知識の上積みに努めること。
評価方法（評価基準を含む）
授業への参加度（20%）、課題レポート提出（20%）、定期試験（60%）での総合評価
教科書
動物病理学・動物薬理学、エデュワードプレス
参考書、教材等
特になし

授業科目	動物臨床看護学総論				実務家教員	—	担当教員	◎富田 幸子・鈴木 友子 フリッツ吉川 綾
科目英名	General Theories of Veterinary Clinical Nursing							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1. 動物看護過程の展開 1) 動物看護過程の目的や意義、方法について理解する 2) 動物看護過程の各ステップについて理解する 3) アセスメントについて理解する 4) 事例ごとの個別性、情報の整理と解釈について理解する 5) 問題の明確化と動物看護計画の立案について理解する 6) 動物看護過程の実施と評価について理解する 2. 診療記録 1) 診療録（カルテ）の作成方法について理解する 2) 動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法について理解する 3. 動物看護業務 1) チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) ケアの標準化（クリティカルパス）について理解する 3) 事故管理、防止システムについて理解する 4) 若齢動物看護の特徴について理解する 5) 高齢動物看護の特徴や褥瘡について理解する 6) 家庭での継続看護を視野に入れた退院計画・指導について理解する 4. ターミナルケアに関わる技術 1) ターミナルケアの目的と意義について理解する 2) QOL やホスピス、緩和ケアについて理解する 3) グリーフケアについて理解する 4) 死亡した動物への対応とエンゼルケアについて理解する								
講義概要								
動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。								
授業計画							担当教員	
1 動物看護師とは（役割、チーム獣医療、マナー、挨拶、コミュニケーション）							富田 幸子	
2 動物看護過程の展開 1（目的、意義、方法、各ステップの理解）							富田 幸子	
3 動物看護過程の展開 2（アセスメント、事例ごとの個別性、情報整理と解釈）							富田 幸子	
4 動物看護過程の展開 3（問題の明確化、看護計画の立案、看護実践と評価）							富田 幸子	
5 動物看護過程の展開 4（問題解決過程、関連図の作成）							富田 幸子	
6 診療記録 1（カルテの作成方法）							フリッツ吉川 綾	
7 診療記録 2（看護記録の目的、書式、事例に応じた作成法）							フリッツ吉川 綾	
8 動物看護業務 1（ケアの標準化、事故管理、防止システム）							フリッツ吉川 綾	
9 動物看護業務 2（衛生安全管理と環境整備）							フリッツ吉川 綾	
10 動物看護業務 3（若齢動物の看護）							フリッツ吉川 綾	
11 動物看護業務 4（高齢動物の看護、褥瘡）							鈴木 友子	
12 動物看護業務 5（日常管理と入院管理、退院計画・指導）							鈴木 友子	
13 動物看護業務 6（経過に基づく看護：急性期、回復期、慢性期、終末期、周術期）							鈴木 友子	
14 ターミナルケア技術に関わる技術 1（目的と意義、QOL、ホスピス、緩和ケア）							鈴木 友子	
15 ターミナルケア技術に関わる技術 2（グリーフケア、エンゼルケア）							鈴木 友子	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
レポート等にコメントを返す。								
履修上の注意								
学ぶ事柄が広範で基本的項目が多いので、段階的に学ぶ専門科目の教科書や参考書に目を通して、専門用語を予習で調べる等して、その科目に馴染んでおくこと。								

事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：授業の内容に関する教科書等を読むこと。 事後学修：授業の配布資料、教科書を読み返し、ノートにまとめる。
評価方法（評価基準を含む）
授業の参加度及びレポート課題（40％）、定期試験等（60％）の総合評価
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 9 巻 動物臨床看護学総論 / 動物臨床看護学各論（日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編）エデュワードプレス 講義内容に沿ったプリントを配布する。
参考書、教材等
講義内で紹介する。

授業科目	動物内科看護学実習Ⅰ				実務家教員	—	担当教員	◎富田 幸子・三井 香奈 荒川 真希・秋山 蘭 友野 悠
科目英名	Practice of Veterinary Medicinal NursingⅠ							
開講期間	1 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1. 身体検査 1) 全身状態（意識レベル、ボディコンディションスコア、粘膜色、浅在リンパ節、体重測定を含む）を評価できる 2) バイタルサインを評価できる（体温、脈拍数、呼吸数、毛細血管再充満時間（CRT）、股動脈圧） 2. 診察補助 1) 診察の準備や診察室の衛生管理ができる 2) 基本的な保定を実施することができる 3) 聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる 4) 採血・採尿（尿カテーテルの挿入を含む）の手順を習得している 5) 薬剤の取扱い、経口投与・注射の手順を習得している								
講義概要								
内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。								
授業計画								
1 動物看護学の基礎知識（諸注意、消毒法）と診察補助 1（診察準備、診察室の衛生管理） 2 イヌの扱い方（ボディランゲージ観察、リーシュのかけ方、ケージからの出し方、体重測定） 3 診察補助 2：基本保定法 1（基本的な保定法） 4 診察補助 3：基本保定法 2（採血・採尿等の処置の手順と保定、検査時の保定） 5 ネコの扱い方（扱い方と保定法） 身体検査 1（体温計・聴診器の取扱い、全身状態の評価、ボディコンディションスコア、浅在リンパ節、 6 バイタルサイン-体温、脈拍数、呼吸数-評価） 7 身体検査 2（CRT、粘膜色、股動脈圧、脱水の評価） 8 身体検査 3（意識レベル、身体検査まとめ） 9 診察補助 4（薬剤の取扱い、薬用量計算） 10 診察補助 5（経口投与を含む投薬方法と投薬指導） 11 診察補助 6（注射の手順と薬液の取扱い、薬用量計算） 12 診察補助 7（ワクチン接種） 13 保定法復習（横臥位を含む保定法） 14 総まとめ 15 実技チェック								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
レポート等にコメントを返す。								
履修上の注意								
学修する範囲が広範で基本的な項目が多いので、段階的に学ぶ専門科目の教科書や参考書に目を通して、専門用語を調べるなど予習復習して、その科目に馴染んでおくこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学習：授業の内容に関する教科書等を読み、前期授業と関連付ける。 事後学習：授業および配布資料を見返し、ノートにまとめる。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度及び課題レポート（60％）、定期試験（実技及び筆記試験）等（40％）の総合評価								
教科書								
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻 動物内科看護学 / 動物臨床検査学（日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編）エデュワードプレス エデュワードプレス社「動物看護実習テキスト（第 3 版）」								
参考書、教材等								
講義内容に沿ったプリントを配布する。 1) よく診る犬の疾患・猫の疾患 50（鈴木立雄、interzoo）、2) 動物看護テキスト（改訂 2 版）谷口明子著、ファームプレス）、3) 動物看護の実践（第 2 版）、ファームプレス								

授業科目	動物内科看護学					実務家教員	—	担当教員	フリッツ 吉川 綾
科目英名	Veterinary Medical Nursing								
開講期間	2 年次 後期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標									
1. 健康の保持・増進 1) 健康診断の内容と目的について理解する 2. 診療補助に必要な技術 1) 診察における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) 診察室の準備と衛生管理について理解する 3) 動物種ごとの適切な接し方について理解する 4) 保定の基本的な原理、目的、方法について理解する 5) 身体検査・アセスメント項目（体重、体温、脈拍、呼吸、意識レベル、粘膜色、股動脈圧、毛細血管再充満時間（CRT）、浅在リンパ節など）について理解する 3. 検査・処置に必要な技術 1) 注射器の取扱い及び管理方法について理解する 2) 採血の目的と方法について理解する 3) 採尿の目的と方法（穿刺、カテーテル導尿など）について理解する 4) 穿刺と吸引について理解する 5) 各種カテーテル挿入について理解する 6) 酸素吸入について理解する 7) マイクロチップの挿入について理解する 4. 投薬に関わる技術 1) 薬の処方について理解する 2) 内服薬の使用法について理解する 3) 薬剤の注射法について理解する 4) 外用薬の使用法、薬浴の実施法について理解する 5) 投薬前後の注意事項について理解する 5. 輸液に関わる技術 1) 輸液の適応とリスクについて理解する 2) 輸液計画について理解する 3) 各種輸液剤の特性や適応について理解する 4) 輸液中のモニタリングについて理解する 6. 輸血に関わる技術 1) 輸血の適応とリスクについて理解する 2) 輸血計画について理解する 3) クロスマッチ試験と血液型について理解する 4) 各種輸血製剤の適応や特性について理解する 5) 輸血に関わる手技について理解する 6) 輸血による副反応について理解する 7. 心電図と血圧に関わる技術 1) 心電図検査の目的と意義について理解する 2) 心電図検査の実施方法について理解する 3) 血圧測定の方法と意義、注意点について理解する 8. X線検査と CT/MRI に関わる技術 1) X線検査の目的と意義について理解する 2) 放射線防護について理解する 3) X線検査の実施方法と撮影体位について理解する 4) 造影検査と透視検査について理解する 5) フィルムの現像とデジタルX線撮影について理解する 6) CT 及び MRI の概要について理解する 9. 超音波検査に関わる技術 1) 超音波検査の目的と実施方法、保定体位について理解する 2) Bモード、Mモード、ドップラー法について理解する									

10. 内視鏡検査に関わる技術
 - 1) 内視鏡検査の目的と意義について理解する
 - 2) 内視鏡検査の実施方法、準備事項について理解する
 - 3) スコープの洗浄・消毒法について理解する
11. 神経学的検査に関わる技術
 - 1) 姿勢反応と脊髄反射について理解する
 - 2) 脳神経の検査法について理解する
 - 3) 神経学的検査の評価記録法について理解する
12. 眼科検査に関わる技術
 - 1) シルマー試験、フルオレセイン試験の方法と意義について理解する
 - 2) 眼圧測定の方法と意義について理解する
 - 3) 眼底検査の方法と意義について理解する
13. 皮膚と耳の検査に関わる技術
 - 1) 皮膚病変の観察と記録法について理解する
 - 2) 皮膚掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検について理解する
 - 3) ウッド灯検査と真菌培養法について理解する
 - 4) 外耳道の検査方法と意義について理解する

講義概要

内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。

授業計画

- 1 健康の保持・増進、診療補助に必要な技術：健康診断内容・目的、診察室準備・衛生管理、動物種別の接し方の理解
- 2 診療補助に必要な技術：保定の基本、身体検査項目の理解
- 3 検査・処置に必要な技術：注射器の取り扱い・採血・採尿についての基本事項の理解
- 4 検査・処置に必要な技術：穿刺・吸引・カテーテル挿入・酸素吸入・マイクロチップについての理解
- 5 投薬に関わる技術：薬剤の取り扱い・投与方法および注意事項の理解
- 6 輸液に関わる技術：適応例・投与計画および経過観察・各種輸液剤の特性について理解
- 7 輸血に関わる技術：適応例とリスク・投与計画および経過観察・クロスマッチや血液型判定・輸血に必要な手技や知識の理解
- 8 心電図と血圧に関わる技術：検査の目的・手技と意義の理解
- 9 X線検査と CT/MRI に関わる技術：X線検査の目的と意義・手技・防御の理解
- 10 X線検査と CT/MRI に関わる技術：造影・透視検査・現像法・CT・MRI について理解
- 11 超音波検査に関わる技術：検査の目的と意義・測定モードについて理解
- 12 神経学的検査に関わる技術：検査内容・評価記録方法の理解
- 13 眼科検査に関わる技術：検査方法の手技と意義の理解
- 14 皮膚と耳の検査に関わる技術：観察及び記録法・検査方法の手技と意義の理解
- 15 内視鏡検査に関わる技術：検査の目的と意義・装置の管理について理解

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

課題の返却を行う場合はコメントをつける。返却しない場合は総評を行う。質問には随時応じる。

履修上の注意

講義に対し十分な予習と復習を行うことが望ましい。講義の順序は代わることがある。事前に連絡するので注意すること。

事前・事後学修（予習・復習）の内容

教科書の該当部分や配布資料に目を通し、ノート整理等により授業内容を十分理解すること

評価方法（評価基準を含む）

定期試験 60%、レポートあるいは小テスト 20%、授業への参加度（授業内学修取り組みの程度）20%を総合的に評価する

教科書

動物看護学テキスト第2版補訂版（谷口明子著 ファームプレス）

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書第7巻 動物内科看護学 動物臨床検査学（エデュワードプレス）

参考書、教材等

「愛玩動物看護師の教科書」（緑書房）「動物看護コアテキスト」（ファームプレス）「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ」（エデュワードプレス）

授業科目	動物内科看護学実習Ⅱ					実務家教員	—	担当教員	◎フリッツ 吉川 綾 荒川 真希・三井 香奈 友野 悠
科目英名	Practice of Veterinary Medicinal Nursing Ⅱ								
開講期間	2 年次 後期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標									
1. 輸液・輸血に関わる技術 1) 留置針設置の手順を修得し、準備及び補助ができる 2) 輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できる 3) 輸液・輸血中の動物を管理できる 2. マイクロチップに関わる技術 1) マイクロチップの適切な挿入部位について理解する 2) マイクロチップ装着手順を習得している 3. 生体検査 1) 心電図検査を実施し、結果を記録できる 2) X線撮影のための基本的な保定ができる 3) 放射線防護のための装備を正しく扱える 4) 超音波検査のための基本的な保定ができる 5) 神経学的検査の所見を記録できる 6) 眼科検査（シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など）の補助ができる 7) 皮膚検査（掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査など）の補助ができる 8) 外耳道検査の補助ができる									
講義概要									
内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。									
授業計画									
1 感染症の動物の看護:隔離室入室準備、消毒薬の選択 2 妊娠動物の看護（妊娠徴候、妊娠動物のケア、新生子ケア） 3 高齢動物の看護（食事・排泄・運動補助、褥瘡ケア、認知機能不全のケア） 4 疾患動物の栄養管理と給餌方法（療法食の基礎、給餌方法） 5 マイクロチップに関わる技術、尿カテーテルからの採尿 6 輸液・輸血に関わる技術 1) 留置針設置の手順・準備及び補助、自然滴下 7 輸液・輸血に関わる技術 2) 輸液ポンプ、シリンジポンプの使用 方法 3) 輸液・輸血中の動物を管理 8 皮膚検査（掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査など）の補助 外耳道検査の補助（耳鏡の使い方） 9 心電図検査と結果の記録:心電図測定・正常波形の理解・心電計の管理 X線撮影の基本的な保定:頸部・胸部・腹部・骨格撮影時の保定 10 放射線防護のための装備:防護衣・被曝監視モニターの管理 11 眼科検査（シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など）の補助 12 神経学的検査所見の記録（姿勢反応、脊髄反射、脳神経の検査法および評価記録法） 13 保定法総合（超音波検査の保定、大型犬の保定） 14 総まとめ 15 実技チェック									
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
課題を返却する場合はコメントして返却。返却しない場合は総評を行う。									
履修上の注意									
実習参加にあたり、教員の指示があった指定の範囲を予習及び復習をして参加することが望ましい。 実習の順序や持ち物等が変更になる場合は、事前に連絡するため確認すること。									
事前・事後学修（予習・復習）の内容									
教科書等の該当部分、資料に目を通し、事後にはノート整理等で十分理解すること。									

評価方法（評価基準を含む）
実習への参加度:実習内容への取り組みの程度（30%）、レポート（30%）、実技・筆記試験（40%）の結果を総合的に評価する。
教科書
実習時の配布資料 動物看護実習テキスト（第3版）（エデュワードプレス）
参考書、教材等
動物看護学テキスト第2版（谷口明子著　ファームプレス）

授業科目	動物外科看護学					実務家教員	○	担当教員	木村 祐哉
科目英名	Veterinary Surgical Nursing								
開講期間	3 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標									
1. 外傷、創傷管理 1) 創傷の種類と治癒過程と管理方法について理解する 2) ドレーンの装着と管理法について理解する 3) 止血法について理解する 4) 骨折・脱臼の管理について理解する 2. 術前準備 1) 術前手続（飼い主への説明、承諾書など）や術前検査について理解する 2) 無菌的処置の重要性について理解する 3) 手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌法について理解する 4) 手術器具の準備と滅菌法について理解する 5) 手術室の機器類（无影灯、電気メス本体など）、準備について理解する 6) 器械台の準備について理解する 7) 動物の適切なポジショニングについて理解する 8) 術野の消毒について理解する 9) 手洗い、手術着・手袋の着用法について理解する 3. 麻酔 1) 麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) 麻酔リスクの評価（ASA 分類など）について理解する 3) 麻酔前投与（鎮静など）について理解する 4) 注射麻酔（局所麻酔を含む）の手技について理解する 5) 吸入麻酔の手技について理解する 6) 導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する 7) 麻酔看視項目（心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼気終末二酸化炭素濃度など）の監視方法、意義について理解する 8) 麻酔記録の作成法について理解する 4. 術中補助 1) 代表的な手術器具（メス、鉗子など）の名称と使用法について理解する 2) 代表的な縫合材（縫合針、縫合糸）の分類と使用法について理解する 3) 代表的な歯科器具の名称と使用法について理解する 4) 直接補助（手袋着用下での補助）の内容について理解する 5) 間接補助（手術回りの補助）の内容について理解する 5. 術後管理 1) 麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて理解する 2) 疼痛管理の意義と方法について理解する 3) 術創管理と包帯法について理解する 4) 退院時の注意点と飼い主への説明事項について理解する 5) 褥創の予防及び対処法（体位変換など）について理解する 6. 救急救命 1) エマージェンシーの原因と病態について理解する 2) 一次救命措置（BLS）について理解する 3) 二次救命措置（ALS）について理解する 4) 気管挿管と心肺蘇生の方法について理解する 7. 動物理学療法 1) 動物理学療法の目的と意義について理解する 2) 代表的な理学療法の原理と手技について理解する									

講義概要
外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。
授業計画
1 外科看護学概論 2 衛生管理（滅菌・消毒） 3 術前準備Ⅰ（外科的手洗い・ガウンテクニック） 4 術前準備Ⅱ（手術室・術野の準備） 5 麻酔と鎮静Ⅰ（薬剤と手順） 6 麻酔と鎮痛Ⅱ（モニタリング） 7 手術の概要Ⅰ（軟部外科） 8 手術の概要Ⅱ（整形外科・歯科） 9 外傷、創傷管理Ⅰ（分類と侵襲性） 10 外傷、創傷管理Ⅱ（治癒過程と管理） 11 術後管理 12 動物物理学療法 13 救急救命Ⅰ（病態とトリアージ） 14 救急救命Ⅱ（応急・救命処置） 15 総括
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
総括として、最終授業回到復習問題の解答をまじえた補充の解説を行う。
履修上の注意
既に履修している動物の形態機能や病態生理が前提となる科目であるので、理解した上で講義に臨むこと。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：各授業の最後に次回の内容について予告するので、当該箇所を自身で調べておくこと 事後学修：資料とあわせて配布する復習問題を解き、不明点の解消に努めること
評価方法（評価基準を含む）
定期試験 80%、授業への参加度 20%
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ 8 巻(動物栄養学/動物外科看護学/動物医療コミュニケーション)、監修：石岡克己 佐野忠士、EDUWARD Press
参考書、教材等
印刷教材や視聴覚教材を用いて進行し、参考書は授業内で適宜紹介する。

授業科目	動物外科看護学実習					実務家教員	○	担当教員	◎木村 祐哉・秋山 蘭
科目英名	Practie of Veterinary Surgical Nursing								
開講期間	3 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標									
1. 術前準備 1) 手術器具の準備、滅菌ができる 2) 手術衣、タオル・ドレープ類を準備し滅菌できる 3) 手術に必要な機器、器械台を準備できる 4) 手術台への動物の固定、術野の消毒ができる 5) 手洗い、手術衣や手袋の装着ができる 2. 術中補助 1) 麻酔器の各部名称や使用法を理解し、指示に従って操作できる 2) モニター機器（心電図、血圧計など）を接続でき、術中監視を行うことができる 3) 麻酔記録を作成することができる 4) 直接補助（器械の受渡しなど）ができる 5) 間接補助（无影灯、保温マットの操作など）ができる 6) 歯科器具の取扱いを理解し、歯科処置（歯石除去など）の補助ができる 3. 術後管理 1) 術後の創傷管理（ネット、カラー装着などを含む）ができる 2) 動物に包帯（粘着性、自着性など）を装着できる 3) 抜糸の補助ができる 4. 救急救命 1) 必要な機材、薬剤を迅速に準備できる 2) 気管挿管を補助できる 3) 心肺蘇生（人工呼吸、心マッサージ）の手順を習得している									
講義概要									
手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。									
授業計画									
1 術前準備 1(術者の手洗いと消毒、タオル・ドレープ類の準備と滅菌) 2 術前準備 2(手術衣の準備と滅菌) 3 術前準備 3(手術室入室時の身だしなみ、手洗い、手術衣と手袋の装着) 4 術前準備 4(手術台への動物の固定、術野の消毒、ドレーピング、器械台の消毒と準備、一般外科器具の準備と滅菌) 5 術中補助 1(麻酔薬の準備、麻酔器の名称と使用方法、一般外科器具の受け渡し、縫合などの直接補助、間接補助) 6 術中補助 2(気道確保、気管挿管に関する物品準備・保定、心電図や血圧計などのモニター機器の取扱い、麻酔記録作成) 7 医療機器関連の取扱い(電気メス、内視鏡装置、超音波診断装置など) 8 小動物歯科(歯科器具の取扱い、チャーティング、歯科処置補助) 9 X線の防護および実務 1(フィルム管理、撮影時のポジショニング) 10 X線の防護および実務 2(現像、正常像と異常像の読影) 11 術後管理(創傷管理としてドレッシング材・包帯材の取扱い、包帯法、カラー装着)、抜糸の補助、外用薬の調剤 12 特殊外科疾患(整形外科疾患、リハビリテーション) 13 救急救命対応(人工呼吸と心マッサージの手順、機材と薬剤の準備)／終末期医療 14 個人防護具の取扱(抗がん薬の取扱い、個人防護具)／総復習 15 外科総合									
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
小テストを実施後、解答の解説を行うこととする。レポートはコメントして返却する									

履修上の注意
服装および、安全・衛生面に注意すること。連絡事項に注意すること。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと 事後学修：毎授業後、実習資料の内容および実技について復習をしておくこと
評価方法（評価基準を含む）
授業への参加度（50%）、課題レポート（10%）、実技試験（20%）、筆記試験（20%）で総合的に評価。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ8巻(動物栄養学/動物外科看護学/動物医療コミュニケーション)、監修：石岡克己 佐野忠士、EDUWARD Press
参考書、教材等
愛玩動物看護師カリキュラム準拠動物看護実習テキスト第3版、EDUWARD Press そのほか、授業内で必要に応じて参考書等を提示する。

授業科目	動物臨床看護学各論Ⅰ				実務家教員	○	担当教員	◎富田 幸子・谷口 明子 木村 祐哉
科目英名	Particular Theories of Veterinary Clinical NursingⅠ							
開講期間	3 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1. 徴候や疾患の理解と対処 1) 代表的な徴候や病態、疾患について理解する 2) 徴候の評価と記録法について理解する 3) 痛みの評価について理解する 4) 徴候・疾患に基づいた援助について理解する 2. 代表的な徴候 1) 全身徴候 食欲不振・廃絶、元気喪失、発熱、疼痛、消瘦 2) 特異的徴候 運動不耐、咳、心雑音、不整脈（房室ブロック、期外収縮、心房・心室細動）、高 血圧、努力性呼吸、流涎、嘔吐、吐出、下痢、便秘、血便、黄疸、頻尿、血尿、多飲多尿、跛行、掻痒、発作、視力障害、難聴、眼振、斜頸、貧血、出血傾向 3) 特異的病態 尿毒症、肝性脳症、褥瘡、播種性血管内凝固（DIC） 3. 代表的な疾患 1) 消化器・栄養代謝性疾患 歯石症、不正咬合、歯肉炎、歯周炎、口蓋裂、口内炎、食道炎、食道狭窄、巨大食 道症、幽門狭窄、胃拡張胃捻転症候群（GDV）、胃炎、蛋白喪失性腸症（PLE）、炎症 性腸疾患（IBD）、食事反応性下痢（FRD）、抗菌薬反応性下痢（ARD）、腸リンパ管拡張症、消化管内異物、腸閉塞、腸捻転、腸重積、巨大結腸症、直腸脱、会陰ヘルニ ア、パルボウイルス感染症、肝炎、肝硬変、肝リポドーシス、門脈体循環シャント、胆嚢粘液嚢腫、膵炎、膵外分泌不全症（EPI） 2) 皮膚疾患 膿皮症、脂漏症、アトピー性皮膚炎、ノミアアレルギー性皮膚炎、好酸球性肉芽腫、食物アレルギー、天疱瘡、外耳炎、疥癬、耳ヒゼンダニ症、毛包虫症、皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、メラノーマ 3) 造血器・免疫介在性疾患 免疫介在性溶血性貧血（IMHA）、ネギ中毒、ヘモプラズマ症、バベシア症、腎性貧血、血友病、猫伝染性腹膜炎（FIP）、猫白血病ウイルス（FeLV）感染症、猫免疫不全ウイルス（FIV）感染症、リンパ腫、白血病、肥満細胞腫								
講義概要								
様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。								
授業計画								担当教員
1 徴候や疾患の理解と対処 1（発熱、排便/排尿異常、徴候の評価と記録）								富田 幸子
2 徴候や疾患の理解と対処 2（痛み評価、徴候・疾患に基づく援助）								富田 幸子
3 代表的な徴候 1（全身徴候：食欲不振・廃絶、元気喪失、発熱、疼痛、消瘦）								富田 幸子
4 代表的な徴候 2（特異的徴候：運動不耐、咳、心雑音、不整脈、下痢便秘など）								富田 幸子
5 代表的な徴候 3（特異的病態：尿毒症、肝性脳症、褥瘡、播種性血管内凝固（DIC））								富田 幸子
6 造血器・免疫介在性疾患 1（IMHA、ネギ中毒、ヘモプラズマ症）								谷口 明子
7 造血器・免疫介在性疾患 2（バベシア症、血友病、腎性貧血）								谷口 明子
8 造血器・免疫介在性疾患 3（FIP、FeLV 感染症、FIV 感染症）								谷口 明子
9 造血器・免疫介在性疾患 4（リンパ腫、白血病、肥満細胞腫等）								谷口 明子
10 消化器・栄養代謝疾患 1（口腔疾患、食道・胃疾患）								谷口 明子
11 消化器・栄養代謝疾患 2（蛋白喪失性腸症(PLE)、炎症性腸疾患（IBD）、下痢 等）								木村 祐哉
12 消化器・栄養代謝疾患 3（消化管内異物、腸閉塞、腸捻転、腸重積、巨大結腸症 等）								木村 祐哉
13 消化器・栄養代謝疾患 4（肝炎、肝リポドーシス、胆嚢粘液嚢腫、膵炎等）								木村 祐哉
14 皮膚疾患 1(感染性疾患：膿皮症、外耳炎、疥癬、毛包虫症、皮膚糸状菌症 等)								木村 祐哉
15 皮膚疾患 2(免疫性疾患：アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、天疱瘡、その他)								木村 祐哉

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
レポート等にはコメントを返す。小試験はその都度、解答と解説をする。
履修上の注意
教科書、参考書を読むなどして毎回の講義に十分な予習復習を行うこと。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：教科書、参考書をよく読む。 事後学修：配布資料、教科書、参考書を見返しノートにまとめる。
評価方法（評価基準を含む）
定期試験（70%）、レポート、小テスト、授業への参加度（30%）を考慮して総合的に評価する。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 9 巻 動物臨床看護学総論 / 動物臨床看護学各論（日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編）エデュワードプレス 動物臨床に役立つやさしい免疫学 ファームプレス 講義内容に沿ったプリントを配布する。
参考書、教材等
ビジュアルで学ぶ動物看護学（第 2 版）緑書房 よく診る犬の疾患・猫の疾患 60（鈴木立雄著）インターズー 疾患別 動物看護ハンドブック（日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科 臨床部門編）インターズー

授業科目	動物臨床看護学各論Ⅱ				実務家教員	○	担当教員	◎富田 幸子・谷口 明子 木村 祐哉
科目英名	Particular Theories of Veterinary Clinical NursingⅡ							
開講期間	3 年次 後期	動物看護学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1．代表的な疾患 1) 循環器疾患 僧帽弁逆流症、心筋症、血栓塞栓症、心膜腹膜横隔膜ヘルニア、心房中隔欠損、心室中隔欠損、卵円孔開存、右大動脈弓遺残症、動脈管開存症、犬糸状虫症 2) 呼吸器疾患 猫上部気道感染症、鼻炎、軟口蓋過長、気管虚脱、短頭種気道症候群、気管支拡張 症、気管支炎、肺炎、肺水腫、猫喘息、膿胸、ジステンパー、ケンネルコフ 3) 泌尿器疾患 急性腎障害（AKI）、慢性腎臓病（CKD）、腎盂腎炎、蛋白喪失性腎症（PLN）、尿路感染症、尿石症、膀胱炎、猫下部尿路疾患（FLUTD）、尿道閉塞症、レプトスピラ症 4) 内分泌疾患 甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、糖尿病、副腎皮質機能亢進症（クッシング症候群）、副腎皮質機能低下症（アジソン病）、尿崩症 5) 生殖器疾患 潜在精巣、前立腺炎、前立腺肥大、子宮蓄膿症、偽妊娠、難産、陰脱、乳腺炎、犬ブルセラ症、乳腺腫瘍 6) 整形外科疾患 骨折、脱臼、膝蓋骨脱臼、関節炎、変形性関節症、前十字靱帯断裂、股異形成、レッグペルテス病、骨肉腫 7) 眼疾患 結膜炎、角膜炎、乾性角結膜炎、角膜潰瘍、ぶどう膜炎、緑内障、白内障、核硬化症、流涙症、第三眼瞼腺脱出（チェリーアイ）、異所性睫毛 2．担がん動物の看護 1) がんの診断のための検査と治療の手順について理解する 2) 腫瘍随伴症候群について理解する 3) がんの治療を受けている動物の看護援助について理解する 4) 担がん動物の治療と化学療法の副作用について理解する								
講義概要								
3 年前期までに教授された内容を土台に、より専門的に病態、臨床病理、診断、治療、看護を相互に関連づけて総合的に概説する。								
授業計画								担当教員
1 循環器疾患 1(先天性心疾患:心膜腹膜横隔膜ヘルニア，心房中隔欠損，心室中隔欠損等)								富田 幸子
2 循環器疾患 2(後天性心疾患：僧帽弁逆流症、心筋症、血栓塞栓症、犬糸状虫症 等)								富田 幸子
3 内分泌疾患 1（甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、糖尿病、クッシング症候群等)								富田 幸子
4 内分泌疾患 2（アジソン病、尿崩症 等)								富田 幸子
5 生殖器疾患								富田 幸子
6 担がん動物の看護 1								谷口 明子
7 担がん動物の看護 2								谷口 明子
8 呼吸器疾患 1（猫上部気道感染症、鼻炎、軟口蓋過長、気管虚脱、気管支炎 等)								谷口 明子
9 呼吸器疾患 2								谷口 明子
10 呼吸器疾患 3								谷口 明子
11 眼疾患								木村 祐哉
12 泌尿器疾患 1								木村 祐哉
13 泌尿器疾患 2								木村 祐哉
14 整形外科疾患 1								木村 祐哉
15 整形外科疾患 2								木村 祐哉
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題はコメントを返す。小試験はその都度、解答と解説をする。								

履修上の注意
教科書、参考書を読むなどして毎回の講義に十分な予習復習を行うことを希望する。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：教科書、参考書をよく読む。 事後学修：配布資料、教科書、参考書を見返しノートにまとめる。
評価方法（評価基準を含む）
定期試験（70%）、レポートまたは小テスト（20%）、授業への参加度（10%）を考慮して総合的に評価する。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 9 巻 動物臨床看護学総論 / 動物臨床看護学各論（日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編）エデュワードプレス 講義内容に沿ったプリントを配布する。
参考書、教材等
ビジュアルで学ぶ動物看護学（第 2 版）緑書房 よく診る犬の疾患・猫の疾患 60（鈴木立雄著）インターズー 疾患別 動物看護ハンドブック（日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科 臨床部門編）インターズー

授業科目	動物臨床看護学各論Ⅲ				実務家教員	○	担当教員	◎岡崎 登志夫 宮井 紗弥香
科目英名	Veterinary Nursing Detail III							
開講期間	4 年次 後期	動物看護学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1 代表的な疾患 1) 神経疾患：脳炎、水頭症、てんかん、ウォブラー症候群、椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、馬尾症候群 2) 緊急疾患：交通事故、感電、熱傷、熱中症、中毒、誤飲、ショック、アナフィラキシー等の基本的病態を理解し、提供すべき看護について提案できる。また、これらの特殊検査法の検査結果に基づいて、病態を把握することができる。								
講義概要								
様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。								
授業計画								担当教員
1 動物医療における特殊検査の位置付け								宮井
2 微生物検査（細菌）								宮井
3 微生物検査（真菌、ウイルス）								宮井
4 病理・細胞診検査（特殊染色）								宮井
5 遺伝子検査と遺伝子治療（PCR、シーケンス法）								宮井
6 免疫検査								宮井
7 ホルモン検査								宮井
8 動物臨床検査（近年のトピック）								宮井
9 全血材料の特殊検査と看護計画（ヘマトクリット異常）								岡崎
10 全血材料の特殊検査と看護計画（H b 異常）								岡崎
11 血液細胞の特殊検査と看護計画（CBC 検査異常と特殊染色）								岡崎
12 血清・血漿材料の特殊検査と看護計画（タンパク質分画）								岡崎
13 血清・血漿材料の特殊検査と看護計画（アイソザイム検査）								岡崎
14 尿の特殊検査と看護計画（尿糖、尿沈渣異常）								岡崎
15 その他の材料の特殊検査と看護計画（唾液、糞便潜血検査）								岡崎
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
毎回、前回の授業内容に関する小テストを実施し、解説に基づいて各自で採点し、到達度を自己評価できるようにする。また、解答用紙を回収し、次回に全体の到達度についてフィードバックする。								
履修上の注意								
各論Ⅰ及びⅡの疾患の徴候や病態に関する基礎的事項を理解しておくこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修として各授業回の内容に関連する参考書を事前に読んでおく。 事後学修として小テストの結果、理解が不十分な部分については、配布プリントを再度見直す。								
評価方法（評価基準を含む）								
試験あるいはレポート、授業への参加度（小テスト結果を含む）から総合的に評価する。その割合は、試験あるいはレポート 80%、授業への参加度（小テスト結果を含む） 20%とする。								
教科書								
なし（配布プリント使用）。								
参考書、教材等								
その都度紹介する。								

授業科目	動物臨床看護学実習				実務家教員	○	担当教員	◎富田 幸子・谷口 明子 木村 祐哉
科目英名	Practice of Veterinary Clinical Nursing							
開講期間	3 年次 後期	動物看護学科 選択科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1. 動物看護過程の実践（事例演習） 1) 事例を通して動物看護アプローチの個別性について理解する 2) 看護動物の生活環境（家族を含む）が健康に及ぼす影響を理解する 3) 症状や入院・治療が看護動物と家族に及ぼす影響を理解する 4) 看護動物の看護上の問題を理解し、優先順位を付けることができる 5) 看護動物の援助の内容・方法を立案できる 6) 動物看護計画を作成できる 7) 動物看護記録を作成できる 2. 入院及び栄養管理 1) 入院動物の管理、アセスメントができる 2) ケージの清掃、管理ができる 3) ペインスケールを用いて痛みの程度を評価できる 4) 栄養チューブ設置の準備や流動食の調製ができる 5) 褥瘡を持つ動物の看護（体位変換など）ができる								
講義概要								
動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。								
授業計画								担当教員
1 動物看護過程の実践（アセスメント、看護診断、看護計画、看護実践、看護評価）								富田
2 事例：感染症疾患動物の看護（入院管理、清掃、消毒、汚染防止）								富田
3 事例：循環器疾患動物の看護（一般身体検査、心電図測定、X 線撮影保定、看護診断と計画）								富田
4 事例：リハビリテーションと看護（歩様検査、関節の質・量、看護診断と計画）（ゲストスピーカー）								富田
5 事例：高齢動物の看護（褥瘡看護、体位変換、看護診断と計画）								富田
6 事例：感覚器疾患動物の看護（点眼、眼圧測定、耳道処置、看護診断と計画）								谷口
7 事例：腫瘍疾患動物の看護（痛み評価、看護診断、看護計画、看護記録）								谷口
8 事例：神経疾患動物の看護（運動機能、意識レベルの評価、看護診断と計画）								谷口
9 事例：造血器疾患動物の看護（輸血準備、輸血の記録、経過観察、看護診断と計画）								谷口
10 事例：呼吸器疾患動物の看護（呼吸状態の評価、酸素投与、看護診断と計画）								谷口
11 事例：内分泌疾患動物の看護（血糖曲線、投薬管理、看護診断と計画）								木村
12 事例：皮膚疾患動物の看護（感染管理、看護診断と計画）								木村
13 事例：泌尿器系疾患の看護（尿道カテーテル、腎疾患看護、看護診断と計画）								木村
14 事例：外科疾患動物の看護（入院管理、褥瘡管理、術創管理、痛み評価、看護診断と計画）								木村
15 事例：消化器系疾患動物の看護（栄養チューブ、流動食調整、看護診断と計画）								木村
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
講義毎に課題レポートを課すが、コメントをつけて返却する。								
履修上の注意								
1 年次、2 年次、3 年次（前期）の配布資料、教科書を読み返しておくこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：1 年次、2 年次、3 年次（前期）の配布資料、参考書をよく読むこと。								
事後学修：講義時の配布資料、教科書、参考書を読みノートにまとめること。								
評価方法（評価基準を含む）								
定期試験（70%）、レポート、小テスト、授業への参加度（ 30%）を考慮して総合的に評価する。								
教科書								
疾患別 動物看護学ハンドブック（日本獣医生命科学大学獣医保健学科臨床部門 編著）緑書房								
参考書、教材等								
講義内容に沿った資料を配付する。								
講義内で参考書等を紹介する。								

授業科目	動物臨床検査学					実務家教員	○	担当教員	◎岡崎 登志夫・ 宮井 紗弥香
科目英名	Veterinary Laboratory Medicine								
開講期間	2 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標									
1. 臨床検査の基礎 1) 臨床検査における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) 基準値、感度、特異度、精度管理について理解する 3) 検体採取法（血液、尿、便、粘膜、スワブ、体表組織など）について理解する 2. 血液検査 1) 血漿、血清の分離法について理解する 2) 全血球計算法（CBC）について理解する 3) 血液塗抹の作製及び観察法について理解する 4) ヘマトクリット管を用いた検査について理解する 5) 凝固検査の目的と意義について理解する 6) 血液化学検査の目的と意義について理解する 7) 血液ガス検査の目的と意義について理解する 8) 免疫学的検査の目的と意義について理解する 3. 尿検査 1) 尿の性状検査について理解する 2) 尿沈渣について理解する 4. 糞便検査 1) 虫卵・原虫の検出法について理解する 2) 細菌の観察法について理解する 5. 細胞診と病理組織検査 1) 細胞診断の目的と方法について理解する 2) 病理組織検査のための検体の取扱いについて理解する 6. 遺伝子検査 1) 遺伝子検査の目的と応用例について理解する 2) 遺伝子検体の採取及び取扱いについて理解する									
講義概要									
様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。									
授業計画								担当教員	
1 動物臨床検査の進歩（オンライン、ロボット、AI 導入）								岡崎	
2 血液成分と分離（血球と血清又は血漿）								岡崎	
3 血液細胞の種類と溶血検査（赤血球、白血球、血小板）								岡崎	
4 生化学検査（タンパク質）								岡崎	
5 生化学検査（血糖と酵素）								岡崎	
6 凝固・線溶検査（PT、APTT、FDP）								岡崎	
7 血液型、輸血検査（クロスマッチテスト）								岡崎	
8 尿検査（生化学的検査：タンパク質、ヘモグロビン）								宮井	
9 尿検査（形態学的検査：尿沈渣）								宮井	
10 糞便検査（直接塗抹法、集卵法）								宮井	
11 微生物検査（細菌）								宮井	
12 微生物検査（真菌、ウイルス）								宮井	
13 細胞診と病理組織検査（検体の取り扱い、染色法）								宮井	
14 皮膚、耳垢検査（検体採取法、染色法）								宮井	
15 総まとめ（遺伝子検査、血液ガス）								宮井	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
毎回、前回の授業内容に関する小テストを実施し、解説に基づいて各自で採点し、到達度を自己評価できるようにする。また、解答用紙を回収し、次回に全体の到達度についてフィードバックする。									
履修上の注意									
生化学や生理学等の基礎科目をきちんと理解しておく。									

事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修として各授業回の内容に関連する参考書を事前に読んでおく。 事後学修として小テストの結果、理解が不十分な部分については、配布プリントを再度見直す。
評価方法（評価基準を含む）
試験あるいはレポート、授業への参加度（小テスト結果を含む）から総合的に評価する。その割合は、試験あるいはレポート 80%、授業への参加度（小テスト結果を含む） 20%とする。
教科書
なし（配布プリント使用）。
参考書、教材等
・認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 動物臨床看護学 2 動物臨床検査学、インターブー ・臨床検査学講座（血液検査学、臨床化学検査学、免疫検査学、微生物/臨床微生物学、臨床検査総論）、医歯薬出版

授業科目	動物臨床検査学実習					実務家教員	○	担当教員	◎岡崎 登志夫 宮井 紗弥香
科目英名	Practice of Veterinary Laboratory Medicine								
開講期間	2 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標									
1. 検体検査 1) 検体採取・処理の手順を習得している 2) マイクロピペットや遠心分離器を正しく操作できる 3) 血漿、血清を分離できる 4) 血液塗抹標本作製、染色できる 5) 血液塗抹標本を観察し、白血球の百分比を算出できる 6) 全血球計算及び血液化学検査を実施できる 7) 簡易血清学的検査を実施できる 8) 尿検査を実施し、物理化学性状を記録できる 9) 尿沈渣を観察し、所見を記録できる 10) 糞便検査を実施し、虫卵及び原虫を検出できる 11) 細胞診の準備、補助ができる									
講義概要									
検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識に基づいて実践力を習得する。									
授業計画								担当教員	
1 動物臨床検査機器と器具の基本操作について 2 血液形態学的検査（塗抹標本作製と染色） 3 血液形態学的検査（血球の観察と分類） 4 血液形態学的検査（血球計算盤による血球数算定） 5 血漿・血清分離と血色素濃度検査 6 タンパク質濃度と脂質濃度検査 7 タンパク質分画とリポタンパク質分画 8 尿と糞便の形態学的検査 9 尿と糞便の生化学的検査 10 皮膚と耳垢の検査 11 染色体検査と DNA 抽出 12 DNA の電気泳動と免疫学的検査（免疫二重拡散法） 13 免疫学的検査（免疫二重拡散法と ELISA 法） 14 免疫学的検査（血液型とクロスマッチ） 15 臨床における CBC 検査と生化学検査のデータ解析								岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
毎回、課題レポートを課し、その内容や理解度をチェックし、授業中にフィードバックするとともに、単元終了後に回収し、実習担当教員がチェックする。									
履修上の注意									
あらかじめ、実習で扱う各検査項目の手技や臨床的意義について確認をして実習に臨むこと。									
事前・事後学修（予習・復習）の内容									
毎回、あらかじめ実習書の手順を熟読し、理解しておくこと。 毎回、今回の実習に関連する課題レポートについて完成させ、次週に提出すること。									
評価方法（評価基準を含む）									
実習への出席は原則必須であり、結果レポート（25%）、実習課題の完成度（50%）、筆記試験（25%）で総合的に評価する。									
教科書									
なし（配布プリント使用）。									
参考書、教材等									
・ 認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 動物臨床看護学 2 動物臨床検査学、インターズー ・ 臨床検査学講座（血液検査学、臨床化学検査学、免疫検査学、微生物/臨床微生物学、臨床検査総論）、医歯薬出版									

授業科目	動物医療機器				実務家教員	—	担当教員	鈴木 友子
科目英名	Equipment Theory for Veterinary Medicine							
開講期間	3 年次 前期	動物看護学科 必修科目 1 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
診断、検査、治療および予防に利用される動物医療機器はますます高度化しており、動物医療従事者である動物看護師が様々な医療機器に対して、原理や仕組みを理解し、使用方法を身につけておく必要があり、複雑かつ精密な機器類の点検管理を実行することも要求されている。これらを踏まえ、法令遵守のもと適性かつ安全に、種々の動物医療機器を取り扱えるようになる。								
講義概要								
実際に動物医療の現場で使用されている主な機器類を紹介するだけでなく、具体的に学内の機器類を例に挙げ、使用前の準備から基本的な操作方法および使用後の片付け等一連の作業も学ぶとともに、他の授業や実習とも関連付けながら、動物医療機器の取り扱いにおける動物看護師の役割も考える。								
授業計画								
1 動物医療機器とは 2 滅菌・消毒に関する機器類について 3 体温計・血圧計について 4 循環器・呼吸器に関する機器類について 5 モニター機器について 6 手術用機器について 7 超音波診断装置について 8 内視鏡について								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題にコメントを返す。								
履修上の注意								
医療機器や付属品等の取り扱いには注意すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：授業内容に関する教科書等を読む。 事後学修：授業資料等を見返し、ノートにまとめる。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（30%）、定期試験等（70%）の総合評価								
教科書								
基礎と臨床がつながるバイタルサイン 藤野智子 学研								
参考書、教材等								
資料を配布する。								

授業科目	動物口腔ケア論				実務家教員	—	担当教員	鈴木 友子
科目英名	Veterinary Oral Care							
開講期間	3 年次 後期	動物看護学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
動物における予防歯科学的観点から、動物医療において行われる口腔ケアの知識を修得する。								
講義概要								
動物の口腔の形態や機能を学んだうえで、主に犬猫の口腔疾患について解説するとともに、歯周病の治療法や予防法に関わる器具や機材の種類や準備、使用方法等、動物医療における口腔ケアの方法について講義する。 また、動物の口腔ケアにおける動物看護師の役割も考える。								
授業計画								
1 動物口腔ケアにおける動物看護師の役割 2 動物の口腔および歯の形態と機能 3 歯の組織構造 4 歯周組織 5 動物とヒトの比較歯科学 6 動物に認められる歯および口腔の疾患 7 動物の歯科治療および歯科予防処置 8 動物の歯科治療と歯科生体材料 9 歯周病（歯肉炎および歯周炎） 10 動物口腔ケアの種類と方法 11 スケーリングに使用する器具・機材 12 スケーリングの手技と手順 13 歯ブラシと歯みがき（ブラッシング） 14 動物口腔ケアの重要性 15 まとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題等にコメントを返す。								
履修上の注意								
口腔の構造（形態学、組織学）や機能（生理学）を十分に理解したうえで受講すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：授業内容に関する資料を読む。 事後学修：授業資料等を見返し、ノートにまとめる。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（30%）、定期試験等（70%）の総合評価								
教科書								
なし								
参考書、教材等								
プリント配布								

授業科目	動物口腔ケア実習				実務家教員	—	担当教員	鈴木 友子
科目英名	Practice of Veterinary Oral Care							
開講期間	3 年次 後期	動物看護学科 選択科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
動物における予防歯科学的観点から、動物医療において行われる口腔ケアの知識および実技を修得する。								
講義概要								
「動物口腔ケア論」に基づき、動物の口腔の形態や機能について、標本の観察等で知識を深め、主に犬猫の歯周病の治療法や予防法に関わる器具や器材機材の準備から使用方法、片付けおよびメンテナンスまで、実際の手技や手順も学びながら、動物医療における口腔ケアについて実習する。 また、口腔ケアの飼い主指導も考える。								
授業計画								
1 オリエンテーション 2 犬・猫の歯列および顎骨の観察 3 ウサギ・ネズミ等、その他の動物の歯列および顎骨の観察 4 ヒトにおける口腔ケア 5 口腔ケアグッズの比較 6 動物口腔ケアの種類と方法 7 歯の印象採得、スタディモデルの作製（歯型） 8 マニュアルスケーラーの構造および使用方法 9 超音波スケーラーの構造および使用方法 10 Professional Mechanical Tooth Cleaning（PMTC） 11 犬の歯科治療および予防 12 歯科治療に使用する器具・機材のメンテナンス 13 総合実習 14 実技試験 15 まとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
実習ノートにコメントを返す。								
履修上の注意								
「動物口腔ケア論」を履修していることが望ましい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：次回の実習内容に関し、「動物口腔ケア論」を復習する。 事後学修：実習内容を実習ノートにまとめる。								
評価方法（評価基準を含む）								
実習への参加度（50％）、実習試験（50％）の総合評価								
教科書								
なし								
参考書、教材等								
資料配布								

授業科目	ヒトと動物の共通感染症				実務家教員	—	担当教員	内田 明彦
科目英名	Zoonosis							
開講期間	3 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
人獣共通感染症は、人類の歴史とともに古くから存在していると思われるが、特に近年産業動物、伴侶動物、野生動物とのかかわりが深くなり、それに伴い動物の持つ病原体と接触する機会も増加している。ヒトと動物の共通感染症はウイルス、細菌、真菌、寄生虫、プリオンまで多岐にわたり、それぞれの病因、疫学、診断、治療及び予防について理解し、発生時に対処できるように理解を深めることを目標にする。								
講義概要								
総論ではヒトと動物の共通感染症の定義、種類と疫学などを学ぶと共に、環境の変化やグローバル化に伴って危惧されている新興・再興感染症についても解説する。各論ではウイルス、リッケチア、細菌、真菌、寄生虫（原虫、蠕虫、衛生害虫）、プリオンによるヒトと動物の共通感染症について、病因、感染様式、疫学、診断、治療及び予防について講義を展開する。また、動物だけではなくヒトの症状や予防などについても医学的見地から講義を進めていく。								
授業計画								
1 総論：ヒトと動物の共通感染症の定義、種類及び新興・再興感染症について 2 ウイルス：狂犬病（ビデオ）、ハンタウイルス感染症、Bウイルス感染症など 3 ウイルス：日本脳炎、黄熱、動物由来インフルエンザ、ウエストナイル熱など 4 ウイルス：エボラ出血熱（ビデオ）、E型肝炎ウイルスなど 5 ウイルス：マールブルグ病、ラッサ熱、SARS、MERS、プリオン病など 6 細菌：炭疽、ペスト、結核、パスツレラ症、サルモネラ症など 7 細菌：カンピロバクター症、レプトスピラ症、ライム病、豚丹毒など 8 細菌：鼠咬症、野兎病、ブルセラ症など 9 真菌、リケッチャなど：恙虫病、オウム病、猫ひっかき病、クリプトコックス症、アスペルギルス症など 10 寄生原虫類：トキソプラズマ症、トリパノソーマ症、リーシュマニア症など 11 線虫類：トキシカラ症、広東住血線虫症、犬糸状虫症など 12 吸虫類：肺吸虫症、横川吸虫症、住血吸虫症など 13 条虫類：包虫症（エキノコックス症）、有・無鉤条虫症、マンソン孤虫症など 14 ヒトと動物の共通感染症を媒介する衛生動物：蚊、ノミ、ダニ類など 15 ヒトと動物の共通感染症の防疫、検査及び発生したときの対策と届け出								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験の答案用紙は原則返却しないが、質問には応じる。また、レポートについても答案用紙と同様の扱いとするが、必要に応じて返却をする。								
履修上の注意								
寄生虫学、微生物学を履修しておくとう理解しやすい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
基本的に講義の数日前に授業に係る資料（プリント等）を開示するので予習を行い、復習は当該資料と教科書とで必ずノートを作成すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（30％）レポート提出（20％）と期末試験（50％）で評価する。								
教科書								
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 3 巻(エデュワードプレス)、必要に応じて資料を配布する。								
参考書、教材等								
神山著 これだけは知っておきたい人獣共通感染 地人書館 岡部著 感染症から身を守る本 KAWADE 夢新書								

授業科目	公衆衛生学				実務 家教員	—	担当 教員	植田 富貴子
科目英名	Public Health							
開講期間	2 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
1. 公衆衛生の概要 1) 公衆衛生の目的について理解する 2) 公衆衛生行政について理解する 3) 国民衛生の動向について理解する 4) One Health と獣医療の関係について理解する 2. 疫学と疾病予防 1) 感染の成立について理解する 2) 疾病・健康障害の発生要因について理解する 3) 疫学調査法について理解する 4) 予防疫学について理解する 5) 人獣共通感染症とその対策について理解する 6) 狂犬病予防について理解する 3. 環境衛生 1) 環境衛生について、歴史、背景、現在の問題点について理解する 2) 化学物質によってもたらされる健康障害について理解する 3) 放射線による汚染と障害について理解する 4) 衛生動物による人や動物への被害と対策について理解する 5) 動物の咬傷による人への健康障害について理解する 6) 廃棄物の取扱いについて理解する 4. 食品衛生 1) 食品衛生と食中毒について理解する 2) 動物性食品の衛生について理解する 3) 食品衛生管理手法（HACCP など）について理解する								
講義概要								
環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。								
授業計画								
1 公衆衛生概論（食品衛生・人獣共通感染症・環境衛生における歴史、国民衛生の動向） 2 動物衛生概論（公衆衛生と動物衛生の違い、動物衛生の歴史と現状） 3 公衆衛生学と動物との関わり合いの歴史（One Health と獣医療） 4 疫学と疾病予防Ⅰ（疫学の分類、疫学特性；発生頻度、分布、関連情報など） 5 疫学と疾病予防Ⅱ（流行と予防、感染症と非感染症、疫学調査法、サーベイランス） 6 食品の衛生（HACCP、危害要因、食品添加物と安全性、衛生害虫、衛生動物） 7 食品由来の疾病Ⅰ（食中毒、食品・水媒介感染症、アレルギー） 8 食品由来の疾病Ⅱ（化学物質による中毒；意図的混入と非意図的混入） 9 食品の衛生Ⅳ（農薬の残留、飼料添加物・治療薬の残留、ポジティブリスト制度） 10 環境衛生Ⅰ（地球環境問題の歴史と現状） 11 環境衛生Ⅱ（地域環境問題（公害）の歴史と現状、典型 7 公害） 12 環境衛生Ⅲ（上水・下水の衛生、大気・土壌の汚染） 13 環境衛生Ⅳ（廃棄物、放射性物質による汚染、その他の問題） 14 衛生動物による被害と対策 15 公衆衛生の最近の動向と問題（薬剤耐性菌など）、公衆衛生行政								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
採点内容をまとめて問題点を伝える。問題があれば moodle 等で連絡する。								
履修上の注意								
講義のポイント、注意点をノートなどに自ら手書きすること								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
講義前にキーワードで内容の概要を予習し、講義後ポイントを整理すること。								

評価方法（評価基準を含む）
定期試験 70%、授業への参加度 30%により評価する。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 5 巻 公衆衛生学／動物看護関連法規／動物愛護・適正飼養関連法規 EDUWARD Press
参考書、教材等
教材としてプリント、スライド等を随時使用する。

授業科目	動物生化学				実務家教員	—	担当教員	◎小黒 美枝子・長島 孝行
科目英名	Animal Biochemistry							
開講期間	3 年次 前期	動物看護学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
生化学は化学、栄養学、生理学などと大きく関連しており、生命現象を化学の側面から学ぶ学問である。動物の生体はさまざまな物質から構成され、各々の物質が独自にあるいは相互に作用しながら生理機能を営んでいる。動物の生体物質の構造と機能を理解するのは重要なことである。動物看護学科における生化学は、生命現象の普遍的な法則性を組織、細胞、さらには分子のレベルで理解する知識を修得することを到達目標とする。また、他の教科の生化学的理解を助けることができるような知識を修得することを到達目標とする。								
講義概要								
生物や基本単位の細胞を動かしているさまざまな生体システムを理解する必要がある。さまざまな代謝、つまり、細胞内における合成と分解反応である。本講義では、哺乳動物やカイコなどの昆虫における糖質代謝、脂質代謝、蛋白質アミノ酸代謝、核酸の代謝を中心に物質およびエネルギーの代謝、代謝を円滑に行うための生体触媒である酵素の性質を学ぶ。また、遺伝情報に基づいて合成されるペプチドや蛋白質、従って、核酸の構造とその生物学的機能についても学ぶ。								
授業計画								
1 生化学の概説、生化学の目的および、生命科学や動物看護学における位置付け 2 細胞成分の構造 細胞膜、細胞核、ミトコンドリア、小胞体、細胞骨格などの構造と機能 3 身体の構成材料と消化（哺乳動物） 4 アミノ酸、蛋白質の化学 アミノ酸、蛋白質の構造（哺乳動物） 5 アミノ酸、蛋白質の代謝 蛋白質の消化と吸収、アミノ酸、蛋白質の動的平衡（哺乳動物） 6 アミノ酸、蛋白質代謝 アミノ酸の代謝と合成される生理活性物質（哺乳動物） 7 酵素の性質、酵素の特性（哺乳動物） 8 酵素の性質、酵素の反応速度、補酵素とビタミン（哺乳動物） 9 糖質の化学 糖質の構造（カイコ） 10 糖質の代謝 糖質の消化と吸収 糖代謝（カイコ） 11 クエン酸回路と電子伝達酸化的リン酸化系 エネルギー代謝（カイコ） 12 脂質の化学 多様な脂質の構造、脂肪酸（カイコ） 13 脂質の代謝 脂質の消化と吸収、血液による脂質の運搬（カイコ） 14 核酸の構造 遺伝情報の流れ DNA 複製、RNA、蛋白質の生合成（カイコ） 15 まとめ、課題								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験や小テスト、質問の解説を授業内,Moodle 利用で行い、フィードバックする。								
履修上の注意								
化学、生物の基礎的知識を復習しておいてもらいたい。 基礎生化学（1 年次）を選択することが望ましい。Moodle を利用して掲示、授業参考資料などを配布するので、注意を怠らないこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修 「事前に、教科書の関連する項目内容を読んで理解を深めておくこと。」 事後学修 「講義内容を講義ノートにまとめ、疑問点については講義中の提出課題などを利用して質問する。								
評価方法（評価基準を含む）								
15 回目のまとめ、課題（60%）、および授業時間中に実施する小テスト（授業への参加度含む 40%）に基づいて総合的に評価する。								
教科書								
配布資料								
参考書、教材等								
講義中に適宜紹介する。								

授業科目	動物感染症学Ⅰ				実務家教員	—	担当教員	内田 明彦
科目英名	Veterinary Infectious DiseasesⅠ							
開講期間	2 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1. 寄生虫の分類と特徴 1) 原虫の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 2) 蠕虫（吸虫、条虫、線虫）の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 3) 衛生動物（ダニ、ノミなど）の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 4) 寄生虫疾患の検査、診断法について理解する 5) 駆虫薬や駆除剤の使用法について理解する								
講義概要								
寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。								
授業計画								
1 総論（1）（寄生虫とは、寄生虫と宿主の関係、寄生虫の生活史） 2 総論（2）（寄生虫の感染経路、寄生部位と病害作用、寄生虫と免疫） 3 原虫類の概要 4 原虫（トリパノソーマ、トキソプラズマ、ランブル鞭毛虫、アメーバ、トリコモナス等） 5 蠕虫類の概要 6 吸虫（総説、肝吸虫、肺吸虫、住血吸虫等） 7 条虫（総説、裂頭条虫、包虫、囊虫等） 8 線虫（総説、回虫、鞭虫、鉤虫、糸状虫等） 9 イヌ、ネコの寄生虫（バベシア、イヌネコ回虫、瓜実条虫、イヌ糸状虫等） 10 ウサギ等ペットおよびエキゾチックアニマルの寄生虫 11 人獣共通寄生虫症（クリプトスポリジウム、アメーバ赤痢、幼虫移行症、有鉤条虫、疥癬等） 12 衛生動物（蚊、ハエ、ノミ、シラミ等） 13 衛生動物（ダニ、ネズミ） 14 寄生虫検査法 15 寄生虫症の疫学と予防								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験の答案用紙は原則返却しないが、質問には応じる。またレポートについても答案用紙と同様の扱いとするが、必要に応じて返却をする。								
履修上の注意								
基礎的な内容があるので生物学、生化学、免疫学などの勉強をしておく講義が理解しやすい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
シラバスに当日の講義内容が示されているので予習をすること、また復習についても必ず講義の後まとめたノート作りをする。								
評価方法（評価基準を含む）								
レポート・授業への参加度での評価（30%）と、学期末の定期試験の成績（70%）により評価する。								
教科書								
日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会 編 小野文子 監修 動物感染症学 インターブー								
参考書、教材等								
内田明彦・黄鴻堅 図説獣医寄生虫学 改訂第3版（Mac/Win 対応 CD-ROM）メディカグローブ								

授業科目	動物感染症学Ⅱ				実務 家教員	—	担当 教員	梅村 隆志
科目英名	Veterinary Infectious DiseasesⅡ							
開講期間	3 年次 後期	動物看護学科 必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1. 微生物の分類と特徴 1) 細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する 2) ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する 3) 真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する 2. 微生物検査 1) 検体採取と取扱いについて理解する 2) 無菌環境下での必要な手技について理解する 3) 微生物染色法、顕微鏡による観察法について理解する 4) 微生物培養法について理解する 5) 抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法（P C R 検査含む）について理解する 6) 薬剤感受性試験について理解する 3. 動物感染症 1) 病原体の感染経路と伝播様式について理解する 2) 感染症の成立要因について理解する 3) 主な感染症（動物臨床看護学各論の 3 .代表的な疾患を参照）の症状、治療法、 予防法について理解する 4) 消毒、滅菌法について理解する 5) 院内感染の予防対策について理解する 4. 免疫学の基礎と応用 1) 免疫担当細胞とその役割について理解する 2) 自然免疫と獲得免疫について理解する 3) 液性免疫と細胞性免疫について理解する 4) アレルギー（Ⅰ～Ⅴ型）と自己免疫疾患について理解する 5) ワクチンの原理と種類、接種プログラムについて理解する								
講義概要								
微生物の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。								
授業計画								
1 はじめに 2 微生物とは（微生物の生物界における位置・病原微生物とは） 3 感染と発症（感染症の経過・感染症の種類） 4 感染の成り立ち（感染源・感染経路・感染防御能） 5 細菌① 細菌の性状・構造（細菌の大きさ・細菌の基本構造・細菌の特殊構造） 6 細菌② 細菌の観察・増殖（染色法・細菌の栄養素・細菌の培養） 7 細菌③ 細菌の分類（グラム陽性球菌・桿菌、グラム陰性球菌・桿菌、その他） 8 真菌（真菌の形態・真菌の増殖様式・真菌の分類） 9 ウイルス① ウイルスの性状（ウイルスの形態と構造・ウイルスの分類・ウイルスの増殖） 10 ウイルス② ウイルス感染の予防法（ワクチン） 11 免疫学の基礎と応用 12 化学療法・各種動物の感染症（抗菌剤・薬剤耐性、犬猫鳥兎猿の感染症） 13 洗浄、消毒、滅菌（消毒方法・消毒剤の種類と特徴・滅菌方法・院内感染とその対策） 14 感染症の診断（病原微生物の分離と同定・血清免疫学診断） 15 感染症の予防と防疫								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
提出された課題等に対して、後日、評価基準の説明を行う予定である。								

履修上の注意
動物感染症学Ⅱの講義の前に、対象微生物である細菌・ウイルスの生物界での位置づけ、生態、形態学的な特徴を理解しておくこと。また、動物感染症学Ⅱは生物学、生理・生化学および免疫学等の基礎知識が必要であり、2年生までの関連授業を履修しておくこと。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
シラバスを参考に事前に基礎知識の収集に努めること。授業中に示された資料に基づきノートをまとめ、図書館等を利用して知識の上積みに努めること。
評価方法（評価基準を含む）
授業への参加度（20%）、課題レポート提出（20%）、定期試験（60%）での総合評価
教科書
動物感染症学 エデュワードプレス
参考書、教材等
特になし

授業科目	小動物栄養学				実務 家教員	-	担当 教員	◎荒川 真希・秋山 蘭
科目英名	Small Animal Nutrition							
開講期間	2 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
1. 基礎栄養 1) 5 大栄養素（糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル）について理解する 2) 栄養要求の種差（必須アミノ酸、必須脂肪酸など）について理解する 3) 食性、嗜好、嗜好性、摂食行動について理解する 4) 健康維持における栄養の持つ意味について理解する 5) 栄養素の不足、過剰症について理解する 2. 栄養要求量 1) エネルギー要求量（RER、MER など）の意味と計算法について理解する 2) 栄養基準（AAFCO、NRC など）について理解する 3) ライフステージ（成長期、維持期、妊娠期、授乳期、老齢期）ごとの栄養管理について理解する 3. 市販ペットフードと栄養指導 1) ペットフードの種類、分類について理解する 2) ペットフードのラベル表示について理解し、飼い主に説明できる 3) 中毒、与えてはいけないもの（食物）について飼い主に指導できる 4) 栄養状態の評価法（BCS、体脂肪測定、MCS など）について理解する 5) 肥満の弊害と減量プログラムの作成法について理解する 4. 疾患と栄養 1) さまざまな疾患時の食事療法について理解する 2) 療法食の特徴や効果を理解し、飼い主に説明できる 5. 強制給餌と経管・静脈栄養法 1) 強制給餌の方法と注意点について理解する 2) 経管栄養法の種類（経鼻、食道、胃瘻チューブなど）と特徴、方法について理解する 3) 静脈栄養法の種類（TPN、PPN）と特徴、方法について理解する 4) チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点について理解する								
講義概要								
5 大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの食餌管理の違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。								
授業計画								担当教員
1 総論（犬・猫の食餌の歴史、健康維持における栄養の重要性）								荒川
2 栄養素とその働き：炭水化物（糖質と食物繊維）								荒川
3 栄養素とその働き：脂肪と脂肪酸、機能性脂質（多価不飽和脂肪酸）								秋山
4 栄養素とその働き：タンパク質とアミノ酸								秋山
5 栄養素とその働き：脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン、要求量の種差								荒川
6 栄養素とその働き：ミネラル類								荒川
7 犬猫の食性と摂食行動、嗜好と嗜好性								荒川
8 犬猫のエネルギー要求量と給与量計算、栄養状態の評価法、水分とその要求量								荒川
9 肥満の弊害と減量プログラムの作成法								荒川
10 ライフステージと栄養管理：妊娠期、授乳期、成長期、維持期、高齢期								秋山
11 ペットフードと栄養指導（ペットフードの種類、分類、ラベル表示、栄養基準）								秋山
12 ペットフードと栄養指導（有害成分や犬猫に与えてはいけない食物、中毒、食物有害反応）								秋山
13 疾患と栄養（療法食）								荒川
14 強制給餌（食欲低下・食欲廃絶時の対処方法、単純飢餓とストレス性飢餓の違い）								荒川
15 経静脈栄養法と経管栄養法、給餌再開時症候群								荒川
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験は定期試験時に筆記試験で行う。学生へのフィードバックは直接的には、試験結果の報告によって行う。所定の成績に到達不可の場合は再試験で理解不足の再勉強を求める。								

履修上の注意
栄養学は基礎を生化学に置いているため、本講義の理解に「基礎生化学」を受講する方が解りやすいであろう。ただし、本講義だけでも十分理解はできる水準で講義する。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：事前に教科書をよく読み、その内容について確認すること。 事後学修：教科書を再度読み直し、疑問点があれば質問すること。場合によっては小テストを実施する。
評価方法（評価基準を含む）
試験（70%）、小テストを含む授業参加度（30%）を基に総合的評価をする。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8 巻 動物栄養学/動物外科看護学/動物医療コミュニケーション （日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編）エデュワードプレス
参考書、教材等：
「ベーシック 小動物栄養学」 阿部又信・大島誠之助著 ファームプレス(2019) 978-4-86382-105-7

授業科目	小動物臨床栄養学				実務家教員	—	担当教員	◎荒川 真希・秋山 蘭
科目英名	Small Animal Clinical Nutrition							
開講期間	2 年次 後期	動物看護学科 必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
動物看護のスペシャリストとして栄養指導ができるようになるために、栄養学の基本的な知識と臨床現場で一般的に用いられる栄養・食事管理の基本的な知識を身に着けることを目指す。また、疾病と栄養との関係や療法食についての知識を習得し、フードの評価や選択方法、経口・非経口の栄養管理に関する基礎知識などの実践的な知識を得ることを目的とする。								
講義概要								
前期「小動物栄養学」で学んだ基本的な栄養素についての知識をもとに、さらに栄養についての理解を深める。さらに、臨床上の疾病と栄養との関係、各種療法食とその栄養的な違いについて学習し、ペットフードの種類と栄養管理における活用方法、病気の場合の栄養管理の基礎知識や給餌方法などについて学ぶ。								
授業計画								担当教員
1 概論 1；6 大栄養素のレビュー、エネルギー要求量と給与量計算								荒川
2 概論 2；犬と猫の栄養要求、ライフステージ栄養、市販ペットフードラベル表示								秋山
3 疾病と栄養 1；慢性腎臓病								荒川
4 疾病と栄養 2-1；尿路結石症（犬）								荒川
5 疾病と栄養 2-2；猫下部尿路疾患（尿路結石症と猫特発性膀胱炎）								荒川
6 疾病と栄養 3；心血管系疾患（心臓悪液質）								荒川
7 疾病と栄養 4；消化器疾患（脾臓の異常も含む）								秋山
8 疾病と栄養 5；肝疾患								荒川
9 疾病と栄養 6-1；適正体重維持の重要性、BCS、減量								秋山
10 疾病と栄養 6-2；過体重による弊害、糖尿病								秋山
11 疾病と栄養 7；食物有害反応、食物アレルギー								秋山
12 疾病と栄養 8；歯牙疾患と歯周病								秋山
13 疾病と栄養 9；その他の疾患（がん性悪液質、骨関節炎など）								秋山
14 非経口栄養管理法；強制給餌（経腸栄養管理法含む）、非経腸栄養管理法（静脈栄養法）								荒川
15 その他（家庭での食餌管理、手作り食の注意点など）、まとめ								秋山
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験は定期試験時に筆記試験で行う。学生へのフィードバックは直接的には、試験結果の報告によって行う。所定の成績に到達不可の場合は再試験で理解不足の再勉強を求める。								
履修上の注意								
本講義は「小動物栄養学」を単位取得したうえで受講する方が理解しやすい。ただし、小動物栄養学で講義した内容をレビューとして取り入れ、理解しやすさに努める。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：事前に教科書をよく読み、その内容について確認すること。								
事後学修：教科書を再度読み直し、疑問点があれば質問すること。場合によっては小テストを実施する。								
評価方法（評価基準を含む）								
試験（70%）、小テストを含む授業参加度（30%）を基に総合的評価をする。								
教科書								
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8 巻 動物栄養学/動物外科看護学/動物医療コミュニケーション（日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編）エデュワードプレス								
参考書、教材等								
「ベーシック 小動物栄養学」 阿部又信・大島誠之助著 ファームプレス(2019) 978-4-86382-105-7								

授業科目	エキゾチックアニマル看護学				実務 家教員	—	担当 教員	霍野 晋吉
科目英名	Veterinary Nursing of Exotic Animals							
開講期間	4 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
動物看護師としてエキゾチックアニマル(哺乳類、鳥類、爬虫類)についての生態と特徴、疾病など知識を幅広く修得することを到達目標とする。知識を備えた上で初めて実践の看護ができるようになる。								
講義概要								
エキゾチックアニマルの看護において必要な生態・特徴・疾病について解説する。犬や猫とは異なる各動物の生態と特徴を習得した上でないと行えない。動物特有の病気の知識も把握し、実際の現場で看護が実践できるよう説明する。								
授業計画								
1 エキゾチックアニマル総論（前半） 2 エキゾチックアニマル総論（後半） 3 ハムスター 4 フェレット 5 ウサギ（前半） 6 ウサギ（後半） 7 モルモット 8 チンチラ 9 デグー 10 ハリネズミ 11 フクロモモンガ 12 カメ（前半） 13 カメ（後半） 14 トカゲ 15 両生類								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
メールによる質疑応答								
履修上の注意								
特になし。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：各授業回の無いように該当する教科書を読んでおくこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
レポート 50%、授業への参加度 50%								
教科書								
●カラーアトラスエキゾチックアニマル 哺乳類編 第3版 —種類・生態・飼育・疾病—（著者：霍野晋吉、横須賀誠）、（出版社：緑書房）								
参考書、教材等								
●カラーアトラスエキゾチックアニマル 鳥類編 —種類・生態・飼育・疾病—（著者：霍野晋吉）、（出版社：緑書房） ●カラーアトラスエキゾチックアニマル 爬虫類・両生類編 —種類・生態・飼育・疾病—（著者：霍野晋吉、中田友明）、（出版社：緑書房） ●ウサギの基本 JCRA Book Kindle 版（著者：霍野晋吉）、（出版社：YIL 出版） ●ウサギの医学（著者：霍野晋吉）、（出版社：緑書房）								

授業科目	動物医療コミュニケーション				実務家教員	—	担当教員	友野 悠
科目英名	Veterinary Medical Communication							
開講期間	4 年次 前期	動物看護学科 必修科目 1 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1. クライアントエデュケーション 1) 適正飼養について理解し、健康管理のため必要な情報を飼い主に提供できる 2) 動物と飼い主が良好な関係を構築する方法について理解する 3) 病気の適切な予防法（予防接種、フィラリア予防、ノミ・ダニ予防、歯科予防、去勢・不妊手術など）について理解する 4) 在宅看護等におけるコミュニケーション技能について理解する 2. 院内コミュニケーション 1) 飼い主への指導を主体としたインフォームドコンセントについて理解する 2) 獣医療面接のプロセス（導入、稟告、質問、傾聴、要約、確認、終結など）について理解する 3) チーム獣医療に関するコミュニケーション技能（報告・連絡・相談）について理解する 3. 院内業務 1) 受付業務（診療受付、電話対応、清算、トラブル対応など）について理解する 2) 物品購入や管理について理解する 3) ペット保険について理解する								
講義概要								
事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーション の基礎について理解する。								
授業計画								
1 動物医療コミュニケーションの概要、インフォームドコンセントについて 2 獣医療面接（導入、稟告、質問、傾聴） 3 獣医療面接（要約、確認、終結） 4 チーム獣医療（報告・連絡・相談）、院内業務（物品購入及び管理、ペット保険について） 5 クライアントエデュケーション 6 院内業務（診療受付、電話対応、清算、トラブル対応） 7 在宅看護などにおけるコミュニケーション 8 まとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業内のリアクションペーパーなどや質問に対して、次週フィードバックを行う。								
履修上の注意								
演習として意見交換やロールプレイングを行う。動物病院でのコミュニケーションを主とするため、これまで学んだ動物看護学について理解しておくこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前授業：授業内容に関わる資料を読むこと。 事後授業：配布資料や講義内容の振り返りを行うこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業内で行うディスカッションやロールプレイングへの参加態度（70%）、レポートや課題（30%）をもとに評価する。								
教科書								
特になし								
参考書、教材等								
講義内で紹介する。								

授業科目	ペットロス論					実務家教員	—	担当教員	新島 典子
科目英名	Theories of Pet Loss and Bereavement								
開講期間	4 年次 前期	動物看護学科 選択科目 2 単位	動物人間関係学科 必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標									
本講義ではペットロス（ペットの喪失やそれにより生じる悲嘆）に関する諸知識を社会学、社会心理学、死生学等の観点から学修し、学生が動物看護の現場でよき理解者、支援者となれることを目標とする。									
講義概要									
学生が卒業後それぞれの職域においてクライアント（飼い主）に有効なペットロス支援ができるようになることを目的とする。ペットロスの定義、社会的背景、悲嘆反応、立ち直りのプロセス等を概観した後、ペット喪失前後の飼い主とペットの関係性、悲嘆の多様性、周囲の他者との関係性等、ペットロスに影響を及ぼす諸要因を学ぶ。最新の関連研究の紹介や考察も含め、ペットロスに対する予防と対処についての知識を深めてゆく。									
授業計画									
1 ペットロス論とはなにか 2 ペットロスの基礎知識Ⅰ：ペットロスの定義、ヒトと動物の絆、愛着とは 3 ペットロスの基礎知識Ⅱ：心と体の変化（通常の悲嘆反応） 4 ペットロスの基礎知識Ⅲ：立ち直りのプロセス 5 ペットロスの基礎知識Ⅳ：ペットロスの背景要因 6 ペットロスの基礎知識Ⅴ：ペットロスに対する予防策と対処法 7 ペットと飼い主の関係性Ⅰ：先行研究紹介など 8 ペットと飼い主の関係性Ⅱ：時事的問題ほか 9 ペットの喪失Ⅰ：先行研究紹介など 10 ペットの喪失Ⅱ：時事的問題ほか 11 ペットの喪失に影響を及ぼす要因Ⅰ：先行研究紹介など 12 ペットの喪失に影響を及ぼす要因Ⅱ：時事的問題ほか 13 ペットの喪失への対処Ⅰ：先行研究紹介など 14 ペットの喪失への対処Ⅱ：時事的問題ほか 15 ペットロス論のまとめ									
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
フィードバックとしてレポートを回収後、解答例の共有、解説を行う。									
履修上の注意									
授業計画の各回の内容や順番は、前後する場合がある。									
事前・事後学修（予習・復習）の内容									
事前学修「各授業回の内容に関連する個人的経験などを振り返っておくこと」 事後学修「授業で扱ったテーマを、読書やウェブ検索により深化させ、定着させること」									
評価方法（評価基準を含む）									
授業への参加度 35%、課題レポート 25%、試験 40%を総合的に評価。									
教科書									
講義内や Moodle 上で適宜紹介する。必要なときには資料を配布する。									
参考書、教材等									
・Lagoni, Butler 他著,1994. <i>The Human-Animal Bond and Grief</i> , W.B.Saunders Company.=2000. 鷲巢月美監訳・山崎恵子（訳）『ペットロスと獣医療』チクサン出版社。 ・Stewart, Mary F.著,1999. <i>Companion Animal Death: A Practical and Comprehensive Guide for Veterinary Practice</i> , Butterworth Heinemann.=2000.永田正訳『コンパニオンアニマルの死：獣医療のための実際的、包括的ガイド』学窓社。 ・その他講義内や Moodle 上で適宜紹介する。必要なときには資料を配布する。									

授業科目	リハビリテーション論				実務家教員	—	担当教員	手塚 潤一
科目英名	An Introduction to Medical Rehabilitation							
開講期間	3 年次 前期	動物看護学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
リハビリテーションの概念、内容と方法（医学的、社会的、職業的、教育的）、リハビリテーション関連法、リハビリテーション関連職種、チーム医療、リハビリテーションの流れ、地域保健と福祉などについて基本的な概念を修得する。								
講義概要								
本講義では、リハビリテーションの理念と目的を理解し、障害の理解とリハビリテーションの各アプローチの方法について学ぶことを目標とする。障害者や高齢者の方々に対し「全人間的復権」を目指したケアが提供できるように、障害（加齢に伴う障害を含む）の理解および障害の評価を学ぶとともに、理学療法や作業療法を中心としたリハビリテーションの理論と実際について学修する。さらに動物に通じる人体の仕組みや動作の特徴、障害の起こり方についても学ぶ。								
授業計画								
1 リハビリテーションの概念・歴史 2 リハビリテーションの対象，リハビリテーションの諸段階 3 障害論（障害とは，国際疾病分類、国際障害分類，国際生活機能分類，等） 4 障害論（廃用症候群，誤用症候群，過用症候群，等） 5 障害者と心理（障害者心理，防衛機制，障害受容の過程） 6 ADL と QOL（分類，評価とアウトカム） 7 リハビリテーション関連職種とチーム医療 8 医学的リハビリテーション(1) 理学療法・作業療法・言語療法，他 9 医学的リハビリテーション(2) 義肢・装具，車いす，歩行補助具，リハビリテーション機器 10 教育的・職業的・社会的リハビリテーション 11 人体の仕組みとリハビリテーション（骨格、筋肉） 12 人体の仕組みとリハビリテーション（歩行と走行） 13 人体の仕組みとリハビリテーション（スポーツ動作） 14 人体の仕組みとリハビリテーション（肩こり、スポーツ障害） 15 まとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
メールによる質疑応答及び補充解説								
履修上の注意								
予備知識がなくとも受講は可能であるが、できるだけ興味を持って臨んでいただきたい。自分なりのリハビリテーション観を持てるよう主体的な学修を期待する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
リハビリテーションや保健福祉に関する内容は、社会情勢と密接に関係するため、ニュース、新聞などで常に情報収集を心掛ける必要がある。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度と貢献度 20 点，定期試験 80 点								
教科書								
特に定めない（適宜プリントを配布する）。								
参考書、教材等								
講義中に適宜紹介する。								

授業科目	動物リハビリテーション				実務家教員	○	担当教員	井上 留美
科目英名	Veterinary Rehabilitation and Physical Therapy							
開講期間	4 年次 前期	動物看護学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
動物リハビリテーションは動物医療において、近年、関心が高まっており、その施術者として動物看護師の役割へ期待が集まっている。また、家庭動物の高齢化を背景に、動物の QOL（生活の質）の向上が重要視されている。今後の臨床現場で需要が見込まれる動物理学療法、基本的な技術と理論の理解を深めることは、良質な動物看護を提供するために必須である。 動物リハビリテーションの要である解剖学や神経学を基盤として学び、実際の動物リハビリテーション療法治療プログラムへの理解を深め、さらに治療計画が立案できることを目標とする。								
講義概要								
リハビリテーションにおける動物の正しい扱いや、機能回復に有効とされるさまざまな運動器具の使用方法を修得し、小動物臨床でのリハビリテーションにおける動物看護師の役割の多様性について可能性を探り発展させていく。								
授業計画								
1 動物リハビリテーション概論 2 評価①（検査各種） 3 評価②（可動域測定法、等） 4 徒手療法（マッサージ、ストレッチ、等） 5 運動療法 6 物理療法 7 水治療法（UWT、等） 8 電気療法 9 補完療法 10 理学療法の適用①（補装具、パフォーマンスの最適化、等） 11 理学療法の適用②（肥満、老齢、等） 12 理学療法の適用③（痛み、関節炎、等） 13 治療計画の作成 14 動物リハビリテーションの実際 15 まとめと試験								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小テストの解説を行う。								
履修上の注意								
可能ならリハビリテーション論を履修し、人医療と比較しながら学びをすすめて欲しい。 尚、授業計画の内容と順番は前後する場合がある。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：授業内容に関する資料、文献を読む。 事後学修：授業資料を見返しノートにまとめる。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（50％）と試験（50％）による総合評価とする。								
教科書								
「Canine Rehabilitation」－BASIC LEVEL－ HELEN NICHOLSON (株)教育サポート								
参考書、教材等								
授業の中で紹介する。								

授業科目	動物看護総合実習				実務家教員	—	担当教員	◎今村 伸一郎 フリッツ吉川 綾 荒川 真希・友野 悠
科目英名	Practice of Comprehensive Veterinary Nursing							
開講期間	3 年次 通年	動物看護学科 必修科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1. 動物看護業務の理解 1) チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割を理解する 2) 動物診療施設を見学し、設備や機能を理解する 3) 愛玩動物を適正に管理する方法について理解する 2. 動物看護業務の体験 1) 診察室における獣医療補助行為を体験する 2) 各種検査や処置、外科手術の補助を体験する 3) 入院動物の看護を体験する 4) 飼い主との適切なコミュニケーションを体験する 3. 動物看護業務の実践 1) 実際の動物診療施設で、診察室における診療の補助を実践する 2) スタッフと連携協働し、チーム獣医療を実践する 3) 動物看護計画を立案し、実践する 4) 飼い主に対し適正飼養及び療養生活の指導を実践する								
講義概要								
実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。								
授業計画								
前期	・事前授業や本実習のためのオリエンテーション (以後、事前・事後授業に対する予習、復習を含む) ・プレ実習(オンデマンドによる)、課題レポート作成 ・事前授業 1 回目: プレ実習解説① ・事前授業 2 回目: プレ実習解説② ・事前授業 3 回目: 保定法・予防ワクチン・投薬法など ・事前授業 4 回目: 動物病院院長先生の講話、実習先動物病院の発表 ・事前授業 5 回目: 実習先決定、昨年度の紹介 ・事前授業 6 回目: 臨床実習のための外科学および感染症学 ・事前授業 7 回目: 糞便検査・血液検査・細胞学的検査など ・事前授業 8 回目: 臨床実習のための動物行動学 ・事前授業 9 回目: 履歴書の書き方、お礼の手紙の書き方 ・事前授業 10 回目: チーム獣医療に参加するためのコミュニケーション ・事前授業 11 回目: まとめ、実習における心得および諸注意、実習先で使用する書類配布							
病院実習	・1 週間の病院実習(外部病院にて、上記到達目標を体験、実践する) (帰宅後の報告書、課題レポート作成を含む)							
後期	・事後授業 1 回目: 巡回担当教員を含めたグループワークショップ(10 月上旬) ・事後授業 2 回目: ワークショップ結果の報告とまとめ(10 月下旬)							
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック								
事後授業 1 回目に、各病院間で体験してきた情報交換を行ない、2 回目で全体的なまとめを行ない、また、病院からのコメントも披露し、学生の今後に役立ててもらう。								
履修上の注意								
基本的に、事前・事後授業にはすべて出席すること。 詳細な日程、時間等は Moodle 上に逐次掲示していくので、情報確認を怠らないこと。								
事前・事後学修(予習・復習)の内容								
事前授業では講義テーマが決まっているので、そのテーマについて自分がそれまでに学んできたことを総復習してくること。実習期間中は帰宅後、その日の実習内容についてしっかりまとめを行なってもらう。								

評価方法（評価基準を含む）
事前授業および事後授業への参加度 30%、動物病院実習評価表 30%、実習レポート 40%の割合で総合評価する。
教科書
必要に応じて資料を配布する。
参考書、教材等
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 9 巻「臨床動物看護学総論／臨床動物看護学各論」、8 巻「動物栄養学／動物外科看護学／動物医療コミュニケーション」、7 巻「動物内科看護学／臨床検査学」、6 巻「動物行動学／愛玩動物学／比較動物学」。一般社団法人日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編。EDUWARD Press

授業科目	適正飼養指導論				実務家教員	—	担当教員	◎堀井 隆行・牛根 奈々
科目英名	Guidance Theory of Animal Welfare and Proper Care							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1. 愛玩動物の飼養 1) 愛玩動物の適正飼養の目的、概念について理解する 2) 愛玩動物飼養の現状について理解する 3) 愛玩動物飼養によって人間が受ける影響と問題点について理解する 4) 愛玩動物の飼養のニーズや目的を理解するとともに、グリーンケア、ペットロスについてその概要と飼い主の心情を理解し、必要な支援について理解する 2. 適正飼養の推進 1) 適正飼養に関する支援の目的と活動（民間団体等によるものを含む）について理解する 2) 動物取扱業者における適正飼養について理解する 3) 愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策について理解する 4) 問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法について理解する 3. 災害危機管理と支援 1) 災害時の同行避難の重要性を理解し、説明できる 2) 愛玩動物とその飼い主の災害の備えについて理解し、説明できる 3) 災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割について理解する 4. 動物愛護管理行政 1) 飼い主指導の基盤として、公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) 動物愛護週間の役割と実施状況について理解する 3) 犬・猫の引取り及び負傷動物などの収容並びに処分の状況について理解する 4) 動物による事故の内容と報告状況について理解する 5) 動物愛護管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割について理解する 6) 動物取扱責任者の選任条件と役割について理解する								
講義概要								
愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。								
授業計画							担当教員	
1 愛玩動物の適正飼養のあり方と現状							堀井 隆行	
2 愛玩動物の飼養が人に及ぼす影響（利点と問題点）							堀井 隆行	
3 ペットロスとグリーンケア（終末期の飼い主支援）							堀井 隆行	
4 適正飼養の推進活動							堀井 隆行	
5 動物取扱業者における適正飼養（過剰繁殖問題を含む）							堀井 隆行	
6 各種動物の適切な飼養方法等 1：適切な飼養方法としつけ、飼い主への指導の総論							堀井 隆行	
7 各種動物の適切な飼養方法等 2：イヌとネコの適正飼養							堀井 隆行	
8 各種動物の適切な飼養方法等 3：ウサギ、モルモット、フェレットの適正飼養							堀井 隆行	
9 ポニーの適正飼養（ゲストスピーカー）							堀井 隆行	
10 同行避難と災害への備え							牛根 奈々	
11 災害獣医療と愛玩動物看護師の役割							牛根 奈々	
12 動物愛護管理行政① 公衆衛生業務と動物愛護週間							牛根 奈々	
13 動物愛護管理行政② 収容・処分・事故発生の現状							牛根 奈々	
14 動物愛護管理行政③ 保健所・動物愛護管理センター、動物愛護推進員・協議会の役割							牛根 奈々	
15 動物愛護管理行政④ 動物取扱業の登録・届出、動物取扱責任者の選任と役割							牛根 奈々	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題等に関する質問などは、メールあるいは口頭にて随時受け付ける。その後、個別性の高い内容は個別に、全体性の高い内容は全体に回答をフィードバックする。								
履修上の注意								
Moodle を経由した授業案内や資料配布等を行うため、Moodle およびメールの確認を習慣づけておくこと。								

事前・事後学修（予習・復習）の内容
各授業回に関連する教科書の内容は事前に読んでおくこと。また、授業後には教科書および配布資料等を基に内容をまとめること。
評価方法（評価基準を含む）
定期試験（70％）・授業への参加度（30％）として総合的に評価する。
教科書
『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 10 巻 適正飼養指導論/動物生活環境学/ペット関連産業概論』 一般社団法人 日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会 編 エデュワードプレス
参考書、教材等
必要に応じて随時紹介する。

授業科目	動物愛護・適正飼養実習				実務家教員	○	担当教員	◎堀井 隆行・牛根 奈々 青山 正志・細野 茂之
科目英名	Practice of Animal Welfare and Proper Care							
開講期間	2 年次 通年	必修科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1. 動物の基本的な取扱い 1) 動物種に応じた安全なハンドリングができる 2) 動物を安全に散歩・運動させることができる 3) 犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具（首輪、胴輪、リード、おもちゃなど）を選択することができる 4) 基本的なグルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）を実施できる 5) 動物の飼養環境を適切に整備できる 2. 飼い主とのコミュニケーション 1) 犬や猫の品種に応じた特徴について説明できる 2) 動物の適切な飼養方法（飼養環境、散歩方法、基本的なしつけなどを含む）について指導できる 3) 飼い主が法令に基づき遵守すべき対応について指導できる 4) 動物の飼養が困難となっている飼い主への支援を説明できる 5) 避難所等災害時の飼い主への支援を説明できる 3. 動物愛護管理行政 1) 動物愛護管理センターの活動を理解する（動物愛護管理センターへの見学などを含む） 2) 動物取扱業へ指導すべき内容について理解する 3) 動物取扱業における顧客等への対応について実践することができる								
講義概要								
動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。								
授業計画								担当教員
オリエンテーション 1 各種動物のハンドリング（道具の選択等を含む）：イヌ、ネコ、その他 1 2 各種動物のハンドリング（道具の選択等を含む）：イヌ、ネコ、その他 2 3 各種動物のハンドリング（道具の選択等を含む）：イヌ、ネコ、その他 3 4 各種動物のハンドリング（道具の選択等を含む）：イヌ、ネコ、その他 4 5 グルーミングの基本 6 各種動物の飼養環境の整備：イヌ、ネコ、その他 1 7 各種動物の飼養環境の整備：イヌ、ネコ、その他 2 8 各種動物の飼養環境の整備：イヌ、ネコ、その他 3 9 ポニーのハンドリングと飼養環境の整備 1 10 ポニーのハンドリングと飼養環境の整備 2 11 飼育開始時の飼い主への説明 12 飼育困難な状況の飼い主への支援 13 災害時の飼い主への支援 14 動物愛護管理センターの見学 15 動物取扱業者に対する指導								堀井・牛根 堀井 隆行 堀井 隆行 堀井 隆行 堀井 隆行 堀井 隆行 堀井 隆行 牛根 奈々 細野 茂之 細野 茂之 牛根 奈々 牛根 奈々 牛根 奈々 堀井・牛根 牛根 奈々
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題等に関する質問などは、メールあるいは口頭にて随時受け付ける。その後、個別性の高い内容は個別に、全体性の高い内容は全体に回答をフィードバックする。								
履修上の注意								
グループに分かれて実習を行うことが多くなるため、詳細なスケジュール等は別途提示する。 Moodle を経由した授業案内や資料配布等を行うため、Moodle およびメールの確認を習慣づけておくこと。 実際に動物を取扱う実習内容も含まれるため、動物を取扱う際には指示に従い適した身だしなみを整えること。								

事前・事後学修（予習・復習）の内容
各授業回に関連する適正飼養指導論等で学んだ内容を確認しておくこと。また、授業後には体験した内容を記録し、まとめること。
評価方法（評価基準を含む）
実技および課題（60％）・授業への参加度（40％）として総合的に評価する。
教科書
『犬と猫の快適な暮らしのために 動物取扱業者のための飼養管理ガイド』林良博 総合監修 犬猫適正飼養推進協議会
参考書、教材等
『愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版』 愛玩動物看護師養成専修学校教科書作成委員会 編 エデュワードプレス その他、必要に応じて随時紹介する。

授業科目	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論				実務家教員	—	担当教員	◎福山 貴昭・荒川 真希
科目英名	Study of Companion Animal Care(Grooming)							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
コンパニオンアニマルのグルーミングケアを実施するために必要な専門知識の修得を到達目標とする。 イヌのグルーミングケアにおいては、それを実施するために必要な専門知識の修得を到達目標とする。 ネコのグルーミングケアにおいては、ネコの皮膚被毛をはじめとする身体的特徴や生理学、行動学などの基礎的な知識とグルーミングケアについて解説することで、学生がネコの適正飼養とケアを理解し、それらに必要な正しい知識を修得することを到達目標とする。								
講義概要								
コンパニオンアニマルのグルーミングケアを実施するために必要な専門知識の修得を到達目標とするため、修得内容はグルーミング分野における基礎知識に限定され、リスク管理に必要なアニマルハンドリング、グルーミングケア分野で使用される専門用語・専門器具知識、ケア対象となる動物の形態的特性などの知識を教授する。								
授業計画								担当教員
1 グルーミングの目的と効果								福山 貴昭
2 グルーミングに必要な犬体名称（前駆）								福山 貴昭
3 グルーミングに必要な犬体名称（中駆）								福山 貴昭
4 グルーミングに必要な犬体名称（後駆）								福山 貴昭
5 ネコの品種と被毛の種類								荒川 真希
6 ネコの体のメカニズムと行動								荒川 真希
7 ネコの飼養管理とグルーミングケア								荒川 真希
8 グルーミング器具の手入れ及び保存方法								福山 貴昭
9 グルーミング器具の保持及び使用方法								福山 貴昭
10 イヌ被毛の基礎								福山 貴昭
11 イヌ皮膚の基礎								福山 貴昭
12 グルーミング器具								福山 貴昭
13 グルーミング手技								福山 貴昭
14 イヌのハンドリング 1								福山 貴昭
15 イヌのハンドリング 2								福山 貴昭
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題については適宜解説と講評を行う。								
履修上の注意								
授業状況により講義順番・持ち物が変わる（授業内・掲示にて告知）。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書及び配布資料を読んでおくこと」								
事後学修「毎授業後、授業内容を復習すること（90 分）」								
評価方法（評価基準を含む）								
試験 75%、授業参加度 25%を基に総合的に評価。								
教科書								
『犬の解剖カラーリングアトラス』学窓社								
『全犬種標準書』ジャパンケネルクラブ								
『THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNIAL MANUAL』								
（MAIN Vol)(SEPARATE Vol)（DVD）教育サポートセンター								
参考書、教材等								
教場で指示する								

授業科目	コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習			実務家教員	—	担当教員	◎福山 貴昭・荒川 真希 土屋 恵美・早川 裕子
科目英名	Practice of Companion Animal Care(Basic Grooming)						
開講期間	1 年次 通年	必修科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
コンパニオンアニマルケア（グルーミング）論において学んだ内容を基に、犬猫の飼育管理上必要なグルーミング手技を学修する。資料映像、実際に動物を取扱う実技観察を交えながら、基本的には実際に犬（猫）を取り扱いながら実践方式で授業を展開する。総合的に取り進める中で、各作業については個々に学習できる。ケアを実施する犬猫の健康状態の観察法から始まり、ボディーランゲージの観察と解釈の仕方、保定方法、専門器具の使用方法や保管方法などの技術の修得を到達目標とする。							
講義概要							
コンパニオンアニマルケア（グルーミング）論において学んだ内容を基に、家庭内飼育において健康管理上必要なグルーミング手技を実践する。ハンドリングを実施する動物の健康状態の観察法から始まり、ボディーランゲージの観察と解釈の仕方、保定方法、専門器具の保持の技術を修得する。							
授業計画							
1 キャットグルーミング。爪切り、ブラッシング、ベイジング、ドライングケア。 2 グルーミング器具の確認とグルーミングケア作業準備。衛生管理方法。 3 イヌのボディーランゲージの観察とケージからの出し入れ、テーブル上の取り扱い。 4 イヌのリーシュコントロール、リーシュの結束。イヌの抱上げ法（大、小型犬） 5 グルーミング器具の保持と取り扱い。コーム、ブラシを使用してのブラッシングケア。 6 ベイジング、ドライングケア。イヌに最適な湯温度の設定。 7 洗浄方法とシャンプー剤の選定法。 8 ベイジング、ドライングケア。ブローの温度、風量の設定。 9 クリッピングケア。クリッパーを使用しての被毛処理。 10 クリッピングケア。細部の被毛処理。足底部ケア。 11 爪切り。足先作業の保定と爪切りの使用法。 12 大型犬のグルーミング。大型犬の保定、専用器具の使用法。 13 四肢のハンドリングと、頭部の保持。 14 シザーワーク。ハサミの保持と使用。 15 総復習。 16 総合実技試験。							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
手技に対する評価を授業内において随時口頭で伝える。 手技の習得確認実技試験を実施する。							
履修上の注意							
身だしなみを整え、ユニフォーム着用し実習器具は各自毎回持参すること。 授業状況により授業の順番・持ち物を変更する。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の作業内容をマニュアルで確認しておく」 事後学修「毎授業後、授業内容を読んでおくこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
実技(50%)、授業参加度(50%)を基に総合的に評価する。							
教科書							
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 MAIN Vol. 「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 SEPARATE Vol. 「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 (DVD)							
参考書、教材等							
特に指定しない。							

授業科目	コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習			実務家教員	—	担当教員	◎福山 貴昭・土屋 恵美 早川 裕子
科目英名	Practice of Companion Animal Care (Advanced Grooming)						
開講期間	2年次 通年	選択科目 2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
到達目標							
基礎実習で修得した、ヒトと動物の安全を確保したグルーミングを実施するための知識・技術内容を様々な年齢、気質、サイズのイヌにも安定して実施できることを到達目標とする。毎授業にテーマとなるケア作業を設定し、修得に努める。							
講義概要							
コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習で学んだイヌの健康と管理に加え、多様化する品種の保定法、皮膚の健康ケアの方法を実習する。 イヌのもつ多様な行動パターンへの応用力を修得するため、ハンドリングが多少困難な性質をもつイヌも使用し、イヌのライフステージ、飼育環境、飼育目的に沿ったグルーミングケア方法について実習する。							
授業計画							
1 グルーミングケア。基礎復習。 2 グルーミングケア。ハサミ動線テスト。カンシ綿花作製。 3 グルーミングケア。毛玉ケア（特殊器具使用）。 4 グルーミングケア。上毛・下毛ケア（特殊器具使用）。 5 グルーミングケア。季節別（高温多湿環境対策）。 6 グルーミングケア。季節別（低温乾燥環境対策）。 7 グルーミングケア。作業者同士の確認方法。 8 グルーミングケア。作業評価方法。 9 グルーミングケア。飼育環境別。 10 グルーミングケア。ドライケアー（ムース）。 11 グルーミングケア。ドライケアー（パウダー）。 12 グルーミングケア。泡洗浄。 13 グルーミングケア。ライフステージ（老齢犬）。 14 グルーミングケア。大型イヌ品種ケア。 15 グルーミングケア応用総合。							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
授業内に手技に対する評価を口頭で伝える。							
履修上の注意							
ユニフォーム着用し、実習器具は各自毎回持参すること。 履修人数制限を設ける。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の手技をマニュアルで確認しておくこと」 事後学修「毎授業後、授業内容を読んでおくこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
実技(75%)、授業参加度(25%)を基に総合的に評価する。							
教科書							
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 MAIN Vol. 「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 SEPARATE Vol. 「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」（DVD）							
参考書、教材等							
『全犬種標準書』ジャパンケネルクラブ 等							

授業科目	愛玩動物学				実務家教員	—	担当教員	◎福山 貴昭・早田 由貴子 小嶋 篤史
科目英名	Companion Animal Science							
開講期間	3 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1. 歴史と品種 1) 犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ（品種に適したグルーミングなど）について理解する 2) 猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ（品種に適したグルーミングなど）について理解する 3) 代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態について理解する 4) 血統と血統書について理解する 2. 使役動物 1) 使役動物（犬、その他の動物）の歴史と福祉について理解する 2) 補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の歴史と現状について理解する 3) 補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の役割と育成、適性について理解する 4) その他の使役犬（災害救助犬、警察犬、麻薬探知犬、検疫探知犬など）の種類と特徴及び現状について理解する 3. 愛玩動物の飼養管理 1) 犬の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練、災害時飼養管理など）について理解する 2) 猫の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢など）について理解する 3) 愛玩鳥の適切な飼養管理方法（飼養環境、体調管理など）について理解する 4) 代表的なエキゾチック動物（ウサギ、ハムスターなど）の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など）について理解する 4. 動物の基本的な取扱い 1) 動物を安全に散歩・運動・ふれあいさせることの意義について理解する 2) 基本的グルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）の目的・方法について理解する 3) 適切な飼養環境やストレスの緩和方法について理解する								
講義概要								
愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。								
授業計画								担当教員
1 猫の歴史								早田 由貴子
2 猫の品種・血統								早田 由貴子
3 猫の適正飼養・管理方法								早田 由貴子
4 猫の特性から考える主な疾病、被毛の手入れ								早田 由貴子
5 愛玩鳥の適切な飼養管理方法 1. 愛玩鳥の分類と飼養管理・体調管理								小嶋 篤史
6 愛玩鳥の適切な飼養管理方法 2. 愛玩鳥の羽毛と飼養管理・体調管理								小嶋 篤史
7 愛玩鳥の適切な飼養管理方法 3. 愛玩鳥の筋・骨格と飼養管理・体調管理								小嶋 篤史
8 愛玩鳥の適切な飼養管理方法 4. 愛玩鳥の消化器と飼養管理・体調管理								小嶋 篤史
9 愛玩鳥の適切な飼養管理方法 5. 愛玩鳥の感覚器・生殖器と飼養管理・体調管理								小嶋 篤史
10 エキゾチックアニマル（小動物哺乳類）の適正飼養。								福山 貴昭
11 イヌの歴史 イヌの誕生から純血品種の作出。								福山 貴昭
12 イヌの能力と使役内容。イヌの血統管理。								福山 貴昭
13 イヌの適正飼養 1.用語の解説。								福山 貴昭
14 イヌの適正飼養 2.災害時適正飼養管理。								福山 貴昭
15 イヌの適正管理 3.リスクマネジメント。								福山 貴昭
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
模範的な課題・レポートを掲示する。								

履修上の注意
特になし
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：国内で人気のある主要な犬品種、猫品種、飼い鳥について事前に調べておくこと。 事後学修：授業の内容を復習すること。
評価方法（評価基準を含む）
授業参加度 25%、授業内課題・小テスト等 75%を主な評価とする。
教科書
コンパニオンバードの病気百科(誠文堂新光社) 猫の教科書 高野八重子 他 ペットライフ社
参考書、教材等

授業科目	産業動物学				実務家教員	-	担当教員	村上 隆広
科目英名	Farm Animal Science							
開講期間	3 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
1.動物の種類及び特性：産業動物、野生動物を比較しながら、その歴史、社会的位置づけ及び特徴について理解する								
2.産業動物								
(1)家畜（馬・牛・めん羊・山羊・豚・鶏）の歴史と品種、特徴について理解する								
(2)各家畜の消化器の形態と機能、食性について理解する								
(3) 各家畜の性周期と繁殖生理について理解する								
(4) 各家畜の飼養施設の概要について理解する								
(5) 各家畜の食性と飼養法について理解する								
講義概要								
産業動物の歴史や品種、飼養管理法について学ぶ。家畜化というプロセスによって生じる行動面や形態面の変化（進化）を把握したうえで、代表的な産業動物である馬・牛・めん羊・山羊・豚・鶏・毛皮獣について歴史や品種、特徴、飼養法を理解する。								
授業計画								
1 産業動物とは何か								
2 馬の歴史と特徴								
3 牛の歴史と特徴								
4 めん羊、山羊の歴史と特徴								
5 豚の歴史と特徴								
6 鶏の歴史と特徴								
7 毛皮獣の歴史と特徴								
8 産業動物学まとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小テストについては解説と講評を行う。								
履修上の注意								
遺伝学、解剖学、生理学の内容が出てくるので、復習しておくこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前：配布資料中に次回講義のポイントを示すので、予習しておくこと。								
事後：授業や小テストで示したポイントをよく見直すこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度、小テスト（50％）と定期試験（50％）により総合的に評価する。								
教科書								
教科書は指定しない。講義時にプリントを配布する。								
参考書、教材等								
動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠・応用動物看護学 3，動物行動学・伴侶動物学・産業動物学・実験動物学・野生動物学，株式会社インターズー， 家畜化という進化，リチャード・C・フランシス，西尾香苗訳，白揚社。								

授業科目	実験動物学				実務 家教員	—	担当 教員	牛根 奈々
科目英名	Laboratory Animal Science							
開講期間	3 年次 後期	必修科目 1 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
1. 動物の種類及び特性 1) 愛玩動物、実験動物と野生動物を比較しながら、その歴史、社会的位置づけ及び特徴について理解する 2. 実験動物 1) 動物実験の目的、意義について理解する 2) 代表的な実験動物の飼養管理、繁殖法について理解する 3) 遺伝学的制御、微生物学的制御、環境制御について理解する 4) 疾患モデル動物について理解する								
講義概要								
実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、種類と保全、個体・群管理について学ぶ。								
授業計画								
1 実験動物学概説：動物実験の意義、実験動物の定義と利用状況、歴史と今後の展望 2 動物実験の倫理と法規制 3 各種実験動物の比較生物学：マウス、ラット、ハムスター、スナネズミ、モルモット 4 各種実験動物の比較生物学：ウサギ、ネコ、イヌ、ブタ、サル等 5 実験動物の育種、繁殖、飼育管理、疾病 6 生物学的・疾患モデル動物 7 動物実験代替法：動物実験と 3R 原則、動物実験代替法のメリット・デメリット 8 動物実験からヒトへの外挿								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
各担当で 1 回ずつレポートを課す予定で、これについては返却しながらコメントする予定である。								
履修上の注意								
動物実験に関しては賛否両論があるので、動物実験の是非について反対意見の人々と十分な議論ができるよう自分の意見を常に明確にしておく必要がある。その上で授業に出席してほしい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
毎回資料を配布する予定だが、予習は自分の裁量の中でやるとして、復習は、授業および資料のノート整理を中心に、しっかりとまとめておくこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業参加度・小テスト（30%）、定期試験（50%）、レポート（20%）により総合的に成績評価を行う。								
教科書								
特に指定しない。 適宜プリントを配布する。								
参考書、教材等								
最新実験動物学 前島一淑、笠井憲雪編、朝倉書店								

授業科目	野生動物学				実務家教員	—	担当教員	村上 隆広
科目英名	Wild Animal Science							
開講期間	2 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
1.動物の種類及び特性：野生動物と展示動物等の飼養動物とを比較しながら、その歴史、社会的位置づけ及び特徴について理解する。 2.野生動物 (1)野生動物の分類と生物多様性について理解する (2) 鳥獣害の現状と保全の意義について理解する (3) 絶滅危惧種の定義と含まれる動物、原因、保全方法について理解する (4) 外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策について理解する 2.展示動物 (1) 展示動物の意義と動物園等の役割について理解する (2) 動物園等における個体・群管理、行動管理について理解する (3) 動物園等の施設管理について理解する								
講義概要								
飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。野生動物の進化や分類、国内で人間との共生が課題となっている代表的な分類群の生物学的特徴や生態を基盤として学修する。さらに、野生動物に関連する法制度や調査方法、各地で実施されている対策を知った上で、鳥獣被害、絶滅危惧種、外来種などと動物園の展示動物とを比較しつつ、動物と人間との共生における課題や対策について理解する。								
授業計画								
1 野生動物問題の現場を知る 2 野生動物の進化、分類と生物多様性 3 野生動物に関連する法制度、保護区 4 野生動物調査の実際 5 シカ、カモシカ、イノシシの特徴と問題 6 キツネ、タヌキ等の特徴と問題 7 イタチ類の特徴と問題 8 クマ類の特徴と問題 9 人間との関わりの深い鳥類の特徴と問題 10 外来種の概要と生態系への影響、対策 11 絶滅危惧種の概要と保全 12 絶滅種の概要と再導入をめぐる論争 13 動物園・展示動物の意義と役割 14 動物園と教育、施設管理 15 動物と人との望ましい関係を築くためには？								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小テストについては次の回の講義で解説と講評を行う。								
履修上の注意								
野生動物問題や動物園の話題は新聞やニュースで頻繁に取り上げられるので、自身でも掘り下げて調べるなどして、多様な視点をもつようにすること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前：配布資料中に次回講義のポイントを示すので、予習しておくこと。 事後：授業や小テストで示したポイントをよく見直すこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度、小テスト（50％）と定期試験（50％）により総合的に評価する。								
教科書								
教科書は指定しない。講義時にプリントを配布する。								
参考書、教材等								
コアカリ野生動物学、日本野生動物医学会編、文永堂出版								

授業科目	動物看護関連法規				実務家教員	—	担当教員	植田 富貴子
科目英名	Regulations for Veterinary Nursing							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
1. 法学総論 1) 法の体系について理解する 2) 獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する 2. 愛玩動物看護師法 1) 愛玩動物看護師法の目的・定義等について理解する（免許、試験、業務、罰則を含む） 3. 獣医療関連行政法規 1) 獣医師法の概要について理解する 2) 獣医療法の概要について理解する 4. 公衆衛生行政法規 1) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要について理解する 2) 狂犬病予防法の概要について理解する 5. 薬事行政法規 1) 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の概要について理解する 2) 麻薬及び向精神薬取締法の概要について理解する 3) 毒物及び劇物取締法の概要について理解する								
講義概要								
動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。								
授業計画								
1 法学総論Ⅰ（日本の法体系） 2 法学総論Ⅱ（獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わり） 3 愛玩動物看護師法 4 獣医療関連行政法規Ⅰ（獣医師法） 5 獣医療関連行政法規Ⅱ（獣医療法） 6 公衆衛生行政法規Ⅰ（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律） 7 公衆衛生行政法規Ⅱ（狂犬病予防法） 8 薬事行政法規（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律、麻薬、向神経薬、劇毒物）								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
採点内容をまとめて問題点を伝える。								
履修上の注意								
講義のポイント、注意点をノートなどに自ら手書きすること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：キーワードで内容の概要を予習しておくこと 事後学修：講義のポイントを講義ごとに整理すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
定期試験 70%、授業への参加度 30%により評価する。								
教科書								
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 5 巻 公衆衛生学/動物看護関連法規/動物愛護・適正飼養関連法規 エデュワードプレス								
参考書、教材等								
教材としてプリント、スライド等を随時使用する。								

授業科目	動物愛護・適正飼養関連法規				実務家教員	—	担当教員	小島 香代子
科目英名	Regulations for Animal Welfare and Proper Care							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
1. 愛護・適正飼養の基本となる概念 1) 愛護・適正飼養に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する								
2. 愛護・適正飼養関連行政法規 1) 動物の愛護及び管理に関する法律の概要について理解する 2) 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律の概要について理解する								
3. 社会福祉行政・環境衛生法規 1) 身体障害者補助犬法について概要を理解する 2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律の概要について理解する 3) 化製場等に関する法律の概要について理解する								
4. 野生動物等に関する法律及び条約 1) 生物多様性の概要について理解する 2) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の概要について理解する 3) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約の概要について理解する 4) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の概要について理解する 5) 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律の概要について理解する 6) 特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約の概要について理解する 7) 自然公園法における野生動植物保護に関する制度を理解する 8) 文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度を理解する								
講義概要								
動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。								
授業計画								
1 動物愛護と適正飼養の普及において愛玩動物看護師が果たす役割 2 動物の愛護及び管理に関する法律 3 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律 4 身体障害者補助犬法 5 環境衛生に関連する法律 6 野生動物等に関連する法律① 7 野生動物等に関連する法律② 8 振り返りとまとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
次回の授業で、課題中の見解や質問について、回答・コメントする								
履修上の注意								
なし								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：次回の授業内容について、情報収集し、自分なりの予測を立て、考えを持っておくこと 事後学修：授業内容を振り返り、課題を提出すること								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（授業への関心・意欲・態度）40%、定期試験 60%として総合的に評価する								
教科書								
『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 5 巻 公衆衛生学／動物看護関連法規／動物愛護・適正飼養関連法規』 一般社団法人 日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会 編 エデュワードプレス								
参考書、教材等								
授業中に資料を配付する								

授業科目	医療安全					実務家教員	—	担当教員	本田 三緒子
科目英名	Medical safety								
開講期間	4 年次 後期	動物看護学科 選択科目 2 単位	動物人間関係学科 必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標									
医療安全の確保は、医療現場において最も重要な課題の一つであり、基本的な考え方を理解し、医薬品・医療用具、作業環境の整備、医療事故の防止につながる内容やヒューマンエラーについて学び、「安全文化」の醸成と定着について理解することを到達目標とする。									
講義概要									
“ワンヘルス”を掲げる人と動物の共生社会においては、医療現場等のペット関連産業の現場に関わる全ての人間と動物に関しての医療安全を考慮する必要がある。 危険因子を排除するシステム作り、事故の予防、再発防止といったリスクマネジメント、さらに、訴訟化防止、訴訟対策といったコンフリクト・マネジメント等について解説し、今後の展望を具体的事例に基づいて講義する。									
授業計画									
1 医療安全とヒューマンファクター 2 医療従事者の心構えを再認識する 3 医療安全の分化・調査と分析 4 医療安全のプログラム作成 5 リスクの高い業務工程とは 6 医療安全における指標・薬剤事故について 7 安全を左右する業務工程について 8 労働環境に関する危険の同定 9 医療安全のための評価ツール、測定データの収集 10 望ましい医療安全管理報告 11 業務工程の再設計、エラーを減らす（危害分析と観察） 12 業務工程の死設計に必要な情報源 13 解決策の優先順位について 14 自院の医療安全プログラムを評価する 15 まとめ（BCP から BCM への展開）									
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
医療事故に関する新聞報道の切り抜きメモ作成、課題研究の実施、グループワーク・サポート。									
履修上の注意									
医療安全に関する、ニュースや報道に感心を持ち、真摯に調べ臨むこと、ポイント・ノートで課題整理を自ら完成すること。									
事前・事後学修（予習・復習）の内容									
事前学修「次回講義内容」について予告するので各自・予習すること。 事後学修「レポート提出、ポイント・ノートのとりまとめ」									
評価方法（評価基準を含む）									
授業への参加度：50%、レポート・発表など 50%で総合的に評価する									
教科書									
特に指定しない、毎回プリント資料を配布する。									
参考書、教材等									
1. よくわかる医療安全ガイドブック、東京都病院協会診療情報管理委員会監訳、学研メディカル出版 2. 事故事例で学ぶ医療リスクマネジメント、宗像 雄、嶋森好子、学研メディカル出版 3. 医療安全ワークブック 4 版、川村治子、医学書院									

授業科目	高齢動物看護学				実務家教員	—	担当教員	富田 幸子
科目英名	Animal Geriatrics Technology							
開講期間	4 年次 前期	動物看護学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
本科目は前半で高齢動物看護学、後半に動物自然療法論を含む講座である。動物医療の進展やヒトと動物の暮らしの変化等に伴い犬猫の寿命が飛躍的に長く延び、様々な問題が生じている。高齢動物の病態生理を理解説明でき、その後の健康管理や治療補助および高齢動物の生活の質（quality of life, QOL）の維持および向上を目指す予防看護の方法の説明に加えて、高齢動物の飼い主教育をすることができるようになることを目標とする。自然療法論では、現代西洋医学の看護知識を基本にして、化学療法では補助できない疾患動物の自然治癒力を理解し、からだの中と外の両面から捉える東洋医学を理解実践できるようになることを目標とする。								
講義概要								
高齢動物の理解とその周囲をとりまく状況について解説し、高齢に伴う各臓器別の変化と正確な知識、それに対応する必要な看護について講義する。さらに、QOL の維持管理に必要な知識と死と向き合うグリーフケアについて講義する。自然療法論は実際に経験のある教員による講義で、東洋医学の考え方と応用を展開講義し、動物看護師の技術の拡大を目指す。								
授業計画								
1 ヒト超高齢化の研究状況と高齢動物をめぐる状況 2 高齢動物と循環器・呼吸器疾患の看護 3 高齢動物と消化器・内分泌疾患の看護 4 高齢動物と口腔疾患の看護 5 高齢動物と認知障害の看護 6 高齢動物と腫瘍・泌尿器疾患の看護 7 高齢動物と感染症対策 8 高齢動物と眼科疾患の看護 9 高齢動物と皮膚疾患の看護 10 高齢動物における疾患予防とグリーフケア 11 高齢動物と術後管理・リハビリテーション（ゲストスピーカー） 12 自然療法・補完・代替療法と現代西洋医学の比較（ゲストスピーカー） 13 高齢動物と中医療（漢方・生薬・鍼灸療法など）の基礎知識（動物看護への応用を含む）（ゲスト） 14 高齢動物とストレスとリラクゼーション・デトックスプログラム・マイクロバブルの効能（ゲスト） 15 高齢動物とアロマセラピー/バッチフラワーバジジレメデー/ハーバルメディシンの効能（ゲスト）								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
フィードバックとして小テストは回収後、すぐに解答し解説を行なう。または、レポートはコメントを記載して返却する。								
履修上の注意								
これまでの3年間で学んできた臨床動物看護（内科学、外科学の講義と実習）を履修・単位修得していることが望ましい。これらの上に成り立つ科目のため、各々の講義前に関連科目の予習をしてから講義に望んでほしい。また新聞やニュースなどでとりあげられる動物関連の最新情報にも耳を傾け、社会環境や動物とヒトの介護問題に注意を向けてほしい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：各講義内容に関連するこれまでの講義資料、教科書を読んでおくこと。 事後学修：配布資料、教科書をもとに復習を行い、知識を確認する。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加態度、レポート提出及び小テスト 30%、定期試験 70%から総合的に評価する。								
教科書								
特になし。講義内容に合った資料を配布する								
参考書、教材等								
1) 犬と猫におけるリハビリテーション、支持療法および緩和療法（監修 長谷川篤彦、学窓社 2012）. 2) 高齢動物の医学（監訳 長谷川篤彦、インターズー 2013）. 3) 疾患別 動物看護学ハンドブック（緑書房 2012）. 4) ペットの自然療法辞典（監訳 山根義久、ガイアブックス 2008）. 5) ペットホリスティック・ケア—ペットの心と体を癒やす— 高橋美知代 著、ペットライフ 2008）. 6) ペットのための鍼灸マッサージマニュアル（石野孝 ら著、医道の日本社 2012）								

授業科目	在宅・訪問動物看護論				実務家 教員	—	担当 教員	◎富田 幸子・三井 香奈 友野 悠
科目英名	Home Care and Home-Visit Animal Nursing Care							
開講期間	4 年次 前期	動物看護学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
近年の動物医療の発展は、良質な食餌の普及、予防医学の進歩、病気に対する飼い主の意識向上によってイヌ・ネコの寿命を飛躍的に亢進させた。それに伴って、疾病動物、とくに高齢の疾病動物は病院での治療後、自宅での継続した看護やケアが必要となることが多くなっている。そのため前半はヒトの在宅看護で蓄積された知識について理解する。ヒトの在宅看護から得られる情報を基本として、第5回からは在宅動物看護で予想される問題点を理解して列挙でき、その対処方法を学修する。第13 から 15 回で動物医療面接法を理解できるようになることを目標とする。								
講義概要								
動物にとって住み慣れた自宅、飼い主のそばで飼育されることはもっとも好ましいことである。本講義ではヒトでこれまでに培われてきた在宅看護の方法論（家庭訪問、訪問看護）についてとりあげ解説する。次にこれを基本に、動物にとっての在宅訪問看護の役割と在宅での看護方法を講義する。第13,14,15回は動物医療面接法を説明し、演習を実施する。								
授業計画								担当教員
1 動物医療における在宅・訪問看護（ヒトの在宅看護から）								富田 幸子
2 訪問看護する心がまえ(ヒトの看護に学ぶ、プライバシー保護、コミュニケーション術)								富田 幸子
3 在宅・訪問看護のトラブル防止(ヒトの判例から問題点をつかむ)								富田 幸子
4 在宅・訪問動物看護と動物看護術（ゲストスピーカー）								富田 幸子
5 在宅・訪問動物看護と動物看護術（ゲストスピーカー）								富田 幸子
6 在宅・訪問動物看護の必要性と課題								三井 香奈
7 在宅・訪問動物看護における飼主支援（退院時支援と調整）								三井 香奈
8 在宅・訪問動物看護における飼主支援（安全対策と感染予防、環境改善、医療機器）								三井 香奈
9 在宅・訪問動物看護を援助するための技術（ゲストスピーカー）								三井 香奈
10 在宅・訪問動物看護とターミナルケア（動物福祉を守るためには）								三井 香奈
11 在宅・訪問動物看護における飼い主支援と動物医療面接								友野 悠
12 在宅・訪問動物看護におけるコミュニケーション術								友野 悠
13 在宅・訪問動物看護の動物医療面接								友野 悠
14 在宅・訪問動物看護の動物医療面接								友野 悠
15 在宅・訪問動物看護の動物医療面接（演習）								友野 悠
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小テストは回収後、直後に解答を行う。レポートはコメントを記載して返却する。								
履修上の注意								
動物看護学（内科学、外科学、総合）の講義と実習を履修・単位取得していることが望ましい。日頃から様々な雑誌、新聞、テレビなどのメディアに注目して周囲の社会環境、ヒトや動物の看護に関する情報を考える目を養うことが大切である。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：講義後、次回講義についての予告をするのでそれについて各自予習すること。								
事後学修：レポートは期限内に提出すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度・レポート・小テスト（40%）、定期試験（70%）の結果等を踏まえ総合的に評価する。								
教科書								
教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。								
参考書、教材等								
1) 家族看護を基盤として在宅看護論 I（第4版，日本看護協会出版会） 2) 在宅看護（改訂第2版）（学研） 3) 犬と猫におけるリハビリテーション、支持療法および緩和療法（学窓社） 4) 臨床動物看護学 1 動物医療コミュニケーション,認定動物看護師教育コアカリキュラム2019(インターズー) 5) 1年目に身に付ける社会人マナー＆接遇スキル 50（インターズー）								

授業科目	ペット関連産業論					実務家教員	—	担当教員	越村 義雄
科目英名	Companion Animals-related Industry								
開講期間	4 年次 前期	動物看護学科	動物人間関係学科	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
		必修科目 2 単位	選択科目 2 単位						
到達目標									
1. ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む） 1) 責任と社会的役割を理解する（職業倫理） 2) 商取引における関連法規の概要について理解する 3) 動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法について理解する 2. ペットの飼養実態と市場規模 1) ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模について理解する 3. 各ペット関連産業の現状と課題 1) ペットフード、ペット用品、ペット関連サービス（生体分野、美容・ヘルスケア分野、レクリエーション・観光分野、葬儀・霊園分野、獣医療分野、ペット共生住宅・マンション分野など）の現状と課題を理解する。 4. 動物取扱業 1) 動物取扱業制度の概要について理解する 2) 動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係る手法について理解する									
講義概要									
ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。									
授業計画									
1 ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）Ⅰ（責任と社会的役割（職業倫理）） 2 ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）Ⅱ（商取引における関連法規の概要） 3 ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）Ⅲ（動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法） 4 ペットの飼養実態と市場規模（ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模） 5 各ペット関連産業の現状と課題（ペットフード、ペット用品、獣医療分野、ペット共生住宅・マンション分野など） 6 各ペット関連産業の現業と課題（ペット関連サービス（生体分野、美容・ヘルスケア分野、レクリエーション・観光分野、葬儀・霊園分野）） 7 中間試験 8 動物取扱業Ⅰ（動物取扱業制度の概要） 9 動物取扱業Ⅱ（動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係る手法） 10 ペット関連産業に従事する際に考慮すべきマクロの情報とは 11 ペット関連産業の問題と解決・機会と捉える手法、事業の計画、戦略、戦術、プログラムの策定方法 12 ペット関連産業の将来展望（人口減少、少子化・高齢化、飼育頭数・飼育率の減少） 13 ペット関連産業の可能性（他産業とのコラボレーション、新製品・新サービスの開発、ワンヘルス等） 14 最終試験 15 まとめ（全講義の復習とペット関連産業に関する理解度を確認する）									
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
中間試験や最終試験の後、回答について授業で説明する。									
履修上の注意									
ほぼ毎回、資料を配布し説明する。次回に続くこともあり資料を必ず持参。また、必ずノートをとること。質問時間を設けるので、積極的に活用すること。									
事前・事後学修（予習・復習）の内容									
自身で事前に質問したい内容をまとめておく。授業の後の復習を必ず行うこと。									
評価方法（評価基準を含む）									
授業での質疑応答 1 0 %、中間での理解度テスト 4 0 %、最終試験の成績 5 0 %によって総合評価する。									

教科書
特に指定しない。
参考書、教材等
特に指定しない。参考書：講師、越村義雄の著書「人とペットの赤い糸」学研

授業科目	サイエンスイングリッシュ				実務 家 教 員	—	担 当 教 員	小黒 美枝子
科目英名	Scientific English							
開講期間	3 年次 前期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
動物看護学や動物人間関係学専攻で要求されるサイエンス（科学）は、国際的で、学問進歩が急速である。グローバルな視野に立ち、英文参考書、資料、論文などの科学英語に抵抗なく読むことが要求されている。本授業では、基礎的な科学英文を読解するためのスキルを修得することを目標とする。卒業研究における英語資料、論文の読解のための基礎力修得を到達目標とする。また、国際社会が身近になり、英語のリスニングも、動物や動物と人間の関わりに関する分野、またその関連科学分野においても必要になっている。そのために、基礎的英文読解力に基づいた専門分野の科学英語の英文読解力を修得することを到達目標とする。								
講義概要								
諸専門科目で要求される、サイエンス分野の英語文献、資料を理解するための基礎的な英文読解のスキルの修得を目標とする。他に配当の基礎の英語科目での既習内容を継続的に発展させ、結びつきを図りながら、サイエンス英語読解の基礎能力の確実な定着を目指す。サイエンス英語に特有な英文構造の把握、専門用語、関連語彙、用語の習熟から進めていく。さらに、読解スキルを実践的に使えるようになるために、専門的英語教科書での精読を進めていく。あわせて、英語を耳、口を使って学修するために、リスニングや、音読の繰り返しを行い、専門分野の科学英語を解説する。								
授業計画								
オリエンテーション（サイエンスイングリッシュの科目の紹介、1，2 年次に学修した英語科目との違いを説明、サイエンスイングリッシュの学び方を紹介） 1 動物看護学関連：Animal Biology, Cells & Basic Tissues 2 動物看護学関連：Blood 3 動物看護学関連：Bone 4 動物看護学関連：Movement of Materials within the Body 5 動物看護学関連：Basic Nutrition(1) 6 動物看護学関連：Basic Nutrition(2) 7 動物人間関係学関連：How Dogs Think inside the Canine Mind 8 動物人間関係学関連：Amazing Tales of Amazing Dogs Doing Utterly Amazing Things 9 動物人間関係学関連：The Golden Retriever Who Saved a Baby Deer 10 動物人間関係学関連：The One Eyed Rescue Who Sniffed out Skin Cancer 11 動物人間関係学関連：A Dog’s Five Senses: They are just Like Ours-But not 12 学生によるトピックス提供、発表(1) 13 学生によるトピックス提供、発表(2) 14 レビュー、確認最終テスト								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験や小テストの解説を 15 回目授業中に行い、フィードバックする。								
履修上の注意								
辞書を駆使し、課題の予習をしっかりと行うこと。Moodle を利用して掲示、授業参考資料などを配布するので、注意を怠らないこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修： 授業で配布したプリントは、単語を調べ予習すること。 事後学修： 重要な語彙や表現をノートにまとめる。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業時に実施する小テスト（授業への参加度を含む）、1 5 回目に行う確認最終テストを総合的に評価する。評価基準は、それぞれ、40%、60%の割合とする。								
教科書								
配布資料								
参考書、教材等								
Animal Biology and Care, Sue Dallas, Blackwell Science Time Special Edition How Dogs Think 2018 Time Inc. Books								

授業科目	統計学				実務 家教員	-	担当 教員	木村 祐哉
科目英名	Statistics							
開講期間	2 年次 前期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [総合科目]		
到達目標								
平均値などの基礎統計量を計算できるようになること、得られた結果に対して適切な統計手法の選択ができるようになることを、具体的な到達目標とする。								
講義概要								
本科目では、実験や調査の結果から正しい推論を導き出すための道具として、統計学的知識を修得することを総合目標とする。初めに特定の集団や現象の傾向や性質を客観的に把握するための指標について学び、基礎統計量のうち簡単なものについては自身で計算できるように演習する。次いで、正しい推論を得るための基本的な統計学的検定法を学び、標本の性質にあわせて選択できるようになることを目指す。授業の後半ではさらに踏み込んだ内容として、ひととおりの学術論文の解析内容を理解できるよう、各領域で用いられている統計手法を紹介する。								
授業計画								
1 統計学とは 2 標本の性質 1：母集団と標本抽出 3 標本の性質 2：分布と代表値 4 標本の性質 3：まとめ 5 推定と検定 1：平均値の差の検定（t 検定ほか） 6 推定と検定 2：相関と回帰の分析（Pearson の相関分析ほか） 7 推定と検定 3：独立性の検定（ χ^2 検定ほか） 8 推定と検定 4：まとめ 9 領域ごとの統計手法 1：臨床疫学 10 領域ごとの統計手法 2：生存時間分析 11 領域ごとの統計手法 3：介入研究 12 領域ごとの統計手法 4：多変量解析 13 領域ごとの統計手法 5：質的研究 14 領域ごとの統計手法 6：まとめ 15 総括的評価とフィードバック								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
講義の進捗にあわせて盛り込む計算問題等の課題は、実施状況に応じた全体への解説を行う。 また、まとめの回にも質疑応答の時間を設け、不明点等に関する個別および全体に対するフィードバックを行う。								
履修上の注意								
統計学における計算はコンピュータで行うことが一般化し、正しく計算できるというよりは、正しく選択できることが重要となっている。とはいえ、意味的理解が深まるよう、一部の簡単な数値については、自身で計算する演習を盛り込むので、平方根並びに 10 桁以上の計算可能な電卓を用意すること（携帯電話等のアプリでも良い）。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学習：授業内容に関連する配布資料をよく読んでおくこと。 事後学習：授業内容を復習して、計算問題等の課題に取り組むこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業内で行う小テスト 50%、授業への参加度 50%								
教科書								
特に指定しない								
参考書、教材等								
獣医疫学<第三版>（獣医疫学会 編、近代出版）ほか、講義内で適宜紹介する								

授業科目	動物看護学総合演習				実務家教員	—	担当教員	◎宮井 紗弥香・友野 悠
科目英名	Practice in Animal Health Technology							
開講期間	4 年次 後期	選択科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育 [総合科目]		
到達目標								
4 年間学んできた動物看護学について総まとめを行い、専門知識の定着を目指す。専門基礎科目の知識と専門臨床科目の知識の融合が図られ、いろいろな想定場面でそれら知識の活用ができるようになることを目標とする。								
講義概要								
専門基礎科目である解剖学、生理学、病理学、薬理学の基礎知識の再確認を行い、そのうえで、臨床科目の知識にそれらが応用され、活用されるよう、反復演習を行う。								
授業計画								担当教員
1 解剖学の整理								宮井、友野
2 生理学の整理 1								宮井、友野
3 生理学の整理 2								宮井、友野
4 病理学の整理 1								宮井、友野
5 病理学の整理 2								宮井、友野
6 薬理学の整理								宮井、友野
7 動物臨床看護学総論の整理 1								宮井、友野
8 動物臨床看護学総論の整理 2								宮井、友野
9 動物内科看護学の整理								宮井、友野
10 動物外科看護学の整理								宮井、友野
11 動物臨床検査学の整理								宮井、友野
12 動物臨床看護学各論Ⅰの整理								宮井、友野
13 動物臨床看護学各論Ⅱの整理								宮井、友野
14 動物臨床看護学各論Ⅲの整理								宮井、友野
15 動物看護学総まとめ								宮井、友野
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
毎回演習問題に取り組み、その解説を行う。								
履修上の注意								
国家試験受験を見据え、各自この授業に臨むにあたり、まず自身で過去問題の傾向を確認し、総復習を行ってから演習に参加してもらいたい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
各回の演習内容を把握し、必ずその範囲の予習（1 年生からの復習）を行ってから演習に臨むこと。演習で扱った内容に関しては、必ず自己整理を行うことを習慣づけてほしい。								
評価方法（評価基準を含む）								
定期試験 60%、毎回の演習参加度（演習内で行うテストの成績およびやり直しレポート）40%として、総合的に判定する。								
教科書								
特に指定しないが、基本的に、4 年間各科目で使用してきた教科書を中心に演習内容を構築する。								
参考書、教材等								
必要に応じて提示する。								

授業科目	卒業論文				実務家教員	—	担当教員	内田 明彦・小黒 美枝子 梅村 隆志・今村 伸一郎 岡崎 登志夫・植田 富貴子 富田 幸子・谷口 明子 島森 尚子・石川 牧子 村上 隆広・新島 典子 若林 義啓・加藤 理絵 大橋 由紀子・鈴木 友子 木村 祐哉・福山 貴昭 秋山 順子・宮井 紗弥香 堀井 隆行・三井 香奈 牛根 奈々・長島 孝行 フリッツ 吉川 綾
科目英名	Graduation Thesis							
開講期間	4 年次 通年	動物看護学科 必修科目 4 単位	動物人間関係学科 選択科目 4 単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育〔総合科目〕	
到達目標								
主に「動物看護学」あるいは「動物人間関係学」に関わる分野において、担当指導教員の指導の下、特に興味を持った事項についてまとめて、成果として卒業論文もしくは卒業製作物を提出することを目標とする。								
講義概要								
動物看護教育の中で、担当指導教員の指導の下、特に興味を持った事項についてまとめて、成果として論文を提出させることを目的としている。 具体的には、学生の能力の向上や社会に貢献できる人材成長のため、学生が自ら選んだ卒業論文指導教員の下で、動物看護学に関する文献調査から始まり、研究テーマの設定、実行計画の立案、課題に継続的に取り組む自主性、得られたデータをまとめて発表する能力までを、一貫して指導する。								
授業計画								
研究テーマの設定、実行計画の立案、研究の実施、得られたデータを論文あるいは作品にまとめる。 なお、作成した論文あるいは製作物の提出締切日は、別に掲示板で通知する。中間報告および卒業論文発表会を実施する。								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
必要に応じて指導教員とディスカッションをし、研究内容の検討を行う。								
履修上の注意								
各所属研究室で個別指導となるので、連絡等に注意すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
評価方法（評価基準を含む）								
研究態度（30%）と提出論文または製作品（70%）で総合的に判断する。								
教科書								
なし								
参考書、教材等								
なし								

授業科目	インターンシップ				実務家教員	-	担当教員	◎堀井 隆行・秋山 蘭 三井 香奈・青山 正志
科目英名	Internship							
開講期間	3・4年次 通年	選択科目 2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔総合科目〕		
到達目標								
学生が在学中に動物に関連する事業を展開する企業や団体等（動物病院を含む）において、将来のキャリアに関連した就業体験をおこなうことにより、主体的な職業選択の能力や職業意識の育成及び実務的知識の修得を目標とする。								
講義概要								
本科目では、事前授業を通して社会人基礎力を身につけるとともに、インターンシップの実践を通して職業意識を培い、自らの職業適性について考え、実社会への適応能力を身に付けていく。さらには、事後授業を通して自らの体験を振り返るとともに他者と多様な職域での就業体験を共有し、将来のキャリア形成に向けた自己の課題や職業選択を考える機会とする。								
授業計画								
1. 科目インターンシップに向けた事前授業（4～7月） 事前授業1 オリエンテーション インターンシップとは、企業を知る、自分を知る 事前授業2 ビジネスマナー①身だしなみと立ち居振る舞い 事前授業3 ビジネスマナー②言葉遣いと電話応対 事前授業4 ビジネスマナー③報告・連絡・相談、記録と守秘義務、席次・名刺交換・手紙（お礼状）のマナー 事前授業5 エントリーシート（ES）・履歴書・メール文の書き方 事前授業6 面接のシミュレーション 事前授業7 インターンシップ先との連絡のとり方 事前授業8 インターンシップ直前オリエンテーション① 事前授業9 インターンシップ直前オリエンテーション② 2. 学外インターンシップ（8～9月） 科目としての学外インターンシップ（16時間以上） 受入れ先の企業や団体等（動物病院を含む）で実施 3. 科目インターンシップ後の事後授業（10月） 事後授業1 就業体験の共有 事後授業2 今後のキャリア形成に向けた総括								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業内の課題については、総括したコメントを返す。また、要望や質問等については都度口頭やメールにて回答を行う。								
履修上の注意								
通年科目となっているが、実施スケジュールの概略は上記の通りである。 詳細なスケジュールは初回授業にて別途提示する。 Moodle を経由した授業案内や資料配布を行うため、Moodle およびメールを確認すること。 対外的な科目履修になるため、責任や誠意ある行動をするように心がける。 遅刻・欠席や課題提出の遅れは厳禁とする。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
各授業回に関連する内容を書籍等で下調べしておくこと。また、授業後には配布資料等を基に内容をまとめること。さらに、各自インターンシップ先の業界・企業研究をすること。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（30%）・インターンシップ評価（30%）・課題レポート（40%）による総合評価。								
教科書								
特になし。必要に応じて随時プリントを配布する。								
参考書、教材等								
必要に応じて随時紹介する。								

授業科目	研修・ボランティア活動				実務家教員	—	担当教員	◎加藤 理絵・宮井 紗弥香
科目英名	Volunteer Study & Activity							
開講期間	1～4 年次 通年	選択科目 1 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔総合科目〕		
到達目標								
動物看護及び動物人関係学を学ぶ人間として、飼い主がペットと安心して生活できる環境を提供できる知識と能力を持つことが求められる。動物病院の中だけではなく、様々な状況や環境で生じている。地域支援、高齢者支援、子育て支援、障害者支援、農業支援、震災時の支援など様々な場面で動物に関わる職業人としての役割が求められている。 この授業では、実際に研修やボランティアに参加し、「飼い主と動物」を取り巻く環境に対して、専門職として介入ができる知識と能力を身に付けることを到達目標とする。								
講義概要								
本授業では、大学で指定する研修とボランティア活動に参加することが義務付けられる。前期に講義（事前授業）を行い、それらの意義や原則を理解することとする。そして、夏季休暇を利用した研修やボランティア活動を実践し、後期には事後授業を実施し、研修やボランティアに関する発表とレポート提出をもって単位認定を行うこととする。								
授業計画								
事前授業	オリエンテーション、「海外研修」、「国内研修」の紹介と研修意義							
1 回目								
2 回目	ボランティアの意義について							
3 回目	ボランティアと地域づくりについて							
4 回目	ボランティア活動の紹介							
実習	下記予定地のいずれかで実施する（複数選択可）							
	(1) 海外研修：海外における伴侶動物などの社会的地位と現状（実費）							
	(2) 国内研修：北里大学八雲牧場 産業動物における飼育・管理についての実習（実費）							
	(3) 学内ボランティア：学内ボランティア、学内イベントや研修の手伝い							
	(4) 科目担当が認めた研修やボランティア							
事後授業								
1 回目	研修やボランティアで学んだことの振り返りと発表・報告会							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
研修・ボランティアに関するプレゼンテーションについてのフィードバックは講義内で行う。								
履修上の注意								
実習先との連絡を徹底し、事故のないように注意する。								
「海外研修」および「国内研修」は実費とする。詳しい内容は第 1 回目の授業内で説明する。								
（「海外研修」および「国内研修」は、本授業を履修しなくても参加可能な研修である）								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
シラバスに当日の講義内容が示されているので予習をすること、また復習については当日の講義内容を講義後にノートにまとめること。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（25％）と研修・ボランティア参加状況（50％）、発表（25％）を総合的に勘案し判断する。								
教科書								
随時プリントを配布する。								
参考書、教材等								
なし								

授業科目	動物実習短期留学				実務家 教員	-	担当 教員	島森 尚子
科目英名	Short-term Animal Practical Training Abroad							
開講期間	1～4 年次 通年	選択科目 4 単位	授業形態	講義・実習	科目区分	専門教育〔総合科目〕		
到達目標								
海外の動物関連施設における実際のな英語および動物飼育実習の学修を通じて、多文化共生社会における動物関連学問領域のあり方を幅広く学び、グローバルな視野を身に着ける。								
講義概要								
本科目は、オーストラリアのオーストラリア動物園と提携した海外実習科目である。現地の教育担当者及び飼育担当者に指導を受けながら現地での動物飼育の体験を通じて、多文化共生社会における動物関連学問領域のあり方を幅広く学び、グローバルな視野を身に着けることを目標とする。渡航前及び実習中には、実際に必要とされる英語の学修を日本人及びネイティブの英語教員が行い、現地スタッフとの潤滑なコミュニケーションをはかる。帰国後にプレゼンテーションを行い、実習での学修内容等を振り返る。								
授業計画								
1 事前学修 1 オリエンテーション（講義目的・内容と履修方法の理解） 2 事前学修 2 地域学修（実習先の地域に関する英語学修） 3 事前学修 3 旅行英語（渡航および滞在に必要な語彙および表現） 4 事前学修 4 専門英語（実習に必要な語彙および表現） 5 事前学修 5 専門英語（実習に必要な語彙および英語） 6 実習 1 オーストラリア動物園での実習 7 実習 2 オーストラリア動物園での実習 8 実習 3 オーストラリア動物園での実習 9 実習 4 オーストラリア動物園での実習 10 実習 5 オーストラリア動物園での実習 11 実習 6 オーストラリア動物園での実習 12 実習 7 オーストラリア動物園での実習 13 実習 8 オーストラリア動物園での実習 14 事後学習 1 学生による実習報告発表および担当教員による講評 15 事後学習 2 学生による実習報告発表および担当教員による講評								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
実習報告発表後に講評を行う。								
履修上の注意								
海外での生活および実習の受講に支障がない健康状態であること、および定められた日程および実習先で求められる規律を遵守することを履修の条件とする。さらに、差し当たって、新型コロナウイルスのワクチン接種は必須条件となる。社会情勢によって、あるいは最低参加人数（前回は 16 名。変更があった場合は掲示にて知らせる。）が充足されない場合開講しないことがある。なお、本科目は海外での実習体験であるため、旅費等を含めた別途費用が必要となる。 授業計画は、諸般の事情により変更になることがある。5 月に説明会を行い、履修登録を行う。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学習で学んだ内容をよく復習して実習に臨むこと。実習の際は当日学修した内容を毎回ノートにまとめ、疑問点等があれば次回に質問すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業参加状況 70%、発表およびレポート 30%として総合的に評価する。								
教科書								
Moodle にて配布する。								
参考書、教材等								
教室・Moodle にて資料を配布する。 動物園にて実習テキストを配布する。								

授業科目	アッセンブリーアワー I				実務家教員	—	担当教員	◎三井 香奈・宮井 紗弥香
科目英名	Special Seminar I							
開講期間	1 年次 通年	必修科目 0.5 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [総合科目]		
到達目標								
学園の建学の精神と大学の教育理念を通して、日本における動物看護や動物人間関係の歴史や日本における現状について多角的視点から理解することを目指す。また、様々な講義を通じて文章表現力や学ぶ姿勢、コミュニケーション能力や礼節等の大学生としての基礎力を修得することを目指す。								
講義概要								
本学の学生として学園の建学の精神と大学の教育理念を含めた、動物愛護の精神に基づいた様々な人と動物のかかわりを幅広く学ぶ。これにより、動物看護学科、動物人間関係学科において目指す教育の目的を認識させる。自校教育アワー、トピックスアワー、コミュニケーションアワーの 3 つの柱から構成される本科目において、1 年次生を対象に 4 年間の土台作りを目的としている。								
授業計画								
1 オリエンテーション、学生生活・教務ガイダンス、図書館ガイダンス 2 [自校教育アワー1] 学園と動物看護の歴史について 3 [自校教育アワー2] 動物愛護の精神と本学の教育理念（創始者記念礼拝） 4 [自校教育アワー3] 動物看護フォーラム 5 [自校教育アワー4] ヤマザキ動物愛護シンポジウム（絆祭） 6 [トピックスアワー1] 飲酒や喫煙の危険性 7 [トピックスアワー2] ストレス対処法 8 [コミュニケーションアワー] 総括（1 年次の振り返り）								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
レポート等の質問について、最終回の総括においてフィードバックする。								
履修上の注意								
隔週、通年授業のため、掲示や連絡事項等を確認すること。講演者のスケジュール調整等で授業計画が変更になる場合がある。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前：授業計画に沿って、関連書籍・資料を読んでおく。事後：授業で配布した資料、関連書籍にて復習し、期日までにレポートを書くこと。レポート内容について総括回でレビューを行う。								
評価方法（評価基準を含む）								
レポート内容 50%、授業への参加度 50%で総合的に判断する。レポートの評価基準：与えられた課題を講義内容とからめて深く考察しているかどうかを評価する。								
教科書								
特に指定なし。必要に応じて資料を配布する。								
参考書、教材等								
必要に応じて授業や掲示板にて通知する。								

授業科目	アッセンブリーアワーⅡ				実務 家教員	—	担当 教員	◎牛根 奈々・土屋 恵美 青山 正志
科目英名	Special SeminarⅡ							
開講期間	2 年次 通年	必修科目 0.5 単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育〔総合科目〕		
到達目標								
動物をめぐる環境、そして、動物に関わる人をめぐる環境についてさまざまな観点から知識を広げてゆく。気候変動、グローバル化による動物生態系の変化や動物への深刻な影響、災害時に必要な動物保護、動物看護をめぐる環境等について国内外の事情を把握し、理解する。								
講義概要								
本科目は自校教育アワー、キャリア教育アワー、トピックスアワー、コミュニケーションアワーの 4 つから構成される。動物と環境を巡るさまざまな教養を身につけ、知識を広げてゆく。例えば、職場環境や自然環境から生じる人と動物の複雑な問題に関する教養や専門職としてのストレス耐性も養う。トピックスアワーにおいては、「動物と環境」をテーマに、社会で活躍するスペシャリストを招聘して教授する。講演者のスケジュール等で授業計画の順番が変更になる場合がある。								
授業計画								
1 オリエンテーション（動物看護学部 2 年次生の環境と目標）〔コミュニケーションアワー 1〕 2 動物看護師をめぐる環境（認定動物看護師の資格と認定等）〔自校教育アワー1〕 3 動物看護師のストレス環境（1）〔キャリア教育アワー1〕 4 介在動物と環境〔トピックスアワー1〕 5 生命の教育〔自校教育アワー2〕 6 人と動物の環境改善を目指して（絆祭シンポジウム）〔トピックスアワー2〕 7 ヒトと動物の共生〔トピックスアワー3〕 8 まとめ：ヒトと動物の社会環境を考える								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業中に課題レポートに対する解説を行い、フィードバックする。								
履修上の注意								
講演者のスケジュール調整結果によって授業計画の順番や日時の変更がありうる。初回授業にて配布する授業計画表を確認すること。また、Moodle を利用し参考資料の配布や課題の提出、授業案内を行うため、連絡掲示等を必ず確認すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「各授業回の内容に関連する個人的経験などを振り返っておくこと」 事後学修「授業で扱ったテーマを、読書やウェブ検索により深化させ、定着させること」								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度 50%、課題レポート（ノート形式）50% により総合的に判断する。								
教科書								
なし。必要に応じて掲示板や授業にて通知する。								
参考書、教材等								
なし。必要に応じて掲示板や授業にて通知する。								

授業科目	アッセンブリーアワーⅢ				実務家教員	—	担当教員	◎秋山 蘭・友野 悠
科目英名	Special SeminarⅢ							
開講期間	3 年次 通年	必修科目 0.5 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔総合科目〕		
到達目標								
社会における動物とヒトの多様な関係をそれぞれの視点から理解することにより、動物に関与した職業を理解する。また、愛玩動物看護師をはじめとした動物関連のスペシャリストとしての将来の人物像を描きながら、社会に還元できる人材となることを到達目標とする。								
講義概要								
本科目は、自校教育、キャリア教育、トピックス、コミュニケーションに関する 4 分野から構成される。「動物と職業」をテーマに、日本社会における伴侶動物とヒトの関わりを取り上げ、現場で求められる動物看護学および動物人間関係学の知識を深化させる。動物と社会に関わる多様な分野に携わるスペシャリストを招聘して教授する。								
授業計画								
1 コミュニケーション オリエンテーション 2 自校教育 職業としての動物看護の資格と現状 3 トピックス 社会人におけるストレスマネジメント 4 キャリア教育 動物関連企業や動物病院における職業 5 キャリア教育 社会における愛玩動物看護師の役割(本学卒業生講演) 6 トピックス 動物の救命法 7 自校教育 創始者記念礼拝 8 まとめ：1 年の振り返りとして、職業人について考える								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
ノートやレポートの提出物をチェックし、最終回のまとめにてフィードバックする。								
履修上の注意								
講演者のスケジュール調整を行うため、授業計画が変更になる場合がある。初回授業にて配布する授業計画表や掲示、連絡事項などを確認すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：授業計画に沿って関連資料や書籍を読み、予習を行う。 事後学修：講義内容をノートやレポートにまとめる。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度(60%)およびノートやレポートの提出物(40%)を総合的に評価する								
教科書								
なし。必要に応じて、資料を配布する。								
参考書、教材等								
なし。								

授業科目	アッセンブリーアワーⅣ				実務 家教員	—	担当 教員	◎加藤 理絵・秋山 順子
科目英名	Special Seminar IV							
開講期間	4 年次 通年	必修科目 0.5 単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育〔総合科目〕		
到達目標								
ヒトと動物の共生する平和な社会の構築を目的とし、社会における動物とヒトの多様な関係を修得することを目標とする。卒業に向かい、社会に巣立つ前に社会人としての基礎力を身につけることを到達目標とする。								
講義概要								
アッセンブリーアワーⅠにおいて学んだ幅広い基礎知識の上に、動物とのかかわりという視点から環境や職業や社会について学び、動物看護学科および動物人間関係学科生にふさわしい知識のより深い修得を目指す。これまでの日本の変化発展における動物とのかかわりのあり方、動物が伝統と変化を構築してきた歴史的価値を学ばせ、豊かな人間性を養うと共に、課題研究を通じて、自己研修を深め、社会人となるにふさわしい教養を充実させる。								
授業計画								
1 オリエンテーション、授業初回に詳細の授業計画内容を提示する。 2 〔自校教育アワー1〕学園と動物看護の歴史（理事長講話） 3 〔自校教育アワー2〕人と動物の共生（絆祭公開講座） 4 〔自校教育アワー3〕動物俳句 5 〔自校教育アワー4〕卒業論文発表会 6 〔キャリア教育アワー1〕社会における動物関連の職業 7 〔キャリア教育アワー2〕社会人マナーe ラーニング 8 〔キャリア教育アワー3〕社会人コミュニケーション								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業中に課題レポートに対する解説を行い、フィードバックする。								
履修上の注意								
隔週・通年授業で、講演者のスケジュール調整結果によって授業計画の順番や日時、内容の変更がある。初回授業にて配布する授業計画表を確認すること。また、Moodle を利用し参考資料の配布や課題の提出、授業案内を行うため、連絡掲示等を必ず確認すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修 掲示される「授業の計画内容」を確認すること。 事後学修 Moodle を活用して、授業内容を課題レポートとしてまとめる。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業におけるディスカッションへの参加態度（50%）、および課題レポート等提出物（50%）をもとに総合的に評価する。								
教科書								
なし。必要に応じて、掲示板や授業中に通知する。								
参考書、教材等								
なし。必要に応じて、掲示板や授業にて通知する。								

実務家教員担当科目一覧(動物看護学科)

	科目名	必修/選択	学年	開講期	単位数
1	動物外科看護学	必修	3	前期	2単位
	民間および大学付属の動物病院で臨床獣医師としての実務経験を活かし、実際に疾病を罹患した動物の病態や診断・治療の流れ、そしてそれに対応した動物看護の内容を解説する。				
2	動物外科看護学実習	必修	3	前期	2単位
	民間および大学付属の動物病院で臨床獣医師としての実務経験を活かし、手術や麻酔その他の外科的な領域における動物看護師としての業務内容について、現場に即した実習指導を行う。				
3	動物臨床看護学実習	選択	4	後期	2単位
	民間および大学付属の動物病院で臨床獣医師としての実務経験を活かし、各事例に対応した動物看護の内容を解説する。				
4	動物臨床検査学実習	必修	2	前期	2単位
	特に受託検査項目の種類と特徴及び受託検査における異常データ出現原因やその発見、それに対する対処方法について、実務経験を活かした授業を展開している。				
5	動物リハビリテーション	選択	4	前期	2単位
	動物病院の動物看護師としての実務と動物リハビリテーションを米国の獣医大学教育病院で研鑽した経験を活かし臨場感のある授業を展開。小動物医療現場で実践する理学療法の理論と技術をわかりやすく指導すると共に動物看護の可能性を探究する。				
6	動物総合看護学実習	必修	3	通年	2単位
	動物病院様の協力を得て、動物看護師として現場で遭遇するであろう実践部分の教育をお願いしている。事前授業と事後授業を組み合わせることにより、現場での実務者からの指導をより意義のあるものとしている。				
7	動物愛護・適正飼養実習	必修	2	通年	2単位
	動物愛護・適正飼養実習では、八王子乗馬倶楽部ディレクターの細野茂之という、ウマ領域の第一人者が、業界・現場の実態に即した飼育管理方法について知識・技術の指導を行っている。				
8	インターンシップ	選択	3・4	通年	2単位
	ペット関連産業の実務経験者である教員が、ペット関連産業の市場規模や業態等の特殊性も踏まえた上での社会人基礎力の教育を事前授業にて行う。また、インターンシップ実施中においても、学生が現場で抱える悩み等に対応する。				
実務家教員担当科目：16単位／卒業要件：124単位					

動物人間関係学科
専門教育科目

授業科目	生命科学概論				実務家教員	—	担当教員	◎小黒 美枝子・長島 孝行
科目英名	Introduction to Life Science							
開講期間	2 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕		
到達目標								
現代は日常生活のさまざまな面に生命科学に関する知識や情報が影響を与える時代であるため、生命科学の現状やそれに関わる諸問題を理解するための基礎的知識と、科学的考え方を身につけることを到達目標とする。								
講義概要								
本概論では、生命のしくみを理解することにより、生命の神秘と尊厳について学修する。また、生命科学の発展と生命倫理について解説する。 生命科学と、現代社会のかかわり、生命はどのように設計されているか、ゲノム情報はどのように発現するか。複雑な体はどのようにしてつくられるかを解説する。脳はどこまでわかったか、がんとはどのような現象かについて解説する。 私たちの食と健康の関係、ヒトは病原体にどのようにそなえるかについて解説する。 環境と生物はどのようにかわるか、生命科学技術はここまで進んだ、生命倫理はどこに向かいつつあるか、生命や生物の不思議をどのように理解するかについて解説する。								
授業計画								
1 生命科学とは何か 2 生命はどのように設計されているか 3 ゲノム情報はどのように発現するか 4 複雑な体はどのようにしてつくられるか 5 脳はどこまでわかったか 6 がんとはどのような現象か 7 現代生命科学の基礎に関するまとめ、課題 8 私たちの食と健康の関係 9 ヒトは病原体にどのように備えるか 10 生命科学研究で明らかになった生命のしくみ 11 環境と生物はどのようにかわるか 12 生命科学技術はここまで進んだ 13 生命科学に関する倫理的・法的規制はどのようになっているか 14 生命科学の新たな展開 15 生命科学技術の進歩と社会との関係に関するまとめ、課題								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
レポート課題や質問は、教員が実施する 7 回目と 15 回目の授業において、フィードバックする。Moodle を利用して掲示、授業参考資料などを配布するので、注意を怠らないこと。								
履修上の注意								
本学図書館等を利用して、日々進展する生命科学に関するトピックスなどに積極的に触れて欲しい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修 「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」 事後学修 「7 回目、15 回目の授業後、指定された期限内に課題レポートを提出すること」								
評価方法（評価基準を含む）								
授業内課題（75 %）および授業への参加度（25 %）から総合的に評価する。								
教科書								
現代生命科学 第 3 版 東京大学生命科学教科書編集委員会編 羊土社								
参考書、教材等								
講義中に適宜紹介する。								

授業科目	バイオテクノロジー				実務家教員	—	担当教員	◎小黒 美枝子・長島 孝行
科目英名	Biotechnology							
開講期間	3 年次 後期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕		
到達目標								
バイオテクノロジー（遺伝子工学）は、その技術であり、生物を分子の集合体として理解し、化学の知識、技術を応用したバイオサイエンスと深い関係があることを理解する。将来、動物看護学や動物人間関係学の専門分野や、実生活において、膨大なバイオテクノロジーが利用され、バイオの問題に直面あるいは、判断を迫られる場面に的確に対応できるように、ゲノム、遺伝子、PCR 法、遺伝子組み換え技術など基礎的バイオテクノロジー知識を修得する。またその応用としてカイコが生産するシルクや、カブトエビの機能と利用について修得することを到達目標とする。								
講義概要								
生物がどのようなシステムで動くのかを調べることは、バイオサイエンスと呼ばれている。そのシステムが解明されれば、そのシステムの修理、補助、作成ができる。バイオテクノロジーは、その技術であり、生物を分子の集合体として理解し、化学の知識、技術を応用したバイオサイエンスと深い関係がある。将来、動物看護の専門分野や動物と人間の相互関係の対応において、莫大なバイオテクノロジー技術が生まれ、バイオの問題に直面、あるいは、判断を迫られる状況が増えるだろう。本科目では、このような場面に的確に対応できる能力を養うことを目的とする。本講義では、このような時代に生きるに不可欠なバイオの基礎知識を、生物に関する基礎知識を踏まえながら講義する。								
授業計画								
1 バイオテクノロジー科目の紹介、遺伝子の不思議 2 ゲノム・遺伝子とは何か。 3 ヒトのゲノム、さまざまな動物のゲノム 4 遺伝子情報からタンパク質をつくる仕組み 5 遺伝子組み換え技術の基礎、ゲノム編集 6 PCR 法 7 遺伝子診断 バイオ基礎技術のまとめと課題 8 シルクの過去 9 シルクの現在 10 シルクの未来 11 カブトエビの機能 12 カブトエビの利用 13 体の大きさを決める遺伝子 14 バイオセラピー 15 まとめと課題								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験や課題の解説を授業中に行い、フィードバックする。								
履修上の注意								
バイオテクノロジー技術、その応用利用が新聞、テレビ等にニュースとして取り上げられる。日常生活にどのように密接に関わっているのかについて、興味をもってほしい。Moodle を利用して掲示、授業参考資料などを配布するので、注意を怠らないこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修： 第 2～第 14 回目の授業については、事前に Moodle 等を利用してレジュメを配布するので、事前に目を通し、参考書やインターネットで理解を深めておくこと。 事後学修：講義内容を講義ノートとしてまとめる。疑問点については、授業に提出する小テストや Moodle を利用して質問する。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業中に実施する Moodle 利用の小テスト（授業への参加度含む）および 7 回目、15 回目の課題により、総合的に評価する。 評価基準は、それぞれ、40%、30%、30%の割合とする。								
教科書								
配布資料								
参考書、教材等								
講義中に適宜紹介する。								

授業科目	動物看護学概論				実務家教員	—	担当教員	◎内田 明彦・今村 伸一郎 岡崎 登志夫・梅村 隆志 富田 幸子
科目英名	Introduction to Veterinary Nursing							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]		
到達目標								
1. 動物看護の基本となる概念 1) 動物看護の目的、概念について理解する 2) 獣医療と動物看護の歴史について理解する 3) 獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領について理解する 4) 動物にとっての健康、福祉、QOL について理解する 5) 動物病院における愛玩動物看護師の役割について理解する 2. 動物看護の提供体制 1) 社会における動物病院の役割について理解する 2) 一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する 3) インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務について理解する 4) 診療録（カルテ）と動物看護記録の作成、保存義務について理解する 5) 職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法について理解する 3. 愛玩動物看護師の社会的立場 1) 愛玩動物看護師の職能団体について理解する 2) 愛玩動物看護師の資格制度と業務範囲、資格認定機関について理解する 3) 愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織・団体について理解する 4) 国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて理解する								
講義概要								
獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。								
授業計画						担当教員		
1 獣医療の歴史と概念						内田 明彦		
2 動物看護の歴史と動物看護師の必要性和社会的認知（山川伊津子）						内田 明彦		
3 動物看護の基本となる概念（1）						内田 明彦		
4 動物看護の基本となる概念（2）						内田 明彦		
5 動物看護学の成立と特徴						今村 伸一郎		
6 動物看護学の教育と愛玩動物看護師国家試験						今村 伸一郎		
7 動物看護における飼主支援・ペットロスを中心として（山川伊津子）						内田 明彦		
8 専門職団体の活動						岡崎 登志夫		
9 動物看護師の役割						岡崎 登志夫		
10 動物看護の提供体制						富田 幸子		
11 さまざまな動物観と環境要因						富田 幸子		
12 動物福祉の概念						梅村 隆志		
13 動物福祉と社会						梅村 隆志		
14 伴侶動物の福祉						梅村 隆志		
15 展示動物および使役動物の福祉とまとめ						内田 明彦		
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
フィードバックとして、提出されたレポートの内容について解説をします。								
履修上の注意								
これから学修する動物看護の原点を司る授業であることから、内容は多岐にわたる。従って、毎回の授業をまとめて、整理しておく必要がある。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」								
事後学修「毎授業後、講義資料の内容を復習し、興味ある点を自習により補足すること」								

評価方法（評価基準を含む）	
授業への参加度とレポート提出（50%）および試験（50%）によって評価を行う。	
教科書	
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 4 巻、エデュワードプレス	
参考書、教材等	
1. 獣医看護学	上下巻、山村穂積訳、チクサン出版
2. 動物看護学	各論・総論、日本動物看護学会教科書編集委員会編、インターズー

授業科目	動物人間関係学概論				実務家教員	—	担当教員	◎植田 富貴子 石川 牧子・新島 典子 秋山 順子・堀井 隆行
科目英名	Introduction to Animal・ Human Relations							
開講期間	1 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕		
到達目標								
1. 人間と動物の関わり 1) 動物の飼養・利用の歴史について理解する 2) 欧米と日本の動物観、動物との関わり方の相違について理解する 3) 動物の飼養と利用の現状について理解する 2. 人間の福祉と愛玩動物の関わり 1) 動物虐待と対人暴力の連動性に関する基礎知識について理解する 2) 多頭飼育崩壊（アニマル・ホーディング）について理解する 3) 愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵及び人間の加齢に伴って飼養困難になる 様々な事情について理解する 3. 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育 1) 動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響について理解する 2) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容について理解する 3) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に使用される動物の公衆衛生学的適性、行動学的適性について理解する 4) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に対する動物病院や愛玩動物看護師の関わりについて理解する 5) 学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて理解する（文部科学省が道德教育の一環として認めていることを含む）								
講義概要								
動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。								
授業計画								担当教員
1 ガイダンス、動物人間関係学とはなにか								植田
2 人間と動物の関わり（動物の飼養・利用の歴史と現状）								新島
3 日本の文学・芸術における動物								新島
4 欧米と日本の動物観、動物との関わり方の相違について								新島
5 動物の飼育と利用の現状、人の生活に貢献する動物の役割								石川
6 使役動物（歴史、福祉、身体障害者補助犬：盲導犬・介助犬・聴導犬）								石川
7 人間の福祉（愛玩動物が人に与える恩恵：身体的・心理的影響）と人の加齢化による飼育の問題								新島
8 ペットの飼育（飼育理由、歴史・現状、愛着・依存、ペットロス）								新島
9 学校飼育動物の目的と実態および愛玩動物看護師の関わり								新島
10 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容								秋山
11 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に使用される動物の行動的適性								堀井
12 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育と公衆衛生								植田
13 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育における動物病院、動物看護師の役割								秋山
14 動物虐待と対人暴力の連動性および多頭飼育崩壊（アニマルホーディング）								堀井
15 ペット産業の現状								堀井
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
レポートや質問について各担当教員が講義中にフィードバックする。								
履修上の注意								
本学図書館は当該分野の書籍だけでなく視聴覚教材も多数所蔵している。これらを利用して積極的に多くの知識を吸収し、講義と並行しながら自己の将来への明確な勉学方針を把握すること。参考資料などはMoodle を利用して配布する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学習：予め教科書を読んでおくこと。								
事後学習：講義内容のポイントを自らまとめること。								

評価方法（評価基準を含む）
授業参加度 50%、レポート 50%として総合的に評価する。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 4 巻 動物看護学概論／人と動物の関係学／生命倫理・動物福祉 EDUWARD Press
参考書、教材等
教材としてプリント、スライド等を随時使用する。

授業科目	動物形態機能学				実務家教員	—	担当教員	今村 伸一郎
科目英名	Animal Functional Anatomy							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕		
到達目標								
1. 生命のすがた 1) 細胞の構造について理解する 2) 上皮組織、腺組織、支持組織、筋組織、神経組織について理解する 3) 器官の成り立ちと維持、調整システムについて理解する 2. 循環器とその調節 1) 心臓の構造について理解する 2) 興奮伝導系の構造について理解する 3) 心臓機能の調節機構について理解する 4) 血管の種類と構造について理解する 3. 呼吸器とその調節 1) 呼吸器（気道）の構造について理解する 4. 消化器と栄養代謝 1) 消化管（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸）の構造について理解する 2) 唾液腺、膵臓、肝臓の構造について理解する 5. 内分泌とホルモン 1) 主な内分泌臓器の構造について理解する 6. 泌尿器と体液調節 1) 腎臓及びネフロン構造について理解する 7. 脳と神経 1) ニューロンの構成、シナプスの構造について理解する 2) 脳の構造について理解する 3) 脊髄の構造について理解する 4) 体性神経の構成について理解する 5) 自律神経の構成について理解する 8. 運動器 1) 骨格の構成について理解する 2) 骨の形状と構造について理解する 3) 関節の構造と働きについて理解する 4) 骨格筋の構造について理解する 5) 主な骨格筋の名称について理解する 9. 皮膚と感覚器 1) 皮膚の構造と機能について理解する 2) 皮膚の付属器官について理解する								
講義概要								
動物の生命維持の仕組みを形態学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。								
授業計画								
1 形態学とは 細胞、組織、器官とは 2 骨格系（骨の基本構造、骨組織、造血組織、体幹骨） 3 骨格系（体肢骨、関節） 4 骨格系（骨格筋：筋組織、頭部、頸部、胸部、腰部、腹部） 5 骨格系（骨格筋：前肢、後肢） 6 呼吸器系 7 循環器系 8 消化器系（口腔、咽頭、食道、胃） 9 消化器系（小腸、大腸、肝臓、膵臓） 10 泌尿器系								

11 生殖器系 12 脳神経系 13 特殊感覚器系 14 外皮系、皮膚感覚器系 15 内分泌系
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 授業内で行なう小テストについて、解答は一般開示しないが（自分で調べることが重要）、質問には丁寧に指導を入れる。
履修上の注意 毎回出席をとる。覚える内容が膨大なので日頃から少しずつ整理しておくように。また解剖学用語は正確に覚えるよう心がけてほしい。できるだけ漢字で表記できるようにする。 カラーリングアトラスは自己学修で色付けをし、予習、復習に役立てる。2年次の実習時に役立つ。
事前・事後学修（予習・復習）の内容 授業は基本的にシラバス通りの順で行なうので、指定された教科書のその単元部分について目を通してくること。授業後は配付された資料を基に、授業中とったノートとの付け合わせを行なってほしい。
評価方法（評価基準を含む） 授業への参加度（15%）、小テスト（45%）、定期試験（40%）の総合判定で評価する。
教科書 1. 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻 動物形態機能学／動物繁殖学. 一般社団法人日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編. EDUWARD Press 2. 犬の解剖カラーリングアトラス、日本獣医解剖学会監修、学窓社 必要に応じて資料を配布する。
参考書、教材等 1. Color Atlas of Veterinary Anatomy、浅利昌男監訳、EDUWARD Press 2. 獣医看護学 上下巻、山村穂積訳、チクサン出版 3. カラーアトラス 獣医解剖学 上下巻、カラーアトラス獣医解剖学編集委員会監訳、EDUWARD Press 4. 家畜比較解剖図説 上下巻、加藤嘉太郎著、養賢堂

授業科目	動物生理学				実務家教員	—	担当教員	今村 伸一郎
科目英名	Animal Physiology							
開講期間	1 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕		
到達目標								
1. 生命のすがた 1) 細胞内小器官の働きについて理解する 2) 器官の成り立ちと維持、調整システムについて理解する 2. 循環器とその調節 1) 心筋細胞の電気現象と心筋の興奮伝導系について理解する 2) ポンプとしての心臓機能と心電図、心音について理解する 3) 心臓機能の調節機構について理解する 4) 血管の機能について理解する 5) 血圧調節機構について理解する 3. 呼吸器とその調節 1) 換気の仕組みについて理解する 2) 肺胞におけるガス交換について理解する 3) 血液による酸素と二酸化炭素の運搬について理解する 4) 呼吸運動の調節機構について理解する 4. 消化器と栄養代謝 1) 消化管（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸）の機能について理解する 2) 唾液腺、膵臓、肝臓の機能について理解する 3) 消化と吸収の仕組みについて理解する 5. 内分泌とホルモン 1) 内分泌の定義について理解する 2) ホルモンの性質、機能、生成、分泌、フィードバック調節について理解する 3) 主な内分泌臓器の機能について理解する 4) 主なホルモンの作用と標的器官について理解する 6. 泌尿器と体液調節 1) 腎臓及びネフロンの機能について理解する 2) クリアランスの意味を知り、腎血漿流量と糸球体濾過量の調節機構について理解する 3) 尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮について理解する 4) 体液の分布と区分、調節機構について理解する 5) 電解質バランスについて理解する 6) 酸・塩基平衡について理解する 7. 脳と神経 1) 活動電位、シナプス伝達について理解する 2) 脳の機能について理解する 3) 脊髄の機能について理解する 4) 体性神経の機能について理解する 5) 自律神経の機能について理解する 8. 運動器 1) 骨格筋の収縮機構について理解する 2) 主な骨格筋の機能について理解する 9. 血液と造血器 1) 血球成分と血漿成分について理解する 2) 赤血球の構造と機能について理解する 3) 白血球の構造と機能について理解する 4) 血小板機能と血液凝固機構及び線維素溶解について理解する 10. 皮膚と感覚器 1) 体性感覚（皮膚感覚）について理解する 2) 特殊感覚（視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚）について理解する								

講義概要
動物の生命維持の仕組みを機能学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。
授業計画
1 生理学とは 細胞の構造と機能、細胞内小器官 2 尿の生成と体液調節、クリアランス 3 体液と電解質バランス、酸・塩基平衡 4 血液（血球成分、血漿成分） 5 呼吸とその調節 6 血液循環とその調節（心筋の性質、刺激伝道系、心周期、心音） 7 血液循環とその調節（心電図、心機能調節、血管、血液循環の調節、リンパ系、脾臓） 8 消化吸収（嚥下、胃の仕組みと働き、腸の仕組みと働き、消化管ホルモン） 9 消化吸収（唾液腺、膵臓機能、肝臓機能、栄養素の消化吸収） 10 性と生殖（特に性ホルモンの機能） 11 内分泌とホルモン 12 脳と神経（静止電位と活動電位、興奮の伝導と伝達、シナプス） 13 脳と神経（中枢神経機能、末梢神経機能（自律神経機能含む）） 14 感覚と情報伝達（感覚受容器、体性感覚、特殊感覚） 15 骨格筋の構造と収縮特性、反射運動
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
授業内で行なう小テストについて、解答は一般開示しないが（自分で調べることが重要）、質問には丁寧に指導を入れる。
履修上の注意
毎回出席をとる。授業をよく聞き、ノートを積極的にとるよう取り組むこと。 講義内容を自分の身体に当てはめ、“実感する”ことを行ってほしい。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
授業は基本的にシラバス通りの順で行なうので、指定された教科書のその単元部分について目を通してくること。授業後は、授業中にとったノート整理を行なうこと。
評価方法（評価基準を含む）
授業への参加度（15%）、小テスト（45%）、定期試験（40%）からの総合判定で評価する。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1 巻 動物形態機能学／動物繁殖学. 一般社団法人日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編. EDUWARD Press 必要に応じて資料を配布する。
参考書、教材等
基礎動物生理学、東條英昭著、アドスリー 生理学、真島英信、文光堂 医科生理学展望、星猛ら、丸善 わかりやすい獣医解剖生理学 浅利昌男 監訳 文永堂

授業科目	動物形態機能学実習					実務家教員	—	担当教員	◎今村 伸一郎 牛根 奈々
科目英名	Practice of Animal Anatomy and Physiology								
開講期間	2 年次 後期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門基礎]		
到達目標									
1. 運動器 1) 骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する 2) 代表的な関節の名称と構造、機能について理解する 3) 代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する 2. 内臓器官 1) 模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する 2) 生殖器の雌雄差について理解する 3. 顕微鏡の取扱い 1) 顕微鏡各部位の名称、鏡検条件（倍率など）について理解する 2) 顕微鏡の適切な操作法について修得する 3) 顕微鏡の適切な管理法について修得する 4. 組織像の観察 1) 主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する 2) 組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する									
講義概要									
動物の身体の状態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。									
授業計画									
1 実習全体のオリエンテーション、骨格に関する実習（イヌ）（頭骨、椎骨、胸郭の観察スケッチ） 2 骨格に関する実習（イヌ）（前肢骨、後肢骨の観察スケッチ） 3 筋肉に関する実習（イヌ）（頭部、体幹の筋肉の観察、粘土で骨格筋再現） 4 筋肉に関する実習（イヌ）（頸部、前肢の筋肉の観察、粘土で骨格筋再現） 5 筋肉に関する実習（イヌ）（後肢、全身の筋肉の観察、粘土で骨格筋再現） 6 循環器系・呼吸器系・体温の調節に関する実習（イヌを用いて安静時、運動後の TPR の測定） 7 循環器系に関する実習（自分自身の心電図の計測および波形の解釈、血圧の測定および値の解釈） 8 感覚器系に関する実習（視野の測定、2 点弁別閾の測定、温冷覚の測定）1 9 感覚器系に関する実習（視野の測定、2 点弁別閾の測定、温冷覚の測定）2 10 腎機能に関する実習（ブタ腎臓を用いた腎小体の観察および定量、ブタ腎臓の外・内観スケッチ） 11 内臓に関する実習（イヌ）（腹腔臓器、骨盤臓器の観察スケッチ） 12 内臓に関する実習（イヌ）（胸腔臓器、脳の観察スケッチ、ブタ心臓の内観スケッチ） 13 組織に関する実習（舌、小腸、脾臓、肝臓、腎臓の観察スケッチ） 14 組織に関する実習（肺、心筋、骨格筋、動・静脈の観察スケッチ） 15 組織に関する実習（内分泌系組織、皮膚、骨の観察スケッチ）									
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
スケッチ等はすべて返却するので、廃棄することをしないで、今後開講される応用科目等に役立てるようにしてほしい。									
履修上の注意									
解剖実習では実際の標本や解剖模型をスケッチしたり解剖図を模写したりするので、カラーリングアトラス、スケッチブック、色鉛筆を必ず持参すること。また講義で配布したプリントなども毎回持参すること。 生理実習では、実習前に掲示指示されたものを忘れずに持参すること。									
事前・事後学修（予習・復習）の内容									
実習の詳細は毎回資料を渡してそれに基づいて展開するが、事前に、1 年次に勉強した形態学、生理学について復習してくることを心がけてほしい。これは予習であり、復習にもなる。									
評価方法（評価基準を含む）									
授業への参加度・作業（50%）と課題・レポート（50%）を総合的に判断する。									
教科書									
解剖学実習：犬の解剖カラーリングアトラス 日本獣医解剖学会 監修 学窓社（1 年次購入のもの） 解剖学実習および生理学実習：毎回資料を配付する。									

参考書、教材等

家畜比較解剖図説、加藤嘉太郎著、養賢堂
基礎動物生理学、東條英昭著、アドスリー
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1 巻 動物形態機能学／動物繁殖学、一般社団法人日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編、EDUWARD Press
生理学、真島英信、文光堂
医科生理学展望、星猛ら、丸善
わかりやすい獣医解剖生理学 浅利昌男 監訳 文永堂

授業科目	動物生活環境学					実務家 教員	—	担当 教員	◎三井 香奈・秋山 順子
科目英名	Animal Life Emvironment								
開講期間	2 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]		
到達目標									
1. 飼養環境整備 1) 動物行動学を踏まえた人とペットのための飼養環境整備の必要性や方法（問題行動予防を含む）について理解する 2) ペット共生住宅の現状、環境整備・管理の方法について理解する 2. ペットツーリズム関連施設、ドッグラン 1) ペットツーリズムの現状と実施方法について理解する 2) ペット同伴宿泊ホテルの環境整備・管理の方法について理解する 3) ドッグランの環境整備・管理の方法について理解する 4) ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興について理解する 3. 保護収容施設 1) 動物シェルターや災害時の避難施設の環境整備・管理の方法、シェルターメディスンについて理解する 2) 動物愛護管理センターの役割、施設の概要、普及啓発活動について理解する 4. ペットへの教育・訓練施設 1) 動物の社会化トレーニングの意義、必要性、方法、施設等について理解する 5. 動物介在教育施設 1) 学校飼育動物等の施設の環境整備・管理の方法について理解する 6. ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応 1) 飼育マナーの必要性や目的について理解する 2) 飼育マナーの歴史、地域における飼育マナーの違いについて理解する 3) 地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種の条例について理解する 4) 愛玩動物の種類別に必要とされている飼育マナーについて理解する 5) ペット保険の仕組みと実態について理解する									
講義概要									
動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。									
授業計画								担当教員	
1 犬と猫の関わる法律・基準、犬の飼養環境整備								三井	
2 猫の飼養環境整備								三井	
3 犬の管理方法、問題行動予防、猫の管理方法、問題行動予防								三井	
4 ペットツーリズム、ペット同伴宿泊施設								秋山	
5 ドッグランの環境整備								秋山	
6 ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興								秋山	
7 動物愛護管理センターの役割								三井	
8 動物収容保護施設や災害時避難施設の環境整備、シェルターメディスン								三井	
9 飼い主教育と動物の社会化トレーニング施設								三井	
10 動物介在教育、学校飼育動物等の施設の環境整備								秋山	
11 ペット飼育マナーと関連条例								秋山	
12 愛玩動物の種類別飼育マナー、ペット保険								秋山	
13 ペットツーリズム（ゲストスピーカー）								秋山	
14 ペット保険（ゲストスピーカー）								秋山	
15 民間シェルターの運営（ゲストスピーカー）								三井	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
Moodle トピック内に授業内テストの詳説を掲示。									

履修上の注意
授業は配布資料、パワーポイントおよび板書をもとに進めていく。重要事項を積極的にノートに書きとるようにし、自筆ノートの作成と記憶の定着を心がけること。配布資料は忘れず持参すること。＊欠席した場合は、次の授業までに理由を明記してメールを送ること。Moodle を利用した掲示、授業参考資料の配布などをするので、各講義前には確認を怠らないこと。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：各授業回の内容に関する教科書のページを読んでおくこと 事後学修：授業内テストの復習と関連項目の発展学習
評価方法（評価基準を含む）
授業内テスト（75 %）および授業への参加度（25 %）から総合的に評価する。 授業への参加度は授業内の学修態度に加え、予習や授業の不明点について質問する等の積極的な学修姿勢も評価の対象となる。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠 10 巻「適正飼養指導論／動物生活環境学／ペット関連産業概論」エデュワードプレス
参考書、教材等
適宜講義内に紹介する。

授業科目	動物行動学				実務 家教員	—	担当 教員	フリッツ 吉川 綾
科目英名	Animal Behavior							
開講期間	2 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕		
到達目標								
1. 動物行動学の基礎 1) 動物行動学の4つの問い（適応・進化・機構・発達）について理解する 2) 行動の進化と適応、家畜化について理解する 3) 生得的行動と学習行動について理解する 4) 脳による行動制御について理解する 2. 個体維持行動 1) 摂食及び飲水行動について理解する 2) 排泄行動について理解する 3) 身づくろい行動について理解する 4) 護身行動について理解する 3. 発達過程と社会行動 1) 発達ステージ（新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期）と各時期の行動学的特徴について理解する 2) 生殖行動（性行動・母性行動）について理解する 3) コミュニケーション行動について理解する 4) 敵対行動と親和的行動について理解する 4. 学習理論 1) 行動形成について理解する 2) 馴化と感作について理解する 3) 古典的条件づけとオペラント条件づけについて理解する 4) 学習に影響を与える因子について理解する 5) 基本的なトレーニング法（トイレトレーニング、クレートトレーニング、甘噛み対策など）について理解する 5. 問題行動 1) 問題行動の定義と要因（遺伝的要因、生得的要因、環境要因）について理解する 2) 攻撃行動の種類、原因（動機づけ）と治療法について理解する 3) 恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法について理解する 4) 不適切な排泄行動の原因（動機づけ）と治療法について理解する 5) 高齢性認知機能不全の原因と臨床徴候、対応について理解する 6. 行動治療 1) 行動診療の進め方について理解する 2) 行動修正法と環境修正法の種類と適応について理解する 3) 行動治療における薬物療法について理解する								
講義概要								
犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。								
授業計画								
1 動物行動学の基本概念（至近要因と究極要因）、行動の進化（自然選択説） 2 維持行動の意味と効果 3 社会行動（群れることの意義、個体間コミュニケーション、敵対行動と親和行動） 4 行動発現のしくみ（行動の動機づけ、生得的行動の探索行動と完了行動） 5 行動発現の時期（周期性、生殖行動、犬と猫の発達科学） 6 行動の学習理論（古典的条件付けとオペラント条件付け） 7 問題行動の定義と要因（正常行動と異常行動、先天的要因と後天的要因） 8 行動診療の手順（カウンセリングとコンサルテーション） 9 行動の修正方法（系統的脱感作、拮抗条件付け、高次条件付けなど） 10 犬における攻撃性に関する問題行動と対処法（自己主張性攻撃行動など） 11 犬における恐怖・不安に起因する問題行動と対処法（恐怖性／防御性攻撃行動など） 12 猫における排せつに関する問題行動と対処法（尿マーキングなど）								

13 猫における攻撃性に関する問題行動と対処法（葛藤性攻撃行動など）
14 犬と猫における高齢性認知機能不全と対処法
15 問題行動の予防（飼育前コンサルテーション、子犬教室、適切なハンドリング法）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
授業内に小テストを行い、要点の確認を行う。講義に関する質問には随時応じる。
履修上の注意
授業は配布資料、パワーポイントをもとに進めていく。重要事項を積極的に配布資料に記入し、自筆資料の作成と記憶の定着を心がけること。配布資料は忘れず持参すること。＊欠席した場合は、次の授業までに、理由を明記してメールを送ること。Moodle を利用した掲示、授業参考資料の配布などをするので、各講義前には確認を怠らないこと。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：各授業回の内容に関する教科書のページを読んでおくこと 事後学修：授業内テストの復習と関連項目の発展学習
評価方法（評価基準を含む）
定期試験（70 %）および授業への参加度（30 %）から総合的に評価する。 授業への参加度は授業内の学修態度に加え、予習や授業の不明点について質問する等の積極的な学修姿勢も評価の対象となる。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠 6 巻「動物行動学／愛玩動物学／比較動物学」エデュワードプレス
参考書、教材等
獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠「臨床行動学」（森裕司、他著）インターズー

授業科目	動物遺伝学				実務家教員	—	担当教員	村上 隆広
科目英名	Animal Genetics							
開講期間	1 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕		
到達目標								
ヒトを始め、ヒトとの関連が深い動物等を例にとり、メンデル遺伝学を中心とする従来の遺伝学、分子遺伝学を中心とする新たな遺伝学、さらに実際に活用されている応用遺伝学に至るまでを体系的に学修し、動物看護学並びに動物人間関係学の両専攻において必要となる動物遺伝学の基礎知識の修得を到達目標とする。								
講義概要								
遺伝学は、現在、生命科学全体の中で中心的な法則を構成する存在となっている。遺伝学の概念は、それまでの古典的な経験法則の累積から、近年の分子遺伝学や集団遺伝学の著しい進歩により理論的構成をもつ学問へと確立されてきた。本講義ではメンデル遺伝学を中心とする遺伝学の基本的概念を解説する。また、従来のメンデル遺伝学と分子遺伝学との関連、さらに、これらが実験動物、産業動物や伴侶動物においてどのように利用されているかを紹介し、遺伝学が生殖学や発生工学とどのように関連しているかを解説する。								
授業計画								
1 遺伝学でわかること 2 遺伝の基本法則（1）メンデルの法則 3 遺伝の基本法則（2）メンデルの法則の拡張 4 遺伝子の構造と機能（1）DNA の構造 5 遺伝子の構造と機能（2）遺伝子の複製と情報伝達 6 染色体、連鎖 7 突然変異、遺伝地図の作成 8 性の遺伝 9 量的形質の遺伝 10 集団の遺伝 11 自然淘汰 12 性淘汰 13 種間関係と進化 14 行動の進化 15 遺伝学のまとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業ごとに小テストを行い、その解説と質問・意見への対応を示す。								
履修上の注意								
基礎生物学を受講しておくことが望ましい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：各授業に関連する基礎的事項やキーワードを確認しておくことよい。 事後学修：配布資料や小テストでポイントを伝えるので、その箇所を重点的に見直すこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業ごとの小テストや課題（40%）、節目ごとの試験（レポートを含む、60%）により総合的に評価する。								
教科書								
教科書は指定しない。講義時にプリントを配布する。								
参考書、教材等								
カラー図解 進化の教科書 第 2 巻進化の理論，2017 年，カール・ジンマー，ダグラス・J・エムレン著，講談社ブルーバックス								

授業科目	動物繁殖学				実務家 教員	—	担当 教員	村上 隆広
科目英名	Theriogenology							
開講期間	3 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]		
到達目標								
1. 生殖器の形態と機能 1) 生殖器（雌・雄）の基本構造について理解する 2) 主要な性ホルモンの名称、産生部位及び標的器官について理解する 3) 雄の繁殖生理について理解する 4) 雌の繁殖生理について理解する 2. 性周期と交配 1) 性成熟と発情徴候について理解する 2) 排卵（自然排卵・交尾排卵）の仕組みについて理解する 3) 性周期と腔細胞スメアの関係について理解する 4) 交配適期の決定法について理解する 3. 妊娠と分娩 1) 着床・発生・妊娠・胎子の発育について理解する 2) 妊娠期間、偽妊娠について理解する 3) 分娩と助産、帝王切開について理解する 4) 去勢・不妊手術について理解する 5) 人工授精について理解する 4. 新生子管理 1) 新生子のための飼養環境について理解する 2) 初乳の意義と哺乳について理解する 3) 新生子の発育過程について理解する 5. 遺伝学概論 1) 遺伝のメカニズムについて理解する 2) さまざまな遺伝様式（顕性・潜性、伴性遺伝など）について理解する 3) 遺伝子疾患、発生異常について理解する								
講義概要								
繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。動物にとって繁殖は行動や進化の基盤となるきわめて重要なプロセスである。繁殖が動物の進化に大きな影響を及ぼしてきたプロセスや、繁殖にともなう行動学的、生理学的、形態学的な特徴を総合的に理解する。								
授業計画								
1 繁殖とは何か？繁殖と進化のつながり 2 遺伝のメカニズム、DNA の構造 3 遺伝様式と近年の遺伝学的知見・技術 4 生殖器の形態と機能 5 性ホルモンによる生殖機能の調節 6 性成熟と発情徴候、性周期、交配適期 7 卵子・精子と受精の仕組み 8 着床、発生、妊娠、胎仔の発育 9 分娩、去勢、不妊手術 10 新生子の飼養環境と哺乳、発育 11 産業動物の繁殖生理（1） 12 産業動物の繁殖生理（2） 13 遺伝子疾患と発生異常 14 野生動物の繁殖生理 15 繁殖学のまとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小テストについては次の回の講義で解説と講評を行う。								
履修上の注意								
遺伝学、発生学の基礎を学んでいることが望ましい。								

事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：各授業に関連する基礎的事項やキーワードを確認しておくとい。
事後学修：配布資料や小テストでポイントを伝えるので、その箇所を重点的に見直すこと。
評価方法（評価基準を含む）
授業への参加度と小テスト（50%）、定期試験（50%）の結果をふまえて総合的に評価する。
教科書
教科書は指定しない。講義時にプリントを配布する。
参考書、教材等
動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠・基礎動物看護学 1，動物形態機能学・動物繁殖学，エデュワードプレス

授業科目	動物薬理学					実務家教員	—	担当教員	◎牛根 奈々・近藤 晶弘
科目英名	Veterinary Pharmacology								
開講期間	2 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標									
1. 動物薬理学の基礎									
1) 獣医臨床における薬物治療の概念と目的について理解する									
2) 薬理作用とその発現機構について理解する									
3) 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）と半減期、耐性について理解する									
4) 薬物間相互作用について理解する									
5) 副作用と中毒について理解する									
2. 愛玩動物看護師による薬物の取扱い									
1) 獣医師による投薬量計算について理解する									
2) 各種投薬法（投与経路）を理解し、自宅での投薬を飼い主に指導できる									
3) 薬物の適切な管理方法について理解する									
3. 神経系に作用する薬物									
1) 全身麻酔薬と局所麻酔薬について理解する									
2) 鎮痛薬について理解する									
3) 運動神経系に作用する薬について理解する									
4) 鎮静薬と抗けいれん薬について理解する									
5) 問題行動の治療に用いられる薬について理解する									
4. 呼吸器系に作用する薬物									
1) 呼吸興奮薬について理解する									
2) 鎮咳薬について理解する									
3) 気管支拡張薬について理解する									
5. 循環器・泌尿器に作用する薬物									
1) 血管拡張薬（降圧薬）について理解する									
2) 心不全治療薬（強心薬）について理解する									
3) 抗不整脈薬について理解する									
4) 利尿薬について理解する									
6. 消化器に作用する薬物									
1) 制吐薬について理解する									
2) 制酸薬と胃粘膜保護薬について理解する									
3) 消化管運動調節薬について理解する									
4) 止瀉薬について理解する									
5) 瀉下薬について理解する									
6) 肝疾患の治療に用いられる薬物について理解する									
7) 膵酵素製剤について理解する									
7. オータコイド、代謝・内分泌系の薬物									
1) 代表的なオータコイドについて理解する									
2) 糖尿病治療薬について理解する									
3) 甲状腺ホルモン製剤について理解する									
4) ステロイドホルモン製剤について理解する									
8. 血液・免疫系に作用する薬物									
1) 抗貧血薬について理解する									
2) 血液凝固抑制薬について理解する									
3) 血液凝固促進薬（止血薬）について理解する									
4) 非ステロイド系抗炎症薬（NSAIDs）について理解する									
5) 免疫抑制薬について理解する									
9. 感染症の治療、予防に用いられる薬物									
1) 抗菌薬について理解する（作用機序による分類、抗菌スペクトルなど）									
2) 抗真菌薬について理解する									

3) 駆虫薬について理解する 4) 殺虫薬について理解する 5) 消毒薬について理解する 10. 悪性腫瘍の治療に用いられる薬物 1) 抗悪性腫瘍薬について理解する（作用機序による分類）	
講義概要	
代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	
授業計画	担当教員
1 動物薬理学の基礎 1（薬物治療の概念と目的、薬理作用と発現機構）	牛根
2 動物薬理学の基礎 2（薬物動態、半減期、耐性）	牛根
3 動物薬理学の基礎 3（薬物間相互作用、副作用と中毒、添付文書）	牛根
4 愛玩動物看護師による薬物の取扱（投薬量計算、投薬法、飼主指導、管理方法）	牛根
5 神経系に作用する薬物（全身・局所麻酔、鎮痛薬、運動神経系作用薬、鎮静薬と抗けいれん薬、問題行動への治療薬）	牛根
6 呼吸器系に作用する薬物（呼吸興奮薬、鎮咳薬、気管支拡張薬）	牛根
7 循環器・泌尿器に作用する薬物（血管拡張薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、利尿薬）	近藤
8 代謝・内分泌系の薬物（糖尿病治療薬、甲状腺ホルモン製剤）	牛根
9 消化器に作用する薬物（制吐薬、制酸薬と胃粘膜保護薬、消化管運動調節薬、止瀉薬、瀉下薬、肝疾患治療薬、膵酵素製剤）	近藤
10 オータコイド関連薬、ステロイドホルモン製剤	近藤
11 感染症の治療薬、予防薬 1（抗菌薬、抗真菌薬）	近藤
12 感染症の治療薬、予防薬 2（駆虫薬、殺虫薬、消毒薬）	近藤
13 悪性腫瘍治療薬（抗悪性腫瘍薬）	近藤
14 血液・免疫系に作用する薬物 1（非ステロイド系炎症薬、免疫抑制薬）	近藤
15 血液・免疫系に作用する薬物 2（抗貧血薬、血液凝固抑制薬、血液凝固促進薬）	近藤
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	
確認小テストは授業の中で解答と解説を行う。	
履修上の注意	
小テストを毎回講義後に実施する。結果は成績評価の対象とする。	
事前・事後学修（予習・復習）の内容	
事前学修：講義前に各回の授業計画テーマについて教科書等を使用して可能な限り予習をする。 事後学修：授業で示されたポイント事項及び実施された確認テストについて、配付資料、教科書等をもとに復習を行い、知識を確実なものにする。	
評価方法（評価基準を含む）	
授業への参加度 20%（レポート提出を含む）と筆記試験 80%（定期試験 50%、小テスト 30%）の結果等を踏まえ総合的に評価する。	
教科書	
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 2 巻 動物病理学 / 動物薬理学（日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編）エデュワードプレス	
参考書、教材等	
講義内容に沿った資料を配布する。 参考書については講義の中で紹介する。	

授業科目	動物病理学					実務家教員	—	担当教員	梅村 隆志
科目英名	Veterinary Pathology								
開講期間	2 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]		
到達目標									
1．動物病理学の基礎 1) 病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義について理解する 2) 病理組織標本の作製法について理解する 3) 病理組織学的検査の実施手順について理解する 2．細胞や組織に生じる変化 1) 変性と物質沈着について理解する 2) 壊死とアポトーシスについて理解する 3) 細胞増殖のメカニズム、再生と化生について理解する 4) 過形成と肥大について理解する 5) 低形成と萎縮について理解する 3．循環障害 1) 充血とうっ血について理解する 2) 出血の原因と病態について理解する 3) 血栓の成因について理解する 4) 虚血と梗塞について理解する 5) 浮腫と水腫について理解する 6) ショックの原因と分類、病態について理解する 7) 播種性血管内凝固（DIC）の病態について理解する 4．炎症 1) 炎症の定義と 5 大主徴について理解する 2) 炎症の分類と原因と特徴について理解する 3) 炎症に関与する細胞と化学伝達物質について理解する 4) 炎症の経過と治癒について理解する 5．腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類について理解する 2) 腫瘍の原因と発生機序について理解する 3) 腫瘍と宿主の関係について理解する 4) 腫瘍の転移と進行について理解する 6．先天異常 1) 遺伝子・染色体異常について理解する 2) 発生異常と奇形について理解する									
講義概要									
様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。									
授業計画									
1 病理学分野に関する概論と病理組織標本の作製 2 恒常性の維持（ホメオスタシス・フィードバック機構） 3 退行性病変（変性・壊死・アポトーシス） 4 退行性病変（肥大・萎縮・代謝異常による沈着） 5 進行性病変（再生・過形成・化生） 6 進行性病変（細胞増殖シグナル・創傷治癒） 7 循環障害（充血とうっ血・浮腫と水腫） 8 循環障害（出血・血液凝固と線溶系・塞栓症・虚血と梗塞・DIC） 9 炎症（炎症の定義・原因・転帰） 10 急性炎症と慢性炎症（5 大主徴・化学伝達物質・サイトカイン・肉芽組織・瘢痕化と硬化症）									

11 免疫（免疫の基礎・液性免疫・細胞性免疫）
12 免疫異常（自己免疫疾患・アレルギー・免疫不全）
13 腫瘍（定義と分類・悪性腫瘍の特徴（異形性・浸潤・転移））
14 腫瘍（発生機序（遺伝子異常・がん遺伝子・がん抑制遺伝子）・腫瘍マーカー）
15 先天異常（遺伝子異常・染色体異常・奇形（低形成・異常癒合・位置異常））
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
提出された課題に対する評価基準の説明を行う予定である
履修上の注意
動物解剖学、生化学、生理学等の基礎科目をきちんと理解しておく必要がある。また、病理学用語について十分に理解すること。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
シラバスを参考に事前に基礎知識の収集に努めること。授業中に示された資料に基づきノートをまとめ、教科書を用いて復習し、図書館等を利用して知識の上積みに努めること。
評価方法（評価基準を含む）
授業への参加度（20%）、課題レポート提出（20%）、定期試験（60%）での総合評価
教科書
動物病理学・動物薬理学、エデュワードプレス
参考書、教材等
特になし

授業科目	動物臨床看護学総論				実務家教員	—	担当教員	◎富田 幸子・鈴木 友子 フリッツ吉川 綾
科目英名	General Theories of Veterinary Clinical Nursing							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1. 動物看護過程の展開 1) 動物看護過程の目的や意義、方法について理解する 2) 動物看護過程の各ステップについて理解する 3) アセスメントについて理解する 4) 事例ごとの個別性、情報の整理と解釈について理解する 5) 問題の明確化と動物看護計画の立案について理解する 6) 動物看護過程の実施と評価について理解する 2. 診療記録 1) 診療録（カルテ）の作成方法について理解する 2) 動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法について理解する 3. 動物看護業務 1) チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) ケアの標準化（クリティカルパス）について理解する 3) 事故管理、防止システムについて理解する 4) 若齢動物看護の特徴について理解する 5) 高齢動物看護の特徴や褥瘡について理解する 6) 家庭での継続看護を視野に入れた退院計画・指導について理解する 4. ターミナルケアに関わる技術 1) ターミナルケアの目的と意義について理解する 2) QOL やホスピス、緩和ケアについて理解する 3) グリーフケアについて理解する 4) 死亡した動物への対応とエンゼルケアについて理解する								
講義概要								
動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。								
授業計画							担当教員	
1 動物看護師とは（役割、チーム獣医療、マナー、挨拶、コミュニケーション）							富田 幸子	
2 動物看護過程の展開 1（目的、意義、方法、各ステップの理解）							富田 幸子	
3 動物看護過程の展開 2（アセスメント、事例ごとの個別性、情報整理と解釈）							富田 幸子	
4 動物看護過程の展開 3（問題の明確化、看護計画の立案、看護実践と評価）							富田 幸子	
5 動物看護過程の展開 4（問題解決過程、関連図の作成）							富田 幸子	
6 診療記録 1（カルテの作成方法）							フリッツ吉川 綾	
7 診療記録 2（看護記録の目的、書式、事例に応じた作成法）							フリッツ吉川 綾	
8 動物看護業務 1（ケアの標準化、事故管理、防止システム）							フリッツ吉川 綾	
9 動物看護業務 2（衛生安全管理と環境整備）							フリッツ吉川 綾	
10 動物看護業務 3（若齢動物の看護）							フリッツ吉川 綾	
11 動物看護業務 4（高齢動物の看護、褥瘡）							鈴木 友子	
12 動物看護業務 5（日常管理と入院管理、退院計画・指導）							鈴木 友子	
13 動物看護業務 6（経過に基づく看護：急性期、回復期、慢性期、終末期、周術期）							鈴木 友子	
14 ターミナルケア技術に関わる技術 1（目的と意義、QOL、ホスピス、緩和ケア）							鈴木 友子	
15 ターミナルケア技術に関わる技術 2（グリーフケア、エンゼルケア）							鈴木 友子	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
レポート等にコメントを返す。								
履修上の注意								
学ぶ事柄が広範で基本的項目が多いので、段階的に学ぶ専門科目の教科書や参考書に目を通して、専門用語を予習で調べる等して、その科目に馴染んでおくこと。								

事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：授業の内容に関する教科書等を読むこと。 事後学修：授業の配布資料、教科書を読み返し、ノートにまとめる。
評価方法（評価基準を含む）
授業の参加度及びレポート課題（40%）、定期試験等（60%）の総合評価
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 9 巻 動物臨床看護学総論 / 動物臨床看護学各論（日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編）エデュワードプレス 講義内容に沿ったプリントを配布する。
参考書、教材等
講義内で紹介する。

授業科目	動物内科看護学実習Ⅰ				実務家教員	—	担当教員	◎富田 幸子・三井 香奈 荒川 真希・秋山 蘭 友野 悠
科目英名	Practice of Veterinary Medicinal NursingⅠ							
開講期間	1 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1. 身体検査 1) 全身状態（意識レベル、ボディコンディションスコア、粘膜色、浅在リンパ節、体重測定を含む）を評価できる 2) バイタルサインを評価できる（体温、脈拍数、呼吸数、毛細血管再充満時間（CRT）、股動脈圧） 2. 診察補助 1) 診察の準備や診察室の衛生管理ができる 2) 基本的な保定を実施することができる 3) 聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる 4) 採血・採尿（尿カテーテルの挿入を含む）の手順を習得している 5) 薬剤の取扱い、経口投与・注射の手順を習得している								
講義概要								
内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。								
授業計画								
1 動物看護学の基礎知識（諸注意、消毒法）と診察補助 1（診察準備、診察室の衛生管理） 2 イヌの扱い方（ボディランゲージ観察、リーシュのかけ方、ケージからの出し方、体重測定） 3 診察補助 2：基本保定法 1（基本的な保定法） 4 診察補助 3：基本保定法 2（採血・採尿等の処置の手順と保定、検査時の保定） 5 ネコの扱い方（扱い方と保定法） 身体検査 1（体温計・聴診器の取扱い、全身状態の評価、ボディコンディションスコア、浅在リンパ節、 6 バイタルサイン-体温、脈拍数、呼吸数-評価） 7 身体検査 2（CRT、粘膜色、股動脈圧、脱水の評価） 8 身体検査 3（意識レベル、身体検査まとめ） 9 診察補助 4（薬剤の取扱い、薬用量計算） 10 診察補助 5（経口投与を含む投薬方法と投薬指導） 11 診察補助 6（注射の手順と薬液の取扱い、薬用量計算） 12 診察補助 7（ワクチン接種） 13 保定法復習（横臥位を含む保定法） 14 総まとめ 15 実技チェック								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
レポート等にコメントを返す。								
履修上の注意								
学修する範囲が広範で基本的な項目が多いので、段階的に学ぶ専門科目の教科書や参考書に目を通して、専門用語を調べるなど予習復習して、その科目に馴染んでおくこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学習：授業の内容に関する教科書等を読み、前期授業と関連付ける。 事後学習：授業および配布資料を見返し、ノートにまとめる。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度及び課題レポート（60％）、定期試験（実技及び筆記試験）等（40％）の総合評価								
教科書								
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻 動物内科看護学 / 動物臨床検査学（日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編）エデュワードプレス エデュワードプレス社「動物看護実習テキスト（第 3 版）」								
参考書、教材等								
講義内容に沿ったプリントを配布する。 1) よく診る犬の疾患・猫の疾患 50（鈴木立雄、interzoo）、2) 動物看護テキスト（改訂 2 版）谷口明子著、ファームプレス）、3) 動物看護の実践（第 2 版）、ファームプレス								

授業科目	動物内科看護学					実務家教員	—	担当教員	フリッツ 吉川 綾
科目英名	Veterinary Medical Nursing								
開講期間	2 年次 後期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標									
1. 健康の保持・増進 1) 健康診断の内容と目的について理解する 2. 診療補助に必要な技術 1) 診察における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) 診察室の準備と衛生管理について理解する 3) 動物種ごとの適切な接し方について理解する 4) 保定の基本的な原理、目的、方法について理解する 5) 身体検査・アセスメント項目（体重、体温、脈拍、呼吸、意識レベル、粘膜色、股動脈圧、毛細血管再充満時間（CRT）、浅在リンパ節など）について理解する 3. 検査・処置に必要な技術 1) 注射器の取扱い及び管理方法について理解する 2) 採血の目的と方法について理解する 3) 採尿の目的と方法（穿刺、カテーテル導尿など）について理解する 4) 穿刺と吸引について理解する 5) 各種カテーテル挿入について理解する 6) 酸素吸入について理解する 7) マイクロチップの挿入について理解する 4. 投薬に関わる技術 1) 薬の処方について理解する 2) 内服薬の使用法について理解する 3) 薬剤の注射法について理解する 4) 外用薬の使用法、薬浴の実施法について理解する 5) 投薬前後の注意事項について理解する 5. 輸液に関わる技術 1) 輸液の適応とリスクについて理解する 2) 輸液計画について理解する 3) 各種輸液剤の特性や適応について理解する 4) 輸液中のモニタリングについて理解する 6. 輸血に関わる技術 1) 輸血の適応とリスクについて理解する 2) 輸血計画について理解する 3) クロスマッチ試験と血液型について理解する 4) 各種輸血製剤の適応や特性について理解する 5) 輸血に関わる手技について理解する 6) 輸血による副反応について理解する 7. 心電図と血圧に関わる技術 1) 心電図検査の目的と意義について理解する 2) 心電図検査の実施方法について理解する 3) 血圧測定の方法と意義、注意点について理解する 8. X線検査と CT/MRI に関わる技術 1) X線検査の目的と意義について理解する 2) 放射線防護について理解する 3) X線検査の実施方法と撮影体位について理解する 4) 造影検査と透視検査について理解する 5) フィルムの現像とデジタルX線撮影について理解する 6) CT 及び MRI の概要について理解する 9. 超音波検査に関わる技術 1) 超音波検査の目的と実施方法、保定体位について理解する 2) Bモード、Mモード、ドップラー法について理解する									

10. 内視鏡検査に関わる技術 1) 内視鏡検査の目的と意義について理解する 2) 内視鏡検査の実施方法、準備事項について理解する 3) スコープの洗浄・消毒法について理解する 11. 神経学的検査に関わる技術 1) 姿勢反応と脊髄反射について理解する 2) 脳神経の検査法について理解する 3) 神経学的検査の評価記録法について理解する 12. 眼科検査に関わる技術 1) シルマー試験、フルオレセイン試験の方法と意義について理解する 2) 眼圧測定の方法と意義について理解する 3) 眼底検査の方法と意義について理解する 13. 皮膚と耳の検査に関わる技術 1) 皮膚病変の観察と記録法について理解する 2) 皮膚掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検について理解する 3) ウッド灯検査と真菌培養法について理解する 4) 外耳道の検査方法と意義について理解する
講義概要 内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。
授業計画 1 健康の保持・増進、診療補助に必要な技術：健康診断内容・目的、診察室準備・衛生管理、動物種別の接し方の理解 2 診療補助に必要な技術：保定の基本、身体検査項目の理解 3 検査・処置に必要な技術：注射器の取り扱い・採血・採尿についての基本事項の理解 4 検査・処置に必要な技術：穿刺・吸引・カテーテル挿入・酸素吸入・マイクロチップについての理解 5 投薬に関わる技術：薬剤の取り扱い・投与方法および注意事項の理解 6 輸液に関わる技術：適応例・投与計画および経過観察・各種輸液剤の特性について理解 7 輸血に関わる技術：適応例とリスク・投与計画および経過観察・クロスマッチや血液型判定・輸血に必要な手技や知識の理解 8 心電図と血圧に関わる技術：検査の目的・手技と意義の理解 9 X線検査と CT/MRI に関わる技術：X線検査の目的と意義・手技・防御の理解 10 X線検査と CT/MRI に関わる技術：造影・透視検査・現像法・CT・MRI について理解 11 超音波検査に関わる技術：検査の目的と意義・測定モードについて理解 12 神経学的検査に関わる技術：検査内容・評価記録方法の理解 13 眼科検査に関わる技術：検査方法の手技と意義の理解 14 皮膚と耳の検査に関わる技術：観察及び記録法・検査方法の手技と意義の理解 15 内視鏡検査に関わる技術：検査の目的と意義・装置の管理について理解
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 課題の返却を行う場合はコメントをつける。返却しない場合は総評を行う。質問には随時応じる。
履修上の注意 講義に対し十分な予習と復習を行うことが望ましい。講義の順序は代わることがある。事前に連絡するので注意すること。
事前・事後学修（予習・復習）の内容 教科書の該当部分や配布資料に目を通し、ノート整理等により授業内容を十分理解すること
評価方法（評価基準を含む） 定期試験 60%、レポートあるいは小テスト 20%、授業への参加度（授業内学修取り組みの程度）20%を総合的に評価する
教科書 動物看護学テキスト第2版補訂版（谷口明子著 ファームプレス） 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書第7巻 動物内科看護学 動物臨床検査学（エデュワードプレス）
参考書、教材等 「愛玩動物看護師の教科書」（緑書房）「動物看護コアテキスト」（ファームプレス）「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ」（エデュワードプレス）

授業科目	動物内科看護学実習Ⅱ					実務家教員	—	担当教員	◎フリッツ 吉川 綾 荒川 真希・三井 香奈 友野 悠
科目英名	Practice of Veterinary Medicinal Nursing Ⅱ								
開講期間	2 年次 後期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標									
1. 輸液・輸血に関わる技術 1) 留置針設置の手順を修得し、準備及び補助ができる 2) 輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できる 3) 輸液・輸血中の動物を管理できる 2. マイクロチップに関わる技術 1) マイクロチップの適切な挿入部位について理解する 2) マイクロチップ装着手順を習得している 3. 生体検査 1) 心電図検査を実施し、結果を記録できる 2) X線撮影のための基本的な保定ができる 3) 放射線防護のための装備を正しく扱える 4) 超音波検査のための基本的な保定ができる 5) 神経学的検査の所見を記録できる 6) 眼科検査（シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など）の補助ができる 7) 皮膚検査（掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査など）の補助ができる 8) 外耳道検査の補助ができる									
講義概要									
内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。									
授業計画									
1 感染症の動物の看護:隔離室入室準備、消毒薬の選択 2 妊娠動物の看護（妊娠徴候、妊娠動物のケア、新生子ケア） 3 高齢動物の看護（食事・排泄・運動補助、褥瘡ケア、認知機能不全のケア） 4 疾患動物の栄養管理と給餌方法（療法食の基礎、給餌方法） 5 マイクロチップに関わる技術、尿カテーテルからの採尿 6 輸液・輸血に関わる技術 1) 留置針設置の手順・準備及び補助、自然滴下 7 輸液・輸血に関わる技術 2) 輸液ポンプ、シリンジポンプの使用 3) 輸液・輸血中の動物を管理 8 皮膚検査（掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査など）の補助 外耳道検査の補助（耳鏡の使い方） 9 心電図検査と結果の記録:心電図測定・正常波形の理解・心電計の管理 X線撮影の基本的な保定:頸部・胸部・腹部・骨格撮影時の保定 10 放射線防護のための装備:防護衣・被曝監視モニターの管理 11 眼科検査（シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など）の補助 12 神経学的検査所見の記録（姿勢反応、脊髄反射、脳神経の検査法および評価記録法） 13 保定法総合（超音波検査の保定、大型犬の保定） 14 総まとめ 15 実技チェック									
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
課題を返却する場合はコメントして返却。返却しない場合は総評を行う。									
履修上の注意									
実習参加にあたり、教員の指示があった指定の範囲を予習及び復習をして参加することが望ましい。 実習の順序や持ち物等が変更になる場合は、事前に連絡するため確認すること。									
事前・事後学修（予習・復習）の内容									
教科書等の該当部分、資料に目を通し、事後にはノート整理等で十分理解すること。									

評価方法（評価基準を含む）

実習への参加度:実習内容への取り組みの程度（30%）、レポート（30%）、実技・筆記試験（40%）の結果を総合的に評価する。

教科書

実習時の配布資料

動物看護実習テキスト（第3版）（エデュワードプレス）

参考書、教材等

動物看護学テキスト第2版（谷口明子著 ファームプレス）

授業科目	動物外科看護学					実務家教員	○	担当教員	木村 祐哉
科目英名	Veterinary Surgical Nursing								
開講期間	3 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標									
1. 外傷、創傷管理 1) 創傷の種類と治癒過程と管理方法について理解する 2) ドレーンの装着と管理法について理解する 3) 止血法について理解する 4) 骨折・脱臼の管理について理解する 2. 術前準備 1) 術前手続（飼い主への説明、承諾書など）や術前検査について理解する 2) 無菌的処置の重要性について理解する 3) 手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌法について理解する 4) 手術器具の準備と滅菌法について理解する 5) 手術室の機器類（无影灯、電気メス本体など）、準備について理解する 6) 器械台の準備について理解する 7) 動物の適切なポジショニングについて理解する 8) 術野の消毒について理解する 9) 手洗い、手術着・手袋の着用法について理解する 3. 麻酔 1) 麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) 麻酔リスクの評価（ASA 分類など）について理解する 3) 麻酔前投与（鎮静など）について理解する 4) 注射麻酔（局所麻酔を含む）の手技について理解する 5) 吸入麻酔の手技について理解する 6) 導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する 7) 麻酔看視項目（心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼気終末二酸化炭素濃度など）の監視方法、意義について理解する 8) 麻酔記録の作成法について理解する 4. 術中補助 1) 代表的な手術器具（メス、鉗子など）の名称と使用法について理解する 2) 代表的な縫合材（縫合針、縫合糸）の分類と使用法について理解する 3) 代表的な歯科器具の名称と使用法について理解する 4) 直接補助（手袋着用下での補助）の内容について理解する 5) 間接補助（手術回りの補助）の内容について理解する 5. 術後管理 1) 麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて理解する 2) 疼痛管理の意義と方法について理解する 3) 術創管理と包帯法について理解する 4) 退院時の注意点と飼い主への説明事項について理解する 5) 褥創の予防及び対処法（体位変換など）について理解する 6. 救急救命 1) エマージェンシーの原因と病態について理解する 2) 一次救命措置（BLS）について理解する 3) 二次救命措置（ALS）について理解する 4) 気管挿管と心肺蘇生の方法について理解する 7. 動物理学療法 1) 動物理学療法の目的と意義について理解する 2) 代表的な理学療法の原理と手技について理解する									

講義概要
外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。
授業計画
1 外科看護学概論 2 衛生管理（滅菌・消毒） 3 術前準備Ⅰ（外科的手洗い・ガウンテクニック） 4 術前準備Ⅱ（手術室・術野の準備） 5 麻酔と鎮静Ⅰ（薬剤と手順） 6 麻酔と鎮痛Ⅱ（モニタリング） 7 手術の概要Ⅰ（軟部外科） 8 手術の概要Ⅱ（整形外科・歯科） 9 外傷、創傷管理Ⅰ（分類と侵襲性） 10 外傷、創傷管理Ⅱ（治癒過程と管理） 11 術後管理 12 動物物理学療法 13 救急救命Ⅰ（病態とトリアージ） 14 救急救命Ⅱ（応急・救命処置） 15 総括
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
総括として、最終授業回到復習問題の解答をまとめた補充の解説を行う。
履修上の注意
既に履修している動物の形態機能や病態生理が前提となる科目であるので、理解した上で講義に臨むこと。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：各授業の最後に次回の内容について予告するので、当該箇所を自身で調べておくこと 事後学修：資料とあわせて配布する復習問題を解き、不明点の解消に努めること
評価方法（評価基準を含む）
定期試験 80%、授業への参加度 20%
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ 8 巻(動物栄養学/動物外科看護学/動物医療コミュニケーション)、監修：石岡克己 佐野忠士、EDUWARD Press
参考書、教材等
印刷教材や視聴覚教材を用いて進行し、参考書は授業内で適宜紹介する。

授業科目	動物外科看護学実習					実務家教員	○	担当教員	◎木村 祐哉・秋山 蘭
科目英名	Practie of Veterinary Surgical Nursing								
開講期間	3 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標									
1. 術前準備 1) 手術器具の準備、滅菌ができる 2) 手術衣、タオル・ドレープ類を準備し滅菌できる 3) 手術に必要な機器、器械台を準備できる 4) 手術台への動物の固定、術野の消毒ができる 5) 手洗い、手術衣や手袋の装着ができる 2. 術中補助 1) 麻酔器の各部名称や使用法を理解し、指示に従って操作できる 2) モニター機器（心電図、血圧計など）を接続でき、術中監視を行うことができる 3) 麻酔記録を作成することができる 4) 直接補助（器械の受渡しなど）ができる 5) 間接補助（无影灯、保温マットの操作など）ができる 6) 歯科器具の取扱いを理解し、歯科処置（歯石除去など）の補助ができる 3. 術後管理 1) 術後の創傷管理（ネット、カラー装着などを含む）ができる 2) 動物に包帯（粘着性、自着性など）を装着できる 3) 抜糸の補助ができる 4. 救急救命 1) 必要な機材、薬剤を迅速に準備できる 2) 気管挿管を補助できる 3) 心肺蘇生（人工呼吸、心マッサージ）の手順を習得している									
講義概要									
手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。									
授業計画									
1 術前準備 1(術者の手洗いと消毒、タオル・ドレープ類の準備と滅菌) 2 術前準備 2(手術衣の準備と滅菌) 3 術前準備 3(手術室入室時の身だしなみ、手洗い、手術衣と手袋の装着) 4 術前準備 4(手術台への動物の固定、術野の消毒、ドレーピング、器械台の消毒と準備、一般外科器具の準備と滅菌) 5 術中補助 1(麻酔薬の準備、麻酔器の名称と使用方法、一般外科器具の受け渡し、縫合などの直接補助、間接補助) 6 術中補助 2(気道確保、気管挿管に関する物品準備・保定、心電図や血圧計などのモニター機器の取扱い、麻酔記録作成) 7 医療機器関連の取扱い(電気メス、内視鏡装置、超音波診断装置など) 8 小動物歯科(歯科器具の取扱い、チャーターリング、歯科処置補助) 9 X線の防護および実務 1(フィルム管理、撮影時のポジショニング) 10 X線の防護および実務 2(現像、正常像と異常像の読影) 11 術後管理(創傷管理としてドレッシング材・包帯材の取扱い、包帯法、カラー装着)、抜糸の補助、外用薬の調剤 12 特殊外科疾患(整形外科疾患、リハビリテーション) 13 救急救命対応(人工呼吸と心マッサージの手順、機材と薬剤の準備)／終末期医療 14 個人防護具の取扱(抗がん薬の取扱い、個人防護具)／総復習 15 外科総合									
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
小テストを実施後、解答の解説を行うこととする。レポートはコメントして返却する									

履修上の注意
服装および、安全・衛生面に注意すること。連絡事項に注意すること。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと 事後学修：毎授業後、実習資料の内容および実技について復習をしておくこと
評価方法（評価基準を含む）
授業への参加度（50%）、課題レポート（10%）、実技試験（20%）、筆記試験（20%）で総合的に評価。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書シリーズ8巻(動物栄養学/動物外科看護学/動物医療コミュニケーション)、監修：石岡克己 佐野忠士、EDUWARD Press
参考書、教材等
愛玩動物看護師カリキュラム準拠動物看護実習テキスト第3版、EDUWARD Press そのほか、授業内で必要に応じて参考書等を提示する。

授業科目	動物臨床検査学					実務家教員	○	担当教員	◎岡崎 登志夫・ 宮井 紗弥香
科目英名	Veterinary Laboratory Medicine								
開講期間	2 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標									
1. 臨床検査の基礎 1) 臨床検査における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) 基準値、感度、特異度、精度管理について理解する 3) 検体採取法（血液、尿、便、粘膜、スワブ、体表組織など）について理解する 2. 血液検査 1) 血漿、血清の分離法について理解する 2) 全血球計算法（CBC）について理解する 3) 血液塗抹の作製及び観察法について理解する 4) ヘマトクリット管を用いた検査について理解する 5) 凝固検査の目的と意義について理解する 6) 血液化学検査の目的と意義について理解する 7) 血液ガス検査の目的と意義について理解する 8) 免疫学的検査の目的と意義について理解する 3. 尿検査 1) 尿の性状検査について理解する 2) 尿沈渣について理解する 4. 糞便検査 1) 虫卵・原虫の検出法について理解する 2) 細菌の観察法について理解する 5. 細胞診と病理組織検査 1) 細胞診断の目的と方法について理解する 2) 病理組織検査のための検体の取扱いについて理解する 6. 遺伝子検査 1) 遺伝子検査の目的と応用例について理解する 2) 遺伝子検体の採取及び取扱いについて理解する									
講義概要									
様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。									
授業計画								担当教員	
1 動物臨床検査の進歩（オンライン、ロボット、AI 導入）								岡崎	
2 血液成分と分離（血球と血清又は血漿）								岡崎	
3 血液細胞の種類と溶血検査（赤血球、白血球、血小板）								岡崎	
4 生化学検査（タンパク質）								岡崎	
5 生化学検査（血糖と酵素）								岡崎	
6 凝固・線溶検査（PT、APTT、FDP）								岡崎	
7 血液型、輸血検査（クロスマッチテスト）								岡崎	
8 尿検査（生化学的検査：タンパク質、ヘモグロビン）								宮井	
9 尿検査（形態学的検査：尿沈渣）								宮井	
10 糞便検査（直接塗抹法、集卵法）								宮井	
11 微生物検査（細菌）								宮井	
12 微生物検査（真菌、ウイルス）								宮井	
13 細胞診と病理組織検査（検体の取り扱い、染色法）								宮井	
14 皮膚、耳垢検査（検体採取法、染色法）								宮井	
15 総まとめ（遺伝子検査、血液ガス）								宮井	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
毎回、前回の授業内容に関する小テストを実施し、解説に基づいて各自で採点し、到達度を自己評価できるようにする。また、解答用紙を回収し、次回に全体の到達度についてフィードバックする。									
履修上の注意									
生化学や生理学等の基礎科目をきちんと理解しておく。									

事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修として各授業回の内容に関連する参考書を事前に読んでおく。 事後学修として小テストの結果、理解が不十分な部分については、配布プリントを再度見直す。
評価方法（評価基準を含む）
試験あるいはレポート、授業への参加度（小テスト結果を含む）から総合的に評価する。その割合は、試験あるいはレポート 80%、授業への参加度（小テスト結果を含む） 20%とする。
教科書
なし（配布プリント使用）。
参考書、教材等
・認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 動物臨床看護学 2 動物臨床検査学、インターズー ・臨床検査学講座（血液検査学、臨床化学検査学、免疫検査学、微生物/臨床微生物学、臨床検査総論）、医歯薬出版

授業科目	動物臨床検査学実習					実務家教員	○	担当教員	◎岡崎 登志夫 宮井 紗弥香
科目英名	Practice of Veterinary Laboratory Medicine								
開講期間	2 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標									
1. 検体検査 1) 検体採取・処理の手順を習得している 2) マイクロピペットや遠心分離器を正しく操作できる 3) 血漿、血清を分離できる 4) 血液塗抹標本作製、染色できる 5) 血液塗抹標本を観察し、白血球の百分比を算出できる 6) 全血球計算及び血液化学検査を実施できる 7) 簡易血清学的検査を実施できる 8) 尿検査を実施し、物理化学性状を記録できる 9) 尿沈渣を観察し、所見を記録できる 10) 糞便検査を実施し、虫卵及び原虫を検出できる 11) 細胞診の準備、補助ができる									
講義概要									
検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識に基づいて実践力を習得する。									
授業計画								担当教員	
1 動物臨床検査機器と器具の基本操作について 2 血液形態学的検査（塗抹標本作製と染色） 3 血液形態学的検査（血球の観察と分類） 4 血液形態学的検査（血球計算盤による血球数算定） 5 血漿・血清分離と血色素濃度検査 6 タンパク質濃度と脂質濃度検査 7 タンパク質分画とリポタンパク質分画 8 尿と糞便の形態学的検査 9 尿と糞便の生化学的検査 10 皮膚と耳垢の検査 11 染色体検査と DNA 抽出 12 DNA の電気泳動と免疫学的検査（免疫二重拡散法） 13 免疫学的検査（免疫二重拡散法と ELISA 法） 14 免疫学的検査（血液型とクロスマッチ） 15 臨床における CBC 検査と生化学検査のデータ解析								岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
毎回、課題レポートを課し、その内容や理解度をチェックし、授業中にフィードバックするとともに、単元終了後に回収し、実習担当教員がチェックする。									
履修上の注意									
あらかじめ、実習で扱う各検査項目の手技や臨床的意義について確認をして実習に臨むこと。									
事前・事後学修（予習・復習）の内容									
毎回、あらかじめ実習書の手順を熟読し、理解しておくこと。 毎回、今回の実習に関連する課題レポートについて完成させ、次週に提出すること。									
評価方法（評価基準を含む）									
実習への出席は原則必須であり、結果レポート（25%）、実習課題の完成度（50%）、筆記試験（25%）で総合的に評価する。									
教科書									
なし（配布プリント使用）。									
参考書、教材等									
・ 認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 動物臨床看護学 2 動物臨床検査学、インターズー ・ 臨床検査学講座（血液検査学、臨床化学検査学、免疫検査学、微生物/臨床微生物学、臨床検査総論）、医歯薬出版									

授業科目	ヒトと動物の共通感染症				実務 家教員	—	担当 教員	内田 明彦
科目英名	Zoonosis							
開講期間	3 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
人獣共通感染症は、人類の歴史とともに古くから存在していると思われるが、特に近年産業動物、伴侶動物、野生動物とのかかわりが深くなり、それに伴い動物の持つ病原体と接触する機会も増加している。ヒトと動物の共通感染症はウイルス、細菌、真菌、寄生虫、プリオンまで多岐にわたり、それぞれの病因、疫学、診断、治療及び予防について理解し、発生時に対処できるように理解を深めることを目標にする。								
講義概要								
総論ではヒトと動物の共通感染症の定義、種類と疫学などを学ぶと共に、環境の変化やグローバル化に伴って危惧されている新興・再興感染症についても解説する。各論ではウイルス、リッケチア、細菌、真菌、寄生虫（原虫、蠕虫、衛生害虫）、プリオンによるヒトと動物の共通感染症について、病因、感染様式、疫学、診断、治療及び予防について講義を展開する。また、動物だけではなくヒトの症状や予防などについても医学的見地から講義を進めていく。								
授業計画								
1 総論：ヒトと動物の共通感染症の定義、種類及び新興・再興感染症について 2 ウイルス：狂犬病（ビデオ）、ハンタウイルス感染症、Bウイルス感染症など 3 ウイルス：日本脳炎、黄熱、動物由来インフルエンザ、ウエストナイル熱など 4 ウイルス：エボラ出血熱（ビデオ）、E型肝炎ウイルスなど 5 ウイルス：マールブルグ病、ラッサ熱、SARS、MERS、プリオン病など 6 細菌：炭疽、ペスト、結核、パスツレラ症、サルモネラ症など 7 細菌：カンピロバクター症、レプトスピラ症、ライム病、豚丹毒など 8 細菌：鼠咬症、野兔病、ブルセラ症など 9 真菌、リケッチャなど：恙虫病、オウム病、猫ひっかき病、クリプトコックス症、アスペルギルス症など 10 寄生原虫類：トキソプラズマ症、トリパノソーマ症、リーシュマニア症など 11 線虫類：トキシカラ症、広東住血線虫症、犬糸状虫症など 12 吸虫類：肺吸虫症、横川吸虫症、住血吸虫症など 13 条虫類：包虫症（エキノコックス症）、有・無鉤条虫症、マンソン孤虫症など 14 ヒトと動物の共通感染症を媒介する衛生動物：蚊、ノミ、ダニ類など 15 ヒトと動物の共通感染症の防疫、検査及び発生したときの対策と届け出								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験の答案用紙は原則返却しないが、質問には応じる。また、レポートについても答案用紙と同様の扱いとするが、必要に応じて返却をする。								
履修上の注意								
寄生虫学、微生物学を履修しておくとう理解しやすい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
基本的に講義の数日前に授業に係る資料（プリント等）を開示するので予習を行い、復習は当該資料と教科書とで必ずノートを作成すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（30％）レポート提出（20％）と期末試験（50％）で評価する。								
教科書								
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 3 巻 (エデュワードプレス)、必要に応じて資料を配布する。								
参考書、教材等								
神山著 これだけは知っておきたい人獣共通感染 地人書館 岡部著 感染症から身を守る本 KAWADE 夢新書								

授業科目	公衆衛生学				実務家教員	—	担当教員	植田 富貴子
科目英名	Public Health							
開講期間	2 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1. 公衆衛生の概要 1) 公衆衛生の目的について理解する 2) 公衆衛生行政について理解する 3) 国民衛生の動向について理解する 4) One Health と獣医療の関係について理解する 2. 疫学と疾病予防 1) 感染の成立について理解する 2) 疾病・健康障害の発生要因について理解する 3) 疫学調査法について理解する 4) 予防疫学について理解する 5) 人獣共通感染症とその対策について理解する 6) 狂犬病予防について理解する 3. 環境衛生 1) 環境衛生について、歴史、背景、現在の問題点について理解する 2) 化学物質によってもたらされる健康障害について理解する 3) 放射線による汚染と障害について理解する 4) 衛生動物による人や動物への被害と対策について理解する 5) 動物の咬傷による人への健康障害について理解する 6) 廃棄物の取扱いについて理解する 4. 食品衛生 1) 食品衛生と食中毒について理解する 2) 動物性食品の衛生について理解する 3) 食品衛生管理手法（HACCP など）について理解する								
講義概要								
環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。								
授業計画								
1 公衆衛生概論（食品衛生・人獣共通感染症・環境衛生における歴史、国民衛生の動向） 2 動物衛生概論（公衆衛生と動物衛生の違い、動物衛生の歴史と現状） 3 公衆衛生学と動物との関わり合いの歴史（One Health と獣医療） 4 疫学と疾病予防Ⅰ（疫学の分類、疫学特性；発生頻度、分布、関連情報など） 5 疫学と疾病予防Ⅱ（流行と予防、感染症と非感染症、疫学調査法、サーベイランス） 6 食品の衛生（HACCP、危害要因、食品添加物と安全性、衛生害虫、衛生動物） 7 食品由来の疾病Ⅰ（食中毒、食品・水媒介感染症、アレルギー） 8 食品由来の疾病Ⅱ（化学物質による中毒；意図的混入と非意図的混入） 9 食品の衛生Ⅳ（農薬の残留、飼料添加物・治療薬の残留、ポジティブリスト制度） 10 環境衛生Ⅰ（地球環境問題の歴史と現状） 11 環境衛生Ⅱ（地域環境問題（公害）の歴史と現状、典型 7 公害） 12 環境衛生Ⅲ（上水・下水の衛生、大気・土壌の汚染） 13 環境衛生Ⅳ（廃棄物、放射性物質による汚染、その他の問題） 14 衛生動物による被害と対策 15 公衆衛生の最近の動向と問題（薬剤耐性菌など）、公衆衛生行政								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
採点内容をまとめて問題点を伝える。問題があれば moodle 等で連絡する。								
履修上の注意								
講義のポイント、注意点をノートなどに自ら手書きすること								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
講義前にキーワードで内容の概要を予習し、講義後ポイントを整理すること。								

評価方法（評価基準を含む）
定期試験 70%、授業への参加度 30%により評価する。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 5 巻 公衆衛生学／動物看護関連法規／動物愛護・適正飼養関連法規 EDUWARD Press
参考書、教材等
教材としてプリント、スライド等を随時使用する。

授業科目	動物感染症学Ⅰ				実務家教員	—	担当教員	内田 明彦
科目英名	Veterinary Infectious DiseasesⅠ							
開講期間	2 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1. 寄生虫の分類と特徴 1) 原虫の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 2) 蠕虫（吸虫、条虫、線虫）の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 3) 衛生動物（ダニ、ノミなど）の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 4) 寄生虫疾患の検査、診断法について理解する 5) 駆虫薬や駆除剤の使用法について理解する								
講義概要								
寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。								
授業計画								
1 総論（1）（寄生虫とは、寄生虫と宿主の関係、寄生虫の生活史） 2 総論（2）（寄生虫の感染経路、寄生部位と病害作用、寄生虫と免疫） 3 原虫類の概要 4 原虫（トリパノソーマ、トキソプラズマ、ランブル鞭毛虫、アメーバ、トリコモナス等） 5 蠕虫類の概要 6 吸虫（総説、肝吸虫、肺吸虫、住血吸虫等） 7 条虫（総説、裂頭条虫、包虫、囊虫等） 8 線虫（総説、回虫、鞭虫、鉤虫、糸状虫等） 9 イヌ、ネコの寄生虫（バベシア、イヌネコ回虫、瓜実条虫、イヌ糸状虫等） 10 ウサギ等ペットおよびエキゾチックアニマルの寄生虫 11 人獣共通寄生虫症（クリプトスポリジウム、アメーバ赤痢、幼虫移行症、有鉤条虫、疥癬等） 12 衛生動物（蚊、ハエ、ノミ、シラミ等） 13 衛生動物（ダニ、ネズミ） 14 寄生虫検査法 15 寄生虫症の疫学と予防								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験の答案用紙は原則返却しないが、質問には応じる。またレポートについても答案用紙と同様の扱いとするが、必要に応じて返却をする。								
履修上の注意								
基礎的な内容があるので生物学、生化学、免疫学などの勉強をしておく講義が理解しやすい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
シラバスに当日の講義内容が示されているので予習をすること、また復習についても必ず講義の後まとめたノート作りをする。								
評価方法（評価基準を含む）								
レポート・授業への参加度での評価（30％）と、学期末の定期試験の成績（70％）により評価する。								
教科書								
日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会 編 小野文子 監修 動物感染症学 インターブー								
参考書、教材等								
内田明彦・黄鴻堅 図説獣医寄生虫学 改訂第3版（Mac/Win 対応 CD-ROM）メディカグローブ								

授業科目	小動物栄養学				実務 家教員	-	担当 教員	◎荒川 真希・秋山 蘭
科目英名	Small Animal Nutrition							
開講期間	2 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
1. 基礎栄養 1) 5 大栄養素（糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル）について理解する 2) 栄養要求の種差（必須アミノ酸、必須脂肪酸など）について理解する 3) 食性、嗜好、嗜好性、摂食行動について理解する 4) 健康維持における栄養の持つ意味について理解する 5) 栄養素の不足、過剰症について理解する 2. 栄養要求量 1) エネルギー要求量（RER、MER など）の意味と計算法について理解する 2) 栄養基準（AAFCO、NRC など）について理解する 3) ライフステージ（成長期、維持期、妊娠期、授乳期、老齢期）ごとの栄養管理について理解する 3. 市販ペットフードと栄養指導 1) ペットフードの種類、分類について理解する 2) ペットフードのラベル表示について理解し、飼い主に説明できる 3) 中毒、与えてはいけないもの（食物）について飼い主に指導できる 4) 栄養状態の評価法（BCS、体脂肪測定、MCS など）について理解する 5) 肥満の弊害と減量プログラムの作成法について理解する 4. 疾患と栄養 1) さまざまな疾患時の食事療法について理解する 2) 療法食の特徴や効果を理解し、飼い主に説明できる 5. 強制給餌と経管・静脈栄養法 1) 強制給餌の方法と注意点について理解する 2) 経管栄養法の種類（経鼻、食道、胃瘻チューブなど）と特徴、方法について理解する 3) 静脈栄養法の種類（TPN、PPN）と特徴、方法について理解する 4) チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点について理解する								
講義概要								
5 大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの食餌管理の違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。								
授業計画								担当教員
1 総論（犬・猫の食餌の歴史、健康維持における栄養の重要性）								荒川
2 栄養素とその働き：炭水化物（糖質と食物繊維）								荒川
3 栄養素とその働き：脂肪と脂肪酸、機能性脂質（多価不飽和脂肪酸）								秋山
4 栄養素とその働き：タンパク質とアミノ酸								秋山
5 栄養素とその働き：脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン、要求量の種差								荒川
6 栄養素とその働き：ミネラル類								荒川
7 犬猫の食性と摂食行動、嗜好と嗜好性								荒川
8 犬猫のエネルギー要求量と給与量計算、栄養状態の評価法、水分とその要求量								荒川
9 肥満の弊害と減量プログラムの作成法								荒川
10 ライフステージと栄養管理：妊娠期、授乳期、成長期、維持期、高齢期								秋山
11 ペットフードと栄養指導（ペットフードの種類、分類、ラベル表示、栄養基準）								秋山
12 ペットフードと栄養指導（有害成分や犬猫に与えてはいけない食物、中毒、食物有害反応）								秋山
13 疾患と栄養（療法食）								荒川
14 強制給餌（食欲低下・食欲廃絶時の対処方法、単純飢餓とストレス性飢餓の違い）								荒川
15 経静脈栄養法と経管栄養法、給餌再開時症候群								荒川
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験は定期試験時に筆記試験で行う。学生へのフィードバックは直接的には、試験結果の報告によって行う。所定の成績に到達不可の場合は再試験で理解不足の再勉強を求める。								

履修上の注意
栄養学は基礎を生化学に置いているため、本講義の理解に「基礎生化学」を受講の方が解りやすいであろう。ただし、本講義だけでも十分理解はできる水準で講義する。
事前・事後学修（予習・復習）の内容
事前学修：事前に教科書をよく読み、その内容について確認すること。 事後学修：教科書を再度読み直し、疑問点があれば質問すること。場合によっては小テストを実施する。
評価方法（評価基準を含む）
試験（70%）、小テストを含む授業参加度（30%）を基に総合的評価をする。
教科書
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8 巻 動物栄養学/動物外科看護学/動物医療コミュニケーション （日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編）エデュワードプレス
参考書、教材等：
「ベーシック 小動物栄養学」 阿部又信・大島誠之助著 ファームプレス(2019) 978-4-86382-105-7

授業科目	ヒトと動物の関係学				実務家教員	—	担当教員	安藤 孝敏
科目英名	Human-Animal Interaction							
開講期間	2 年次 後期	動物人間関係学科 必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
変化しつつある「ヒトと動物の関係」を多面的・総合的に捉え、人間と動物の望ましい関係を構想して、提案・説明できるようになることがこの授業の目標である。具体的には、①人間と動物のかかわりを説明することができる、②人間と動物の望ましい関係について討議できるようになる、③人間が動物に対して持つべき社会的責任・倫理観について説明できる、ということである。								
講義概要								
近年の「ペットブーム」のなか、犬や猫などの動物たちに対する見方も、従来の「ペット（愛玩動物）」から家族の大切な一員である「コンパニオンアニマル（伴侶動物）」へ変化してきている。本科目では、動物とのかかわりが人間の生活の質にどのような影響を及ぼすのかを深く理解し、ヒトと動物の望ましい関係について構想できるようになることを目標に、人間と動物の関係に関する重要かつ最新のテーマを取りあげて講義を行う。								
授業計画								
1 「ヒトと動物の関係学」とは？ 2 社会の中のペット：ペット飼育状況 3 高齢者と動物のかかわり【ミニ課題 1 の告知】 4 子どもと動物のかかわり 5 動物を介した教育の試み 6 身体障害者補助犬（1）：盲導犬【ミニ課題 2 の告知】 7 動物園の新しい取り組み：行動展示 8 ペットの飼育費用 9 ペットと暮す住宅：集合住宅の場合【ミニ課題 3 の告知】 10 地域猫の取り組み 11 身体障害者補助犬（2）：介助犬と聴導犬【学期末レポートの告知】 12 ペットロスとその対処法 13 日本人の動物観 14 「ヒトと動物の関係学」の研究動向 15 まとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業内容などに関する質問に対して、次回授業時に回答する。								
履修上の注意								
さまざまな資料や映像素材を用いて授業を行う。受講者には毎回、講義や資料などに関するコメント・質問の提出を求める。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前に教科書の該当部分や関係する Web サイトを見て、授業のテーマについて理解しておくこと。授業で説明された重要なキーワードについて、各自が調べて、追加の情報を含めて整理すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
成績は、毎回提出するコメント・質問 50%、ミニ課題 30%、学期末レポート 20%の配分で評価する。								
教科書								
安藤・種市・金児（訳）『ペットと生きる－ペットと人の心理学－』（北大路書房）								
参考書、教材等								
桜井富士朗・長田久雄（編）『「人と動物の関係」の学び方』インターズー（2003） 中村禎里『日本人の動物観－変身譚の歴史』ビーイングネットプレス（2006） 森 裕司・奥野卓司（編）『ヒトと動物の関係学〈第 3 巻〉ペットと社会』岩波書店（2008）								

授業科目	社会福祉				実務家教員	—	担当教員	山川 伊津子
科目英名	Social Welfare							
開講期間	3 年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分		専門教育〔専門科目〕	
到達目標								
現代社会における多様なニーズを知り、我々の日々の生活は社会福祉とどのように関わっているのかを理解する。少子高齢社会において、人と動物の関係が密接となり、コンパニオンアニマルから様々な利益を受ける一方で、人と動物の双方に関わる問題が社会の色々な場面で頻発している。それらの問題を Veterinary Social Work（動物医療ソーシャルワーク）という視点からとらえ、問題解決と人と動物の共生社会・One Welfare を目指すには何が必要か理解することを目標とする。								
講義概要								
社会福祉の理念や歴史、基礎概念を踏まえ、我々の日常生活が社会福祉とどのようにつながりを持つかを理解する。少子高齢の現代社会において、人のライフステージにおける動物の果たす役割や福祉の側面から動物の働きを考える。人の福祉と動物福祉が共存する、人と動物の共生社会構築のために必要なことを学修する。								
授業計画								
1 オリエンテーション：授業概要他、社会福祉とは 2 社会福祉の基礎概念と社会保障 3 子ども家庭福祉と背景 4 子ども家庭福祉と課題 5 高齢者福祉と背景 6 高齢者福祉と課題 7 障害者福祉と背景 8 障害者福祉と課題 9 ソーシャルワークと Veterinary Social Work（動物医療ソーシャルワーク） 10 動物医療ソーシャルワーク① Animal Assisted Intervention（アニマルセラピー） 11 動物医療ソーシャルワーク② Animal Related Grief and Bereavement（ペットロス） 12 動物医療ソーシャルワーク③ The Link between Human and Animal Violence（対人暴力と動物虐待の関連） 13 動物医療ソーシャルワーク④ Compassion Fatigue and Conflict Management（対人援助職の共感疲労と葛藤のマネジメント） 14 動物医療ソーシャルワーク⑤ Animal Hoarding（多頭飼育崩壊）、補助犬使用者の社会的受け入れ 15 授業総括：ヒトと動物の共生社会・One Welfare、まとめテスト								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
フィードバックとして、授業内でのリアクションペーパーやレポートについてコメントする。								
履修上の注意								
ディスカッションを含め、授業への積極的な参加を希望する。また毎回の授業においてリアクションペーパーを実施するので、授業内容についての自分の意見を文章で述べられるようにすること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前授業として、各授業のテーマについての情報を集める。 事後授業としては、授業毎にリアクションペーパーまたはレポートを提出する。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（40％）、授業内課題（30％）、まとめテスト（30％）による総合評価。								
教科書								
特になし								
参考書、教材等								
『よくわかる社会福祉第 11 版』ミネルヴァ書房 『知りたい！考えてみたい！どうぶつとの暮らし』駿河台出版								

授業科目	臨床心理学				実務家教員	○	担当教員	加藤 理絵
科目英名	Clinical Psychology							
開講期間	3 年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
本講義では、代表的な精神病理、現代の青年期の心理的問題として感情障害、不安障害、発達障害、統合失調症等を取り上げ、人間が生きていく中で経験する様々な心の問題について学修する。具体的には以下の項目を到達目標とする。 1. 精神病理を患ったとき、どのように問題を解決していけば良いのか、どのようなケアが必要になるかについて理解を深める 2. 自分自身、そして身近な他者の心を大切にすること上で必要な態度、ストレスに対し効果的に取り組むことができるような知識の修得								
講義概要								
本講義では、代表的な精神病理、現代の青年期の心理的問題として感情障害、不安障害、発達障害、統合失調症等を取り上げ、人間が生きていく中で経験する様々な心の問題について学修する。さらに、そのような時、人はどのようにして問題を解決していけば良いのか、どのようなケアが必要となるかについて理解を深めるため、グループ、個人による調べ学習、プレゼンテーションを行う。								
授業計画								
1 人の心を支えるー臨床心理学とは何か 2 メンタルヘルス・異常と正常とは 3 心の課題・病理について発表およびディスカッションⅠ：発達障害 4 心の課題・病理について発表およびディスカッションⅡ：気分障害 5 心の課題・病理について発表およびディスカッションⅢ：危機介入 6 心の課題・病理：思春期・青年期におけるパーソナリティ障害の世界観Ⅰ 7 心の課題・病理：思春期・青年期におけるパーソナリティ障害の世界観Ⅱ 8 心の課題・病理について発表およびディスカッションⅣ：様々なパーソナリティ障害 9 心の課題・病理について発表およびディスカッションⅤ：統合失調症 10 心の課題・病理：統合失調症における世界観Ⅰ 11 心の課題・病理：統合失調症における世界観Ⅱ 12 心の課題・病理について発表およびディスカッションⅥ：神経症 13 より自分らしく、より良い人間関係へ 14 援助者としての姿勢 現場での人間関係 15 まとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
フィードバックとして発表やレポート、課題に対するコメントを口頭にて行う								
履修上の注意								
本講義内では、グループによる発表課題があることから、授業外において各グループにより発表の準備における作業が必要となる。その他、ワークシート作成、小レポート提出などがある。授業では、発表、発言、作業、ワークシート提出が求められる。授業に積極的に参加することが求められる。また、毎年、新しい心理学的知見、情報をリニューアルしていく上で、授業計画の順番や日時、内容の変更がありうる。初回授業にて配布する授業計画表を確認すること。また、Moodle を利用し参考資料の配布や課題の提出、授業案内を行うため、連絡掲示等を必ず確認すること								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「各授業回の内容に関連するテーマについて調べておくこと」 事後学修「毎授業後、配付資料の重要キーワードについて理解、整理しておくこと」								
評価方法（評価基準を含む）								
評価方法 授業における発表、授業におけるディスカッション等の参加態度・意欲度 70% レポート 30% をもとに評価する。								
教科書								
Moodle に PDF データを用意する。必要に際し、各自資料をダウンロード、プリントアウト可能。								
参考書、教材等								
参考書は講義中に紹介する。ビデオなど視聴覚機材も用いる。								

授業科目	コミュニケーション論				実務家教員	○	担当教員	加藤 理絵
科目英名	Communication							
開講期間	3 年次 後期	動物人間関係学科 必修科目 1 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
コミュニケーションという言葉は、日常生活でもしばしば使われ、職場や学校、家庭などさまざまな場面でのコミュニケーションの重要性が指摘されている。一方、コミュニケーションが広く、速く、大量に行われるに従って、さまざまな問題も生じている。本講義では、私たちは自分自身、そして大切な他者との間でどのようなすれば効果的に、適切なコミュニケーションをとることが出来るのかについて学び、日常生活や社会において活かせるようになることを到達目標とする。								
講義概要								
他者とのコミュニケーションを円滑に行うためにまず必要なことは自分自身との対話である。自己と向き合い、自己をより深く理解することが求められる。本講義では、前半において、ポジティブ心理学的アプローチを用い、自分自身と向き合い、自分の長所、強みを把握すること、自分の感情とうまく付き合う方法修得する。そして後半では、自分自身のコミュニケーションスタイルを生かし、社会に出て役立つ実践的な他者とのコミュニケーションスキルを修得する。								
授業計画								
1 ガイダンス 2 Well-being について学ぶ 3 自分の強みを知る 4 自分の強みを生かすトレーニング 5 ノンバーバルコミュニケーション・表情の力について学ぶ 6 聞くと聴くの違い、傾聴について学ぶ 7 レジリエンストレーニング（認知、思考、感情の仕組みについて知る） 8 自分、他者との総合的コミュニケーションに関するまとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
プレゼンテーション、課題等について適宜口頭や紙面によってフィードバックを行う。								
履修上の注意								
授業では、講義の他にワークを行うことが多い。積極的にワークに取り組むことを求める。ワークでは、学生同士の接触（手を握る、肩に手を置く、など）や、自己開示を必要とする状況が生じる場合がある。また、受講者には、毎回、ワーク後のディスカッション、小レポートの提出などを求める。また、毎年、新しい心理学的知見、情報をリニューアルしていく上で、授業計画の順番や日時、内容の変更がありうる。初回授業にて配布する授業計画表を確認すること。また、Moodle を利用し参考資料の配布や課題の提出、授業案内を行うため、連絡掲示等を必ず確認すること								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：毎回のテーマにそって重要なキーワードについて各自調べる 事後学修：毎回教示する課題を行う								
評価方法（評価基準を含む）								
授業におけるディスカッションやワークへの積極的な参加・意欲度 80%、課題 20%をもとに総合的に行う								
教科書								
Moodle に PDF データを用意する。必要に際し、各自資料をダウンロード、プリントアウト可能。								
参考書、教材等								
参考書は講義中に紹介する。ビデオなど視聴覚機材も用いる。								

授業科目	ペットロス論					実務家教員	—	担当教員	新島 典子
科目英名	Theories of Pet Loss and Bereavement								
開講期間	4 年次 前期	動物看護学科	動物人間関係学科	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
		選択科目 2 単位	必修科目 2 単位						
到達目標									
本講義ではペットロス（ペットの喪失やそれにより生じる悲嘆）に関する諸知識を社会学、社会心理学、死生学等の観点から学修し、学生が動物看護の現場でよい理解者、支援者となれることを目標とする。									
講義概要									
学生が卒業後それぞれの職域においてクライアント（飼い主）に有効なペットロス支援ができるようになることを目的とする。ペットロスの定義、社会的背景、悲嘆反応、立ち直りのプロセス等を概観した後、ペット喪失前後の飼い主とペットの関係性、悲嘆の多様性、周囲の他者との関係性等、ペットロスに影響を及ぼす諸要因を学ぶ。最新の関連研究の紹介や考察も含め、ペットロスに対する予防と対処についての知識を深めてゆく。									
授業計画									
1 ペットロス論とはなにか 2 ペットロスの基礎知識Ⅰ：ペットロスの定義、ヒトと動物の絆、愛着とは 3 ペットロスの基礎知識Ⅱ：心と体の変化（通常の悲嘆反応） 4 ペットロスの基礎知識Ⅲ：立ち直りのプロセス 5 ペットロスの基礎知識Ⅳ：ペットロスの背景要因 6 ペットロスの基礎知識Ⅴ：ペットロスに対する予防策と対処法 7 ペットと飼い主の関係性Ⅰ：先行研究紹介など 8 ペットと飼い主の関係性Ⅱ：時事的問題ほか 9 ペットの喪失Ⅰ：先行研究紹介など 10 ペットの喪失Ⅱ：時事的問題ほか 11 ペットの喪失に影響を及ぼす要因Ⅰ：先行研究紹介など 12 ペットの喪失に影響を及ぼす要因Ⅱ：時事的問題ほか 13 ペットの喪失への対処Ⅰ：先行研究紹介など 14 ペットの喪失への対処Ⅱ：時事的問題ほか 15 ペットロス論のまとめ									
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
フィードバックとしてレポートを回収後、解答例の共有、解説を行う。									
履修上の注意									
授業計画の各回の内容や順番は、前後する場合がある。									
事前・事後学修（予習・復習）の内容									
事前学修「各授業回の内容に関連する個人的経験などを振り返っておくこと」 事後学修「授業で扱ったテーマを、読書やウェブ検索により深化させ、定着させること」									
評価方法（評価基準を含む）									
授業への参加度 35%、課題レポート 25%、試験 40%を総合的に評価。									
教科書									
講義内や Moodle 上で適宜紹介する。必要なときには資料を配布する。									
参考書、教材等									
・Lagoni, Butler 他著,1994. <i>The Human-Animal Bond and Grief</i> , W.B.Saunders Company.=2000. 鷺巣月美監訳・山崎恵子（訳）『ペットロスと獣医療』チクサン出版社。 ・Stewart, Mary F.著,1999. <i>Companion Animal Death: A Practical and Comprehensive Guide for Veterinary Practice</i> , Butterworth Heinemann.=2000.永田正訳『コンパニオンアニマルの死：獣医療のための実際の、包括的ガイド』学窓社。 ・その他講義内や Moodle 上で適宜紹介する。必要なときには資料を配布する。									

授業科目	アニマルアシステッドセラピー論				実務家教員	—	担当教員	◎秋山 順子・山崎 薫 山崎 恵子
科目英名	Theory of Animal Assisted Therapy							
開講期間	3 年次 前期	動物人間関係学科 必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
動物介在介入（アニマルアシステッドセラピー、アクティビティー、エデュケーション）に関する基礎理論と実践について理解することを到達目標とする。具体的には、動物が人の心身の健康にもたらす明らかな効果について理解し、説明できる。さらに、動物を介したさまざまな対象者に対する効果的な関わり方や実践方法について理解し、説明できる。								
講義概要								
人と動物の絆を基盤とするアニマルアシステッドセラピー・アニマルアシステッドアクティビティが人の医療・福祉・教育の場面で利用されている。本講義では、動物介在介入の意義と現状、動物の特性と動物が人にもたらす効果について関連研究を紹介し解説する。さらに、対象者別の動物介入プログラムを効果的に実践する方法について講義する。								
授業計画								担当教員
1 アニマルアシステッドセラピーの歴史と定義								秋山 順子
2 動物（イヌ・ネコ・ウマ）の特性と家畜化の歴史								秋山 順子
3 動物が人の健康にもたらす影響								秋山 順子
4 さまざまな人に対する動物介在介入								秋山 順子
5 ウマ、イルカを用いた動物介在介入								秋山 順子
6 動物介在プログラムにおける動物の選択と適性評価								秋山 順子
7 動物介在プログラムにおけるリスクマネジメント								秋山 順子
8 動物介在プログラムにおけるボランティアの役割								秋山 順子
9 医療と動物、アニマルアシステッドセラピーとは何か（ゲストスピーカー）								秋山 順子
10 アニマルアシステッドセラピーにおける動物の適正な飼養								山崎 薫
11 愛護教育とは何か、動物介在教育との違い								山崎 恵子
12 人間の福祉における動物の位置付け、ワンウェルフェアという概念								山崎 恵子
13 展示動物、学校動物などの役割								山崎 恵子
14 動物介在プログラムにおける動物の福祉								山崎 恵子
15 総括・最終試験								秋山 順子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小テストおよび確認テストを実施し、回答の解説をする。質問に対して直接あるいは全体のフィードバックを行う。								
履修上の注意								
初回講義において履修上の注意を説明する。Moodle での授業案内や資料配布等の案内に注意すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前：授業計画に沿って、関連書籍・資料を読んでおく。事後：講義終了後に配付プリント、講義ノートをもとに復習をおこない、要点をまとめておく。								
評価方法（評価基準を含む）								
平常点（授業の質疑応答や学修への参加度）30%、小テスト 10%、最終試験 60%よって総合的に評価する。								
教科書								
特に指定しない								
参考書、教材等								
『愛玩動物看護師教育コアカリキュラム準拠 第 4 巻 動物看護学概論/人間動物関係学/生命倫理・動物福祉』EDUWARD Press								
『知りたい！やってみたい！アニマルセラピー』川添敏弘、堀井隆行、山川伊津子、赤羽根和恵（著）、駿河台出版社								

授業科目	アニマルアシステッドセラピー実習				実務家教員	—	担当教員	秋山 順子
科目英名	Practice of Animal Assisted Therapy-Student Laboratory							
開講期間	3 年次 後期	動物人間関係学科 選択科目 1 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
「アニマルアシステッドセラピー論」で学んだことをより深く理解し、動物を介在した活動について幅広い専門知識を応用しながら、社会で実践できる能力を身につけることを到達目標とする。具体的には、介在動物が人にもたらす効果とそれぞれの特性について実習を通して考察することにより説明ができる。動物介在介入の実践活動においてボランティアやハンドラーとして必要となる知識と技術を習得する。								
講義概要								
アニマルアシステッドセラピー（AAT）とアニマルアシステッドアクティビティ（AAA）等の動物介在介入（AAI）を実践するために関わるものが知っておくべき知識と技術を修得することを目指した実習を行う。アニマルアシステッドセラピー論の講義で学んだ理論や事例についての検証を行い、実践現場でのボランティア技術や介在動物の適性評価を通して実践への理解を深められるよう実習する。								
授業計画								
1 オリエンテーション、動物介在介入概論 2 介在動物（イヌ・ネコ・ウマ・イルカ）の特性とその効果 3 対象者（子ども、高齢者、さまざまな疾患）の理解とその効果 4 動物の福祉、リスクマネジメント 5 プログラムの作成と発表①AAT 6 プログラムの作成と発表②AAA 7 動物の特性と効果の評価方法①イヌ 8 動物の特性と効果の評価方法②さまざまな動物、ロボット 9 動物の特性と効果の評価方法③まとめ 10 AAT／AAAに参加する動物（イヌ）の適性評価（ゲストスピーカー） 11 高齢者施設で必要なコミュニケーションの解説とワークショップ（ゲストスピーカー） 12 有料老人ホームでの AAA と見学研修（ゲストスピーカー） 13 乗馬実習（八王子乗馬倶楽部） 14 実習課題 - プレゼンテーション予行練習 15 実習課題 - プレゼンテーション発表会								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題について適宜解説しフィードバックする。リアクションペーパーおよびレポートは原則返却しないが、総評を行う。								
履修上の注意								
学外における実習や時間割の変更があるため、Moodle での連絡事項等を確認すること。 「アニマルアシステッドセラピー論」（3 年次前期配当）の単位修得していることが望ましい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前：授業計画に沿って、関連書籍・資料を読んでおく。事後：講義終了後にリアクションペーパーまたは課題レポートを設定するので次回講義までに提出する。								
評価方法（評価基準を含む）								
平常点（授業の質疑応答やディスカッションへの参加度）40%、課題レポート 30%、最終プレゼンテーション 30%による総合評価								
教科書								
特に指定しない								
参考書、教材等								
『愛玩動物看護師教育コアカリキュラム準拠 第 4 巻 動物看護学概論/人間動物関係学/生命倫理・動物福祉』EDUWARD Press 『知りたい！やってみたい！アニマルセラピー』川添敏弘、堀井隆行、山川伊津子、赤羽根和恵（著）、駿河台出版社								

授業科目	アシスタンスドッグ論				実務家教員	—	担当教員	秋山 順子
科目英名	Theory of Assistance Dog							
開講期間	3 年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
障がい者の自立と社会参加を促進することを目的に訓練された身体障害者補助犬（補助犬）に関する基礎知識と日本の補助犬普及の現状と課題について理解することを到達目標とする。具体的には、社会における補助犬の役割と補助犬法における補助犬の位置づけについて説明ができる。さらに、社会において補助犬を普及するために必要な取組みについて自分の考えを具体的に述べるができる。								
講義概要								
障がい者の自立と社会参加を促進することを目的に訓練された身体障害者補助犬に関する基礎及び専門的知識を講義する。補助犬の歴史、身体障害者補助犬法、補助犬使用者のほか、犬と人の関係の重要性を解説する。さらに、補助犬育成団体やリハビリテーション医学の専門家による訓練や使用者との関わり等の実践例を通し、わが国における補助犬普及の問題点について解説する。								
授業計画								
1 ガイダンス：アシスタンスドッグ 2 補助犬の定義と歴史 3 補助犬のわが国での実情と欧米との比較 4 補助犬がもたらす恩恵と人の健康への効果 5 補助犬と動物福祉 6 補助犬と障害者福祉 7 身体障害者補助犬法の成り立ちと意義 8 補助犬育成の現状と課題 9 障がい者の自立と社会参加の現状と課題 10 リハビリテーションにおける介助犬の役割 11 補助犬を知る：介助犬 12 補助犬を知る：盲導犬 13 補助犬を知る：聴導犬 14 わが国における補助犬の展望 15 総括・最終試験								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小テストおよび確認テストを実施し、回答の解説をする。質問に対して直接あるいは全体のフィードバックを行う。								
履修上の注意								
初回講義において履修上の注意を説明する。Moodle での授業案内や資料配布等の案内に注意すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前：授業計画に沿って、関連書籍・資料を読んでおく。事後：講義終了後に配付プリント、講義ノートをもとに復習をおこない、要点をまとめておく。								
評価方法（評価基準を含む）								
平常点（授業の質疑応答や学習への参加度）30%、小テスト 10%、最終試験 60%よって総合的に評価する。								
教科書								
特に指定しない								
参考書、教材等								
『愛玩動物看護師教育コアカリキュラム準拠 第 4 巻 動物看護学概論/人間動物関係学/生命倫理・動物福祉』EDUWARD Press 「介助犬を知る」高柳哲也（編）、名古屋大学出版会								

授業科目	伴侶動物資源・育種学				実務家教員	—	担当教員	村上 隆広
科目英名	Companion Animal Breeding and Their Resources							
開講期間	3 年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
伴侶動物資源と育種に関連する遺伝学的知識を学修するとともに、代表的な伴侶動物について、原種となった野生動物と比較しながらその成立プロセスを理解することを到達目標とする。								
講義概要								
伴侶動物について、量的遺伝や質的遺伝などの基盤となる知識をふまえ、選抜・遺伝的改良等の育種方法を学修する。また、代表的な伴侶動物として、イヌ、ネコ、ウサギ、げっ歯類、イタチ類、鳥類、両生爬虫類について、伴侶動物となってきたプロセスやそれぞれの原種や近縁種と比較しながら解説する。								
授業計画								
1 伴侶動物資源・育種学の基盤となる知識：遺伝、育種と進化 2 イヌ（1）：原種と近縁種 3 イヌ（2）：人との関わりの歴史 4 イヌ（3）：品種と遺伝 5 イタチ類：フェレットとカワウソの野生種と品種 6 リスの仲間：シマリスと野生種、近縁種 7 ネズミの仲間：ハムスター、モルモットと野生種、近縁種 8 ネコ（1）：原種と近縁種 9 ネコ（2）：人との関わりの歴史 10 ネコ（3）：品種と遺伝 11 伴侶動物としてのウマ、ヤギ、ヒツジ 12 伴侶動物としての爬虫類 13 飼鳥（1）：原種と近縁種、人とのかかわりの歴史 14 飼鳥（2）：品種と遺伝 15 伴侶動物資源・育種学まとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小テストについては次の回の講義で解説と講評を行い、学生にフィードバックする。								
履修上の注意								
講義時に配布するプリント中に、重要な説明事項を逐次記入してゆくこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学習：各回の講義で次回講義のポイントを示すので、予習しておくこと。 事後学習：授業や小テストで示したポイントをよく見直すこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度と小テスト（50％）及び定期試験（50％）により総合的に評価する								
教科書								
教科書は指定しない。講義時にプリントを配布する。								
参考書、教材等								
動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠・応用動物看護学 3, 動物行動学・伴侶動物学・産業動物学・実験動物学・野生動物学, 株式会社インターズー								

授業科目	適正飼養指導論				実務家教員	—	担当教員	◎堀井 隆行・牛根 奈々
科目英名	Guidance Theory of Animal Welfare and Proper Care							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
1. 愛玩動物の飼養 1) 愛玩動物の適正飼養の目的、概念について理解する 2) 愛玩動物飼養の現状について理解する 3) 愛玩動物飼養によって人間が受ける影響と問題点について理解する 4) 愛玩動物の飼養のニーズや目的を理解するとともに、グリーンケア、ペットロスについてその概要と飼い主の心情を理解し、必要な支援について理解する 2. 適正飼養の推進 1) 適正飼養に関する支援の目的と活動（民間団体等によるものを含む）について理解する 2) 動物取扱業者における適正飼養について理解する 3) 愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策について理解する 4) 問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法について理解する 3. 災害危機管理と支援 1) 災害時の同行避難の重要性を理解し、説明できる 2) 愛玩動物とその飼い主の災害の備えについて理解し、説明できる 3) 災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割について理解する 4. 動物愛護管理行政 1) 飼い主指導の基盤として、公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) 動物愛護週間の役割と実施状況について理解する 3) 犬・猫の引取り及び負傷動物などの収容並びに処分の状況について理解する 4) 動物による事故の内容と報告状況について理解する 5) 動物愛護管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割について理解する 6) 動物取扱責任者の選任条件と役割について理解する								
講義概要								
愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。								
授業計画							担当教員	
1 愛玩動物の適正飼養のあり方と現状							堀井 隆行	
2 愛玩動物の飼養が人に及ぼす影響（利点と問題点）							堀井 隆行	
3 ペットロスとグリーンケア（終末期の飼い主支援）							堀井 隆行	
4 適正飼養の推進活動							堀井 隆行	
5 動物取扱業者における適正飼養（過剰繁殖問題を含む）							堀井 隆行	
6 各種動物の適切な飼養方法等 1：適切な飼養方法としつけ、飼い主への指導の総論							堀井 隆行	
7 各種動物の適切な飼養方法等 2：イヌとネコの適正飼養							堀井 隆行	
8 各種動物の適切な飼養方法等 3：ウサギ、モルモット、フェレットの適正飼養							堀井 隆行	
9 ポニーの適正飼養（ゲストスピーカー）							堀井 隆行	
10 同行避難と災害への備え							牛根 奈々	
11 災害獣医療と愛玩動物看護師の役割							牛根 奈々	
12 動物愛護管理行政① 公衆衛生業務と動物愛護週間							牛根 奈々	
13 動物愛護管理行政② 収容・処分・事故発生の現状							牛根 奈々	
14 動物愛護管理行政③ 保健所・動物愛護管理センター、動物愛護推進員・協議会の役割							牛根 奈々	
15 動物愛護管理行政④ 動物取扱業の登録・届出、動物取扱責任者の選任と役割							牛根 奈々	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題等に関する質問などは、メールあるいは口頭にて随時受け付ける。その後、個別性の高い内容は個別に、全体性の高い内容は全体に回答をフィードバックする。								
履修上の注意								
Moodle を経由した授業案内や資料配布等を行うため、Moodle およびメールの確認を習慣づけておくこと。								

事前・事後学修（予習・復習）の内容
各授業回に関連する教科書の内容は事前に読んでおくこと。また、授業後には教科書および配布資料等を基に内容をまとめること。
評価方法（評価基準を含む）
定期試験（70%）・授業への参加度（30%）として総合的に評価する。
教科書
『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 10 巻 適正飼養指導論/動物生活環境学/ペット関連産業概論』 一般社団法人 日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会 編 エデュワードプレス
参考書、教材等
必要に応じて随時紹介する。

授業科目	動物愛護・適正飼養実習				実務家教員	○	担当教員	◎堀井 隆行・牛根 奈々 青山 正志・細野 茂之
科目英名	Practice of Animal Welfare and Proper Care							
開講期間	2年次 通年	必修科目 2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
1. 動物の基本的な取扱い 1) 動物種に応じた安全なハンドリングができる 2) 動物を安全に散歩・運動させることができる 3) 犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具（首輪、胴輪、リード、おもちゃなど）を選択することができる 4) 基本的なグルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）を実施できる 5) 動物の飼養環境を適切に整備できる 2. 飼い主とのコミュニケーション 1) 犬や猫の品種に応じた特徴について説明できる 2) 動物の適切な飼養方法（飼養環境、散歩方法、基本的なしつけなどを含む）について指導できる 3) 飼い主が法令に基づき遵守すべき対応について指導できる 4) 動物の飼養が困難となっている飼い主への支援を説明できる 5) 避難所等災害時の飼い主への支援を説明できる 3. 動物愛護管理行政 1) 動物愛護管理センターの活動を理解する（動物愛護管理センターへの見学などを含む） 2) 動物取扱業へ指導すべき内容について理解する 3) 動物取扱業における顧客等への対応について実践することができる								
講義概要								
動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。								
授業計画								担当教員
オリエンテーション 1 各種動物のハンドリング（道具の選択等を含む）：イヌ、ネコ、その他1 2 各種動物のハンドリング（道具の選択等を含む）：イヌ、ネコ、その他2 3 各種動物のハンドリング（道具の選択等を含む）：イヌ、ネコ、その他3 4 各種動物のハンドリング（道具の選択等を含む）：イヌ、ネコ、その他4 5 グルーミングの基本 6 各種動物の飼養環境の整備：イヌ、ネコ、その他1 7 各種動物の飼養環境の整備：イヌ、ネコ、その他2 8 各種動物の飼養環境の整備：イヌ、ネコ、その他3 9 ポニーのハンドリングと飼養環境の整備1 10 ポニーのハンドリングと飼養環境の整備2 11 飼育開始時の飼い主への説明 12 飼育困難な状況の飼い主への支援 13 災害時の飼い主への支援 14 動物愛護管理センターの見学 15 動物取扱業者に対する指導								堀井・牛根 堀井 隆行 堀井 隆行 堀井 隆行 堀井 隆行 堀井 隆行 堀井 隆行 牛根 奈々 細野 茂之 細野 茂之 牛根 奈々 牛根 奈々 牛根 奈々 堀井・牛根 牛根 奈々
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題等に関する質問などは、メールあるいは口頭にて随時受け付ける。その後、個別性の高い内容は個別に、全体性の高い内容は全体に回答をフィードバックする。								
履修上の注意								
グループに分かれて実習を行うことが多くなるため、詳細なスケジュール等は別途提示する。 Moodleを経由した授業案内や資料配布等を行うため、Moodleおよびメールの確認を習慣づけておくこと。 実際に動物を取扱う実習内容も含まれるため、動物を取扱う際には指示に従い適した身だしなみを整えること。								

事前・事後学修（予習・復習）の内容
各授業回に関連する適正飼養指導論等で学んだ内容を確認しておくこと。また、授業後には体験した内容を記録し、まとめること。
評価方法（評価基準を含む）
実技および課題（60%）・授業への参加度（40%）として総合的に評価する。
教科書
『犬と猫の快適な暮らしのために 動物取扱業者のための飼養管理ガイド』林良博 総合監修 犬猫適正飼養推進協議会
参考書、教材等
『愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版』 愛玩動物看護師養成専修学校教科書作成委員会 編 エデュワードプレス その他、必要に応じて随時紹介する。

授業科目	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論				実務家教員	—	担当教員	◎福山 貴昭・荒川 真希
科目英名	Study of Companion Animal Care(Grooming)							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
コンパニオンアニマルのグルーミングケアを実施するために必要な専門知識の修得を到達目標とする。 イヌのグルーミングケアにおいては、それを実施するために必要な専門知識の修得を到達目標とする。 ネコのグルーミングケアにおいては、ネコの皮膚被毛をはじめとする身体的特徴や生理学、行動学などの基礎的な知識とグルーミングケアについて解説することで、学生がネコの適正飼養とケアを理解し、それらに必要な正しい知識を修得することを到達目標とする。								
講義概要								
コンパニオンアニマルのグルーミングケアを実施するために必要な専門知識の修得を到達目標とするため、修得内容はグルーミング分野における基礎知識に限定され、リスク管理に必要なアニマルハンドリング、グルーミングケア分野で使用される専門用語・専門器具知識、ケア対象となる動物の形態的特性などの知識を教授する。								
授業計画								担当教員
1 グルーミングの目的と効果								福山 貴昭
2 グルーミングに必要な犬体名称（前軀）								福山 貴昭
3 グルーミングに必要な犬体名称（中軀）								福山 貴昭
4 グルーミングに必要な犬体名称（後軀）								福山 貴昭
5 ネコの品種と被毛の種類								荒川 真希
6 ネコの体のメカニズムと行動								荒川 真希
7 ネコの飼養管理とグルーミングケア								荒川 真希
8 グルーミング器具の手入れ及び保存方法								福山 貴昭
9 グルーミング器具の保持及び使用方法								福山 貴昭
10 イヌ被毛の基礎								福山 貴昭
11 イヌ皮膚の基礎								福山 貴昭
12 グルーミング器具								福山 貴昭
13 グルーミング手技								福山 貴昭
14 イヌのハンドリング 1								福山 貴昭
15 イヌのハンドリング 2								福山 貴昭
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題については適宜解説と講評を行う。								
履修上の注意								
授業状況により講義順番・持ち物が変わる（授業内・掲示にて告知）。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書及び配布資料を読んでおくこと」								
事後学修「毎授業後、授業内容を復習すること（90 分）」								
評価方法（評価基準を含む）								
試験 75%、授業参加度 25%を基に総合的に評価。								
教科書								
『犬の解剖カラーリングアトラス』学窓社								
『全犬種標準書』ジャパンケネルクラブ								
『THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNIAL MANUAL』								
（MAIN Vol)(SEPARATE Vol)（DVD）教育サポートセンター								
参考書、教材等								
教場で指示する								

授業科目	コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習			実務家教員	—	担当教員	◎福山 貴昭・荒川 真希 土屋 恵美・早川 裕子
科目英名	Practice of Companion Animal Care(Basic Grooming)						
開講期間	1 年次 通年	必修科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
到達目標							
コンパニオンアニマルケア（グルーミング）論において学んだ内容を基に、犬猫の飼育管理上必要なグルーミング手技を学修する。資料映像、実際に動物を取扱う実技観察を交えながら、基本的には実際に犬（猫）を取り扱いながら実践方式で授業を展開する。総合的に取り進める中で、各作業については個々に学習できる。ケアを実施する犬猫の健康状態の観察法から始まり、ボディーランゲージの観察と解釈の仕方、保定方法、専門器具の使用法や保管方法などの技術の修得を到達目標とする。							
講義概要							
コンパニオンアニマルケア（グルーミング）論において学んだ内容を基に、家庭内飼育において健康管理上必要なグルーミング手技を実践する。ハンドリングを実施する動物の健康状態の観察法から始まり、ボディーランゲージの観察と解釈の仕方、保定方法、専門器具の保持の技術を修得する。							
授業計画							
1 キャットグルーミング。爪切り、ブラッシング、ベイジング、ドライイングケア。 2 グルーミング器具の確認とグルーミングケア作業準備。衛生管理方法。 3 イヌのボディーランゲージの観察とケージからの出し入れ、テーブル上の取り扱い。 4 イヌのリーシュコントロール、リーシュの結束。イヌの抱上げ法（大、小型犬） 5 グルーミング器具の保持と取り扱い。コーム、ブラシを使用してのブラッシングケア。 6 ベイジング、ドライイングケア。イヌに最適な湯温度の設定。 7 洗浄方法とシャンプー剤の選定法。 8 ベイジング、ドライイングケア。ブローの温度、風量の設定。 9 クリッピングケア。クリッパーを使用しての被毛処理。 10 クリッピングケア。細部の被毛処理。足底部ケア。 11 爪切り。足先作業の保定と爪切りの使用法。 12 大型犬のグルーミング。大型犬の保定、専用器具の使用法。 13 四肢のハンドリングと、頭部の保持。 14 シザーワーク。ハサミの保持と使用。 15 総復習。 16 総合実技試験。							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
手技に対する評価を授業内において随時口頭で伝える。 手技の習得確認実技試験を実施する。							
履修上の注意							
身だしなみを整え、ユニフォーム着用し実習器具は各自毎回持参すること。 授業状況により授業の順番・持ち物を変更する。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の作業内容をマニュアルで確認しておく」 事後学修「毎授業後、授業内容を読んでおくこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
実技(50%)、授業参加度(50%)を基に総合的に評価する。							
教科書							
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 MAIN Vol. 「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 SEPARATE Vol. 「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」（DVD）							
参考書、教材等							
特に指定しない。							

授業科目	コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習				実務家教員	—	担当教員	◎福山 貴昭・土屋 恵美 早川 裕子
科目英名	Practice of Companion Animal Care (Advanced Grooming)							
開講期間	2年次 通年	選択科目 2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
基礎実習で修得した、ヒトと動物の安全を確保したグルーミングを実施するための知識・技術内容を様々な年齢、気質、サイズのイヌにも安定して実施できることを到達目標とする。毎授業にテーマとなるケア作業を設定し、修得に努める。								
講義概要								
コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習で学んだイヌの健康と管理に加え、多様化する品種の保定法、皮膚の健康ケアの方法を実習する。 イヌのもつ多様な行動パターンへの応用力を修得するため、ハンドリングが多少困難な性質をもつイヌも使用し、イヌのライフステージ、飼育環境、飼育目的に沿ったグルーミングケア方法について実習する。								
授業計画								
1 グルーミングケア。基礎復習。 2 グルーミングケア。ハサミ動鉄テスト。カンシ綿花作製。 3 グルーミングケア。毛玉ケア（特殊器具使用）。 4 グルーミングケア。上毛・下毛ケア（特殊器具使用）。 5 グルーミングケア。季節別（高温多湿環境対策）。 6 グルーミングケア。季節別（低温乾燥環境対策）。 7 グルーミングケア。作業者同士の確認方法。 8 グルーミングケア。作業評価方法。 9 グルーミングケア。飼育環境別。 10 グルーミングケア。ドライケアー（ムース）。 11 グルーミングケア。ドライケアー（パウダー）。 12 グルーミングケア。泡洗浄。 13 グルーミングケア。ライフステージ（高齢犬）。 14 グルーミングケア。大型イヌ品種ケア。 15 グルーミングケア応用総合。								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業内に手技に対する評価を口頭で伝える。								
履修上の注意								
ユニフォーム着用し、実習器具は各自毎回持参すること。 履修人数制限を設ける。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「各授業回の手技をマニュアルで確認しておくこと」 事後学修「毎授業後、授業内容を読んでおくこと」								
評価方法（評価基準を含む）								
実技(75%)、授業参加度(25%)を基に総合的に評価する。								
教科書								
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 MAIN Vol. 「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 SEPARATE Vol. 「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」（DVD）								
参考書、教材等								
『全犬種標準書』 ジャパンケネルクラブ 等								

授業科目	伴侶動物行動演習				実務家教員	-	担当教員	堀井 隆行
科目英名	Practice of Companion Animal Behavior							
開講期間	3 年次 後期	動物人間関係学科 選択科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
伴侶動物（主にイヌ・ネコ）の行動から様々な情報を読み取るためには、行動観察法及び行動解析法を修得する必要がある。本演習では、研究的手法よりも実践的な観察法・解析法に重点をおき、実際に伴侶動物を取り扱う場面（特に問題行動対処）においてその行動に対する正確な状況判断ができるスキルを修得することを目標とする。								
講義概要								
本科目では、行動観察及び解析に関する研究的手法と実現場で役立つ実践的手法について解説し、動画や生体を用いた行動観察・解析を演習する。さらに、様々な状況におけるイヌ・ネコの問題行動について周辺環境刺激や生体の状態等様々な要因から行動の意図を考察し、ディスカッションを通して、問題行動への対処について主体的・実践的に演習する。								
授業計画								
1 行動観察と行動研究：研究的手法と実践的手法それぞれの意義と特徴について学ぶ 2 実践的行動観察・解析法：実現場における行動観察・解析の着目点について学ぶ 3 イヌ・ネコのボディランゲージ：ボディランゲージの微細な特徴・変化について学ぶ 4 実践的行動観察・解析演習①：動画を用いてボディランゲージを観察し、考察する 5 実践的行動観察・解析演習②：生体を用いてボディランゲージを観察し、考察する 6 問題行動対処：問題行動対処の根幹、カウンセリング、コンサルテーションについて学ぶ 7 問題行動対処演習①：人との歩行に関する問題の原因と対処についてディスカッションする 8 問題行動対処演習②：異嗜・食糞の原因と対処についてディスカッションする 9 問題行動対処演習③：活動性に関する問題の原因と対処についてディスカッションする 10 生体とのコミュニケーション演習：的確なコミュニケーション方法の微細な特徴について学ぶ 11 問題行動対処演習④：“かむ”行動に関する問題の原因と対処についてディスカッションする 12 問題行動対処演習⑤：“かむ”行動に関する問題の原因と対処についてディスカッションする 13 問題行動対処演習⑥：恐怖・不安に関する問題の原因と対処についてディスカッションする 14 問題行動対処演習⑦：恐怖・不安に関する問題の原因と対処についてディスカッションする 15 問題行動対処演習⑧：排泄に関する問題の原因と対処についてディスカッションする								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題等に関する質問などは、メールあるいは口頭にて随時受け付ける。その後、個別性の高い内容は個別に、全体性の高い内容は全体に回答をフィードバックする。								
履修上の注意								
Moodle を経由した授業案内や資料配布等を行うため、Moodle およびメールの確認を習慣づけておくこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
各授業回に関連する教科書の内容は事前に読んでおくこと。また、授業後には教科書および配布資料等を基に内容をまとめること。								
評価方法（評価基準を含む）								
課題レポート（50%）・授業への参加度（50%）として総合的に評価する。								
教科書								
『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6 巻 動物行動学/愛玩動物学/比較動物学』一般社団法人 日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会 編 エデュワードプレス								
参考書、教材等								
『動物行動図説 家畜・伴侶動物・展示動物』佐藤衆介・近藤誠司・田中智夫 他 編 朝倉書店 『知りたい！考えてみたい！どうぶつとの暮らし』川添敏弘 監著 山川伊津子・堀井隆行・橋本直幸 著 駿河台出版社 教材には、Microsoft Power Point で作成したスライドや観察用動画・生体などを使用。								

授業科目	コンパニオンドッグトレーニング論				実務家教員	-	担当教員	堀井 隆行
科目英名	Companion Dog Training Theory							
開講期間	3 年次 後期	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
人の「最良の友」と呼ばれるイヌでも、その育て方を間違えれば人の生活を脅かす存在となり、イヌ自身も不幸になることがある。そのため本講義では、人の社会に受け入れられるコンパニオンドッグを育成するための適切なトレーニング理論を学修し、実際のドッグトレーニングに用いること（飼い主に説明することも含む）ができるように理解を深めることを目標とする。								
講義概要								
イヌのトレーニングを科学的に理解するために、それに関わるイヌの動物種としての特徴（動物行動学）、学習理論、行動変容法について学ぶ。単に「オスワリ」などの行動反応を教え込むための理論だけでなく、適切なハンドリングやコミュニケーションのための理論、イヌの生活環境の設定に関する理論、動物福祉の観点から体罰などの強制的な方法を用いないための理論など様々な側面からドッグトレーニングの理論を学ぶ。								
授業計画								
1 学習と行動：行動の原理 2 イヌの家畜化の歴史：動物種としての特徴 3 レスポンデント（古典的）条件づけ 4 オペラント条件づけ：強化随伴性 5 オペラント条件づけ：弱体化随伴性 6 刺激の般化と弁別：弁別刺激と刺激性制御 7 新しい行動反応の形成：シェイピング、プロンプティング・フェイディング、連鎖など 8 行動の結果の選択：強化子・弱化学子の種類と使い方、プロンプト（促進子）との区別、消去 9 イヌとの関係づくり：リーダーシップのあり方、ハンドリングとコミュニケーション応答 10 環境エンリッチメントと行動の変容：生活環境の設定の重要性 11 子犬のトレーニング①：排泄とクレートのトレーニング 12 子犬のトレーニング②：社会化（脱感作の方法も含む） 13 子犬のトレーニング③：“かみつき”や要求への対応 14 子犬のトレーニング④：人との歩行のトレーニング 15 理論の落とし穴：理論の不適切応用の可能性（トレーニングの非効率化や動物福祉の侵害）								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題等に関する質問などは、メールあるいは口頭にて随時受け付ける。その後、個別性の高い内容は個別に、全体性の高い内容は全体に回答をフィードバックする。								
履修上の注意								
Moodle を経由した授業案内や資料配布等を行うため、Moodle およびメールの確認を習慣づけておくこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
各授業回に関連する教科書の内容は事前に読んでおくこと。また、授業後には教科書および配布資料等を基に内容をまとめること（可能であれば実践するとよりよい）。								
評価方法（評価基準を含む）								
定期試験（70%）・授業への参加度（30%）として総合的に評価する。								
教科書								
『知りたい！考えてみたい！どうぶつとの暮らし』川添敏弘 監著 山川伊津子・堀井隆行・橋本直幸 著 駿河台出版社								
参考書、教材等								
『メイザーの学習と行動』J.E.メイザー 著 二瓶社 『行動変容法入門』R.G.ミルテンバーガー 著 二瓶社 『行動分析学』坂上貴之・井上雅彦 著 有斐閣アルマ 『イヌの動物行動学』A.ミクローシ 著 東海大学出版部 『イヌの博物図鑑』A.ミクローシ 著 原書房 その他、必要に応じて随時紹介する。								

授業科目	コンパニオンドッグトレーニング実習				実務家教員	-	担当教員	堀井 隆行
科目英名	Practical Training of Companion Dog							
開講期間	4 年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
「コンパニオンドッグトレーニング論」で得た知識に基づき、イヌのハンドリングやトレーニングを実践することで、適切にイヌをハンドリングする技術、基本的なトレーニングアプローチの技術、飼い主のサポートに必要なコミュニケーション能力の修得を目標とする。								
講義概要								
本実習では、犬具の使い方、イヌのハンドリング（イヌとのコミュニケーション）、イヌの行動観察と記録、条件性強化子の条件づけ、オペラント条件づけを用いた基本的動作の反応形成、クレートトレーニング、行動の消去、馴化法と拮抗条件づけ、環境条件のコントロール（環境設定）、イヌの行動の分析と他者への説明、動物福祉への配慮について実習する。								
授業計画								
1 オリエンテーション、イヌのハンドリング技術①：犬具の使い方、クレートからの出し入れ 2 イヌのハンドリング技術②：リードの扱い方、イヌとのコミュニケーション 3 フードの使い方：無条件刺激・強化子・プロンプトとしての利用、フードの嗜好性の確認と活用 4 オペラント条件づけを用いた反応形成①：歩行のトレーニング（アイコンタクト含む） 5 オペラント条件づけを用いた反応形成②：呼び戻し（オイデ） 6 オペラント条件づけを用いた反応形成③：座位・伏臥位・待機（オスワリ・フーセ・マッテ） 7 オペラント条件づけを用いた反応形成④：厳密な合図による行動の制御（刺激性制御） 8 クレートトレーニングと環境設定 9 行動の消去：行動の強化とその行動の消去 10 古典的条件づけの応用：馴化法と拮抗条件づけ 11 イヌの行動の観察・分析と他者への説明：設定された場面での行動観察・分析とロールプレイング 12 オペラント条件づけを用いた反応形成⑤：トリック（連鎖する行動の形成） 13 動物福祉への配慮①：強制的な方法を用いないための比較理解 14 動物福祉への配慮②：イヌの心身に好影響を及ぼすノーズワーク（臭気探索作業） 15 総括とオフリードでのトレーニング体験								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題等に関する質問などは、メールあるいは口頭にて随時受け付ける。その後、個別性の高い内容は個別に、全体性の高い内容は全体に回答をフィードバックする。								
履修上の注意								
「コンパニオンドッグトレーニング論」をふまえた実習であるため、履修していることが望ましい。 Moodle を経由した授業案内や資料配布等を行うため、Moodle およびメールの確認を習慣づけておくこと。実習内容は授業計画から前後する可能性があるが、その際には告知する。 実際にイヌを取扱う実習であるため、イヌを取扱う際には指示に従い適した身だしなみを整えること。実習時には、常にイヌの行動の管理や環境の設定に注意を払い、イヌのストレス軽減にも努めること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
各授業回に関連するコンパニオンドッグトレーニング論等で学んだ内容を確認しておくこと。また、授業後には体験した内容を記録し、まとめること。								
評価方法（評価基準を含む）								
実技および課題（70％）・授業への参加度（30％）として総合的に評価する。								
教科書								
特になし。必要に応じて随時資料を配布する。								
参考書、教材等								
『知りたい！考えてみたい！どうぶつとの暮らし』川添敏弘 監著 山川伊津子・堀井隆行・橋本直幸 著 駿河台出版社 その他、必要に応じて随時紹介する。								

授業科目	イヌ・ネコの特徴論				実務家教員	—	担当教員	◎福山 貴昭・山崎 薫 早田 由貴子・長島 孝行
科目英名	Characteristics of Domestic Dogs Domestic Cats							
開講期間	3 年次 前期	動物人間関係学科 必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
本講義はイヌ品種の多種多様な形態、能力、行動特性等を総合的に学修し、イヌという生物がもつ多様性を理解することを到達目標とする。また、イヌという生物が、他の生物と異なり人間社会において文化的・経済的背景を含めどのように存在しているかを理解する。 ネコの習性、特性を理解し、より良いコミュニケーションをはかる。野生の血を深く残しつつ現代社会に繁栄している愛らしい生き物を勉強することで多くの学生が猫に魅せられ、癒されることを目指す。各純血猫種のスタンダード（審査基準）を修得する。								
講義概要								
イヌ・ネコの様々な品種の特性を解説し、起源と発生、品種が固定された文化圏の特徴とその動物観を示し、動物看護職にとって必要不可欠な知識を講義する。								
授業計画								担当教員
1 イヌの起源・進化・分類								福山 貴昭
2 日本犬の沿革 1								長島 孝行
3 日本犬の沿革 2								長島 孝行
4 頭部形状と前躯体構成の特徴と役割。								福山 貴昭
5 中躯体と後躯体構成の特徴と役割。								福山 貴昭
6 家庭犬としての適性を備えたイヌ品種及び、日本アキタとアメリカアキタの違い								山崎 薫
7 ペット業界におけるイヌのリスクマネジメント								福山 貴昭
8 ペット業界で用いられるイヌの用語解説								福山 貴昭
9 日本犬の犬種標準								長島 孝行
10 猫の起源・進化・分類								早田 由貴子
11 猫の外部形態 ネコ品種と体構成								早田 由貴子
12 猫の外部形態 色素と被毛								早田 由貴子
13 猫の呼吸器・循環器系の疾患								早田 由貴子
14 猫の泌尿器・内分泌系の疾患								早田 由貴子
15 猫の繁殖器・繁殖								早田 由貴子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題については適宜解説と講評を行う。								
履修上の注意								
日本で登録頭数の多いイヌ・ネコの品種名については、予習を前提に授業を実施する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「各授業回の内容に関連する資料を読んでおくこと」								
事後学修「毎授業後、授業内容を読んでおくこと」								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度・学修態度(25%)、課題・試験等(75%)を基に総合的に評価する。								
教科書								
『猫の教科書』 ペットライフ社								
参考書、教材等								
イラストでみる猫学 林良博 講談社 プリント								

授業科目	エキゾチックアニマル特性論				実務家教員	—	担当教員	霍野 晋吉
科目英名	Characteristical Theory of Exotic Animals							
開講期間	3 年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
エキゾチックアニマル(哺乳類、爬虫類、両生類)についての生態と特徴、疾病など知識を幅広く修得することを到達目標とする。それらの知識が卒業後の職場において、おおいに有益なものとなる。								
講義概要								
獣医学の対象として「エキゾチックアニマル」と分類されている動物のうち、ペットとして飼育されている齧歯類（ハムスター、ウサギ）及び近年飼育数の増加している爬虫類（ヘビ、トカゲ、カメ）及び両生類（カエル）について、飼育数の多い種を中心にその特性や飼育方法、代表的な疾患とその看護等について学ぶ。講義にあつては、映像資料や音声教材等を用いて、視聴覚的にもわかりやすく解説する。さらに、いくつかの種については、繁殖等の特性についても紹介する。								
授業計画								
1 エキゾチックアニマル総論（前半） 2 エキゾチックアニマル総論（後半） 3 ハムスター 4 フェレット 5 ウサギ学（前半） 6 ウサギ学（後半） 7 モルモット 8 チンチラ 9 デグー 10 ハリネズミ 11 フクロモモンガ 12 カメ（前半） 13 カメ（後半） 14 トカゲ 15 両生類								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
メールによる質疑応答								
履修上の注意								
特になし。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：各授業回の内容に該当する教科書を読んでおくこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
レポート 50%、授業への参加度 50%								
教科書								
●カラーアトラスエキゾチックアニマル 哺乳類編 第3版 —種類・生態・飼育・疾病—（著者：霍野晋吉、横須賀誠）、（出版社：緑書房）								
参考書、教材等								
●カラーアトラスエキゾチックアニマル 鳥類編 —種類・生態・飼育・疾病—（著者：霍野晋吉）、（出版社：緑書房） ●カラーアトラスエキゾチックアニマル 爬虫類・両生類編 —種類・生態・飼育・疾病—（著者：霍野晋吉、中田友明）、（出版社：緑書房） ●ウサギの基本 JCRA Book Kindle 版（著者：霍野晋吉）、（出版社：YIL 出版） ●ウサギの医学（著者：霍野晋吉）、（出版社：緑書房）								

授業科目	コンパニオンバード特性論				実務家教員	—	担当教員	◎島森 尚子・小嶋 篤史
科目英名	Characteristics of Companion Birds							
開講期間	3 年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
本講義では、動物看護職および飼鳥に関連する職種を目指す学生が必要とする、コンパニオンバードに関する広範で最新の知識の修得を到達目標とする。								
講義概要								
本講義では、2 名の教員がオムニバス形式で講義する。 （島森尚子）家禽化した飼鳥を例に飼養の歴史などを学んだ後、人気の高い飼鳥の種についてその特質を学び、適正飼養について考えてゆく。講義では、映像や音声を視聴したり、実際の鳥を見たりしながら、鳥という生き物についての認識を深めてもらう。 （小嶋篤史）今まで勉強してきた食肉目（犬、猫）の看護学と鳥類の看護がどのように異なるのか。鳥類の分類学的位置、生物学的特性、解剖学的特徴の基礎を学び、いくつかの病気を紹介する中で理解をすすめてゆく。								
授業計画								担当教員
1 ガイダンス・コンパニオンバード概論 1 鳥類学入門								島森
2 コンパニオンバード概論 2 鳥の文化誌								島森
3 コンパニオンバード概論 3 一般的飼育法								島森
4 カナリア 歴史と品種 適正飼養								島森
5 その他のフィンチ類 種の特徴と適正飼養								島森
6 セキセイインコ 歴史と品種 適正飼養								島森
7 オカメインコとその他の小型・中型インコ類 種の特徴と適正飼養								島森
8 大型インコ・オウム類 種の特徴と適正飼養								島森
9 小型の飼鳥の巣引きと育雛								島森
10 人間と鳥の関係								島森
11 鳥類の進化と分類								小嶋
12 鳥類の骨の解剖と疾患、その看護								小嶋
13 鳥類の消化器の解剖と疾患、その看護								小嶋
14 鳥類の生殖器の解剖と疾患、その看護								小嶋
15 まとめと復習								島森
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小テスト・復習テストについては受験後ただちに Moodle 上で解説と講評を行う。課題については授業内で講評を行う。質問は随時 Moodle または教室で受け付ける。								
履修上の注意								
やむを得ない事情により、講義の順序を変更する場合がある。その場合、Moodle 上、掲示および教室で案内する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
指定された教科書、および配布教材等を用い、毎回シラバスに従って予習・復習を行うこと。復習後、Moodle にて復習テストを受けること。小課題を課された場合は指示に従って作成し提出すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
復習試験 30%、復習テスト 50%、小課題 20%として総合的に評価する。								
教科書								
島森尚子『小鳥図鑑』誠文堂新光社 小嶋篤史『コンパニオンバードの病気百科』誠文堂新光社								
参考書、教材等								
教場・Moodle で指示または配布する。								

授業科目	ジェロントロジーとドッグウォーキング				実務家教員	—	担当教員	秋山 順子
科目英名	Gerontology and Dog Walking							
開講期間	3 年次 後期	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
ジェロントロジー（老年学）の視点から、超高齢社会におけるさまざまな健康課題と、イヌを飼う・散歩すること（ドッグウォーキング）が、わが国の健康課題の解決に対して果たす役割を理解することを到達目標とする。具体的には、ジェロントロジーの学問の概念とわが国の現状と課題について説明ができる。ドッグウォーキングが健康にもたらす効果とその具体的な方法を説明できる。								
講義概要								
ジェロントロジー（老年学）の視点から、世界に先がけて超高齢社会を迎えたわが国の現状と健康課題について理解した上で、この課題の解決に対してイヌの散歩が果たす役割とその重要性について解説する。ジェロントロジーの概念、加齢の特徴、健康寿命や介護予防の重要性の他、高齢者の健康に対するイヌがもたらす影響とその有効性について最新の研究成果をもとに理論的に解説する。								
授業計画								
1 ガイダンス、ジェロントロジーとドッグウォーキング 2 ジェロントロジーと超高齢社会の姿 3 加齢に伴う身体の変化 4 超高齢社会のサクセスフルエイジング 5 老年期における心と体のケア 6 高齢者の社会交流 7 後期高齢者の課題と介護予防 8 高齢者における座り過ぎの健康問題 9 超高齢社会におけるペットの役割 10 ドッグウォーキングの効用 11 超高齢社会におけるドッグウォーキングの展望 12 人とイヌの共生社会とイヌの散歩 1 13 人とイヌの共生社会とイヌの散歩 2 14 ソーシャルキャピタルとドッグウォーキング 15 総括・最終試験								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業内で小テストおよび確認テストを実施し、回答の解説をする。質問に対して直接あるいは全体のフィードバックを行う。								
履修上の注意								
初回講義において履修上の注意を説明する。Moodle での授業案内や資料配布等の案内に注意すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前：授業計画に沿って、関連書籍・資料を読んでおく。事後：講義終了後に配付プリント、講義ノートをもとに復習をおこない、要点をまとめておく。								
評価方法（評価基準を含む）								
平常点（授業の質疑応答や学習への参加度）30%、小テスト 10%、最終試験 60% によって総合的に評価する。								
教科書								
特に指定しない								
参考書、教材等								
『東大がつくった高齢社会の教科書』東京大学高齢社会総合研究機構（編著）、東京大学出版会 『すぐわかるジェロントロジー』一般社団法人日本応用老年学会検定委員会（編著）、社会保険出版社 『超高齢社会の基礎知識』鈴木隆雄(著)、講談社現代新書								

授業科目	産業動物学				実務家教員	-	担当教員	村上 隆広
科目英名	Farm Animal Science							
開講期間	3 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
1.動物の種類及び特性：産業動物、野生動物を比較しながら、その歴史、社会的位置づけ及び特徴について理解する								
2.産業動物								
(1)家畜（馬・牛・めん羊・山羊・豚・鶏）の歴史と品種、特徴について理解する								
(2)各家畜の消化器の形態と機能、食性について理解する								
(3) 各家畜の性周期と繁殖生理について理解する								
(4) 各家畜の飼養施設の概要について理解する								
(5) 各家畜の食性と飼養法について理解する								
講義概要								
産業動物の歴史や品種、飼養管理法について学ぶ。家畜化というプロセスによって生じる行動面や形態面の変化（進化）を把握したうえで、代表的な産業動物である馬・牛・めん羊・山羊・豚・鶏・毛皮獣について歴史や品種、特徴、飼養法を理解する。								
授業計画								
1 産業動物とは何か								
2 馬の歴史と特徴								
3 牛の歴史と特徴								
4 めん羊、山羊の歴史と特徴								
5 豚の歴史と特徴								
6 鶏の歴史と特徴								
7 毛皮獣の歴史と特徴								
8 産業動物学まとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小テストについては解説と講評を行う。								
履修上の注意								
遺伝学、解剖学、生理学の内容が出てくるので、復習しておくこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前：配布資料中に次回講義のポイントを示すので、予習しておくこと。								
事後：授業や小テストで示したポイントをよく見直すこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度、小テスト（50％）と定期試験（50％）により総合的に評価する。								
教科書								
教科書は指定しない。講義時にプリントを配布する。								
参考書、教材等								
動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠・応用動物看護学 3，動物行動学・伴侶動物学・産業動物学・実験動物学・野生動物学，株式会社インターズー， 家畜化という進化，リチャード・C・フランシス，西尾香苗訳，白揚社。								

授業科目	実験動物学				実務 家教員	—	担当 教員	牛根 奈々
科目英名	Laboratory Animal Science							
開講期間	3 年次 後期	必修科目 1 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
1．動物の種類及び特性 1) 愛玩動物、実験動物と野生動物を比較しながら、その歴史、社会的位置づけ及び特徴について理解する 2．実験動物 1) 動物実験の目的、意義について理解する 2) 代表的な実験動物の飼養管理、繁殖法について理解する 3) 遺伝学的制御、微生物学的制御、環境制御について理解する 4) 疾患モデル動物について理解する								
講義概要								
実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、種類と保全、個体・群管理について学ぶ。								
授業計画								
1 実験動物学概説：動物実験の意義、実験動物の定義と利用状況、歴史と今後の展望 2 動物実験の倫理と法規制 3 各種実験動物の比較生物学：マウス、ラット、ハムスター、スナネズミ、モルモット 4 各種実験動物の比較生物学：ウサギ、ネコ、イヌ、ブタ、サル等 5 実験動物の育種、繁殖、飼育管理、疾病 6 生物学的・疾患モデル動物 7 動物実験代替法：動物実験と 3R 原則、動物実験代替法のメリット・デメリット 8 動物実験からヒトへの外挿								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
各担当で 1 回ずつレポートを課す予定で、これについては返却しながらコメントする予定である。								
履修上の注意								
動物実験に関しては賛否両論があるので、動物実験の是非について反対意見の人々と十分な議論ができるよう自分の意見を常に明確にしておく必要がある。その上で授業に出席してほしい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
毎回資料を配布する予定だが、予習は自分の裁量の中でやるとして、復習は、授業および資料のノート整理を中心に、しっかりとまとめておくこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業参加度・小テスト（30%）、定期試験（50%）、レポート（20%）により総合的に成績評価を行う。								
教科書								
特に指定しない。 適宜プリントを配布する。								
参考書、教材等								
最新実験動物学 前島一淑、笠井憲雪編、朝倉書店								

授業科目	野生動物学				実務家教員	—	担当教員	村上 隆広
科目英名	Wild Animal Science							
開講期間	2 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
1.動物の種類及び特性：野生動物と展示動物等の飼養動物とを比較しながら、その歴史、社会的位置づけ及び特徴について理解する。 2.野生動物 (1)野生動物の分類と生物多様性について理解する (2) 鳥獣害の現状と保全の意義について理解する (3) 絶滅危惧種の定義と含まれる動物、原因、保全方法について理解する (4) 外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策について理解する 2.展示動物 (1) 展示動物の意義と動物園等の役割について理解する (2) 動物園等における個体・群管理、行動管理について理解する (3) 動物園等の施設管理について理解する								
講義概要								
飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。野生動物の進化や分類、国内で人間との共生が課題となっている代表的な分類群の生物学的特徴や生態を基盤として学修する。さらに、野生動物に関連する法制度や調査方法、各地で実施されている対策を知った上で、鳥獣被害、絶滅危惧種、外来種などと動物園の展示動物とを比較しつつ、動物と人間との共生における課題や対策について理解する。								
授業計画								
1 野生動物問題の現場を知る 2 野生動物の進化、分類と生物多様性 3 野生動物に関連する法制度、保護区 4 野生動物調査の実際 5 シカ、カモシカ、イノシシの特徴と問題 6 キツネ、タヌキ等の特徴と問題 7 イタチ類の特徴と問題 8 クマ類の特徴と問題 9 人間との関わりの深い鳥類の特徴と問題 10 外来種の概要と生態系への影響、対策 11 絶滅危惧種の概要と保全 12 絶滅種の概要と再導入をめぐる論争 13 動物園・展示動物の意義と役割 14 動物園と教育、施設管理 15 動物と人との望ましい関係を築くためには？								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
小テストについては次の回の講義で解説と講評を行う。								
履修上の注意								
野生動物問題や動物園の話題は新聞やニュースで頻繁に取り上げられるので、自身でも掘り下げて調べるなどして、多様な視点をもつようにすること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前：配布資料中に次回講義のポイントを示すので、予習しておくこと。 事後：授業や小テストで示したポイントをよく見直すこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度、小テスト（50％）と定期試験（50％）により総合的に評価する。								
教科書								
教科書は指定しない。講義時にプリントを配布する。								
参考書、教材等								
コアカリ野生動物学、日本野生動物医学会編、文永堂出版								

授業科目	動物看護関連法規				実務家教員	—	担当教員	植田 富貴子
科目英名	Regulations for Veterinary Nursing							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
1. 法学総論 1) 法の体系について理解する 2) 獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する 2. 愛玩動物看護師法 1) 愛玩動物看護師法の目的・定義等について理解する（免許、試験、業務、罰則を含む） 3. 獣医療関連行政法規 1) 獣医師法の概要について理解する 2) 獣医療法の概要について理解する 4. 公衆衛生行政法規 1) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要について理解する 2) 狂犬病予防法の概要について理解する 5. 薬事行政法規 1) 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の概要について理解する 2) 麻薬及び向精神薬取締法の概要について理解する 3) 毒物及び劇物取締法の概要について理解する								
講義概要								
動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。								
授業計画								
1 法学総論Ⅰ（日本の法体系） 2 法学総論Ⅱ（獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わり） 3 愛玩動物看護師法 4 獣医療関連行政法規Ⅰ（獣医師法） 5 獣医療関連行政法規Ⅱ（獣医療法） 6 公衆衛生行政法規Ⅰ（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律） 7 公衆衛生行政法規Ⅱ（狂犬病予防法） 8 薬事行政法規（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律、麻薬、向神経薬、劇毒物）								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
採点内容をまとめて問題点を伝える。								
履修上の注意								
講義のポイント、注意点をノートなどに自ら手書きすること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：キーワードで内容の概要を予習しておくこと 事後学修：講義のポイントを講義ごとに整理すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
定期試験 70%、授業への参加度 30%により評価する。								
教科書								
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 5 巻 公衆衛生学/動物看護関連法規/動物愛護・適正飼養関連法規 エデュワードプレス								
参考書、教材等								
教材としてプリント、スライド等を随時使用する。								

授業科目	動物愛護・適正飼養関連法規				実務家教員	—	担当教員	小島 香代子
科目英名	Regulations for Animal Welfare and Proper Care							
開講期間	1 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
1. 愛護・適正飼養の基本となる概念 1) 愛護・適正飼養に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する 2. 愛護・適正飼養関連行政法規 1) 動物の愛護及び管理に関する法律の概要について理解する 2) 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律の概要について理解する 3. 社会福祉行政・環境衛生法規 1) 身体障害者補助犬法について概要を理解する 2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律の概要について理解する 3) 化製場等に関する法律の概要について理解する 4. 野生動物等に関する法律及び条約 1) 生物多様性の概要について理解する 2) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の概要について理解する 3) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約の概要について理解する 4) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の概要について理解する 5) 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律の概要について理解する 6) 特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約の概要について理解する 7) 自然公園法における野生動植物保護に関する制度を理解する 8) 文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度を理解する								
講義概要								
動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。								
授業計画								
1 動物愛護と適正飼養の普及において愛玩動物看護師が果たす役割 2 動物の愛護及び管理に関する法律 3 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律 4 身体障害者補助犬法 5 環境衛生に関連する法律 6 野生動物等に関連する法律① 7 野生動物等に関連する法律② 8 振り返りとまとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
次回の授業で、課題中の見解や質問について、回答・コメントする								
履修上の注意								
なし								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：次回の授業内容について、情報収集し、自分なりの予測を立て、考えを持っておくこと 事後学修：授業内容を振り返り、課題を提出すること								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（授業への関心・意欲・態度）40%、定期試験 60%として総合的に評価する								
教科書								
『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 5 巻 公衆衛生学／動物看護関連法規／動物愛護・適正飼養関連法規』 一般社団法人 日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会 編 エデュワードプレス								
参考書、教材等								
授業中に資料を配付する								

授業科目	医療安全					実務家教員	—	担当教員	本田 三緒子
科目英名	Medical safety								
開講期間	4 年次 後期	動物看護学科 選択科目 2 単位	動物人間関係学科 必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標									
医療安全の確保は、医療現場において最も重要な課題の一つであり、基本的な考え方を理解し、医薬品・医療用具、作業環境の整備医療事故の防止につながる内容やヒューマンエラーについて学び、「安全文化」の醸成と定着について理解することを到達目標とする。									
講義概要									
“ワンヘルス”を掲げる人と動物の共生社会においては、医療現場等のペット関連産業の現場に関わる全ての人間と動物に関しての医療安全を考慮する必要がある。 危険因子を排除するシステム作り、事故の予防、再発防止といったリスクマネジメント、さらに、訴訟化防止、訴訟対策といったコンフリクト・マネジメント等について解説し、今後の展望を具体的事例に基づいて講義する。									
授業計画									
1 医療安全とヒューマンファクター 2 医療従事者の心構えを再認識する 3 医療安全の分化・調査と分析 4 医療安全のプログラム作成 5 リスクの高い業務工程とは 6 医療安全における指標・薬剤事故について 7 安全を左右する業務工程について 8 労働環境に関する危険の同定 9 医療安全のための評価ツール、測定データの収集 10 望ましい医療安全管理報告 11 業務工程の再設計、エラーを減らす（危害分析と観察） 12 業務工程の死設計に必要な情報源 13 解決策の優先順位について 14 自院の医療安全プログラムを評価する 15 まとめ（BCP から BCM への展開）									
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
医療事故に関する新聞報道の切り抜きメモ作成、課題研究の実施、グループワーク・サポート。									
履修上の注意									
医療安全に関する、ニュースや報道に感心を持ち、真摯に調べ臨むこと、ポイント・ノートで課題整理を自ら完成すること。									
事前・事後学修（予習・復習）の内容									
事前学修「次回講義内容」について予告するので各自・予習すること。 事後学修「レポート提出、ポイント・ノートのとりまとめ」									
評価方法（評価基準を含む）									
授業への参加度：50%、レポート・発表など 50%で総合的に評価する									
教科書									
特に指定しない、毎回プリント資料を配布する。									
参考書、教材等									
1. よくわかる医療安全ガイドブック、東京都病院協会診療情報管理委員会監訳、学研メディカル出版 2. 事故事例で学ぶ医療リスクマネジメント、宗像 雄、嶋森好子、学研メディカル出版 3. 医療安全ワークブック 4 版、川村治子、医学書院									

授業科目	動物災害・危機管理				実務家教員	—	担当教員	◎福山 貴昭・小島 香代子
科目英名	Animal Health Emergency Management							
開講期間	4 年次 後期	動物人間関係学科 必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
はじめに災害大国と称される日本が抱える自然災害リスクを理解し、一般的な災害知識、防災知識を学修する。その上で、災害時の動物関連の法令、災害時に動物がもたらす二次災害、災害時動物救護活動を学修し、災害時に動物を取り巻く状況を理解する。特に動物看護の観点から災害を見直すことで、災害と動物の新たな関連性や、より機能的な減災方法を提案できることを到達目標とする。								
講義概要								
災害の多い日本における飼い主及び家庭動物の災害時危機管理を多角的観点から学修する。家庭動物・展示動物における災害時救護活動に関連する法整備やペット救護に関連した官民一体構造について解説する。 過去の災害による被災動物状況の報告、海外の災害時動物救護活動の報告、災害時に家庭動物及び展示動物について、近隣地域に及ぼす可能性のある二次災害を解説する。また、ペット同行避難の現状と課題を学修し、将来に向けた課題の解決法についてまとめる。								
授業計画								担当教員
1 災害時動物関連の法律								福山 貴昭
2 日本において想定される自然災害								福山 貴昭
3 東日本大震災 被災動物の現状								小島 香代子
4 東日本大震災 被災動物の救護活動								小島 香代子
5 災害時のペット救護活動								小島 香代子
6 シェルターワーク								小島 香代子
7 ペット関連問題								小島 香代子
8 今後のペット関連問題								小島 香代子
9 犬猫の保護活動								小島 香代子
10 犬猫の保護活動 行政の現状と課題								小島 香代子
11 動物管理者の防災 1								福山 貴昭
12 動物管理者の防災 2								福山 貴昭
13 動物管理事業者の被害想定								福山 貴昭
14 動物管理事業者の事業継続計画策定方法。								福山 貴昭
15 防災用具解説								福山 貴昭
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業内で模範レポートを示す。								
履修上の注意								
なし								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「各授業回の内容に関連する資料を読んでおくこと」								
事後学修「毎授業後、授業内容を読んでおくこと」								
評価方法（評価基準を含む）								
課題（60%）、授業への参加度（40%）を基に総合的に評価する。								
教科書								
プリント等を随時頒布する。								
参考書、教材等								
特になし								

授業科目	ペット関連産業論					実務家教員	—	担当教員	越村 義雄
科目英名	Companion Animals-related Industry								
開講期間	4 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標									
1. ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む） 1）責任と社会的役割を理解する（職業倫理） 2）商取引における関連法規の概要について理解する 3）動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法について理解する 2. ペットの飼養実態と市場規模 1）ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模について理解する 3. 各ペット関連産業の現状と課題 1）ペットフード、ペット用品、ペット関連サービス（生体分野、美容・ヘルスケア分野、レクリエーション・観光分野、葬儀・霊園分野、獣医療分野、ペット共生住宅・マンション分野など）の現状と課題を理解する。 4. 動物取扱業 1）動物取扱業制度の概要について理解する 2）動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係る手法について理解する									
講義概要									
ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。									
授業計画									
1 ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）Ⅰ（責任と社会的役割（職業倫理）） 2 ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）Ⅱ（商取引における関連法規の概要） 3 ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）Ⅲ（動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法） 4 ペットの飼養実態と市場規模（ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模） 5 各ペット関連産業の現状と課題（ペットフード、ペット用品、獣医療分野、ペット共生住宅・マンション分野など） 6 各ペット関連産業の現業と課題（ペット関連サービス（生体分野、美容・ヘルスケア分野、レクリエーション・観光分野、葬儀・霊園分野）） 7 中間試験 8 動物取扱業Ⅰ（動物取扱業制度の概要） 9 動物取扱業Ⅱ（動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係る手法） 10 ペット関連産業に従事する際に考慮すべきマクロの情報とは 11 ペット関連産業の問題と解決・機会と捉える手法、事業の計画、戦略、戦術、プログラムの策定方法 12 ペット関連産業の将来展望（人口減少、少子化・高齢化、飼育頭数・飼育率の減少） 13 ペット関連産業の可能性（他産業とのコラボレーション、新製品・新サービスの開発、ワンヘルス等） 14 最終試験 15 まとめ（全講義の復習とペット関連産業に関する理解度を確認する）									
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック									
中間試験や最終試験の後、回答について授業で説明する。									
履修上の注意									
ほぼ毎回、資料を配布し説明する。次回に続くこともあり資料を必ず持参。また、必ずノートをとること。質問時間を設けるので、積極的に活用すること。									
事前・事後学修（予習・復習）の内容									
自身で事前に質問したい内容をまとめておく。授業の後の復習を必ず行うこと。									
評価方法（評価基準を含む）									
授業での質疑応答 1 0 %、中間での理解度テスト 4 0 %、最終試験の成績 5 0 %によって総合評価する。									

教科書
特に指定しない。
参考書、教材等
特に指定しない。参考書：講師、越村義雄の著書「人とペットの赤い糸」学研

授業科目	ペットビジネス起業論				実務家 教員	○	担当 教員	宮下 めぐみ
科目英名	Pet Business Entrepreneurship							
開講期間	4 年次 後期	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
本講義はわが国の多様なペット関連市場の各種現状をデータや実例などから吸収し、ペット関連市場にビジネスチャンスになりうる商品やサービス等の模索を行う。ペット関連市場への就職に役立つ知識や起業に 関しての経営手法等を修得し、ペット業界の即戦力となりうるようにスキルアップを目指す。								
講義概要								
本科目では、ペット関連産業における起業に必要な知識を学修する。 起業を行うには、まずは産業界でのニーズを把握し、収益を確保できる分野を見出す必要がある。そのた め、社会動向、業界のトレンド、消費者の動向等を分析する。 また、起業に必要な実務として、起業に必要な会社設立の手続き、会計・資金調達・税金・労務管理、関 連法規等の基礎を学修する。 さらに、ゲストスピーカーとして実際に起業している実務家を招き、起業を成功させるための秘訣等、よ り実践的な知識を学ぶ。 最後に総括として、学生が実際に事業計画を作成し、発表を行う。 ペット関連市場のデータの読み解きと実例を用いた各種ビジネスの解説を行い、ペットビジネスについて の理解を深める。ワークショップを随所に組み込み、講義後半にはビジネスプランの作成を各自行うことでビ ジネスに必要なエッセンスを実践で学んでいく。								
授業計画								
1 ペット関連市場の状況(1)：コンパニオンアニマル市場（流通や問題点等） 2 ペット関連市場の状況(2)：流行犬種&猫種分析 3 ペット関連市場の状況(3)：ペット関連商品の市場分析 4 ペット関連市場の状況(4)：ペット関連サービスの市場分析 5 ペット関連市場の状況(5)：ペット保険の現状と役割（予防医療の推進） 6 ペット関連市場の状況(6)：ペットビジネスに関する法令 7 ペット関連市場の状況(7)動物病院の現状と分析 8 ペット関連市場の状況(8)ペットツーリズム 9 ペット業界の就職事情(1)就職に関する知識～労務関連～ 10 ペット業界の就職事情(2)就職に関する知識～資格など～ 11 事例研究：ビジネスビジョンの作成 ～売買成立の話～ 12 ビジネスプラン(1)：事業計画の立て方 ～SWOT 分析など～ 13 ビジネスプラン(2)：事業計画の立て方 ～収支計画など～ 14 ビジネスプラン(3)：事業計画の立て方 ～リスク計画など～ 15 ビジネスプラン(4)：ビジネスプラン報告会								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
ビジネスプラン記載用紙にフィードバックとしてコメントを記載する。								
履修上の注意								
授業の後半でビジネスプランの作成を行い、報告会にて各自プレゼンを行う。止むを得ない欠席の際は、 事前に届け出るか、後日担当教員の指示を仰ぎ、次回の講義までにプリントの作成をし、持参すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学習として、関連書物やサイトの確認（60 分）、事後学習として配布資料の確認（60 分）が必要。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度を 40%、ビジネスプランの作成・報告を 30%、試験を 30%とし総合評価する。								
教科書								
なし（適宜、資料を配布する）。								
参考書、教材等								
講義中に紹介する。								

授業科目	情報危機管理論				実務家教員	—	担当教員	若林 義啓
科目英名	Information Risk Management							
開講期間	4 年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
現在のネット社会では企業や組織において様々な情報セキュリティインシデントが発生している。情報セキュリティ事件・事故を学び、企業や組織の情報セキュリティを提案できるようになることを目的とする。 1. 法律と情報倫理・情報モラルを理解し、適切な情報の取扱いができる。 2. 個人を守る情報セキュリティシステムを構築できるようになる。 3. 情報セキュリティインシデントを理解し、原因を特定できる。 4. 企業や組織のセキュリティ対策を提案できる。								
講義概要								
まず、情報セキュリティと情報セキュリティシステムの仕組みを学び、ネットワーク機器を用いて構築する。次に企業や組織で発生した情報セキュリティインシデントの事例研究をする。最後にサーバーシステムのセキュリティを解説し、セキュリティシステムの構築と対策法を学ぶ。								
授業計画								
1 ガイダンス、情報セキュリティとは 2 ネットワーク社会の危険 3 情報倫理と情報モラル 4 個人の情報セキュリティ事故の事例 5 マルウェアとは 6 法律とプライバシー 7 個人ができる情報セキュリティとリスクマネジメント 8 情報セキュリティの仕組み 9 企業の情報セキュリティ事故の事例 10 日常業務の情報セキュリティ事故 11 テレワークの情報セキュリティ 12 法律と企業コンプライアンス 13 企業の情報セキュリティ対策 14 情報セキュリティとリスクマネジメント 15 情報セキュリティのまとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
課題は次の回に解説を行う。								
履修上の注意								
演習や課題に主体的に取り組むこと。初回に授業に対する姿勢、成績評価について説明する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
授業のテーマについて調べておくこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
まとめテスト（70%）、小テスト（20%）、主体的に学修に取り組む態度（10%）の総合評価とする。								
教科書								
特に指定なし。必要に応じて資料を配布する。								
参考書、教材等								
特になし								

授業科目	動物とアート				実務 家教員	—	担当 教員	斎藤 康介
科目英名	Animals in Art							
開講期間	1 年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
デッサンを通して質感・構図・物の変化を捉えることにより、バランス感覚・空間意識を持てるようになることを目標とする。								
講義概要								
デッサンの題材として、ペットを描くことで、動物に対して関心を高め、構図・バランス・質感の違い、観察力を身につける。また、自然石に動物を表現することで造形力・想像力を養い、立体に対する意識を持たせる。自由な発想で動物の世界を描かせることで、オリジナリティーのある表現・構成力・想像力及び客観的に物を見る力を身につける演習を行う。								
授業計画								
1 絵画について カリキュラムの意味 基礎デッサン① 鉛筆デッサンにより明暗の調子を学ぶ 2 基礎デッサン② ハッチングの方向、グラデーションの幅の広い表現、動き、バランス表現 3 基礎デッサン① 鉛筆、ダーマトグラフ（白）、コンテ（白）により質感、構図、明暗の調子を学ぶ 4 基礎デッサン② ダーマトグラフ（白）、コンテ（白）により質感、構図、明暗の調子を学ぶ 5 作品完成と合評 6 動物の絵（自分の周りにいる動物を描く）① 構図、バランスを考え、特徴をつかむ 7 動物の絵（自分の周りにいる動物を描く）② 毛の方向を意識して描く 8 動物の絵（自分の周りにいる動物を描く）③ 作品の完成と合評 9 自然石を利用した立体表現① 動物をイメージして、顔（頭部）、全身を表現する 10 自然石を利用した立体表現② 自然石の造形の妙を理解、消化する 11 自然石を利用した立体表現③ 作品の完成と合評 12 動物（生き物）の世界① 同一画面に構図、画面構成を考え、様々な生き物を自由に入れる 13 動物（生き物）の世界② 同一画面に構図、画面構成を考え、様々な生き物を自由に入れる 14 動物（生き物）の世界③ 同一画面に構図、画面構成を考え、様々な生き物を自由に入れる 15 レビューと合評								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
実技のため、試験やレポート等無し。要望メッセージは、初回の授業カリキュラム説明の際に質問を受ける。 1 課題ごとに合評を行う。								
履修上の注意								
課題ごとに持ち物を忘れないこと								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
基本的に予習・復習無し。1 5 回の授業で5 課題行う。各課題のスタート時に課題ごとの内容説明、ねらい、必要性、目的等を伝え、学生はそのための準備が必要である。実技で必要な道具、資料等忘れ物をしないこと。また、1 課題ごとの合評をとおして、目的を達成出来たか、自分の力を十分に発揮出来たか、次のステップに結び付く為の意欲を持たせる。実技の性格上、授業時間内に終わらなかった場合は、必ず仕上げて提出すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
課題ごとの作品評価（90％）と授業への参加度（10％）の総合的評価								
教科書								
特に指定しない								
参考書、教材等								
田中光常「動物ワールド」写真集		※デッサン作品資料	レオナルド・ダ・ヴィンチ・ミケランジェロ アルブレヒト・デューラー ※油絵資料（動物作品）アンリ・ルソー サルバドール・ダリ ※アクリル作品（動物作品）ワールドスミス					
上野動物園グラフ								

授業科目	動物文化人類学				実務 家教員	—	担当 教員	◎内田 明彦、植田 富貴子 島森 尚子、石川 牧子 村上 隆広、新島 典子 秋山 順子、堀井 隆行
科目英名	Animal Cultural Anthropology							
開講期間	3 年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
世界の多様な文化のありよう、動物観を学び、人間と動物の関係、動物愛護の考え方の多様性、相対性を理解する。そのもとで、近未来の動物看護のあり方について、国際的に通じる自分の考えを構築できるようになることを目標とする。								
講義概要								
文化人類学のなかで、とくに動物と人間、民族との関係に関わるテーマについて解説する。文化人類学の構造主義、機能主義の考え方からはじめ、フィールドワーク、質的調査等の方法論を知る。その後、担当者がこれまで調査、研究してきた、養蚕、鶺鴒飼、家禽化、生き物に関する民族芸術、クールジャパン等の各論に入り、近未来の人類と動物の関係について考察する。								
授業計画								担当教員
1 オリエンテーション								内田
2 動物文化人類学の視点（ゲストスピーカー）								植田
3 文化人類学の方法								村上
4 動物と人間の関係								植田
5 狩猟社会と農耕社会								新島
6 アニミズム、トーテミズム、シャーマニズム								島森
7 産業動物と文化								内田
8 ニワトリはいつから庭にいるのか								村上
9 イヌとネコの文化人類学								堀井
10 「生類憐みの令」はあったのか								島森
11 現代文明での愛玩動物の課題								秋山
12 現代社会の文化人類学								新島
13 アニメ・アニマル・アニミズム								島森
14 近未来の人間と動物								石川
15 コロナウイルスからみた人類史								内田
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
各回の冒頭で前回のレポートに書かれた質問に回答する。また、意見について（匿名のまま）報告し、受講生に討議してもらう。								
履修上の注意								
授業中、スマホによるパワーポイントの撮影は禁止する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
各回の授業で述べた人名やテクニカル・タームは、必ずインターネットや書物で確認し、理解しておくこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（５０％）、定期試験（５０％）の総合で評価する。 なお、講義中の質問、意見表明、態度は上記に加点する。								
教科書								
定めない。必要なレジュメを配布する。								
参考書、教材等								
定めない。								

授業科目	水族動物学				実務家教員	—	担当教員	石川 牧子
科目英名	Aquatic Zoology							
開講期間	3 年次 後期	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
河川、湖沼、海洋などの水域に生息する水族動物について学修する。水中環境へ適応した動物の生物学的特性と、人間活動との関わりについて理解を深めることを到達目標とする。 1. 水族動物の分類・形態・生態・生理などについて説明できる 2. 水族動物との共生について考察できる								
講義概要								
講義前半は、水族動物の分類・生理・生態について理解する。講義後半は、家庭での観賞魚飼育、水族館飼育動物、養殖などに関連し、水族動物の飼育管理や病気、水族動物の人間との関わり、保全や資源管理などについて学修する。最終講義では、まとめおよび理解度の確認、解説を行う。								
授業計画								
1 オリエンテーション 水族動物とは何か 2 水族動物の生息環境 3 水族動物の系統と分類 4 水棲無脊椎動物 5 魚類 6 両生類・爬虫類 7 水棲哺乳類 8 水族動物の寄生虫 9 魚類の病気 10 魚類の飼育管理 11 魚類の展示 12 水棲哺乳類の病気、保全 13 ヒトと水族動物の関係 14 水族動物の保全と資源管理 15 まとめ（水族動物の生理・生態・飼育管理）、テスト、解説								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
講義内で適宜フィードバックする								
履修上の注意								
特になし								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
講義前後に配布資料および関連書籍を読んでおく								
評価方法（評価基準を含む）								
授業内のテスト 50%、授業への参加度および授業内での提出課題 50%の総合評価								
教科書								
特に指定しない								
参考書、教材等								
獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 魚病学，児玉洋監修，2019 年，緑書房 ほか、講義内で適宜紹介する								

授業科目	動物園・水族館論				実務 家教員	○	担当 教員	小宮 輝之
科目英名	Zoo & Aquarium Science							
開講期間	3 年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
動物園・水族館の社会的役割も歴史と共に変化している。従来からレクリエーションの場、環境学習の場、希少動物の保護の場、研究の場という 4 つの役割があると言われてきた。最近では人々の心の癒しの場という機能が加わってきた。講義前半では動物園・水族館の歴史を通じて、将来あるべき方向について学ぶ。後半では現状の具体的活動について講義し、動物園・水族館に関する豊富な知識の修得と、社会が求める動物園・水族館の在り方について考察できる知識の修得を到達目標とする。								
講義概要								
日本や世界における動物園や水族館の現在に至る歴史的経緯を解説した後、現在の飼育管理方法、展示方法、繁殖・収集・個体識別方法、栄養管理、行動管理、施設管理、環境エンリッチメント、疾病予防、検疫等につき講義する。さらにいくつかの動物種については、その具体例を紹介する。これらを学ぶことにより、動物園・水族館における総合的保全活動、野生個体群の保全、科学と研究、個体群管理、教育と研修、コミュニケーション、パートナーシップ、持続的資源利用、動物福祉と倫理等の分野を理解させ、これからの課題等についても問題意識を持たせることを講義する。								
授業計画								
1 動物園・水族館論で学ぶべきこと：講義の目的と特色、講義の進め方等のガイダンス								
2 動物園・水族館の歴史Ⅰ								
3 戦後復興と上野動物園								
4 動物園・水族館の歴史Ⅱ								
5 種の保存（域外保全の場としての動物園・水族館）								
6 希少種保全への国際協力 パンダを例に								
7 哺乳類の繁殖								
8 魅力的な展示の創造、								
9 鳥類の飼育展示・繁殖								
10 保全のための技術								
11 水族館の飼育展示・繁殖								
12 動物園での観察・データ収集と野生動物への応用								
13 日本在来家畜の現状と保全								
14 命の教育								
15 動物園・水族館論総括								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
出席カード裏への感想、質問に次回授業で応じ、学生にフィードバックする。								
履修上の注意								
動物園・水族館論と合わせて野生動物学を受講していることが望ましい。動物学や畜産学の知識、自然環境への興味、それに動物園・水族館の体験があればよい。指定教科書に希少動物保全の具体例を記載してあるので、目を通しておくと理解し易い。講義中における自筆ノートへの記入を行なうこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：毎回の授業前に、指定教科書の関係項目に目を通すこと。								
事後学修：毎回の授業後に、関連書物や自筆ノートで復習すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（30％）感想メモ（40％）と定期試験（30％）により総合的に評価する。								
教科書								
動物園ではたらく 小宮輝之著 イースト・プレス								
参考書、教材等								
物語上野動物園の歴史 小宮輝之著 中公新書								
日本の家畜・家禽 秋篠宮文仁・小宮輝之共著 学研								
昔々の上野動物園絵はがき物語 小宮輝之著 求龍堂								
スライド、DVD で解説し、教科書で補足しながら授業を進める。								

授業科目	有害動物学				実務家 教員	—	担当 教員	谷川 力
科目英名	Pestology							
開講期間	3 年次 後期	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
ヒトや動物（主にペット等）の居住環境ではそれらに害を与える生物が存在する。その悪い影響を与える生物の知識の習得は動物を扱う職種だけでなく、広くヒトの生活する環境内でも公衆衛生上問題である。有害生物を学ぶことは、ヒトを中心とした生活環境で身近に生息する生物の生態や対策に関する知識が得られる。到達目標はそれらの有害生物の生態を学び、防除やその対策を立案できるようになることである。 一方、生物を扱う業種は保護や育成などもあるが、有害な生物をコントロールすることも重要であり、それに特化したペストコントロールを扱う業種も存在する。本講義ではその基礎を学び、将来の就職先の業種の一つとして捉えることもできる。なお、「Pestology」という英名は「pest」と「logy」の合成語で「ペスト(有害なもの)を研究する学問」という意味である。								
講義概要								
近年、高病原性鳥インフルエンザや重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 等目に見えない生物による、ヒトへの感染症被害がクローズアップされている。また、ネズミや昆虫等の有害動物による被害も多く発生している。このように有害動物は、生活圏に入り込み、多くの害を人、食品、家財等に与える。本講義では、有害動物をネズミ、昆虫類、ダニ類、その他に分け、それらの被害を分類して、その基礎知識を学び、駆除や予防対策の立案方法について講義する。								
授業計画								
1 有害生物概論 2 有害生物の基本 3 ネズミの生態と対策 4 ゴキブリの生態と対策 5 ハエの生態と対策（不快害虫も含む） 6 蚊の生態と対策（吸血害虫も含む） 7 ダニ・ノミ等ペットに関わる生物の生態と対策 8 トコジラミ・アリ・ハチ・シロアリ等家屋にかかわる生物の生態と対策 9 ハクビシン・アライグマ・コウモリ・ハト等の生態と対策 10 その他衛生害虫・不快害虫・食品害虫の紹介 11 新型コロナウイルス感染症等の消毒とその準備 12 環境改善・IPM による防除方法 13 薬剤による防除方法（殺虫剤・殺鼠剤・忌避剤等） 14 捕獲による防除方法 15 まとめ								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業終了後に直接またはメールにて質疑応答する。またその質疑内容が聴講学生全体に必要であれば次回授業で解説する。								
履修上の注意								
授業は配布資料、パワーポイントを基に進める。重要事項を積極的にノートに書きとめるようにし、自筆ノートの作成と記憶の定着に心がけること。配布資料とパワーポイントを見ながら理解すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
授業計画を事前に確認しその内容を予習すること。毎回事後学修：授業後に当日の聴講内容と配布された資料を確認すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
学期末レポート（70%）、授業への参加度（30%）から総合的に評価する。								
教科書								
特になし。資料を講義時に配付する。								
参考書、教材等								
有害生物防除事典（オーム社）谷川 力他、衛生動物の事典（朝倉書店）谷川 力他								

授業科目	サイエンスイングリッシュ				実務家教員	—	担当教員	小黑 美枝子
科目英名	Scientific English							
開講期間	3 年次 前期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕		
到達目標								
動物看護学や動物人間関係学専攻で要求されるサイエンス (科学) は、国際的で、学問進歩が急速である。グローバルな視野に立ち、英文参考書、資料、論文などの科学英語に抵抗なく読むことが要求されている。本授業では、基礎的な科学英文を読解するためのスキルを修得することを目標とする。卒業研究における英語資料、論文の読解のための基礎力修得を到達目標とする。また、国際社会が身近になり、英語のリスニングも、動物や動物と人間の関わりに関する分野、またその関連科学分野においても必要になっている。そのために、基礎的英文読解力に基づいた専門分野の科学英語の英文読解力を修得することを到達目標とする。								
講義概要								
諸専門科目で要求される、サイエンス分野の英語文献、資料を理解するための基礎的な英文読解のスキルの修得を目標とする。他に配当の基礎の英語科目での既習内容を継続的に発展させ、結びつきを図りながら、サイエンス英語読解の基礎能力の確実な定着を目指す。サイエンス英語に特有な英文構造の把握、専門用語、関連語彙、用語の習熟から進めていく。さらに、読解スキルを実践的に使えるようになるために、専門的英語教科書での精読を進めていく。あわせて、英語を耳、口を使って学修するために、リスニングや、音読の繰り返しを行い、専門分野の科学英語を解説する。								
授業計画								
オリエンテーション (サイエンスイングリッシュの科目の紹介、 1, 2 年次に学修した英語科目との違いを説明、サイエンスイングリッシュの学び方を紹介) 2 動物看護学関連：Animal Biology, Cells & Basic Tissues 3 動物看護学関連：Blood 4 動物看護学関連：Bone 5 動物看護学関連：Movement of Materials within the Body 6 動物看護学関連：Basic Nutrition(1) 7 動物看護学関連：Basic Nutrition(2) 8 動物人間関係学関連：How Dogs Think inside the Canine Mind 9 動物人間関係学関連：Amazing Tales of Amazing Dogs Doing Utterly Amazing Things 10 動物人間関係学関連：The Golden Retriever Who Saved a Baby Deer 11 動物人間関係学関連：The One Eyed Rescue Who Sniffed out Skin Cancer 12 動物人間関係学関連：A Dog’s Five Senses: They are just Like Ours-But not 13 学生によるトピックス提供、発表(1) 14 学生によるトピックス提供、発表(2) 15 レビュー、確認最終テスト								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験や小テストの解説を 15 回目授業中に行い、フィードバックする。								
履修上の注意								
辞書を駆使し、課題の予習をしっかりと行うこと。 Moodle を利用して掲示、授業参考資料などを配布するので、注意を怠らないこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修： 授業で配布したプリントは、単語を調べ予習すること。 事後学修： 重要な語彙や表現をノートにまとめる。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業時に実施する小テスト（授業への参加度を含む）、1 5 回目に行う確認最終テストを総合的に評価する。評価基準は、それぞれ、40%、60%の割合とする。								
教科書								
配布資料								
参考書、教材等								
Animal Biology and Care, Sue Dallas, Blackwell Science Time Special Edition How Dogs Think 2018 Time Inc. Books								

授業科目	アカデミックスキルズ				実務家 教員	—	担当 教員	新島 典子
科目英名	Academic Skills							
開講期間	3 年次 前期	動物人間関係学科 必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [総合科目]		
到達目標								
「動物人間関係学」に関わる研究の手法を学修し、卒業論文を作成するに当たって必要なそれぞれの研究方法を学修することを目標とする。								
講義概要								
「動物人間関係学」に関わる研究の方法を講義し、卒業論文を作成する方法を学修する。具体的には、研究テーマの選び方、研究方法の選択、文献の検索法と引用法、研究計画の立て方、研究における倫理的配慮、データの集め方と解析法、論文のまとめ方、原稿の書き方と推敲、口頭発表の仕方、学術誌への投稿の方法等を解説する。								
授業計画								
1 研究に着手する前の心構え 2 研究テーマの選び方 3 研究方法の選択 1（文献研究） 4 研究方法の選択 2（症例研究） 5 研究方法の選択 3（理論研究） 6 研究方法の選択 4（調査研究） 7 研究方法の選択 5（実験研究） 8 文献の検索法、記載の仕方、資料の引用法、著作権や肖像権への配慮 9 研究計画の立て方 10 研究における倫理的配慮 1 11 研究における倫理的配慮 2 12 データの集め方と解析法 13 論文のまとめ方、構成 14 原稿の書き方と推敲 15 口頭発表の仕方、学術誌への投稿方法他、研究結果の公開手段について								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
理解のために適宜課題を提出してもらう。原則返却は行わないが、フィードバックとして、必要に応じて解説や質問への回答を適宜行う。								
履修上の注意								
各種変更や連絡掲示、授業参考資料などの配布を行うため、Moodle を頻繁に確認し、担当教員からの連絡等に注意すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
Moodle 上の指示や授業中の指示に従って、必要な予習復習を行うこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度(50%)、レポート等提出物(50%)により総合的に評価する。								
教科書								
なし。必要に応じて、授業や掲示板で通知する。								
参考書、教材等								
なし。必要に応じて、授業や掲示板で通知する。								

授業科目	統計学				実務家教員	-	担当教員	木村 祐哉
科目英名	Statistics							
開講期間	2 年次 前期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [総合科目]		
到達目標								
平均値などの基礎統計量を計算できるようになること、得られた結果に対して適切な統計手法の選択ができるようになることを、具体的な到達目標とする。								
講義概要								
本科目では、実験や調査の結果から正しい推論を導き出すための道具として、統計学的知識を修得することを総合目標とする。初めに特定の集団や現象の傾向や性質を客観的に把握するための指標について学び、基礎統計量のうち簡単なものについては自身で計算できるように演習する。次いで、正しい推論を得るための基本的な統計学的検定法を学び、標本の性質にあわせて選択できるようになることを目指す。授業の後半ではさらに踏み込んだ内容として、ひとつおりの学術論文の解析内容を理解できるよう、各領域で用いられている統計手法を紹介する。								
授業計画								
1 統計学とは 2 標本の性質 1：母集団と標本抽出 3 標本の性質 2：分布と代表値 4 標本の性質 3：まとめ 5 推定と検定 1：平均値の差の検定（t 検定ほか） 6 推定と検定 2：相関と回帰の分析（Pearson の相関分析ほか） 7 推定と検定 3：独立性の検定（ χ^2 検定ほか） 8 推定と検定 4：まとめ 9 領域ごとの統計手法 1：臨床疫学 10 領域ごとの統計手法 2：生存時間分析 11 領域ごとの統計手法 3：介入研究 12 領域ごとの統計手法 4：多変量解析 13 領域ごとの統計手法 5：質的研究 14 領域ごとの統計手法 6：まとめ 15 総括的評価とフィードバック								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
講義の進捗にあわせて盛り込む計算問題等の課題は、実施状況に応じた全体への解説を行う。 また、まとめの回にも質疑応答の時間を設け、不明点等に関する個別および全体に対するフィードバックを行う。								
履修上の注意								
統計学における計算はコンピュータで行うことが一般化し、正しく計算できるというよりは、正しく選択できることが重要となっている。とはいえ、意味的理解が深まるよう、一部の簡単な数値については、自身で計算する演習を盛り込むので、平方根並びに 10 桁以上の計算可能な電卓を用意すること（携帯電話等のアプリでも良い）。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学習：授業内容に関連する配布資料をよく読んでおくこと。 事後学習：授業内容を復習して、計算問題等の課題に取り組むこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業内で行う小テスト 50%、授業への参加度 50%								
教科書								
特に指定しない								
参考書、教材等								
獣医疫学<第三版>（獣医疫学会 編、近代出版）ほか、講義内で適宜紹介する								

授業科目	動物看護学総合演習				実務家教員	—	担当教員	◎宮井 紗弥香・友野 悠
科目英名	Practice in Animal Health Technology							
開講期間	4 年次 後期	選択科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育 [総合科目]		
到達目標								
4 年間学んできた動物看護学について総まとめを行い、専門知識の定着を目指す。専門基礎科目の知識と専門臨床科目の知識の融合が図られ、いろいろな想定場面でそれら知識の活用ができるようになることを目標とする。								
講義概要								
専門基礎科目である解剖学、生理学、病理学、薬理学の基礎知識の再確認を行い、そのうえで、臨床科目の知識にそれらが応用され、活用されるよう、反復演習を行う。								
授業計画								担当教員
1 解剖学の整理								宮井、友野
2 生理学の整理 1								宮井、友野
3 生理学の整理 2								宮井、友野
4 病理学の整理 1								宮井、友野
5 病理学の整理 2								宮井、友野
6 薬理学の整理								宮井、友野
7 動物臨床看護学総論の整理 1								宮井、友野
8 動物臨床看護学総論の整理 2								宮井、友野
9 動物内科看護学の整理								宮井、友野
10 動物外科看護学の整理								宮井、友野
11 動物臨床検査学の整理								宮井、友野
12 動物臨床看護学各論Ⅰの整理								宮井、友野
13 動物臨床看護学各論Ⅱの整理								宮井、友野
14 動物臨床看護学各論Ⅲの整理								宮井、友野
15 動物看護学総まとめ								宮井、友野
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
毎回演習問題に取り組み、その解説を行う。								
履修上の注意								
国家試験受験を見据え、各自この授業に臨むにあたり、まず自身で過去問題の傾向を確認し、総復習を行ってから演習に参加してもらいたい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
各回の演習内容を把握し、必ずその範囲の予習（1 年生からの復習）を行ってから演習に臨むこと。演習で扱った内容に関しては、必ず自己整理を行うことを習慣づけてほしい。								
評価方法（評価基準を含む）								
定期試験 60%、毎回の演習参加度（演習内で行うテストの成績およびやり直しレポート）40%として、総合的に判定する。								
教科書								
特に指定しないが、基本的に、4 年間各科目で使用してきた教科書を中心に演習内容を構築する。								
参考書、教材等								
必要に応じて提示する。								

授業科目	卒業論文				実務家教員	—	担当教員	内田 明彦・小黒 美枝子 梅村 隆志・今村 伸一郎 岡崎 登志夫・植田 富貴子 富田 幸子・谷口 明子 島森 尚子・石川 牧子 村上 隆広・新島 典子 若林 義啓・加藤 理絵 大橋 由紀子・鈴木 友子 木村 祐哉・福山 貴昭 秋山 順子・宮井 紗弥香 堀井 隆行・三井 香奈 牛根 奈々・長島 孝行 フリッツ 吉川 綾
科目英名	Graduation Thesis							
開講期間	4 年次 通年	動物看護学科 必修科目 4 単位	動物人間関係学科 選択科目 4 単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育〔総合科目〕	
到達目標								
主に「動物看護学」あるいは「動物人間関係学」に関わる分野において、担当指導教員の指導の下、特に興味を持った事項についてまとめて、成果として卒業論文もしくは卒業製作物を提出することを目標とする。								
講義概要								
動物看護教育の中で、担当指導教員の指導の下、特に興味を持った事項についてまとめて、成果として論文を提出させることを目的としている。 具体的には、学生の能力の向上や社会に貢献できる人材成長のため、学生が自ら選んだ卒業論文指導教員の下で、動物看護学に関する文献調査から始まり、研究テーマの設定、実行計画の立案、課題に継続的に取り組む自主性、得られたデータをまとめて発表する能力までを、一貫して指導する。								
授業計画								
研究テーマの設定、実行計画の立案、研究の実施、得られたデータを論文あるいは作品にまとめる。 なお、作成した論文あるいは製作物の提出締切日は、別に掲示板で通知する。中間報告および卒業論文発表会を実施する。								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
必要に応じて指導教員とディスカッションをし、研究内容の検討を行う。								
履修上の注意								
各所属研究室で個別指導となるので、連絡等に注意すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
評価方法（評価基準を含む）								
研究態度（30%）と提出論文または製作品（70%）で総合的に判断する。								
教科書								
なし								
参考書、教材等								
なし								

授業科目	インターンシップ				実務 家 教 員	-	担 当 教 員	◎堀井 隆行・秋山 蘭 三井 香奈・青山 正志
科目英名	Internship							
開講期間	3・4年次 通年	選択科目 2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔総合科目〕		
到達目標								
学生が在学中に動物に関連する事業を展開する企業や団体等（動物病院を含む）において、将来のキャリアに関連した就業体験をおこなうことにより、主体的な職業選択の能力や職業意識の育成及び実務的知識の修得を目標とする。								
講義概要								
本科目では、事前授業を通して社会人基礎力を身につけるとともに、インターンシップの実践を通して職業意識を培い、自らの職業適性について考え、実社会への適応能力を身に付けていく。さらには、事後授業を通して自らの体験を振り返るとともに他者と多様な職域での就業体験を共有し、将来のキャリア形成に向けた自己の課題や職業選択を考える機会とする。								
授業計画								
1. 科目インターンシップに向けた事前授業（4～7月） 事前授業1 オリエンテーション インターンシップとは、企業を知る、自分を知る 事前授業2 ビジネスマナー①身だしなみと立ち居振る舞い 事前授業3 ビジネスマナー②言葉遣いと電話応対 事前授業4 ビジネスマナー③報告・連絡・相談、記録と守秘義務、 席次・名刺交換・手紙（お礼状）のマナー 事前授業5 エントリーシート（ES）・履歴書・メール文の書き方 事前授業6 面接のシミュレーション 事前授業7 インターンシップ先との連絡のとり方 事前授業8 インターンシップ直前オリエンテーション① 事前授業9 インターンシップ直前オリエンテーション②								
2. 学外インターンシップ（8～9月） 科目としての学外インターンシップ（16時間以上） 受入れ先の企業や団体等（動物病院を含む）で実施								
3. 科目インターンシップ後の事後授業（10月） 事後授業1 就業体験の共有 事後授業2 今後のキャリア形成に向けた総括								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業内の課題については、総括したコメントを返す。また、要望や質問等については都度口頭やメールにて回答を行う。								
履修上の注意								
通年科目となっているが、実施スケジュールの概略は上記の通りである。 詳細なスケジュールは初回授業にて別途提示する。 Moodleを経由した授業案内や資料配布を行うため、Moodle およびメールを確認すること。 対外的な科目履修になるため、責任や誠意ある行動をするように心がける。 遅刻・欠席や課題提出の遅れは厳禁とする。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
各授業回に関連する内容を書籍等で下調べしておくこと。また、授業後には配布資料等を基に内容をまとめること。さらに、各自インターンシップ先の業界・企業研究をすること。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（30%）・インターンシップ評価（30%）・課題レポート（40%）による総合評価。								
教科書								
特になし。必要に応じて随時プリントを配布する。								
参考書、教材等								
必要に応じて随時紹介する。								

授業科目	研修・ボランティア活動				実務家教員	—	担当教員	◎加藤 理絵・宮井 紗弥香
科目英名	Volunteer Study & Activity							
開講期間	1～4 年次 通年	選択科目 1 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔総合科目〕		
到達目標								
動物看護及び動物人関係学を学ぶ人間として、飼い主がペットと安心して生活できる環境を提供できる知識と能力を持つことが求められる。動物病院の中だけではなく、様々な状況や環境で生じている。地域支援、高齢者支援、子育て支援、障害者支援、農業支援、震災時の支援など様々な場面で動物に関わる職業人としての役割が求められている。 この授業では、実際に研修やボランティアに参加し、「飼い主と動物」を取り巻く環境に対して、専門職として介入ができる知識と能力を身に付けることを到達目標とする。								
講義概要								
本授業では、大学で指定する研修とボランティア活動に参加することが義務付けられる。前期に講義（事前授業）を行い、それらの意義や原則を理解することとする。そして、夏季休暇を利用した研修やボランティア活動を実践し、後期には事後授業を実施し、研修やボランティアに関する発表とレポート提出をもって単位認定を行うこととする。								
授業計画								
事前授業 1 回目 オリエンテーション、「海外研修」、「国内研修」の紹介と研修意義 2 回目 ボランティアの意義について 3 回目 ボランティアと地域づくりにについて 4 回目 ボランティア活動の紹介 実習 下記予定地のいずれかで実施する（複数選択可） （1） 海外研修：海外における伴侶動物などの社会的地位と現状（実費） （2） 国内研修：北里大学八雲牧場 産業動物における飼育・管理についての実習（実費） （3） 学内ボランティア：学内ボランティア、学内イベントや研修の手伝い （4） 科目担当が認めた研修やボランティア 事後授業 1 回目 研修やボランティアで学んだことの振り返りと発表・報告会								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
研修・ボランティアに関するプレゼンテーションについてのフィードバックは講義内で行う。								
履修上の注意								
実習先との連絡を徹底し、事故のないように注意する。 「海外研修」および「国内研修」は実費とする。詳しい内容は第 1 回目の授業内で説明する。 （「海外研修」および「国内研修」は、本授業を履修しなくても参加可能な研修である）								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
シラバスに当日の講義内容が示されているので予習をすること、また復習については当日の講義内容を講義後にノートにまとめること。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（25%）と研修・ボランティア参加状況（50%）、発表（25%）を総合的に勘案し判断する。								
教科書								
随時プリントを配布する。								
参考書、教材等								
なし								

授業科目	動物実習短期留学				実務 家教員	-	担当 教員	島森 尚子
科目英名	Short-term Animal Practical Training Abroad							
開講期間	1～4 年次 通年	選択科目 4 単位	授業形態	講義・実習	科目区分	専門教育 [総合科目]		
到達目標								
海外の動物関連施設における実際のな英語および動物飼育実習の学修を通じて、多文化共生社会における動物関連学問領域のあり方を幅広く学び、グローバルな視野を身に着ける。								
講義概要								
本科目は、オーストラリアのオーストラリア動物園と提携した海外実習科目である。現地の教育担当者及び飼育担当者に指導を受けながら現地での動物飼育の体験を通じて、多文化共生社会における動物関連学問領域のあり方を幅広く学び、グローバルな視野を身に着けることを目標とする。渡航前及び実習中には、実際に必要とされる英語の学修を日本人及びネイティブの英語教員が行い、現地スタッフとの潤滑なコミュニケーションをはかる。帰国後にプレゼンテーションを行い、実習での学修内容等を振り返る。								
授業計画								
1 事前学修 1 オリエンテーション（講義目的・内容と履修方法の理解） 2 事前学修 2 地域学修（実習先の地域に関する英語学修） 3 事前学修 3 旅行英語（渡航および滞在に必要な語彙および表現） 4 事前学修 4 専門英語（実習に必要な語彙および表現） 5 事前学修 5 専門英語（実習に必要な語彙および英語） 6 実習 1 オーストラリア動物園での実習 7 実習 2 オーストラリア動物園での実習 8 実習 3 オーストラリア動物園での実習 9 実習 4 オーストラリア動物園での実習 10 実習 5 オーストラリア動物園での実習 11 実習 6 オーストラリア動物園での実習 12 実習 7 オーストラリア動物園での実習 13 実習 8 オーストラリア動物園での実習 14 事後学習 1 学生による実習報告発表および担当教員による講評 15 事後学習 2 学生による実習報告発表および担当教員による講評								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
実習報告発表後に講評を行う。								
履修上の注意								
海外での生活および実習の受講に支障がない健康状態であること、および定められた日程および実習先で求められる規律を遵守することを履修の条件とする。さらに、差し当たって、新型コロナウイルスのワクチン接種は必須条件となる。社会情勢によって、あるいは最低参加人数（前回は 16 名。変更があった場合は掲示にて知らせる。）が充足されない場合開講しないことがある。なお、本科目は海外での実習体験であるため、旅費等を含めた別途費用が必要となる。 授業計画は、諸般の事情により変更になることがある。5 月に説明会を行い、履修登録を行う。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学習で学んだ内容をよく復習して実習に臨むこと。実習の際は当日学修した内容を毎回ノートにまとめ、疑問点等があれば次回に質問すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業参加状況 70%、発表およびレポート 30%として総合的に評価する。								
教科書								
Moodle にて配布する。								
参考書、教材等								
教室・Moodle にて資料を配布する。 動物園にて実習テキストを配布する。								

授業科目	アッセンブリーアワー I				実務 家教員	—	担当 教員	◎三井 香奈・宮井 紗弥香
科目英名	Special Seminar I							
開講期間	1 年次 通年	必修科目 0.5 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔総合科目〕		
到達目標								
学園の建学の精神と大学の教育理念を通して、日本における動物看護や動物人間関係の歴史や日本における現状について多角的視点から理解することを目指す。また、様々な講義を通じて文章表現力や学ぶ姿勢、コミュニケーション能力や礼節等の大学生としての基礎力を修得することを目指す。								
講義概要								
本学の学生として学園の建学の精神と大学の教育理念を含めた、動物愛護の精神に基づいた様々な人と動物のかかわりを幅広く学ぶ。これにより、動物看護学科、動物人間関係学科において目指す教育の目的を認識させる。自校教育アワー、トピックスアワー、コミュニケーションアワーの 3 つの柱から構成される本科目において、1 年次生を対象に 4 年間の土台作りを目的としている。								
授業計画								
1 オリエンテーション、学生生活・教務ガイダンス、図書館ガイダンス 2 〔自校教育アワー1〕 学園と動物看護の歴史について 3 〔自校教育アワー2〕 動物愛護の精神と本学の教育理念（創始者記念礼拝） 4 〔自校教育アワー3〕 動物看護フォーラム 5 〔自校教育アワー4〕 ヤマザキ動物愛護シンポジウム（絆祭） 6 〔トピックスアワー1〕 飲酒や喫煙の危険性 7 〔トピックスアワー2〕 ストレス対処法 8 〔コミュニケーションアワー〕 総括（1 年次の振り返り）								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
レポート等の質問について、最終回の総括においてフィードバックする。								
履修上の注意								
隔週、通年授業のため、掲示や連絡事項等を確認すること。講演者のスケジュール調整等で授業計画が変更になる場合がある。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前：授業計画に沿って、関連書籍・資料を読んでおく。事後：授業で配布した資料、関連書籍にて復習し、期日までにレポートを書くこと。レポート内容について総括回でレビューを行う。								
評価方法（評価基準を含む）								
レポート内容 50%、授業への参加度 50%で総合的に判断する。レポートの評価基準：与えられた課題を講義内容とからめて深く考察しているかどうかを評価する。								
教科書								
特に指定なし。必要に応じて資料を配布する。								
参考書、教材等								
必要に応じて授業や掲示板にて通知する。								

授業科目	アッセンブリーアワーⅡ				実務家 教員	—	担当 教員	◎牛根 奈々・土屋 恵美 青山 正志
科目英名	Special SeminarⅡ							
開講期間	2 年次 通年	必修科目 0.5 単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育〔総合科目〕		
到達目標								
動物をめぐる環境、そして、動物に関わる人をめぐる環境についてさまざまな観点から知識を広げてゆく。気候変動、グローバル化による動物生態系の変化や動物への深刻な影響、災害時に必要な動物保護、動物看護をめぐる環境等について国内外の事情を把握し、理解する。								
講義概要								
本科目は自校教育アワー、キャリア教育アワー、トピックスアワー、コミュニケーションアワーの 4 つから構成される。動物と環境を巡るさまざまな教養を身につけ、知識を広げてゆく。例えば、職場環境や自然環境から生じる人と動物の複雑な問題に関する教養や専門職としてのストレス耐性も養う。トピックスアワーにおいては、「動物と環境」をテーマに、社会で活躍するスペシャリストを招聘して教授する。講演者のスケジュール等で授業計画の順番が変更になる場合がある。								
授業計画								
1 オリエンテーション（動物看護学部 2 年次生の環境と目標）〔コミュニケーションアワー 1〕 2 動物看護師をめぐる環境（認定動物看護師の資格と認定等）〔自校教育アワー1〕 3 動物看護師のストレス環境（1）〔キャリア教育アワー1〕 4 介在動物と環境〔トピックスアワー1〕 5 生命の教育〔自校教育アワー2〕 6 人と動物の環境改善を目指して（絆祭シンポジウム）〔トピックスアワー2〕 7 ヒトと動物の共生〔トピックスアワー3〕 8 まとめ：ヒトと動物の社会環境を考える								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業中に課題レポートに対する解説を行い、フィードバックする。								
履修上の注意								
講演者のスケジュール調整結果によって授業計画の順番や日時の変更がありうる。初回授業にて配布する授業計画表を確認すること。また、Moodle を利用し参考資料の配布や課題の提出、授業案内を行うため、連絡掲示等を必ず確認すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「各授業回の内容に関連する個人的経験などを振り返っておくこと」 事後学修「授業で扱ったテーマを、読書やウェブ検索により深化させ、定着させること」								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度 50%、課題レポート（ノート形式）50% により総合的に判断する。								
教科書								
なし。必要に応じて掲示板や授業にて通知する。								
参考書、教材等								
なし。必要に応じて掲示板や授業にて通知する。								

授業科目	アッセンブリーアワーⅢ				実務家教員	—	担当教員	◎秋山 蘭・友野 悠
科目英名	Special SeminarⅢ							
開講期間	3 年次 通年	必修科目 0.5 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔総合科目〕		
到達目標								
社会における動物とヒトの多様な関係をそれぞれの視点から理解することにより、動物に関与した職業を理解する。また、愛玩動物看護師をはじめとした動物関連のスペシャリストとしての将来の人物像を描きながら、社会に還元できる人材となることを到達目標とする。								
講義概要								
本科目は、自校教育、キャリア教育、トピックス、コミュニケーションに関する 4 分野から構成される。「動物と職業」をテーマに、日本社会における伴侶動物とヒトの関わりを取り上げ、現場で求められる動物看護学および動物人間関係学の知識を深化させる。動物と社会に関わる多様な分野に携わるスペシャリストを招聘して教授する。								
授業計画								
1 コミュニケーション オリエンテーション 2 自校教育 職業としての動物看護の資格と現状 3 トピックス 社会人におけるストレスマネジメント 4 キャリア教育 動物関連企業や動物病院における職業 5 キャリア教育 社会における愛玩動物看護師の役割(本学卒業生講演) 6 トピックス 動物の救命法 7 自校教育 創始者記念礼拝 8 まとめ：1 年の振り返りとして、職業人について考える								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
ノートやレポートの提出物をチェックし、最終回のまとめにてフィードバックする。								
履修上の注意								
講演者のスケジュール調整を行うため、授業計画が変更になる場合がある。初回授業にて配布する授業計画表や掲示、連絡事項などを確認すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：授業計画に沿って関連資料や書籍を読み、予習を行う。 事後学修：講義内容をノートやレポートにまとめる。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度(60%)およびノートやレポートの提出物(40%)を総合的に評価する								
教科書								
なし。必要に応じて、資料を配布する。								
参考書、教材等								
なし。								

授業科目	アッセンブリーアワーⅣ				実務家教員	—	担当教員	◎加藤 理絵・秋山 順子
科目英名	Special Seminar IV							
開講期間	4 年次 通年	必修科目 0.5 単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育〔総合科目〕		
到達目標								
ヒトと動物の共生する平和な社会の構築を目的とし、社会における動物とヒトの多様な関係を修得することを目標とする。卒業に向かい、社会に巣立つ前に社会人としての基礎力を身につけることを到達目標とする。								
講義概要								
アッセンブリーアワーⅠにおいて学んだ幅広い基礎知識の上に、動物とのかかわりという視点から環境や職業や社会について学び、動物看護学科および動物人間関係学科生にふさわしい知識のより深い修得を目指す。これまでの日本の変化発展における動物とのかかわりのあり方、動物が伝統と変化を構築してきた歴史的価値を学ばせ、豊かな人間性を養うと共に、課題研究を通じて、自己研修を深め、社会人となるにふさわしい教養を充実させる。								
授業計画								
1 オリエンテーション、授業初回に詳細の授業計画内容を提示する。 2 〔自校教育アワー1〕 学園と動物看護の歴史（理事長講話） 3 〔自校教育アワー2〕 人と動物の共生（絆祭公開講座） 4 〔自校教育アワー3〕 動物俳句 5 〔自校教育アワー4〕 卒業論文発表会 6 〔キャリア教育アワー1〕 社会における動物関連の職業 7 〔キャリア教育アワー2〕 社会人マナーe ラーニング 8 〔キャリア教育アワー3〕 社会人コミュニケーション								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業中に課題レポートに対する解説を行い、フィードバックする。								
履修上の注意								
隔週・通年授業で、講演者のスケジュール調整結果によって授業計画の順番や日時、内容の変更がある。初回授業にて配布する授業計画表を確認すること。また、Moodle を利用し参考資料の配布や課題の提出、授業案内を行うため、連絡掲示等を必ず確認すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修 掲示される「授業の計画内容」を確認すること。 事後学修 Moodle を活用して、授業内容を課題レポートとしてまとめる。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業におけるディスカッションへの参加態度（50%）、および課題レポート等提出物（50%）をもとに総合的に評価する。								
教科書								
なし。必要に応じて、掲示板や授業中に通知する。								
参考書、教材等								
なし。必要に応じて、掲示板や授業にて通知する。								

実務家教員担当科目一覧(動物人間関係学科)

	科目名	必修/選択	学年	開講期	単位数
1	動物外科看護学	選択	3	前期	2単位
	民間および大学付属の動物病院で臨床獣医師としての実務経験を活かし、実際に疾病を罹患した動物の病態や診断・治療の流れ、そしてそれに対応した動物看護の内容を解説する。				
2	動物外科看護学実習	選択	3	前期	2単位
	民間および大学付属の動物病院で臨床獣医師としての実務経験を活かし、手術や麻酔その他の外科的な領域における動物看護師としての業務内容について、現場に即した実習指導を行う。				
3	動物臨床検査学実習	選択	2	前期	2単位
	特に受託検査項目の種類と特徴及び受託検査における異常データ出現原因やその発見、それに対する対処方法について、実務経験を活かした授業を展開している。				
4	臨床心理学	選択	2	前期	2単位
	これまで行ってきた学生相談業務、また、現在行っている中高でのスクールカウンセラーという心理臨床の実践経験で得た知識、また実践における最新の状況等について随時講義において情報提供を行っている。				
5	コミュニケーション論	選択	3	後期	1単位
	これまで行ってきたカウンセリング業務において他者との対話やコミュニケーションにおいて重要なノウハウにとどまらず、自分自身との対話を重要視し、トータル的なコミュニケーション能力、スキル、スタイルの確立を促すプログラムとして構成している。				
6	動物愛護・適正飼養実習	必修	2	通年	2単位
	動物愛護・適正飼養実習では、八王子乗馬倶楽部ディレクターの細野茂之という、ウマ領域の第一人者が、業界・現場の実態に即した飼育管理方法について知識・技術の指導を行っている。				
7	ペットビジネス起業論	選択	3	後期	2単位
	小動物臨床に獣医師として約5年ほど従事し、その後、アニコム損害保険株式会社に2005年から勤務。現在は経営企画部で新規事業の立上げやイベントの企画などに従事している。実務経験からペット業界の現状と傾向、また、その中からニーズをくみ取りビジネスにしていこう過程を基本的な考えから講義する。				
8	動物園・水族館論	選択	3	前期	2単位
	多摩動物公園や上野動物園での展示動物飼育の実務経験を活かし、動物園・水族館に関する豊富な知識について教授する。また、動物園・水族館の役割や歴史を通して、学生がこれからの動物園・水族館のあり方を考えていけるように講義する。				
9	インターンシップ	選択	3・4	通年	2単位
	ペット関連産業の実務経験者である教員が、ペット関連産業の市場規模や業態等の特殊性も踏まえた上での社会人基礎力の教育を事前授業にて行う。また、インターンシップ実施中においても、学生が現場で抱える悩み等実務経験者として対応する。				
実務家教員担当科目：17単位／卒業要件：124単位					

學 則 ・ 各 種 規 程

ヤマザキ動物看護大学学則

第1章 総則

第1節 目的

(目的)

第1条 ヤマザキ動物看護大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に則り、建学の精神である「生命の畏敬」と「職業人としての自立」を遵守し、「生命を生きる」を教育理念として、人間も動物も大自然の生態系の摂理の中で生き、生かされているという、原点を忘れずに、共鳴・共生する生命の思想を貫き、動物看護に関わる基本的な理論・技術を身に付け、専門的応用的能力を有する人材を養成することを目的とする。

2 動物看護学及び動物人間関係学を教育研究の対象とし、動物愛護の精神に則り、人とコンパニオンアニマルとの関係に求められる豊かな人間性と幅広い視野を備え、動物看護学及び動物人間関係学に関わる研究及び専門的な理論・技術を教授することを目的とする。

(自己点検・評価)

第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究、組織運営並びに施設設備（以下「教育研究等」という。）の状況について自己点検・評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前条の措置に加え、本学の教育研究等の総合的な状況について、学校教育法施行令（昭和28年政令第340号）第40条に規定する期間ごとに文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けることとし、その結果を公表するものとする。

3 第1項の自己点検・評価の事項及びその実施体制等については、別に定める。

(情報開示)

第3条 本学は、教育研究活動等の状況について刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を開示するものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第4条 本学は、教育内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとし、その実施方法については、別に定める。

第2節 組織編制

(学部)

第5条 本学に次の学部及び学科を置く。

動物看護学部

動物看護学科

動物人間関係学科

2 前項の学部・学科の入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
動物看護学部	動物看護学科	113名	452名
	動物人間関係学科	80名	320名

(附属図書館)

第6条 本学に図書館を置く。

2 図書館に関し必要な事項は、別に定める。

(事務局)

第7条 本学に、事務局を置く。

第3節 職員組織

(教職員)

第8条 本学に、学長、学部長、学科長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員その他の職員を置く。

2 本学に副学長、副学部長及び副学科長を置くことができる。

3 前項の職員のうちから事務局長及び部課長を置く。

4 任免及び職務については、別に定める。

(教授会)

第9条 本学の教育研究に関する事項を審議するために教授会を置く。

2 教授会は、学長、副学長、学部長、副学部長、学科長、副学科長及び専任の教授をもって構成する。

3 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めたときは、教授会に准教授、講師、助教及びその他の教職員を加えることができる。

4 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

第4節 学年、学期及び休業日

(学年)

第10条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第11条 学期は、学年を前期と後期の2学期に分け、期間については、当該年度の学年暦において定める。

(休業日)

第12条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
 - (3) 本学創設記念日
 - (4) 夏季休業、冬季休業及び春季休業の期間は学年暦で定める。
- 2 前項の規定にかかわらず、学長は臨時に休業日进行、又は休業日を変更することができる。
- 3 学長は、必要があると認めるときは、休業日に授業を行うことができる。

(授業期間)

第13条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間等を含め、35週にわたることを原則とする。

- 2 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い期間において授業を行うことができる。

第2章 学部通則

第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限及び在学年限)

第14条 本学の修業年限は、4年とする。ただし、在学年限は8年を超えてはならない。

ただし、第20条の規定により入学した者にあつては定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第2節 入学

(入学の時期)

第15条 本学の入学時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第16条 本学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の課程を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 個別の入学審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で18歳に達した者

(入学出願の手続)

第17条 入学志望者は、本学所定の入学願書に定める入学検定料を添えて、指定期日までに提出しなければならない。

- 2 提出の時期、方法、提出すべき書類等については別に定める。

(入学者の選考及び合格者の決定)

第18条 入学志願者には、別に定めるところにより、選考を行い、教授会の意見を聴いて、学長が合格者を決定する。

(入学手続及び入学許可)

第19条 前条の選考の結果に基づき、合格の通知を受けた者は、所定の期日以内に第46条に定める入学金のほか、授業料等を添えて、手続を取らなければならない。

- 2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(編入学・再入学及び転入学)

第20条 本学に編入学、再入学又は転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限って、選考の上、教授会の意見を聴いて、学長が相当年次に入学を許可することができる。

- 2 前項の規定により、編入学をすることができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
- (1) 他の大学を卒業又は退学した者
 - (2) 短期大学、高等専門学校を卒業した者
 - (3) 専修学校の専門課程で文部科学大臣の定める基準を満たす課程を修了した者（ただし、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る。）
- 3 第1項の規定により、再入学又は転入学できる者は、本学を中途退学した者又は他の大学に在学中の者で、転入学により当該大学を退学する者とする。
- 4 第1項の規定により、入学を許可された者についての履修方法は、教授会の意見を聴いて、学長が決定する。

第3節 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第21条 本学の授業科目は、教養教育科目及び専門教育科目とする。

- 2 各授業科目を必修科目、選択科目に分け、各年次に配当して編成する。
- 3 本学の授業科目は、別表第1のとおりとする。

(卒業単位数)

第22条 本学を卒業するためには、次の各号により合計124単位以上の履修をしなければならない。

- (1) 教養教育科目 30単位以上
- (2) 専門教育科目 94単位以上

(単位の計算方法)

第23条 授業科目の単位計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の基準によるものとする。

- (1) 講義・演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の講義・演習をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の実験・実習及び実技をもって1単位とする。
- (3) 講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により授業を行う場合にあっては、その組合せに応じ、総時間数が45時間となる授業をもって1単位とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目については、その学修の成果を考慮して単位を定める。

(単位の授与)

第24条 授業科目を履修し、所定の試験に合格した者には、単位を与える。

(成績の評価)

第25条 成績の評価は、S、A、B、C、Dをもって表し、C以上を合格とする。

(他大学等における授業科目の履修等)

第26条 本学は、教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協定に基づき、学生が当該他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位は、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとして認めることができる。

- 2 前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

- 3 前2項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

第27条 本学は、教育上有利と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 2 前項の規定により、与えることができる単位は、前条第1項により認定する単位と併せて60単位を超えないものとする。

- 3 前2項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

(入学前の既修得単位の認定)

第28条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（第44条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 本学は、教育上必要と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項の規定により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、第26条第1項及び第2項並びに前条第1項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

4 前3項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

(成績評価基準等の明示)

第29条 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たって、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行うものとする。

(その他)

第30条 この節に定めるもののほか、各授業科目の配当年次、履修方法等については、別に定める。

第4節 休学・復学・転学科・転学・留学・退学及び除籍

(休学)

第31条 病気その他やむを得ない事情により、休学しようとする者は、医師の診断書等その理由を証する書類及び保証人連署をもって学長に提出し、学長の許可を得て休学することができる。

2 病気等のため修学することが適当でないと認められる者について、学長は、学部長、教務部長又は学生部長その他学長が必要と認める者（以下、「学部長等」という。）の意見を聴いて、休学を命ずることができる。

3 休学の期間は、1年を超えることはできない。ただし、特別の事情がある場合には、引続き1年間に限り、期間延長の許可をすることができる。

4 休学の期間は、通算して4年を超えることはできない。

5 休学の期間は、在学年数に算入しない。

(復学)

第32条 休学期間中に、その事由が消滅したときは、学部長等の意見を聴いて、学長が復学の許可をすることができる。

(転学科)

第33条 学長が、特に認める場合は、転学科をすることができる。転学科に関する事項は別に定める。

(転学)

第34条 他の大学に転学を希望する者は、学長の許可を得なければならない。

(留学)

第35条 留学を希望する者は、あらかじめ保証人連署をもって願い出て、学長の許可を得て、外国の大学又は短期大学に留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、1年に限り、第14条に定める期間に算入する。

(退学)

第36条 退学しようとする者は、学長の許可を得なければならない。

(除籍)

第37条 次の各号のいずれかに該当する者は、教授会の意見を聴いて、学長が除籍する。

- (1) 第14条に定める在学年限を超えた者
- (2) 休学期間を超えて、なお修学できない者
- (3) 授業料の納付を怠り、催促しても、なお納入しない者
- (4) 死亡した者又は長期にわたり、行方不明の者

第5節 卒業及び学位

(卒業の認定)

第38条 本学に4年以上在学(編入学等により入学した学生については、別に定める年限)し、本学則に定める授業科目の中から教養教育科目30単位以上及び専門教育科目94単位以上併せて124単位以上修得した者については、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。

2 前項による卒業認定は、学年末に行う。やむを得ない理由により、この認定を得られなかった者については、次年度前期にこれを行うことができる。

(学位の授与)

第39条 前条の規定により卒業を認定された者には、学士(動物看護学)の学位を授与する。

2 学位に関して必要な事項については、別に定める。

第6節 賞罰

(表彰)

第40条 学生として品行方正、学術優秀又は素行等表彰に値する行為があった者は、教授会の意見を聴いて、学長が表彰することができる。

(懲戒)

第41条 本学則、その他本学の定める諸規則を守らず、学生としての本分にもとる行為があった学生に対しては、教授会の意見を聴いて、学長が懲戒する。

2 懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とする。

3 退学は、次の各号のいずれかに該当する学生に対して行う。

(1) 入学誓約書に違反した者

(2) 品行不良で改善の見込みがないと認められる者

(3) 成績不良で学業継続の見込みがないと認められた者

(4) 正当な理由なくして出席不良の者

(5) 大学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

第7節 外国人留学生、研究生、科目等履修生及び特別聴講生

(外国人留学生)

第42条 外国籍を有し、第16条第3号に該当する者が、本学に入学を希望した場合は、選考の上、教授会の意見を聴いて、入学を許可することがある。

2 外国人留学生については、第35条に関する規定を除き、正規の学生についての規定を準用する。外国人留学生について必要な事項は、別に定める。

3 前項の外国人留学生に対しては、第21条に掲げるもののほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置くことができる。

(研究生)

第43条 本学に研究生として、入学の申出のあるときは、教育・研究に支障のない限り選考の上、教授会の意見を聴いて、学長が研究生として入学を認めることができる。

2 研究生に関する事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第44条 本学において、特定の科目について履修しようとする者については、教育研究に支障がない範囲において、選考の上、教授会の意見を聴いて、科目等履修生として、入学を許可することがある。

2 科目等履修生が履修した授業科目について、試験に合格したときは、第24条及び第25条の規定を準用して当該科目の単位を付与することができる。

3 科目等履修生に関する事項は、別に定める。

(特別聴講生)

第45条 学長は、他の大学、短期大学との協議に基づき、当該大学の学生を特別聴講生として、教授会の意見を聴いて、入学を許可することがある。

2 特別聴講生に関する事項は、別に定める。

第8節 検定料・学費及びその他諸費用

(入学検定料及び学費)

第46条 入学検定料及び学費は、別表第2に定めるところによる。

(学費等の納期)

第47条 学費その他の納入金は、別に定める指定の期日までに納入しなければならない。

(納付した学費)

第48条 納入した学費は、原則として返還しない。

(復学した場合の授業料)

第49条 復学の許可を受け、復学したときは、当該学期分の学費を納入しなければならない。

(退学・除籍及び停学の場合の授業料)

第50条 学期の途中で退学し、又は除籍された者の当該学期分の授業料は、徴収する。

2 停学期間中の授業料は、徴収する。

(修業年限を超えて在学する者の学費等)

第50条の2 修業年限を超えて在学する者の当該学期分の学費等については、第46条の規定にかかわらず別に定める。

(休学者の在籍料)

第51条 休学を許可された者は、別に定める在籍料を納入しなければならない。

第9節 育英・奨学

(育英・奨学)

第52条 本学に、育英及び奨学に関する制度を置く。

2 育英及び奨学に関する事項は、別に定める。

第3章 厚生施設

(厚生施設)

第53条 本学に厚生施設を置く。

2 厚生施設(学生食堂、学生ラウンジ、医務室等)について必要な事項は、別に定める。

第4章 公開講座等

(公開講座)

第54条 本学は、学術文化の普及を図るため、広く一般市民のための公開講座等を開講す

る。

- 2 公開講座等について、必要な事項は別に定める。
- 3 施設使用について必要な事項は、別に定める。

第5章 雑則

(学則の改廃)

第55条 この学則の改正及び廃止は、教授会及び理事会の議を経て理事長が定める。

附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成26年1月20日教授会承認、平成26年1月23日理事会承認、平成26年3月20日教授会承認、平成26年3月20日理事会承認）

この学則は、平成26年4月1日から改正施行する。

附 則（平成27年1月19日教授会承認、平成27年3月19日理事会承認）

この学則は、平成27年4月1日から改正施行する。

附 則（平成27年5月25日教授会を経て、平成27年5月28日理事会承認）

- 1 この学則は、平成28年4月1日から改正施行する。ただし、平成27年4月1日以前入学生については、なお従前の例による。

- 2 前項の規定にかかわらず、別表第2における学費については、平成27年4月1日以前入学生にも平成28年度から適用する。

附 則（平成28年10月17日教授会を経て、平成29年5月25日理事会承認）

この学則は、平成30年4月1日から改正施行する。

附 則（平成31年3月4日教授会を経て、平成31年3月14日理事会承認）

この学則は、平成31年4月1日から改正施行する。なお、平成28年4月1日以降入学生にも平成31年4月1日から適用する。

附 則（令和3年3月2日教授会を経て、令和3年3月11日理事会承認）

この学則は、令和3年4月1日から改正施行する。ただし、令和2年4月1日以前入学生については、平成28年4月1日以降入学生において、別表第一「教育課程（動物看護学科 動物看護学専攻）」に「エキゾチックアニマル看護学（専門教育科目専門科目選択2単位）」及び「教育課程（動物看護学科 動物人間関係学専攻）」に「エキゾチックアニマル特性論（専門教育科目専門科目選択2単位）」を追加することとし、その他は従前の例による。

附 則（令和3年3月11日教授会・理事会承認）

- 1 この学則は、令和4年4月1日から改正施行する。
- 2 第5条第2項に記載の動物看護学部動物看護学科の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
動物看護学部	動物看護学科	413名	426名	439名	452名

附 則（令和4年1月20日教授会・理事会承認）

この学則は、令和4年4月1日から改正施行する。ただし、令和3年4月1日以前入学生については、従前の例による。

附 則（令和4年5月26日教授会・理事会承認）

この学則は、令和5年4月1日から改正施行する。

別表第1（第21条関係）

教育課程

（動物看護学科）

科目群		授業科目の名称	単位数		備考
			必修	選択	
教養教育科目	人文と社会	生命倫理学・動物福祉学	2		
		哲学		2	
		生活と法律		2	
		生活と経済		2	
		美術史		2	
		心理学		2	
		動物とジャーナリズム		2	
		キャリアマネジメント		2	
	自然と環境	基礎生物学	2		
		基礎化学	2		
		基礎生化学	2		
		環境科学		2	
	言語・情報・スポーツ	英語Ⅰ	1		
		英語Ⅱ	1		
		英語Ⅲ	1		
		英語Ⅳ	1		
		フランス語入門		2	
		情報リテラシー（基礎）	1		
		情報リテラシー（応用）	1		
		健康とスポーツ（実技含む）		2	

(動物看護学科)

科目群		授業科目の名称	単位数		備考
			必修	選択	
専門教育科目	専門基礎科目	生命科学概論	2		
		バイオテクノロジー		2	
		動物看護学概論	2		
		動物人間関係学概論	2		
		動物形態機能学	2		
		動物生理学	2		
		動物形態機能学実習	2		
		動物生活環境学	2		
		動物行動学	2		
		動物遺伝学	2		
		動物繁殖学	2		
		動物薬理学	2		
		動物病理学	2		
	専門科目	動物臨床看護学総論	2		
		動物内科看護学実習Ⅰ	2		
		動物内科看護学	2		
		動物内科看護学実習Ⅱ	2		
		動物外科看護学	2		
		動物外科看護学実習	2		
		動物臨床看護学各論Ⅰ	2		
		動物臨床看護学各論Ⅱ		2	
		動物臨床看護学実習		2	
		動物臨床検査学	2		
		動物臨床検査学実習	2		
		動物臨床看護学各論Ⅲ		2	
		動物医療機器	1		
		動物口腔ケア論		2	
		動物口腔ケア実習		2	
		ヒトと動物の共通感染症	2		

		公衆衛生学	2		
		動物生化学		2	
		動物感染症学Ⅰ	2		
		動物感染症学Ⅱ	2		
		小動物栄養学	2		
		小動物臨床栄養学	2		
		エキゾチックアニマル看護学	2		
		動物医療コミュニケーション	1		
		ペットロス論		2	
		リハビリテーション論		2	
		動物リハビリテーション		2	
		動物看護総合実習	2		
		適正飼養指導論	2		
		動物愛護・適正飼養実習	2		
		コンパニオンアニマルケア（グルーミング）論	2		
		コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習	2		
		コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習		2	
		愛玩動物学	2		
		産業動物学	1		
		実験動物学	1		
		野生動物学	2		
		動物看護関連法規	1		
		動物愛護・適正飼養関連法規	1		
		医療安全		2	
		高齢動物看護学		2	
		在宅・訪問動物看護論		2	
		ペット関連産業論	2		
		サイエンスイングリッシュ		2	
	総合科目	統計学		2	
		動物看護学総合演習		1	
		卒業論文	4		
		インターンシップ		2	

	研修・ボランティア活動		1	
	動物実習短期留学		4	
	アッセンブリーアワーⅠ	0.5		
	アッセンブリーアワーⅡ	0.5		
	アッセンブリーアワーⅢ	0.5		
	アッセンブリーアワーⅣ	0.5		

(動物人間関係学科)

科目群		授業科目の名称	単位数		備考
			必修	選択	
教養教育科目	人文と社会	生命倫理学・動物福祉学	2		
		哲学		2	
		生活と法律		2	
		生活と経済		2	
		美術史		2	
		心理学		2	
		動物とジャーナリズム		2	
		キャリアマネジメント		2	
	自然と環境	基礎生物学	2		
		基礎化学	2		
		基礎生化学		2	
		環境科学		2	
	言語・情報・スポーツ	英語Ⅰ	1		
		英語Ⅱ	1		
		英語Ⅲ	1		
		英語Ⅳ	1		
		フランス語入門		2	
		情報リテラシー（基礎）	1		
		情報リテラシー（応用）	1		
		健康とスポーツ（実技含む）		2	

(動物人間関係学科)

科目群		授業科目の名称	単位数		備考
			必修	選択	
専門教育科目	専門基礎科目	生命科学概論	2		
		バイオテクノロジー		2	
		動物看護学概論	2		
		動物人間関係学概論	2		
		動物形態機能学	2		
		動物生理学	2		
		動物形態機能学実習		2	
		動物生活環境学		2	
		動物行動学	2		
		動物遺伝学	2		
		動物繁殖学	2		
		動物薬理学		2	
		動物病理学		2	
	専門科目	動物臨床看護学総論	2		
		動物内科看護学実習Ⅰ	2		
		動物内科看護学		2	
		動物内科看護学実習Ⅱ		2	
		動物外科看護学		2	
		動物外科看護学実習		2	
		動物臨床検査学		2	
		動物臨床検査学実習		2	
		ヒトと動物の共通感染症	2		
		公衆衛生学	2		
		動物感染症学Ⅰ	2		
		小動物栄養学	2		
		ヒトと動物の関係学	2		
		社会福祉		2	
		臨床心理学		2	
		コミュニケーション論	1		

ペットロス論	2		
アニマルアシステッドセラピー論	2		
アニマルアシステッドセラピー実習		2	
アシスタンスドッグ論	2		
伴侶動物資源・育種学		2	
適正飼養指導論	2		
動物愛護・適正飼養実習	2		
コンパニオンアニマルケア（グルーミング）論	2		
コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習	2		
コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習		2	
伴侶動物行動演習		1	
コンパニオンドッグトレーニング論		2	
コンパニオンドッグトレーニング実習		2	
イヌ・ネコの特徴論	2		
エキゾチックアニマル特性論		2	
コンパニオンバード特性論		2	
ジェロントロジーとドッグウォーキング		2	
産業動物学	1		
実験動物学	1		
野生動物学	2		
動物看護関連法規	1		
動物愛護・適正飼養関連法規	1		
医療安全	2		
動物災害・危機管理	2		
ペット関連産業論		2	
ペットビジネス起業論		2	
消費者行動分析学		2	
情報危機管理論		2	
動物とアート		1	
動物文化人類学		2	
水族動物学		2	
動物園・水族館論		2	

総合科目目	有害動物学		2	
	サイエンスイングリッシュ		2	
	アカデミックスキルズ	2		
	統計学		2	
	動物看護学総合演習		1	
	卒業論文		4	
	インターンシップ		2	
	研修・ボランティア活動		1	
	動物実習短期留学		4	
	アッセンブリーアワーⅠ	0.5		
	アッセンブリーアワーⅡ	0.5		
	アッセンブリーアワーⅢ	0.5		
	アッセンブリーアワーⅣ	0.5		

別表第2（第46条関係）

入学検定料及び学費

（動物看護学科・動物人間関係学科共通）

（単位 円）

事項		金額
入学検定料		30,000
入学金		250,000
学費	授業料（年額）	900,000
	実習費（年額）	250,000
	施設費（年額）	300,000
	小計	1,450,000

注1 学費は1年次、2年次、3年次、4年次共通

注2 入学検定料は、2回目以降に受験する際は、免除する。大学入試共通テスト利用
選抜試験の検定料は、15,000円とする。

ヤマザキ動物看護大学転学科に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、ヤマザキ動物看護大学学則第33条の規定に基づき、転学科に関して必要な事項を定める。

(資格)

第2条 転学科を志願できる者は、転学科を行う時点において本学に1年以上在学している者でなければならない。

(時期)

第3条 転学科の時期は、学年の始めとする。

(手続)

第4条 転学科を志願する者は、在籍年次の1月末日までに、別に定める書類を、所属学科長及び転学科先学科長の下承を得て、大学事務局に提出するものとする。

(選考)

第5条 前条の規定により学生から願い出があったときは、転学科先学科長・教務委員会による審査及び教授会による承認を経て、学長は、転学科の許可を決定する。

(既修得単位の処置)

第6条 転学科を許可された者の既修得単位については、教務委員会による審査及び教授会による承認を経て、転学科先の学科の卒業に必要な単位として認めることができる。

(転学科の年次)

第7条 教務委員会及び教授会の議を経て、学長が、転学科先の学科の年次を決定する。

(通知)

第8条 選考の結果は、3月末日までに本人及び保証人に通知する。

(在学年限)

第9条 転学科した者の在学年限は、転学科する前に在学した年数を通算し8年とする。

(休学期間)

第 10 条 転学科した者の休学の期間は、転学科する前に休学した年数を通算し 4 年を超えることができない。

(規程の改廃)

第 11 条 この規程の改正及び廃止は、教授会の意見を聴いて、学長が行う。

附 則

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から制定施行する。

ヤマザキ動物看護大学修業年限を超えて在学する者の学費等に関する取扱内規

(趣旨)

第1条 この内規は、ヤマザキ動物看護大学学則（以下「学則」という。）第49条の2の規定に基づき、修業年限を超えて在学する者の学費等の取扱いに関し必要な事項を定める。

(学費)

第2条 修業年限を超えて在学する者の学費は、当該学期に履修登録する授業科目の単位数に50,000円を乗じた金額とし、当該学期分を納入しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、当該学期の学費は、学則第45条別表第2に規定する金額の2分の1を上限とする。

3 第1項に規定する学費は、休学期間を除く在学期間が4年に満たない者には、適用しない。

(委託徴収諸会費)

第3条 修業年限を超えて在学する者の委託徴収諸会費は、原則として取り扱わない。

2 前項の規定は、休学期間を除く在学期間が4年に満たない者には、適用しない。

(補則)

第4条 この内規に定めるもののほか、修業年限を超えて在学する者の学費等に関する取扱いに必要な事項のあるときは、理事会の議を経て理事長が定める。

(内規の改廃)

第5条 この内規の改正及び廃止は、理事会の議を経て、理事長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から制定施行する。

附 則（平成29年7月20日理事会承認）

この内規は、平成30年4月1日から改正施行する。

